## 第2章

## 安全・安心で交流が盛んなまちづくり (都市・交流基盤整備・防災・安全)

防災対策の強化や災害時の対応力の向上,犯罪や交通 事故の減少,差別や偏見のない社会など,日常生活にお ける安全性を高め,安心して暮らせるまちづくりを進め ます。また,暮らしの利便性の向上や地域間などの交流 を促進するため,都市基盤・交通基盤の整備に取り組み ます。

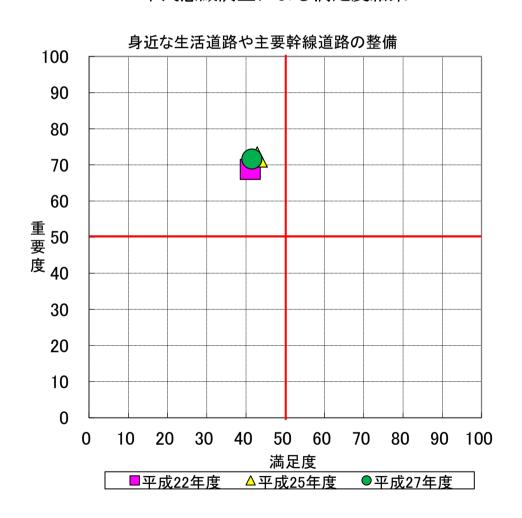
- ① 円滑な道路環境の整備
- ② 快適に暮らせる公共交通の充実・強化
- ③ 地域資源を生かし地域間交流, 国内・国際交流の推進
- ④ 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化
- ⑤ 機動的な消防・救急体制の充実
- ⑥ 地域ぐるみの交通安全対策の強化
- ⑦ 地域で守る防犯対策の強化
- ⑧ みんなで取り組む平和と人権の尊重

## 第2章

## 第1節 円滑な道路環境の整備

- 1 市域道路網と橋梁などの計画的な整備
- 2 広域的道路網の整備
- 3 防雪・除雪体制の強化
- 4 30分圏都市構想及び歩行空間のバリアフリー化の推進
- 5 幹線道路のネットワーク化(環状道路)及び地域連携道路の整備
- 6 中心部へのアクセス幹線道の整備
- 7 舗装修繕計画及び橋梁の長寿命化修繕計画などによる維持管理

#### 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度 平成25年度		平成27年度
重要度(%)	68.71	72.16	71.59
満足度(%)	41.11	42.87	41.53

21101

## 【総合計画体系】第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり担当部課:建設部建設課第 1 節 円滑な道路環境の整備担当・係名:道路建設係第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備記入者名:伊藤 政治10年後の望ましい姿:だれもが安心して移動できる道路になっている。電話番号:23-2435 810-408

#### 事務事業名: 区画道路網整備事業 事業番号

拠	<b>□法令·条例等</b> 大崎市古川地域区画道路網整備要綱		会計		一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名	区画	可道路網整備事業	
ŧ	☑ 単年度繰返し	科	款	8	土木費	
玥	□ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	2	道路橋りょう費	
盯	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目	3	道路橋りょう新設改良費	
	務事業の現状】	· -				
	意図(対象をどういう状態にしたいか)					

	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	市域道路網を計画
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	古川地域の区画道路駅東3号線, 区画道路石名坂4号線, 区画道路本鹿島5号線外2路線, 区画道路学童線 の沿道の市民及び道路利用者	① L=1,172m
	実施内容・手段 (具体的なやり方、手順)	◆活動指標
施	【平成28年度 明許繰越し】 ・区画道路 駅東3号線測量設計業務 L=140m ・区画道路 石名坂4号線測量設計業務 L=247m ・区画道路 駅東3号線補償物件調査積算業務 一式 【平成29年度】 ・平成29年度 区画道路石名坂4号線道路改良事業に伴う用地取得及び物件移転補償 用地取得 2件 A=500.91㎡	<ul><li>③ H29事業費/総 事業費</li><li>④</li></ul>
	物件移転補償 1件 •平成29年度 区画道路石名坂4号線用地測量業務 A=1.37ha •平成29年度 区画道路石名坂4号線補償物件調査積算業務 一式 •平成29年度 区画道路石名坂4号線道路改良工事 L=50.6m	(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	駅東3号線については測量設計と補償物件調査を実施し,事業用地や補償物件の確定を実施した。 石名坂4号線について事業用地を取得し工事着手したことにより,利用者の利便性,安全性の向上を図ることが	⑥ 事業進捗率
	できた。	7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① L=1,172m	130	0		51	m	1,172
		象	2						
		\ <u>-</u>	③ H29事業費/総事業費	7	4		9	%	_
	指標	活動	4						
事業費		243	5						
費		成果	⑥ 事業進捗率	100	4		13	%	100
· 久	果		7						
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債		4,500	38,500	21,400		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	11,180	280	2,220	1,338		
	費		事業費(a)	11,180	4,780	40,720	22,738	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.40	0.42		0.64	人	
		費	正職員人件費(b)	3,132	3,163		4,817		
	合計		合計コスト(a)+(b)	14,312	7,943		27,555	千円	

事業番号	21101	事務事業名	区画道路網整備事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 大崎市古川地域区画道路網整備計画書に基づき, 幅員の狭い 協定路線について、財政的問題もあるが道路用地を寄附してい 道路を拡幅し、緊急車両や歩行者が安全で安心して通行できる ただき整備を進めるものであることから、優先順位に配慮しなが 道路整備を目的としている。 ら計画的に進めてほしいとの要望がある。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 大崎市における安全で快適な道路空間を確保する社会基盤整備として総合計画 □ 貢献度 小 貢献できているのか。 への貢献度は大きい。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 当該路線の合理的な工区設定,優先路線への集中投資により,より一層の効率 □ できる □ 見直す必要がある 化に努め地域住民や交通利用者のニーズに適した事業執行に取り組むことによ ✓ できない り費用対効果を上げることができる。 ▶ 有効性 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 【評価のポイント】 □ できる 効果大 《理由》 現在のやり方で成果がでる 安全で安心な道づくりを目指すために、道路機能の向上を図り、常に最小の経費 のか。 □ できる 効果中 で実施している。 ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない ▶ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 《理由》 現在のやり方をもっと安価 □ ある 当該路線については、事業内容を精査しながら常に最小の経費で実施している ✓ ない にできないか。 t-80. ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 《理由》 □ ある □ 見直す必要がある ✓ ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 ☑ 現状維持 □ 事務事業統合・連携 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 現在事業を進めている路線以外において、用地寄附を前提とした道 設計・施工管理におけるコスト縮減,工期短縮等に努めながら、事業 路整備を望む要望が寄せられているが、効率的な整備を行う必要か の進捗を図った。 ら順番待ちの状況となっている。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト 事業の内容を精査し、引き続き設計・施工管理におけるコスト縮減、 事業費の縮減と早期の事業完了 なし 工期短縮等に努めながら,事業の進捗を図る。 が図られる。 評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名

茂泉善明

事業内容を精査しながら実施計画の進行管理をしっかりと進め, 予算措置された枠内で最大限の整備 促進を行うことができた。今後も, 引き続き安全で安心な道路整備事業の促進を目指しながら, 市域道

路網を計画的に整備促進を図ってまいりたい。

【総合計画体系】							
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課:建設部建設課						
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当 • 係 名</b> : 道路建設係						
第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入者名: 伊藤政浩						
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	電話番号: 23-2435 810-408						

## 事務事業名: <新計>道路新設改良事業(古川地域)

梑	<b>法令·条例等</b> 新市建設計画		_	会計	一般
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~		予	事業名	道路橋りょう新設改良事業
ŧ	■単年度繰返し	]	昇科	款	8 土木費
阴	□ 単年度のみ実施 平成 年度		目	項	2 道路橋りょう費
<b>1</b>	☑ 期間限定複数年度 平成 18 年度~平成 32 年度	] [		目	3 道路橋りょう新設改良費

間	☑ 期間限定複数年度 平成 18 年度~平成 32 年度 目 3 道路橋り	ょう新設改良費				
[4	<b>基務事業の現状</b> 】					
	意図(対象をどういう状態にしたいか)					
目的	市域道路網を計画					
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標				
	本路線は、市道鶴田線と旧石巻街道の交差部から新江合川堤防まで集落を東西に横断する(I期)と、南北に 集落を経由して国道108号との交差部まで(I期)としており、古川地域李埣地区の旧石巻街道沿線の市民及び	① L=1,180m				
	道路利用者。	2				
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標				
施内	【平成27年度 事故繰越し】 ・市道旧石巻街道線道路改良工事に伴う用地購入及び物件移転補償 施 用地購入 1件 A=365㎡ 内 物件移転補償 1件					
容	容 【平成28年度 明許繰越し】 ・市道旧石巻街道線道路改良工事に伴う用地購入及び物件移転補償 物件移転補償 5件 ・平成28年度 市道旧石巻街道線道路改良工事 L=263.4m 【平成29年度】					
	・市道旧石巻街道線道路改良工事に伴う用地購入及び物件移転補償 用地購入 5件 A=1287.8㎡ ・平成29年度 市道旧石巻街道線道路改良工事 L=187.6m	(5)				
		◆成果指標(把握する手段)				
成果	市道として円滑な道路環境の整備を進め、利用者の利便性の向上を図り、目的地への所要時間の短縮が図ら	⑥ 事業進捗率				
不	れた。	7				

		項 目		27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成32年度
			① L=1,180m	0	0		451	m	1,180
		象	2						
		\- <u>-</u>	③ H29事業費/総事業費	12	6		25	%	_
	指標	活動	4						
事業費		293	5			T \			
費	費	成果	⑥ 事業進捗率	31	37		62	%	100
· 久	果		7			\			
各指標			国庫支出金						
			県支出金			112,800			
が推		事業費	地方債	40,100	28,100		112,300		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	2,339	1,571	6,093	6,110		
	費		事業費(a)	42,439	29,671	118,893	118,410	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.48		0.27	人	
		費	正職員人件費(b)	2,349	3,614		2,032		
			合計コスト(a)+(b)	44,788	33,285		120,442	千円	

			事業番号	21102	事務事業名	<新計>道路新設	改良事業(古川地域)
「士	変 車 米 た 取 川 米 / 理・	サヘボル		- PLの辛目. 西胡.	な無体で作り		
	務事業を取り巻く環境 事務事業を開始したきっ		いで競グ・ロ	氏とい息兄・安主・		く環境の変化や議会	・・市民との意見・要望・協働等の状況
	TWINCH	70 . ,			7.007.112	100	
~ /2	· · · - · - · - · · · · · · · · · · · ·	\	··		<u> </u>	·	**************************************
	キ前の旧古川市より, < として引き継いだもの。		<b>1路新設改</b> 5	₹(古川地			らづくりを実現するためにも,円滑 「欠であり,市民の要望が強い。
*****		,			OMETHINGS.	V定隔8°20'支1	人(607,印以40 女主20 近4 。
· 「車	本事業のおお舗録に				<del></del>		
	務事業の担当課評値 目的妥当性	<b>四』</b>					
1	この事務事業は、総合語		(献度は大きし	<b>いですか?</b>			【評価のポイント】
	:	《理由》	大崎市におけ	る安全で快適な道路空			総合計画を実現するために
	□ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業		への貢献度は		INCHEN , VILL-	Emie m CO 1 10 E .	□   貢献できているのか。
	□ 至阪リチカチネ						
2	対象や意図の範囲を見						
	□ できる □ できない	《理由》	当該路線の合	理的な工区設定,優先 住民や交通利用者の二	路線への集中投資	により、より一層の交	カ率 │ □ 見直す必要がある
	☑ できない			往氏や父週利用者の― を上げることができる。	-一人に廻しに尹未:	秋1丁I〜圦り粒 0 ← C I	~£
	i. 						
	有効性			스			7== (m o 10 to 1 )
(3)	事務事業のやり方・進め □ できる 効果大	り方を変える 《理由》	ることで灰果で	を向上させることかでき	ますか?		【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる
	□ できる 効果中			道づくりを目指すために	:, 道路機能の向上	を図り,常に最小の約	経費 のか。 現在のやり方で成果がでる のか。
			で実施している	ວ.			
<b>4</b>	誓が ヘロが/対象を音図	四/七七/十五	24時(ノベヽ」し、	<u>いみ⇔\た性へ</u> ぬの車3	***나보니士++ /	4.0	☑ 適切
4	類似の目的(対象と意图 ある 統合・連携が				男子未はのツエヒハ	י ימל	
	□ ある 統合・連携が						/ L / L / L / L / L / L / L / L / L / L
	ない	<u> </u>					/
•	効率性						
	現状の成果を下げずに	事業費を肖	減する方法	はありませんか?			【評価のポイント】
	□ ある	《理由》	当該路線につ	いては、事業内容を精査	************************************	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価
	ない		ため。		, 'S にできないか。		
	;.						
6	コスト削減を阻害してい		<b>ありませんか。</b>	)			
	<ul><li>□ ある</li><li>✓ ない</li></ul>	《理由》					<b>│</b>
	<b>√</b> '4'',						/
	: 						
	価の総括と今後の方 後の事務事業の方向						
פו ד	<u>▼の事務事業の方向</u> □ 廃止	Ϊ±		□ 事業完了		□ 事務事	業のやり方改善
	□ 事務事業統合	ì•連携		☑ 現状維持		口 拡大	N
過去	に行った改善				現在の課題・問題	題点	
設計	ト・施工管理におけるコ	コスト縮減,	. 工期短縮等	<b>等に努めながら,事業</b>	  事業を遂行する <sup>:</sup>	うえで用地の取得	が必要不可欠であるが, 一部区間
	を図った。 「おき図った。		- ••	••••••••••••••••••••••••••••••••••••••		取得できていない	
今後	後の改善計画				期待される成果		新たに必要なコスト
<u>—</u> ли	· · ·	* : - <b>-</b>	- NF - 4 ANI A+ I		<b>-</b>	55-m l+ 0 Th/O	*. •
事系	に協力いただけるよう	)に用地父	渉を継続し	ていく。	安全で快適な退	路環境の確保。	なし
評侃	西(実績)等に関するF		見				所属長氏名
μт		71 724 22777	76				1/1/2/2000
	5建設計画の事業内容						
で最	大限の整備促進を行っ ない、東域道路網を計画	うことがで	きた。今後も	5, 引き続き安全で安/ てまいけない	心な道路整備事業	業の促進を目指し	茂泉善明

【総合計画体系】							
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課:	建設部建設課					
第 1 節 円滑な道路環境の整備	担当•係名:	道路建設係					
第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入者名:	伊藤 政浩					
<b>10年後の望ましい姿</b> : だれもが安心して移動できる道路になっている。	電話番号:	23-2435 810-408					

## 事務事業名: <新計>市道新設改良事業(古川地域)

拠	法令·条例等 新市建設計画		会計	一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 29 年度~	<b>予</b>	事業名	道路橋りょう新設改良事業	
ŧ	単年度繰返し		款	8 土木費	
A	単年度のみ実施 平成 年度		18	2 道路橋りょう費	
1	☑ 期間限定複数年度 平成 29 年度~平成 31 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費	
		•			ī

	務事業の現状】					
	意図(対象をどういう状態にしたいか)					
目的	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	市域道路網を計画				
	対象 (誰,何に対して)	◆対象指標				
	本路線は、休塚の郷士田地区と渕尻の宮田地区を繋ぐ路線のうち、未改良となっている延長200m区間の道路	① L=200m				
	整備を進めるものであり、地区住民及び道路利用者。	2				
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標				
実施内	3					
容	【平成29年度】 平成29年度 市道休塚渕尻線測量設計業務 L=200m 平成29年度 市道休塚渕尻線物件補償積算業務	4				
		(5)				
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)				
成甲	測量設計と補償物件調査を実施し、事業用地や補償物件を確定した。	⑥ 事業進捗率				
~	別里設計と補頂物件調査を実施し、事業用地や補頂物件を確定した。   (					

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成31年度
		対	① L=200m				0	m	200
		象	2						
	l la	·	③ H29事業費/総事業費				17	%	_
_	指標	活 動	4						
事業費		-73	<b>⑤</b>						
費		成果	⑥ 事業進捗率				17	%	100
• 夂		果	7						
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債			9,600	9,400		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源			600	555		
	費		事業費(a)	0	0	10,200	9,955	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.00	0.00		0.47	人	
		費	正職員人件費(b)	0	0		3,538		
			合計コスト(a)+(b)	0	0		13,493	千円	

	事業番号 21103	事務事業名 <新計>市道新設	改良事業(古川地域)
			WATERIAN A
【事務事業を取り巻く環 この事務事業を開始したきっ	境の変化や議会・市民との意見・要望・	<b>協働等の状況』</b> │事務事業を取り巻く環境の変化や議会	☆・市民との意見・要望・協働等の状況
	<新計>市道新設改良事業(古川地 □	安全・安心で交流が盛んなます	ちづくりを実現するためにも,円滑 可欠であり,市民の要望が強い。
【事務事業の担当課評係 ◆ 目的妥当性	<b>画</b> 】		
① この事務事業は,総合語	計画への貢献度は大きいですか?		
<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》 大崎市における安全で快適な道路空 への貢献度は大きい。	間を確保する社会基盤整備として総合	総合計画を実現するために 貢献できているのか。 ✓ 適切
② 対象や意図の範囲を見 □ できる ☑ できない	直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げる 《理由》 当該路線の合理的な工区設定、優先 化に努め地域住民や交通利用者のニ り費用対効果を上げることができる。		
◆ 有効性			
•	カ方を変えることで成果を向上させることができ :: /	ますか?	【評価のポイント】
<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	で実施している。	,道路機能の向上を図り,常に最小の	
<ul><li>④ 類似の目的(対象と意図</li><li>□ ある 統合・連携が</li><li>□ ある 統合・連携が</li><li>☑ ない</li></ul>		<b>多事業はありませんか?</b>	□ 見直す必要がある
◆ 効率性	事業費を削減する方法はありませんか?		【評価のポイント】
<ul><li>動 続状の放果を下げする</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	/拥山\	<b>査しながら常に最小の経費で実施してし</b>	現在のやり方をもっと安価にできないか。
<ul><li>⑥ コスト削減を阻害してい</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	る要因はありませんか。 《理由》		□ 見直す必要がある
【評価の総括と今後のプ	<b>方向性</b> 】		
今後の事務事業の方向 □ 廃止	l性	□ 重致重	事業のやり方改善
│ □ 廃止 □ 事務事業統合		□ 拡大	F来の ドッカ 以告
過去に行った改善		現在の課題・問題点	
業務委託を活用し、業務の	の効率を図った。	事業を遂行するうえで用地の取得 において用地を取得できていない(	が必要不可欠であるが, 一部区間 箇所がある。
今後の改善計画		期待される成果	新たに必要なコスト
事業に協力いただけるよう	うに用地交渉を継続していく。	安全で快適な道路環境の確保。	なし。
評価(実績)等に関する	所属長所見		所属長氏名
で最大限の整備促進を行	₹を精査しながら実施計画の進行管理をしつ うことができた。今後も、引き続き安全で安々 画的に整備促進を図ってまいりたい。		茂泉義明

【総合	itir		系】						
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担	当	部	課	:	建設部建設課
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担	当	係	名	:	道路建設係
第	1	項	市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記	入	者	名	:	伊藤 政浩
10年	後0		<b>ましい姿</b> : だれもが安心して移動できる道路になっている。	電	話	番	号	:	23-2435 810-408

#### 事務事業名: <新計>市道真岸線改良事業

拠	法令·条例等 新市建設計画		会計	一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 22 年度~	予	事業名	社会資本道路整備事業	
ŧ	単年度繰返し	<b>月</b> 科	款	8 土木費	
A	単年度のみ実施 平成 年度			2 道路橋りょう費	
1	☑ 期間限定複数年度 平成 22 年度~平成 30 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費	
		-			

ľ	事務事業の現状】	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
Ā	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	市域道路網を計画
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標
	本路線は、国道4号から三本木地域の観光名所「ひまわりの丘」を経由して一般県道小野田三本木線に通じる 市道であり、三本木地域真岸地区の市民及び道路利用者。	① L=1,000m
	印度であり、二本不地域具件地位の印式及び追路利用名。	2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
写放口零	【平成28年度 明許繰越】 ·市道真岸線道路改良工事 L=470.0m	<ul><li>3 H29事業費/総事業費</li><li>4</li><li>⑤</li></ul>
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
月月	・	⑥ 事業進捗率
	図られた。	7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成30年度
		対	① L=1,000m	92	0		470	m	1,000
		象	2						
	<b>س</b> ال	,-	③ H29事業費/総事業費	22	11		21	%	—
<b>.</b>	指 標	活動	4						
事業費		-73	⑤						
費		成 果	⑥ 事業進捗率	57	68		89	%	100
· 么		果	7						
各指			国庫支出金	28,866	18,970	74,090	49,766		
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債	35,100	15,900	61,900	45,800		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	2,002	893	3,332	2,567		
	費		事業費(a)	65,968	35,763	139,322	98,133	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.20	0.28		0.24	人	
		費	正職員人件費(b)	1,566	2,108		1,806		
			合計コスト(a)+(b)	67,534	37,871		99,939	千円	

			<b>学术田</b> 与	21104	事物事未有   <利山	/ 中垣共产隊9	区学术
【事	務事業を取り巻く環	造の変	化や議会・市!	民との意見・要望・	協働等の状況】		
	事務事業を開始したきて		10 ( 1000 200 ) 10 (	人口心心儿 女王		変化や議会・市	民との意見・要望・協働等の状況
	f前の旧三本木町より て引き継いだもの	,<新計	·>市道真岸線	道路改良事業			くりを実現するためにも,円滑 であり,市民の要望が強い。
	75				<del>'</del>		
争	務事業の担当課評	曲】					
•	目的妥当性		- お本はよる!、				「無体のよう」
Œ	この事務事業は、総合	,	貝厭度は入さい	・です か?			【評価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》	大崎市におけるへの貢献度は大		間を確保する社会基盤整備	として総合計画	総合計画を実現するために 貢献できているのか。
<b>②</b>	対象や意図の範囲を見	直し、拡	大・縮小すること	で費用対効果を上げ	ることができませんか?		☑適切
	□ できる ☑ できない		当該路線の合理 化に努め地域(	型的な工区設定、優先	路線への集中投資により、 ニーズに適した事業執行に取		│ 見直す必要がある
•	有効性						
	事務事業のやり方・進む	め方を変え	えることで成果を	·向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】
•	□ できる 効果大 □ できる 効果中 □ できない・効果なし	《理由》		<b>並づくりを目指すために</b>	こ,道路機能の向上を図り、	常に最小の経費	現在のやり方で成果がでるのか。
<b>(A)</b>	類似の日始(対象を登り	図/士たけ	・エメ 能 ( ノベヽ。Lソ	改衆  太持つ州の東	務事業はありませんか?		☑適切
•	□ ある 統合・連携か				の手木はの75に70が:		│ │ 見直す必要がある
	□ ある 統合・連携が □ ない			<b>未</b> 口 /			一 元直り必要がある
	効率性						
	現状の成果を下げずに	事業費を	·削減する方法は	Lありませんか?			【評価のポイント】
•	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理由》			査しながら常に最小の経費	で実施している	現在のやり方をもっと安価にできないか。
							│
6	<b>コスト削減を阻害してい</b> □ ある ☑ ない	`る要因は 《理由》	:ありませんか。				│ □ 見直す必要がある
							: /
	価の総括と今後の2 後の事務事業の方向						
7 12	<u>〒                                    </u>	门土	<u> </u>	□ 事業完了	Г	」 重扱重要	 のやり方改善
	□ 廃业 □ 事務事業統合	ンご市性		☑ 事未先〕 ☑ 現状維持		」事物事来 ]拡大	のでの対域音
\n		」 注 1万	, 1	☑ 5九1八小庄1寸		J 1/4/C	
過去	に行った改善				現在の課題・問題点		
	ナ・施工管理における= 重捗を図った。	コスト縮源	载, 工期短縮等	に努めながら,事業	東日本大震災後の建設 に遅れが生じている。	コストの高騰,	人材不足により,事業の進捗
今後	め 改善計画				期待される成果	新力	こに必要なコスト
	きの内容を精査しなが 以に努めながら,事業の			管理におけるコスト	事業費の縮減が図られ	る。なし	
評個	西(実績)等に関する	所属長所	<b></b>				所属長氏名
より	,予算措置された枠内	で最大	限の整備促進を	を行うことができた。	よったが,効果的な工法 今後も,引き続き安全で 髪を図ってまいりたい。		茂 泉 善 明

【総合計画体系】	
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 建設部建設課
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当 • 係 名</b> : 道路建設係
第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入者名: 伊藤政浩
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	電話番号: 23-2435 810-408

## 事務事業名: <新計>市道多高田線道路改良事業

拠	<b>└法令·条例等</b>   新市建設計画		会計	一般
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名	道路橋りょう新設改良事業
ŧ	■単年度繰返し	科	款	8 土木費
阴	□ 単年度のみ実施 平成 年度		項	2 道路橋りょう費
盯	☑ 期間限定複数年度 平成 18 年度~平成 31 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費

[4	事務事業の現状】	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
的	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	市域道路網を計画
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標
	本路線は, 県道涌谷三本木線と主要地方道仙台三本木線を繋ぐ幹線市道であり, 三本木地域桑折地区市民及 び道路利用者。	① L=2,360m
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
<b>実</b> 旅		③ H29事業費/総 事業費
<b>内容</b>	【平成28年度 明許繰越】 ・市道多高田線道路改良工事 L=59.8m ・市道多高田線道路付帯工事 L=48.0m ・市道多高田線道路付帯工事(その2) L=9.4m	4
	【平成29年度】 ・市道多高田線道路改良舗装工事 L=190.0m ・市道多高田線道路改良工事に伴う用地購入 用地購入 2件 A=1,052.84m2	(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
月果	荒川堰用排水路の布設替え工事を実施し事業の進捗を図った。	⑤ 事業進捗率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成31年度
		対	① L=2,360m	620	520		0	m	2,360
		象	2						
			③ H29事業費/総事業費	16	6		7	%	_
	指 標	活動	4						
事業費	1,534	3/1	5						
費		成果	⑥ 事業進捗率	77	83		90	%	100
• 夕		果	7			\			
各指標			国庫支出金						
標			県支出金						
の推移		事業費	地方債	53,800	29,400	62,600	45,800		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	2,893	1,916	3,412	2,721		
	費		事業費(a)	56,693	31,316	66,012	48,521	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.19	0.28		0.24	人	
		費	正職員人件費(b)	1,488	2,108		1,806		
			合計コスト(a)+(b)	58,181	33,424	] \	50,327	千円	

		L	事業番号	21105	事務事業名	<新計>市道多高	旧線道路改艮事業	
【事系	<b>务事業を取り巻く環</b>	境の変化	比や議会・市	「民との意見·要望	·協働等の状況】			
	事務事業を開始したきっ						₹・市民との意見・要望・協働等	の状況
人 <i>四</i> ·	***********	ノカニニト	、 <b>十</b> 、		<u> </u>	**************************************	とぶりま中田ナフもはによ	m 28
	前の旧三本木町より, 、て引き継いだもの。	く新計	>市迫多局出	H線直路改良事 -			ちづくりを実現するためにも, 可欠であり,市民の要望が強	
未こ	ノていて小型のうこしの。				7 多趋的坏况	<b>少</b> 是佣分 <b>必</b> 安介。	1人(607,们及00安主875	0.0
					!			
	<b>务事業の担当課評値</b>	西】						
	目的妥当性	UE . OF					【評価のポイント】	
_	<b>ニの事務事業は,総合語</b> ☑ 貢献度 大	//押山》					※会計画を実現する	+-141-
	☑ 貝献度 八 □ 貢献度 小	" — " ;		る安全で快適な道路空	間を確保する社会	基盤整備として総合	計画 総合計画を実現する 計画 貢献できているのか	
	□ 基礎的事務事業		への貢献度は	:大きい。			X	•
	<b>_</b>							
_	対象や意図の範囲を見							
	□ できる			理的な工区設定, 優先				5る
•	☑ できない			(住民や交通利用者の: を上げることができる。		執行に取り組むこと	によ	
			り負用対効末	を上いることかできる。				
<b>A</b> 5	有効性							
_	ĦXJIIエ 事務事業のやり方・進め	カ方を変え	ることで成果:	を向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】	
_	□ できる 効果大	《理由》					現在のわり方で成里	がでる
			安全で安心な で実施している	道づくりを目指すためI る	こ,道路機能の向上	を図り、常に最小の	経費のか。	
	☑ できない・効果なし		で天心している	<b>ນ</b> o				
							□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
	頃似の目的(対象と意図				務事業はありません	<b>か?</b>		_
	□ ある 統合・連携が			<b>『美名</b> 】			月直す必要があ	58
	□ ある 統合・連携が ✓ ない	できない	《埋田》					
	✓ au	:						
		•••					······································	
	効率性	***						
<b>♦</b> 3	効率性 現状の成果を下げずに	事業費を削	判滅する方法!	はありませんか?			【評価のポイント】	
<b>♦</b> 3 ⑤ 3	···	//拥山》			本したがこヴに早ル	の奴弗で宝饰  て	、ス 現在のやり方をもっと	上安価
<b>♦</b> 3 ⑤ 3	見状の成果を下げずに	《理由》		<b>はありませんか?</b> いては、事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のわりまたまっ	と安価
<b>♦</b> 3 ⑤ 3	<b>見状の成果を下げずに</b>	《理由》	当該路線につ		査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっる にできないか。	<b>≿安</b> 価
<b>♦</b> 3 (5) 1	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない	<b>《理由》</b> 7	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してし	、ス 現在のやり方をもっと	上安価
<ul><li>◆ 3</li><li>⑤ 3</li><li>⑥ 4</li></ul>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない コスト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> う る要因は <b>8</b>	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっとにできないか。	
<ul><li>◆ 3</li><li>⑤ 3</li><li>⑥ =</li></ul>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> 7	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっる にできないか。	
<ul><li>◆ 3</li><li>⑤ 3</li><li>⑥ =</li></ul>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない コスト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> う る要因は <b>8</b>	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっとにできないか。	
<ul><li>◆ 3</li><li>⑤ 3</li><li>⑥ 5</li></ul>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある ☑ ない	《理由》 う る要因は 《理由》	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっとにできないか。	
◆ 3 ⑤ ま ⑥ =	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない	《理由》 る要因は 《理由》	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっとにできないか。	
◆ 3 ⑤ 3 ⑥ =	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ ある □ ない □ かる □ ない □ から	《理由》 る要因は 《理由》	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精	査しながら常に最小		現在のやり方をもった。 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がま	
◆ 3 ⑤ 3 ⑥ =	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ かかる □ ない □ の総括と今後の方 の事務事業の方向 □ 廃止	《理由》 る要因はる 《理由》 与向性】	当該路線につ ため。	いては、事業内容を精	査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっとにできないか。	
◆ 3 ⑤ I	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ かる □ ない □ か終括と今後の方 の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	《理由》 る要因はる 《理由》 与向性】	当該路線につ ため。	いては,事業内容を精		□ 事務事	現在のやり方をもった。 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がま	
◆ 3 ⑤ I	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ かかる □ ない □ の総括と今後の方 の事務事業の方向 □ 廃止	《理由》 る要因はる 《理由》 与向性】	当該路線につ ため。	いては、事業内容を精	査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもった。 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がま	
◆ 3 ⑤ I	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ かる □ ない □ か終括と今後の方 の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	《理由》 る要因はる 《理由》 与向性】	当該路線につ ため。	いては、事業内容を精		□ 事務事	現在のやり方をもった。 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がま	
◆ 3 3 5 6 E F F F F F F F F F F F F F F F F F F	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ かん	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもった。 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がま	55
◆ 3 3 5 6 <b>⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</b>	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない □ かん	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がも  本業のやり方改善  が必要不可欠であるが、一	55
◆ 3 3 5 6 <b>⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</b>	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ か終括と今後の方 □ 下の一 下廃止 □ 事務・上 □ に行った改善 □ に行った改善 □ に行った改善	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 題点 うえで用地の取得	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がも  本業のやり方改善  が必要不可欠であるが、一	55
◆ 3 5 6 S T M M M M M M M M M M M M M M M M M M	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ない □ ない □ ある □ ない □ ない □ 本の総括と今後の方の事務事業の方向 □ 事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ 世を図った。	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問題・問題・問題を	□ 事務事 □ 拡大 題点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一語所がある。	55
◆ 3 5 6 S T M M M M M M M M M M M M M M M M M M	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ か終括と今後の方 □ 下の一 下廃止 □ 事務・上 □ に行った改善 □ に行った改善 □ に行った改善	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 題点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がも  本業のやり方改善  が必要不可欠であるが、一	55
◆ 3 5 6 S T M M M M M M M M M M M M M M M M M M	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ない □ ない □ ある □ ない □ ない □ 本の総括と今後の方の事務事業の方向 □ 事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ 世を図った。	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問題・問題・問題を	□ 事務事 □ 拡大 題点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一語所がある。	55
◆ 3 ま 。 ⑥ <b>( ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) </b>	現状の成果を下げずに のあるない コスト削減を阻害してい あるない あるない  一の総括と今後の方 の事務事業の方向 一事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ 排を図った。 の改善計画	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 ■ 事業完了 ☑ 現状維持 等に努めながら、事業	現在の課題・問題・問題を認定されて用地を関する成果	□ 事務事□ 拡大 園点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一箇所がある。  新たに必要なコスト	55
◆ 3 ま 。 ⑥ <b>( ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) </b>	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ない □ ない □ ある □ ない □ ない □ 本の総括と今後の方の事務事業の方向 □ 事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ 世を図った。	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 ■ 事業完了 ☑ 現状維持 等に努めながら、事業	現在の課題・問題・問題・問題を	□ 事務事□ 拡大 園点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一語所がある。	55
◆ 3 ま 。 ⑥ <b>( ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) ) ( ) </b>	現状の成果を下げずに のあるない コスト削減を阻害してい あるない あるない  一の総括と今後の方 の事務事業の方向 一事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ 排を図った。 の改善計画	《理由》 。 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携	当該路線につため。	いては、事業内容を精 ■ 事業完了 ☑ 現状維持 等に努めながら、事業	現在の課題・問題・問題を認定されて用地を関する成果	□ 事務事□ 拡大 園点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一箇所がある。  新たに必要なコスト	55
◆ 3 ま 。 ⑥ <b>(評)</b>	現状の成果を下げずに の成果を下げずに のおい コスト削減を阻害してい の事務事を阻害してい の事務事業の方向 の事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ がを図った。 の改善計画 取得の課題について	《理由》 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携 コスト縮減	当該路線につため。	いては、事業内容を精 ■ 事業完了 ☑ 現状維持 等に努めながら、事業	現在の課題・問題・問題を認定されて用地を関する成果	□ 事務事□ 拡大 園点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもったにできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一箇所がある。  新たに必要なコスト  なし	55
◆ 3 ま 。 ⑥ <b>(評)</b>	現状の成果を下げずに のあるない コスト削減を阻害してい あるない あるない  一の総括と今後の方 の事務事業の方向 一事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ 排を図った。 の改善計画	《理由》 る要因は 《理由》 方向性】 性 ・連携 コスト縮減	当該路線につため。	いては、事業内容を精 ■ 事業完了 ☑ 現状維持 等に努めながら、事業	現在の課題・問題・問題を認定されて用地を関する成果	□ 事務事□ 拡大 園点 うえで用地の取得 取得できていない(	現在のやり方をもった にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一箇所がある。  新たに必要なコスト	55
◆⑤ ⑥ 【字 過 設の 今 用 評	現状の成果を下げずに のあるない コスト削減を阻害してい の数括と今後の方の事務止 の事務止 の事務止 に行った改善 に行った改善 に行った改善 の改善計画 取得の課題について (実績)等に関する (実績)等に関する (実績)等に	《理由》 る要因は る要因は を理由》 ち向性】 性 ・連携 コスト縮減。	当該路線につため。 ありませんか。 オリンスを表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	いては、事業内容を精 事業完了 ☑ 現状維持 年に努めながら、事業 解決に努める。	現在の課題・問題・問題を受ける。これのでは、ままれる。	□事務事 □拡大 題点 うえで用地の取得のできていないが 路環境の確保。	現在のやり方をもったにできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一箇所がある。  新たに必要なコスト  なし	55
◆ ⑤ ⑥ 【字 過 設の 今 用 評 新 # # # # # # # # # # # # # # # # # #	現状の成果を下げずに の成果を下げずに のおい コスト削減を阻害してい の事務事を阻害してい の事務事業の方向 の事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ がを図った。 の改善計画 取得の課題について	《理由》 る要因はな う性 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	当該路線につため。 ありませんか。 カリませんか。 相談し早期 相談し り実施 おりませんか。	いては、事業内容を精 事業完了 ☑ 現状維持 等に努めながら、事業 解決に努める。	現在の課題・問題・問題を ま業を遂行する において用地を 期待される成果 安全で快適な道	□ 事務事 □ 拡大 題点 うえで用地の取得 取得できていない の 路環境の確保。	現在のやり方をもったにできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  が必要不可欠であるが、一箇所がある。  新たに必要なコスト  なし	55

【総合計画体系】										
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 建設部建設課									
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当•係 名</b> ; 道路建設係									
第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入者名: 伊藤政浩									
<b>10年後の望ましい姿</b> : だれもが安心して移動できる道路になっている。 <b>電話番号</b> : 23-2435 810-408										

## 事務事業名: <新計>市道百々・北小牛田線改良事業 事業番号

21106

艮执	<b>└法令·条例等</b>   新市建設計画	_	会計	一般
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予会	事業名	道路橋りょう新設改良事業
業	単年度繰返し	科	款	8 土木費
期	□ 単年度のみ実施 平成 年度		項	2 道路橋りょう費
間	☑ 期間限定複数年度 平成 18 年度~平成 29 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費

[ ]	「務事業の現状】			
	意図(対象をどういう状態にしたいか)			
目的	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	,市域道路網を計画		
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標		
	本路線は、国道108号と県道涌谷田尻線を連結する幹線市道であり、田尻地域市民及び道路利用者。	① L=560m		
		2		
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標		
実施内容		③ H29事業費/総 事業費		
谷	【平成28年度 明許繰越】 ・市道百々北小牛田線交差点改良工事 L=232.5m ・市道百々北小牛田線交差点改良工事に伴う物件移転補償 物件移転補償 2件	4		
		5		
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)		
成果	幹線市道として円滑な道路環境の整備を進め、利用者の利便性の向上を図り、目的地への所要時間の短縮が	⑥ 事業進捗率		
<i>-</i> 1<	図られた。	7		

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度	
		対象	① L=560m	156	0		233	m	—	
		象	2							
		· 汗	③ H29事業費/総事業費	13	9		5	%	—	
_	指 標	活動	4							
事業費		虭	⑤							
費		成	⑥ 事業進捗率	86	95		100	%	—	
夕		果	7							
各指標			国庫支出金							
標の			県支出金							
の推移		事業費	地方債	59,300	39,800	32,100	30,300			
移	総	費	その他					-		
	総事業費		一般財源	3,293	2,237	1,742	1,619			
	費		事業費(a)	62,593	42,037	33,842	31,919	千円		
		人件	正職員年間従事人員	0.25	0.28		0.22	人		
		費	正職員人件費(b)	1,957	2,108		1,656			
			合計コスト(a)+(b)	64,550	44,145		33,575	千円		

『古弥古光とひり光/四块の赤	·//. 4.# 人 +	・ロレの辛日 亜州	<b>おちかったっ</b> す		
【事務事業を取り巻く環境の変 この事務事業を開始したきっかけ	化や議会・巾	氏との息見・要望		/四倍の赤ルム洋へ	・市民との意見・要望・協働等の状況
この事務事業を開始したさつかり			事務争未を取りを	(現現の変化や議会	・ 巾氏との息兄・安主・ 励働寺の仏流
合併前の旧田尻町より、<新計> 良事業として引き継いだもの。	>市道百々北小	N牛田線道路改 <b>[</b>			づくりを実現するためにも, 円滑 欠であり, 市民の要望が強い。
			<u> </u>		
【事務事業の担当課評価】					
◆ 目的妥当性					
① この事務事業は、総合計画への		ハですか?			【評価のポイント】
<ul><li>✓ 貢献度 大 (理由)</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	大崎市における	る安全で快適な道路空 大きい。 	間を確保する社会	基盤整備として総合言	#画 総合計画を実現するために 貢献できているのか。 ✓ 適切
② 対象や意図の範囲を見直し. 拡	大・縮小するこ	とで費用対効果を上け	ることができません	か?	) V M 9
<u> </u>	) 当該路線の合 化に努め地域	理的な工区設定、優労住民や交通利用者のを上げることができる。	品線への集中投資 ニーズに適した事業	により, より一層の効	
◆ 有効性					
③ 事務事業のやり方・進め方を変	えることで成果る	を向上させることができ	きますか?		【評価のポイント】
□ できる 効果大 《理由》	安全で安心な	道づくりを目指すためり	こ 道路機能の向上	を図り 堂に最小の紹	現在のやり方で成果がでる
□ できる 効果中     ▽ できない・効果なし     □ できる 効果中     □ できる 対象     □ できる 対象	で実施している		-, 222122121007173-	CH ), ((), -42, 1 (), ()	└見
<u></u>					
④ 類似の目的(対象と意図)またに			務事業はありません	か?	
□ ある 統合・連携ができる	【類似事務事	事業名】			/ □ 見直す必要がある
□ ある 統合・連携ができない	〉《理由》				/
ない	<u> </u>				
A 41 4-14					
● 効率性					
<ul><li>◆ 効率性</li><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li></ul>	を削減する方法!	はありませんか?			【評価のポイント】
		<b>はありませんか?</b> いては, 事業内容を精		の経費で実施してい	現在のめけまたもっと字体
<ul><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li><li>□ ある 《理由》</li></ul>	当該路線につ		査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価
<ul><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li><li>⑥ コスト削減を阻害している要因</li></ul>	当該路線につ ため。 <b>なりませんか。</b>	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li></ul>	当該路線につ ため。 <b>なりませんか。</b>	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li><li>⑥ コスト削減を阻害している要因</li></ul>	当該路線につ ため。 <b>なりませんか。</b>	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul> <li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li> <li>□ ある</li> <li>② ない</li> <li>⑥ コスト削減を阻害している要因に</li> <li>□ ある</li> <li>② ない</li> </ul>	当該路線につ ため。 <b>はありませんか。</b>	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul> <li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li> <li>□ ある</li> <li>○ コスト削減を阻害している要因に</li> <li>□ ある</li> <li>○ ない</li> </ul> 【評価の総括と今後の方向性】	当該路線につ ため。 <b>はありませんか。</b>	いては,事業内容を精	査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul> <li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li></ul>	当該路線につ ため。 <b>はありませんか。</b>	いては,事業内容を精	査しながら常に最小		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	当該路線につ ため。 <b>よありませんか。</b>	いては、事業内容を精	査しながら常に最小	□事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul> <li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li></ul>	当該路線につ ため。 <b>よありませんか。</b>	いては,事業内容を精		□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	当該路線につ ため。 <b>よありませんか。</b>	いては、事業内容を精	査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある ☑ ない ② ない ② ない ② は ② は ② ない ② は ② ない ② ない	当該路線につため。	いては、事業内容を精	現在の課題・問題	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ (理由) □ ある □ □ かい □ かい □ かい □ から □ 廃止 □ 事務事業統合・連携 過去に行った改善 □ 設計・施工管理におけるコスト縮に □ まけるコスト縮に □ また □ ま	当該路線につため。	いては、事業内容を精	現在の課題・問題	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある ☑ ない ② ない ② ない ② は ② は ② ない ② は ② ない ② ない	当該路線につため。	いては、事業内容を精	現在の課題・問	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない □ ある □ 《理由》 □ ある □ 《理由》 □ ある □ □ ある □ □ かい □ かい □ をい □ をい □ 廃止 □ 事務事業統合・連携 □ 事務事業統合・連携 □ 基に行った改善 □ を回じまけるコスト縮えの進捗を図った。	当該路線につため。	いては、事業内容を精	現在の課題・問題・問題・	□ 事務事 □ 拡大 頃点 はし。	る 現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  業のやり方改善
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ (理由) □ ある □ □ かい □ かい □ かい □ から □ 廃止 □ 事務事業統合・連携 過去に行った改善 □ 設計・施工管理におけるコスト縮に □ まけるコスト縮に □ また □ ま	当該路線につため。	いては、事業内容を精	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 頃点 はし。	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない □ ある □ 《理由》 □ ある □ 《理由》 □ ある □ □ ある □ □ かい □ かい □ をい □ をい □ 廃止 □ 事務事業統合・連携 □ 事務事業統合・連携 □ 基に行った改善 □ を回じまけるコスト縮えの進捗を図った。	当該路線につため。	いては、事業内容を精	現在の課題・問題・問題・	□ 事務事 □ 拡大 頃点 はし。	る 現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  業のやり方改善
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ○ コスト削減を阻害している要因 □ ある □ の事務事業の方向性 □ へ後の事務事業の方向性 □ 事務事業統合・連携過去に行った改善 設計・施工管理におけるコスト縮減の進捗を図った。  今後の改善計画	当該路線につため。	いては、事業内容を精 事業完了 現状維持	現在の課題・問題・問題を表現である。現在の課題・問題を表現である。	□事務事□拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある  業のやり方改善  新たに必要なコスト
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない □ ある □ 《理由》 □ ある □ 《理由》 □ ある □ □ ある □ □ かい □ かい □ をい □ をい □ 廃止 □ 事務事業統合・連携 □ 事務事業統合・連携 □ 書務事業統合・連携 □ 書務事業統合・連携 □ 書務事業 □ はいるコスト縮え の進捗を図った。	当該路線につため。	いては、事業内容を精 事業完了 現状維持	現在の課題・問題・問題・	□事務事□拡大	る 現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  業のやり方改善
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ○ コスト削減を阻害している要因 □ ある □ の事務事業の方向性 □ へ後の事務事業の方向性 □ 事務事業統合・連携過去に行った改善 設計・施工管理におけるコスト縮減の進捗を図った。  今後の改善計画	当該路線につため。	いては、事業内容を精 事業完了 現状維持	現在の課題・問題・問題を表現である。現在の課題・問題を表現である。	□事務事□拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある  業のやり方改善  新たに必要なコスト
⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ○ コスト削減を阻害している要因 □ ある □ の事務事業の方向性 □ へ後の事務事業の方向性 □ 事務事業統合・連携過去に行った改善 設計・施工管理におけるコスト縮減の進捗を図った。  今後の改善計画	   当該路線につ   <b>まありませんか。</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>を</b>   <b>b</b>   <b>e</b>   <b>b</b>   <b>e</b>   <b>b</b>   <b>e</b>   <b>e</b>	いては、事業内容を精 事業完了 現状維持	現在の課題・問題・問題を表現である。現在の課題・問題を表現である。	□事務事□拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある  業のやり方改善  新たに必要なコスト
(事現状の成果を下げずに事業費をできます。	   当該路線につ   <b>まありませんか。</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>ち</b>   <b>を</b>   <b>b</b>   <b>e</b>   <b>b</b>   <b>e</b>   <b>b</b>   <b>e</b>   <b>e</b>	いては、事業内容を精 事業完了 現状維持	現在の課題・問題・問題を表現である。現在の課題・問題を表現である。	□事務事□拡大	る 現在のやり方をもっと安価にできないか。 ☑ 適切 □ 見直す必要がある  業のやり方改善  新たに必要なコスト
(事現状の成果を下げずに事業費をできます。	当該路線につため。  まありませんか。	いては、事業内容を精 事業完了 現状維持 ほのいい のいっぱん 事業完了 即状維持 ほうかい いっぱい まま かいかい まま かいかい まま かいかい まま かいかい かいかい	現在の課題・問題を受ける。現在の課題・問題を表現である。	□ 事務事 □ 拡大  ・ 拡大  ・ はし。  ・ ましてしまったが、	る 現在のやり方をもっと安価にできないか。 ☑ 適切 □ 見直す必要がある  業のやり方改善  新たに必要なコスト

【事務事業の現状】

果

7

【総合	【総合計画体系】											
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担		部	課	:	建設部建設課			
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担	当•	係	名	:	道路維持係			
第	1	項	市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記	入	者	名	:	伊藤 智則			
10年	≣後(	り望:	<b>ましい姿</b> : だれもが安心して移動できる道路になっている。		話	番	异		23-8015 810-420			

#### 事務事業名: <新計>市道橋りょう改修事業(古川地区) 事業番号 21107

		_		
拠	<b>法令·条例等</b>   道路法	_   _	会計	一般
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 24 年度~	予	事業名	社会資本道路整備事業
ŧ	単年度繰返し	科	款	8 土木費
A	□ 単年度のみ実施 平成 年度		項	2 道路橋りょう費
1	☑ 期間限定複数年度 平成 24 年度~平成 29 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費

#### 

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① L=220.5m	220.5	220.5		220.5	m	_
		象	2						
			③ 事業費(単年度)/総事業費	39	23		22	%	_
	指標	活動	4						
事業費		20,	5						
費		成果	⑥ 事業進捗率(累計)	55	78		100	%	_
夕		果	7			\			
各指標			国庫支出金	50,074	30,450	26,054	26,054		
			県支出金						
が推		事業費	地方債	50,600	28,800	26,700	26,700		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	2,716	1,579	5,522	5,522		
	費		事業費(a)	103,390	60,829	58,276	58,276	千円	
		人	正職員年間従事人員	0.16	0.16		0.16	人	
		件 費	正職員人件費(b)	1,253	1,205		1,204		
			合計コスト(a)+(b)	104,643	62,034		59,480	千円	

幹線市道として円滑な道路環境の整備を進め、利用者の安全性の向上を図った。

		_ =	事耒奋亏	21107	争務争耒名	<新訂>甲担備り	よう以修事系(百川地区)
	務事業を取り巻く環		や議会・市	民との意見・要呈			
この	事務事業を開始したきっ	かけ			事務事業を取り巻	く環境の変化や議会	₹・市民との意見・要望・協働等の状況
	:前の旧古川市より, < 継いだもの。	<新計>市)	道橋りょうご	女修事業として			ちづくりを実現するためにも,円滑 『欠であり,市民の要望が強い。
【事	務事業の担当課評値	価】					
<b>♦</b>	目的妥当性						
1	この事務事業は、総合	計画への貢献	<b>献度は大きし</b>	いですか?			【評価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	総合計画を実現するために 貢献できているのか。					
<b>②</b>	対象や意図の範囲を見	直 、拡大・	縮小すること	レで費用対効果を F	ザることができません	か?	) <u>v</u> 22 3
•	□ できる ☑ できない	<b>《理由》</b> 当 化	該路線の合に努め地域の	理的な工区設定, 優	先路線への集中投資 ニーズに適した事業	により, より一層の3	<b>│ □ 見直す必要がある</b> によ
	有効性						
	事務事業のやり方・進め	の方を変える	ことで成果を	<b>ト向上させることがで</b>	きますか?		【評価のポイント】
•	□ できる 効果大	/ <b>期</b> 由\					カナの りしナス 世田 ギスフ
	<ul><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	安: で!	全で安心なう 実施している		に, 道路機能の向上	を図り、常に最小の	経費 のか。
_			<b>.</b>				□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
4)	類似の目的(対象と意図				F務事業はありませ <i>A</i>	か?	
	□ ある 統合・連携が		【類似事務事	業名】			/ □ 見直す必要がある
	□ ある 統合・連携が	「できない 《3	理由》				<b> </b>
	ない						<b>V</b>
		*******					
<b>♦</b>	効率性						
	効率性 現状の成果を下げずに	事業費を削減	減する方法に	<b>よありませんか?</b>			【評価のポイント】
	現状の成果を下げずに	/珊山\					現在のわりまたよっと空便
	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	<b>《理由》</b> 当	該路線につ		 情査しながら常に最小		、ス 現在のやり方をもっと安価
	現状の成果を下げずに	<b>《理由》</b> 当			情査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のわりまたよっと空便
	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	<b>《理由》</b> 当	該路線につ		青査しながら常に最小	の経費で実施してし	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
\$	現 <b>状の成果を下げずに</b> □ ある ☑ ない	<b>《理由》</b> 当 た。	該路線につい め。	いては,事業内容を制	青査しながら常に最小	の経費で実施してし	、ス 現在のやり方をもっと安価
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない コスト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> 当 た。	該路線につい め。	いては,事業内容を制	青査しながら常に最小	の経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> 当 た。	該路線につい め。	いては,事業内容を制	青査しながら常に最小	の経費で実施してし	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない コスト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> 当 た。	該路線につい め。	いては,事業内容を制	青査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> 当 た。	該路線につい め。	いては,事業内容を制	<b>青査しながら常に最</b> り	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
6	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ ある ☑ ない	《理由》 当ため る要因はあり 《理由》	該路線につい め。	いては,事業内容を制	<b>青査しながら常に最</b> り	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに  ある  ない  おる  ない  ない  ない  おる  ない  おる  ない  おる  ない  ない  ない  ない	《理由》 当たり る要因はあり 《理由》	該路線につい め。	いては,事業内容を制	<b>青査しながら常に最</b> り	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに     ある     ない     おる     ない     おる     ない     かない     かない     かない     である     ない     である     ない     である     である     である	《理由》 当たり る要因はあり 《理由》	該路線につい め。	いては、事業内容を	<b>青査しながら常に最</b> り		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに	《理由》 当たの る要因はあり 《理由》 方向性】	該路線につい め。	いては、事業内容を持	<b>青査しながら常に最</b> り	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに     ある     ない     おる     ない     おる     ない     かない     かない     かない     である     ない     である     ない     である     である     である	《理由》 当たの る要因はあり 《理由》 方向性】	該路線につい め。	いては、事業内容を	<b>青査しながら常に最</b> り		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 今後	現状の成果を下げずに     ある     ない     ない     ある     ない     ある     ない     ある     ない     から     ない     ある     ない     から     ない     本の総括と今後のプ の事務事業の方向     原止     事務事業統合	《理由》 当たの る要因はあり 《理由》 方向性】	該路線につい め。	いては、事業内容を持		□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 今後	現状の成果を下げずに	《理由》 当たの る要因はあり 《理由》 方向性】	該路線につい め。	いては、事業内容を持	情査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 今後	現状の成果を下げずに     ある     ない     ない     ある     ない     ある     ない     ある     ない     から     ない     ある     ない     から     ない     本の総括と今後のプ の事務事業の方向     原止     事務事業統合	《理由》 当たの る要因はあり 《理由》 方向性】	該路線につい め。	いては、事業内容を持		□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li><b>(評)</b></li><li><b>(過去)</b></li></ul>	現状の成果を下げずに のあるない コスト削減を阻害してい ある のお話と今後のフ の事務事業の方向 の解析と今後のフ の事務事業が会	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>⑥</li><li>過去</li><li>設計</li></ul>	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>⑥</li><li>過去</li><li>設計</li></ul>	現状の成果を下げずに のあるない コスト削減を阻害してい ある のお話と今後のフ の事務事業の方向 の解析と今後のフ の事務事業が会	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>⑥</li><li>過去</li><li>設計</li></ul>	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評 今後 設の 設の	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評 今後 設の 設の	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問題・	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評 今後 設の 設の	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問題・	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評後 設の 今後	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問題 * なし 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
⑤ ⑥ 【評 今後 設の 設の	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を対しては、事業庁では、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問題・	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評後 設の 今後	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を	現在の課題・問題 * なし 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
⑤ ⑥ 【評後 設の 今後	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 《理由》 方向性】 性	該路線につい	いては、事業内容を	現在の課題・問題 * なし 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
⑤ 【評後 設の 今 な	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい の おない	《理由》当たの る要因はあり 「一性」 「一性」 「一性」 「一性」	該路線につい が。 リませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を	現在の課題・問題 * なし 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし
⑤ 【評後 設の 今 な	現状の成果を下げずに	《理由》当たの る要因はあり 「一性」 「一性」 「一性」 「一性」	該路線につい が。 リませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を	現在の課題・問題 * なし 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
⑤ 【評後	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい の おない	《理由》当たの る要因はあり 「一性」 「一性」 「一性」 「一性」	該路線につい が。 リませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を	現在の課題・問題 * なし 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし
⑤ 【評後 法計進 後 し 価	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい の おない	(理由) 当たの る要因はあり 「一性」 「性」 「本連携」 「本に、「本に、「本に、」」 「本に、「本に、」」 「本に、「本に、」」	該路線につい が。 リませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を持つでは、事業完了 □ 現状維持	現在の課題・問題・問題・関連 なし おもれる成果 なし	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし

【総合	総合計画体系】											
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担:	当	部調	ς :	建設部建設課				
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担当	≝ •	係名	:	道路建設係				
第	1	項	市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記。	入:	者 名	i :	伊藤 政浩	•			
10年	後0	)望:	ましい姿・だれもが安心して移動できる道路になっている。		跃:	器 具		23-2435 810-408	•••			

## 事務事業名: 市道下伊場野山王線道路改良事業

事業番号 21108

拠	法令·条例等 市総合計画		1	会計	一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~		予	事業名	社会資本道路整備事	業
ŧ	単年度繰返し	1	舞刻	款	8 土木費	
Я	単年度のみ実施 平成 年度		目	項	2 道路橋りょう費	
1	☑ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 31 年度	]	ı	目	3 道路橋りょう新設	改良費

【事務事業の現状】

Ш	7	<b>務事業の現状】</b>	
		意図(対象をどういう状態にしたいか)	
	目的	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	市域道路網を計画
		対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
		本路線は、松山地域次橋地区の主要地方道古川松山線と下伊場野地区の主要地方道利府松山線を結ぶ路線 であり、沿線の市民及び道路利用者。	① L=2,500m ②
		実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
	実施内容	【平成28年度 明許繰越し】 ・市道下伊場野山王線用地購入 12件 A=7459.18㎡ ・平成29年度 市道下伊場野山王線道路改良工事(1工区) L=522.0m ・平成29年度 市道下伊場野山王線道路改良工事(2工区) L=629.0m 【平成29年度】 ・平成29年度 市道下伊場野山王線道路改良工事(3工区) L=398.0m	<ul><li>③ H29事業費/総事業費</li><li>④</li><li>⑤</li></ul>
		平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	成 果	平成28年度明許繰越しの道路改良工事(2工区)について,上層路盤まで完成させ事業の進捗を図った。	⑥ 事業進捗率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成31年度
		対	① L=2,500m	0	160		0	m	2,500
		象	2						
市	<b>با</b> لد	,-	③ H29事業費/総事業費	1	10		17	%	—
	指 標	活動	4						
事業費	IA.		⑤						
費		成	⑥ 事業進捗率	3	13		30	%	100
-		果	7						
各指標			国庫支出金		24,382	166,083	85,592		
標の			県支出金			134,600			
の推移		事業費	地方債	8,200	44,300		82,300		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	451	2,453	7,184	4,444		
	費		事業費(a)	8,651	71,135	307,867	172,336	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.08	0.28		0.59	人	
		費	正職員人件費(b)	626	2,108		4,441		
			合計コスト(a)+(b)	9,277	73,243		176,777	千円	

	事業番号	21108	事務事業名	市道下伊場野山王線道路改良事業							
この事務事業を開始したきっかけ			事務事業を取り巻	く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況							

志田橋の架替えにより、主要地方道利府松山線に接続する市 道下伊場野山王線の交通量が増加が予測され、安全な交通確 保が必要とされる。

安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であり、市民の要望が強い。

【事	務事業の担当課評	価】							
•	目的妥当性							<b>7</b> =∓/ <b>T ○</b> 1°	4. L T
ധ	この事務事業は、総合	,,	貝献度は入さい	ハですか?			······································	【評価のポー	
	☑ 貢献度 大	《理由》	大崎市におけ	る安全で快適な道路空	間を確保する社会基盤整備	まとして総合	計画	総合計画を	実現するために
	□ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業		への貢献度は	大きい。				見版できて	いるのが。
	□ 基礎的爭伤爭未	<u> </u>						☑ 適切	
<b>a</b>	対象や意図の範囲を見	南  - 坂-	ト。絵小オスニ	レで夢田対効里を上げ	スニレができませんかっ			<u>√</u> 10191	
<b>(2</b> )	<b>八家であるの配面を元</b> □ できる					LI E O		□ 目店才	<sup>-</sup> 必要がある
		<b>\</b> 4ш/	化に努め地域	理的な工区設定、優先 住民や交通利用者の二 を上げることができる。	路線への集中投資により, -一ズに適した事業執行に国	取り組むこと	によ	□ 元直9	<b>公女がの</b> の
<b>♦</b>	有効性								
3	事務事業のやり方・進む	の方を変え	ることで成果る	を向上させることができ	ますか?			【評価のポー	イント】
	□ できる 効果大	《理由》	中央で中心か	<b>ゴベノリカロセオため</b> に	- -, 道路機能の向上を図り,	一 早 小 の	<b>红弗</b>	現在のやり	方で成果がでる
	□ できる 効果中		女主で女心な		-, 坦鉛饿肥の内工で凶り,	吊に取小の:	在复	のか。	
	☑ できない・効果なし								
_								☑ 適切	
4					<b>筝事業はありませんか?</b>				
	□ ある 統合・連携が			<b>≸</b> 兼名】				□ 見直す	必要がある
	□ ある 統合・連携が	できない	《埋田》				/		
	ない								
	効率性								
	現状の成果を下げずに	車業費を	削減する方法	ナありませんか?				【評価のポイ	イント]
•		・ アネ貝と					······! \		」フェ <b>オ</b> 方をもっと安価
	<b>□</b> がい	₩-±ш//		いては,事業内容を精査	査しながら常に最小の経費	で実施してし	いる \	にできない	
	<b>E</b> 0.0		ため。						
		i						☑ 適切	
6	コスト削減を阻害してい	る要因は	ありませんか。					)	
	□ ある	《理由》				•••••		□ 見直す	必要がある
	☑ ない						<b> </b>		
							Į ,		
	価の総括と今後のフ								
今往	後の事務事業の方向	]性		_ <del> </del>		<del>- + 26 +</del>	- 444 1	L / 1 - L - L - 2	<del>-</del>
	□ 廃止	146		□ 事業完了			業の↑	さり方改製	<b>雪</b>
	□ 事務事業統合	҈ 連携		☑ 現状維持		」拡大			
過支	とに行った改善				現在の課題・問題点				
=n.=	<del>   </del>		+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	51-加44·18> <del>古</del> 米					
	†・施工管理における= 進捗を図った。	コ人ト稲洞	,上期短縮著	まに努めなから、 争業	計画路線上に流域下水	(道や国営)	用水路,	県管理の河	「川等がある。
געט	生捗を凶つに。								
今後	後の改善計画				期待される成果		新たに	必要なコスト	
	章物件について、関係	機関との	協議を継続し	事業の進捗に努め	事業の早期完了と,安全	全で快適	なし		
る。					な道路環境の確保。		50		
=m <i>t</i>	エ/中体/ケル田ナフ	-re = =	re					TRE	rt <i>b</i>
評1	西(実績)等に関する	<b>州禹長</b> 凡	T.兄					所属長.	<b>式名</b>
					かりと進め、予算措置さ			<u></u> .	** ==
					心な道路整備事業の促進	<b>進を目指し</b>		茂泉	善明
なか	ら,市域道路網を計画	当的に整	<b>偏促進を凶つ</b>	(よいりたい。					

【総合計画体系】									
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 建設部建設課								
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当 • 係 名</b> : 道路建設係								
第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入者名: 伊藤 政浩								
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	<b>電 話 番 号</b> · 23-2435 810-408								

#### 事務事業名: <新計>市道坂の下線改良舗装事業

事業番号 21109

拠	法令·条例等 新市建設計画		会計	一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~	予会	事業名	道路橋りょう新設改良事業	¥
ŧ	単年度繰返し	T P 科	款	8 土木費	
阴	単年度のみ実施 平成 年度		項	2 道路橋りょう費	
盯	☑ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 29 年度		目	3 道路橋りょう新設改良	<b>支費</b>
事	務事業の現状】				

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか) 安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、市域道路網を計画的に整備促進する。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① L=371m 本路線は、岩出山地域下真山要害地区と清水地区を結ぶ生活道路として、利用する沿線の市民及び道路利用 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ H29事業費/総 実施 事業費 内 容【平成28年度 明許繰越し】 ・平成28年度 市道坂の下線道路改良工事 L=141.34m 4 【平成29年度】 ・平成29年度 市道坂の下線道路舗装工事 L=151.34m 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 事業進捗率 市道として円滑な道路環境の整備を進め、利用者の利便性の向上を図り、目的地への所要時間の短縮が図ら れた。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① L=371m	0	220	$\setminus$	151	m	_
		象	2						
	l la	活動	③ H29事業費/総事業費	37	21		13	%	_
+	指標		4						
事業費			⑤			87			
費		成果	⑥ 事業進捗率	66	87	7	100	%	_
· 久		果	7			\			
各指標			国庫支出金						
標			県支出金			25,600			
の推移		事 業 費	地方債	36,900	23,200		25,300		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	180	437	115	57		
	費		事業費(a)	37,080	23,637	25,715	25,357	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.38		0.27	人	
		費	正職員人件費(b)	2,349	2,861		2,032		
			合計コスト(a)+(b)	39,429	26,498		27,389	千円	

			争耒奋亏	21109	争務争耒名	<利司/印理扱の	) 下線以及舗装事業
<b>-</b>			=** ^				
	務事業を取り巻く環		や議会・市	民との意見・要3			
この	事務事業を開始したきっ	かけ			事務事業を取り巻	<b>く環境の変化や議会</b>	会・市民との意見・要望・協働等の状況
	:前の旧岩出山町より, して引き継いだもの。	<新計>	市道坂の下	·線改良舗装事			ちづくりを実現するためにも,円滑 可欠であり,市民の要望が強い。
		_			·		
	務事業の担当課評値	西】					
<b>♦</b>	目的妥当性						
1	この事務事業は、総合言	計画への貢i	献度は大きい	<b>ヽですか?</b>			【評価のポイント】
	☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業		、崎市における 、の貢献度は		空間を確保する社会	基盤整備として総合	計画 総合計画を実現するために 貢献できているのか。  ✓ 適切
<b>②</b>	対象や意図の範囲を見	直し. 拡大・	縮小すること	トで費用対効果を上	げることができません	<i>ነ</i> ነ ?	) V A2 93
Ū	□ できる ☑ できない	により、より一層のす 執行に取り組むこと	<b>│ □ 見直す必要がある</b>  こよ				
•	有効性						
	事務事業のやり方・進め	方を変える	ことで成果を	た向上させることがで	きますか?		【評価のポイント】
_		/ <b>I</b> 由\					カナの かいナス 世田 ギスフ
	<ul><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	安	そ全で安心なう を実施している		うに, 道路機能の向上	を図り 常に最小の	経費のか。
_							□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
4	類似の目的(対象と意図				事務事業はありません	<b>か?</b>	
	□ ある 統合・連携が		【類似事務事	業名】			/ □ 見直す必要がある
	□ ある 統合・連携が	できない 《	理由》				/
		<u></u>					
_	±1. === 1:4.						
	効率性						FETUT O 1° A 1 N
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに		減する方法に	<b>よありませんか?</b>			
<b>⑤</b>	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	/珊山\			 精査しながら常に最小		、ス 現在のやり方をもっと安価
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに	<b>《理由》</b> 当			精査しながら常に最小	への経費で実施してし	現たのめリナキ+~ ト字伝
<b>⑤</b>	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	<b>《理由》</b> 当	該路線につ		精査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっと安価にできないか。
<b>⑤</b>	現 <b>状の成果を下げずに</b> □ ある ☑ ない	<b>《理由》</b> 当 た	i該路線につい め。	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	、ス 現在のやり方をもっと安価
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> 当 た	i該路線につい め。	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> 当 た る要因はあ	i該路線につい め。	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価にできないか。
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> 当 た る要因はあ	i該路線につい め。	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> 当 た る要因はあ	i該路線につい め。	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥ 【評	現状の成果を下げずに	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】	i該路線につい め。	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してし	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】	i該路線につい め。	いては、事業内容を	精査しながら常に最小		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ かる □ ない □ から □ から □ から □ から □ がら □ が	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 <b>5向性</b> 】	i該路線につい め。	いては、事業内容を	精査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥ 【評	現状の成果を下げずに	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 <b>5向性</b> 】	i該路線につい め。	いては、事業内容を	精査しながら常に最小		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ <b>《</b> <b>《</b>	現状の成果を下げずに  ある ない スト削減を阻害してい  ある ない ある ない ある ない	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 <b>5向性</b> 】	i該路線につい め。	いては、事業内容を		□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ <b>《</b> <b>《</b>	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ スト削減を阻害してい □ ある □ ない □ かる □ ない □ から □ から □ から □ から □ がら □ が	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 <b>5向性</b> 】	i該路線につい め。	いては、事業内容を	精査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>(6)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(8)</li><li>(8)</li><li>(9)</li><li>(9)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)</li><li>(10)<!--</td--><td>現状の成果を下げずに のある のおい の総括と今後の方 の事務事業の方向 原止 事務事業統合 に行った改善</td><td>《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性</td><td>i該路線についた。</td><td>いては、事業内容を</td><td>現在の課題・問</td><td>□ 事務事</td><td>現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある</td></li></ul>	現状の成果を下げずに のある のおい の総括と今後の方 の事務事業の方向 原止 事務事業統合 に行った改善	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二<li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二<li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li>二</li><li< td=""><td>現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の ある の かる の 事務事業の方向 の 事務事業統合 に行った改善 に行った改善</td><td>《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性</td><td>i該路線についた。</td><td>いては、事業内容を</td><td>現在の課題・問業</td><td>□ 事務事□ 拡大</td><td>現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある</td></li<></li></li></ul>	現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の ある の かる の 事務事業の方向 の 事務事業統合 に行った改善 に行った改善	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問業	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li><td>現状の成果を下げずに のある のおい の総括と今後の方 の事務事業の方向 原止 事務事業統合 に行った改善</td><td>《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性</td><td>i該路線についた。</td><td>いては、事業内容を</td><td>現在の課題・問</td><td>□ 事務事□ 拡大</td><td>現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある</td></li></ul>	現状の成果を下げずに のある のおい の総括と今後の方 の事務事業の方向 原止 事務事業統合 に行った改善	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li></li><li><td>現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の ある の かる の 事務事業の方向 の 事務事業統合 に行った改善 に行った改善</td><td>《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性</td><td>i該路線についた。</td><td>いては、事業内容を</td><td>現在の課題・問業</td><td>□ 事務事□ 拡大</td><td>現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある</td></li></ul>	現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の ある の かる の 事務事業の方向 の 事務事業統合 に行った改善 に行った改善	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問業	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ : 【評・今後 過去 計進	現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の 総括と今後の方 の 事務事業の方向 回 事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ ・ 歩き図った。	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問業事業完了により	□ 事務事 □ 拡大 題点	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  本業のやり方改善
⑤ : 【評・今後 過去 設の	現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の ある の かる の 事務事業の方向 の 事務事業統合 に行った改善 に行った改善	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問業	□ 事務事 □ 拡大 題点	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ : 【評・今後 過去 設の	現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の 総括と今後の方 の 事務事業の方向 回 事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ ・ 歩き図った。	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問業事業完了により	□ 事務事 □ 拡大 題点	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  本業のやり方改善
⑤ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある ない ある ない	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問題 業 事業完了により 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
⑤ ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ②	現状の成果を下げずに の ある の ない コスト削減を阻害してい の 総括と今後の方 の 事務事業の方向 回 事務事業統合 に行った改善 に行った改善 ・施工管理におけるコ ・ 歩き図った。	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問業事業完了により	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  本業のやり方改善
⑤ (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある ない ある ない	《理由》 当た る要因はあ 《理由》 「向性】 性	i該路線についた。	いては、事業内容を	現在の課題・問題 業 事業完了により 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>ば評後</li><li>み</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お</li><li>お<td>現状の成果を下げずに の</td><td>《理由》 当た る要因はあ 「向性】 「向性」 は・連携 コスト縮減.</td><td>i該路線につい め。 りませんか。 工期短縮等</td><td>いては、事業内容を</td><td>現在の課題・問題 業 事業完了により 期待される成果</td><td>□ 事務事□ 拡大</td><td>現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし</td></li></ul>	現状の成果を下げずに の	《理由》 当た る要因はあ 「向性】 「向性」 は・連携 コスト縮減.	i該路線につい め。 りませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を	現在の課題・問題 業 事業完了により 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし
⑤ 【評後	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある ない ある ない	《理由》 当た る要因はあ 「向性】 「向性」 は・連携 コスト縮減.	i該路線につい め。 りませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を	現在の課題・問題 業 事業完了により 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト
⑤ 【評後	現状の成果を下げずに の	《理由》 当た る要因はあ 「向性】 「向性」 は・連携 コスト縮減.	i該路線につい め。 りませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を	現在の課題・問題 業 事業完了により 期待される成果	□ 事務事□ 拡大	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>【評後</li><li>去計進後</li><li>業価</li></ul>	現状の成果を下げずに の	《理由》 当た る要因はあ 「向性】 「向性」 「中連携」 「スト縮減、	isis路線についませんか。 りませんか。 工期短縮等	いては、事業内容を 型 事業完了 団 現状維持	現在の課題・問業 事業完了により 期待される成果なし	□ 事務事□ 拡大題点なし	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>【評後</li><li>去</li><li>計進</li><li>後</li><li>業</li><li>価</li><li>市</li></ul>	現状の成果を下げずに の	(理由) 当た あ	ais Bak についませんか。 リませんか。 エ期短縮等	いては、事業内容を 型 事業完了 団 現状維持	現在の課題・問業 事業完了により 期待される成果なし	□ 事務事□ 拡大題点なし	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  なし

## 【総合計画体系】第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり担当部課: 建設部建設課第 1 節 円滑な道路環境の整備担当・係名: 道路建設係第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備記入者名: 伊藤 政治10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。電話番号: 23-2435 810-408

#### 事務事業名: 市道古南1号線道路改良事業

事業番号 21110

拠	法令・条例等市総合計画		会計		一般					
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~	予	事業名	社会	<b>会資本整備道路修繕事業</b>					
ŧ	■単年度繰返し	科	款	8	土木費					
玥	□ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	2	道路橋りょう費					
盯	☑ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 31 年度		目	3	道路橋りょう新設改良費					
	事務事業の現状】									
	意図(対象をどういう状態にしたいか)									

#### 国道347号から穂波地区への通学児童等の歩行者の安全安心を目的として歩道整備をするもので、踏切道を含めた道路整備を行う ものです。また、あわせて大崎市民病院等公共施設へのアクセス強化を図るもの。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 路線延長 本路線は、国道347号よりJR陸羽東線と平面交差し、古川第五小学校・古川南中学校・大崎市民病院へ至る L=380m 路線であり、児童生徒や歩行者に対し安全安心で快適な交通を確保するとともに、大崎市民病院等公共施設利 用者に対しアクセスの強化を図るものです。 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ 年度事業費率 施 内【平成28年度 明許繰越】 平成28年度 古南1号線道路改良工事の施工に関する協定(宮城県) 【平成29年度】 **(4**) 平成29年度 古南1号線道路改良工事の施工に関する協定(宮城県) 大江川河川改修事業に伴う国道347号橋梁工事に関する協定(宮城県) (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 事業進捗率 宮城県と道路工事及び河川橋梁工事の施工協定を締結し、施工管理を宮城県に委託することにより工事を進 果 めた。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成31年度
±		対	① 路線延長 L=380m	0	0		0	m	380
		象	2						
			③ 年度事業費率	10	19		3	%	_
	指 標	活動	4						
事業費		-1/3	5						
費		成	⑥ 事業進捗率	20	39		42	%	100
• 夕		果	7			\			
各指			国庫支出金	43,914	79,200	80,537	16,665		
標			県支出金						
が推		事業費	地方債	35,600	67,600	66,300	16,500		
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	1,881	3,643	3,545	943		
	費		事業費(a)	81,395	150,443	150,382	34,108	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.50	0.50		0.87	人	
		費	正職員人件費(b)	3,915	3,765		6,548		
			合計コスト(a)+(b)	85,310	154,208		40,656	千円	

事業番号	21110	事務事業名	市道古南1号線道路改良事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 JR陸羽東線の軌道敷内を無断横断し、危険な状態となっている 安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑 状況の解消と大崎市民病院等公共施設へのアクセス強化が求 な道路環境の整備が必要不可欠であり、市民の要望が強い。 められていた。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 大崎市における安全で快適な道路空間を確保する社会基盤整備として総合計画 □ 貢献度 小 貢献できているのか。 への貢献度は大きい。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 当該道路の合理的な工区設定,優先路線への集中投資により,より一層の効率 □ できる □ 見直す必要がある 化に努め、地域住民や交通利用者のニーズに適合した事業執行に取り組むこと ✓ できない により費用対効果を上げることができる。 ▶ 有効性 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 【評価のポイント】 ✓ できる 効果大 《理由》 現在のやり方で成果がでる のか。 □ できる 効果中 隣接する新大江川整備事業と一体的に整備することで事業の効率化が図れる。 □ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない ▶ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 ✓ ある 《理由》 現在のやり方をもっと安価 隣接する新大江川整備事業と一体的に整備することで事業の効率化が図れ、事 にできないか。 □ ない 業費の削減にもつながる。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 《理由》 □ ある □ 見直す必要がある 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 ☑ 現状維持 □ 事務事業統合・連携 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 新大江川整備を進める宮城県との協定締結により、業務の効率化を JR陸羽東線との交差部において近接工事となることから、JRとの協 議が必要である。 図った。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト 関係機関と協議を継続し、引続き設計・施工管理におけるコスト縮 計画どおりの事業完了。 なし 減・工期短縮に努め事業の進捗を図る。 評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名

茂泉

善明

同路線に隣接する一級河川新大江川の事業主体である宮城県と歩調を合わせ進めている。引き続き、

宮城県と連携を図りながら早期完成に向け努力する。

【総合計画体系】									
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担:	当	部調	ς :	建設部建設課	
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担当	≝ •	係名	:	道路建設係	
第	1	項	市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記。	入:	者 名	i :	伊藤 政浩	•
10年	後0	)望:	ましい姿・だれもが安心して移動できる道路になっている。		跃:	器 具		23-2435 810-408	•••

## 事務事業名: 市道境堀線整備事業

事業番号 21111

艮抄	<b>□法令·条例等</b> 市総合計画		-	会計	一般
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~		予	事業名	道路橋りょう新設改良事業
業	■単年度繰返し	1	异敌	款	8 土木費
明	□ 単年度のみ実施 平成 年度	1	目	項	2 道路橋りょう費
間	☑ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 32 年度			目	3 道路橋りょう新設改良費

【事務事業の現状】

ĻĹ	【事務事業の現状】		
É	意図(対象をどういう状態にしたいか) 旧 的 安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円が的に整備促進する。	骨な道路環境の整備が必要不可欠であることから、	市域道路網を計画
	対象 (誰, 何に対して)		◆対象指標
	三本木地域の国道4号から三本木蒜袋地内を連結する市道を	利用する沿線住民及び道路利用者。	① L=1,560m ②
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)		◆活動指標
j	【平成28年度 明許繰越し】 ・平成28年度 市道境堀線道路改良事業に伴う用地購入及び 用地購入 4件 A=2242.38㎡ ・平成28年度 市道境堀線道路改良工事 L=520m	物件移転補償	③ H29事業費/総 事業費
1	零 【平成29年度】 ・平成29年度 市道境堀線道路改良事業に伴う用地購入及び 用地取得 13件 A=3250.97㎡ ・平成29年度 市道境堀線道路改良工事 L=372m	物件移転補償	4
	・平成29年度 市道境堀線道路改良工事(2工区) L=720m ・平成29年度 市道境堀線道路付帯工事(その1) L=224m ・平成29年度 市道境堀線道路付帯工事(その2) L=110m ・平成29年度 市道境堀線道路付帯工事(その3) L=110.7m		(5)
	平成29年度の成果		◆成果指標(把握する手段)
	成果 拡幅用地について路床盛土を行い、事業の進捗を図った。	⑥ 事業進捗率	

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成32年度
		対	① L=1,560m	0	0		0	m	1,560
		象	2						
		·	③ H29事業費/総事業費	12	7		21	%	—
_	指 標	活動	4						
事業費		-93	5						
費		成	⑥ 事業進捗率	14	21		42	%	100
• 夕		果	7						
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
の推		事業費	地方債	40,800	27,100	98,000	77,700		
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	2,248	1,630	5,304	4,186		
	費		事業費(a)	43,048	28,730	103,304	81,886	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.08	0.08		0.27	人	
		費	正職員人件費(b)	626	602		2,032		
			合計コスト(a)+(b)	43,674	29,332		83,918	千円	

事業番号	21111	事務事業名	市道境堀線整備事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

三本木地域の市街地を通行する車両が多く朝晩の交通渋滞が 発生している。今後、YKKの大型車両も通行する予定となって おり、渋滞解消や安全確保のため、歩道新設及び道路改良の 必要性が高まったもの。

歩道未整備で朝夕の通勤車両が多い路線で, 国道交差点付近 では交通渋滞が発生し、市民や道路利用者より整備が望まれて いる。

<b>孫事業の</b> 担当課評	· ·		
	············		
	計画への貢献度は大きいですか?		【評価のポイント】
<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》 大崎市における安全で快適な道路空間を確保する社会基盤整備として総合計画 への貢献度は大きい。	\	総合計画を実現するために貢献できているのか。
対象や意図の範囲を見	.直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか?		☑ 適切
<ul><li>□ できる</li><li>☑ できない</li></ul>	《理由》 当該路線の合理的な工区設定,優先路線への集中投資により,より一層の効率 化に努め地域住民や交通利用者のニーズに適した事業執行に取り組むことにより費用対効果を上げることができる。		□ 見直す必要がある
有効性			
事務事業のやり方・進め	り方を変えることで成果を向上させることができますか?		【評価のポイント】
<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない 効果なし</li></ul>	《理由》 安全で安心な道づくりを目指すために、道路機能の向上を図り、常に最小の経費 で実施している。	\	現在のやり方で成果がでる のか。
類似の日的(対象と音)	図)またけ形能(イベントや改発)を持つ他の真務真糞けありませんか?		☑ 適切
□ ある 統合・連携が	できる  【類似事務事業名】		□ 見直す必要がある
効率性			
□ ある	/##\\	\	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価
<b>™</b> ⊈u	ため。		にできないか。
コスト削減を阻害してい	ス悪田け <b>ありませんか</b>		, ☑ 適切
□ ある	る安凶はめりませんか。 <b>《理由》</b>	/	□ 見直す必要がある
	目的妥当性 この事務事業   総合に この事務事度   は、総合に 三の事務事度   である   でできささない   有効事ででできさるない   対分合合・・連携が   対か率性   成の   のああない   対か中   大中   ない   対応   大中   はい   大中   大中   大中   大中   大中   大中   大中   大	この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか?	目的妥当性

【評価の総括と今後の方向性】			
今後の事務事業の方向性			
□廃止□事業完了□事業完了□事業完了□		事業のやり方改善	
□ 事務事業統合·連携 ☑ 現状維持	□ 拡大		
過去に行った改善	現在の課題・問題点		
設計・施工管理におけるコスト縮減,工期短縮等に努めながら,事業の進捗を図った。	国道4号との接続形状について検	討が必要である。	
今後の改善計画	期待される成果	新たに必要なコスト	
関係機関との協議を進めるとともに、地域住民の理解を得られるよう に課題の整理を行う。	事業の早期完了と、安全で快適 な道路環境の確保が図られる。	なし	
評価(実績)等に関する所属長所見	所属長氏名		
新市建設計画の事業内容を精査しながら実施計画の進行管理をしって最大限の整備促進を行うことができた。今後も、引き続き安全で安けながら、市域道路網を計画的に整備促進を図ってまいれたい	茂泉善明		

#### 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 建設部建設課 第 1 節 円滑な道路環境の整備 第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備 担当・係名: 道路建設係 記入者名: 伊藤 政浩 電話番号: 23-2435 810-408

10年後の望ましい姿: 主要な目的地への所要時間が短縮され、定時性が確保されている。

#### サービスエリア周辺環境整備事業 事務事業名:

事業番号 21112

<b>処法令・条例等</b> 市総合計画		会計	一般
開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 26 年度~	1	事業名	社会資本整備道路修繕事業
単年度繰返し	<b>手</b>	• <del></del>	8 土木費
□ 単年度のみ実施 平成 年度			2 道路橋りょう費
☑ 期間限定複数年度 平成 26 年度~平成 33 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費

【事務事業の現状】

	<b>上手符手未の現仏</b> 】		
	意図(対象をどういう状態にしたいか)		
Á	目的 長者原スマートインターチェンジの24時間化に伴い、周辺アクに、狭隘な道路を改善することにより安全で快適な道路環境の		生向上を図るととも
	対象 (誰,何に対して)		◆対象指標
	長者原スマートインターチェンジ利用者、及び沿道の地域住民		① L=2,343m
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)		◆活動指標
方下	字 【平成28年度 明許繰越】		<ul><li>③ H29事業費/総事業費</li><li>④</li><li>⑤</li></ul>
	平成29年度の成果		◆成果指標(把握する手段)
月月	成 市道自動車道西宮沢2号線について整備が完了したことにより 的地への所要時間の短縮が図られた。	), 同路線の利用者における利便性の向上と, 目	<ul><li>⑥ 事業進捗率</li><li>⑦</li></ul>

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成33年度
		対	① L=2,343m	0	0		505	m	2,343
		象	2						
	l la	·	③ H29事業費/総事業費	3	3		16	%	—
_	指標	活動	4						
事業費			⑤						
費		成 果	⑥ 事業進捗率	3	6		23	%	100
· 各		果	7						
各指			国庫支出金			83,930	14,129		
標の			県支出金						
が推		事業費	地方債	14,500	20,400	172,400	114,400		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	6,611	4,932	9,279	6,216		
	費		事業費(a)	21,111	25,332	265,609	134,745	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.08	0.28		0.24	人	
		費	正職員人件費(b)	626	2,108		1,806		
			合計コスト(a)+(b)	21,737	27,440		136,551	千円	

事業番号	21112	事務事業名	サービスエリア周辺環境整備事業

【事務事業を取り巻く環		との意見・要望・			
この事務事業を開始したきつ	かけ		事務事業を取り巻く環境(	の変化や議会・市	「民との意見・要望・協働等の状況
長者原スマートインターチ 便性の向上を図るとともに 路環境を確保する。					くりを実現するためにも,円滑 であり,市民の要望が強い。
【事務事業の担当課評	<b>洒</b> 】				
◆ 目的妥当性	11字:の子林寺は上土いっ				
① この事務事業は,総合 ☑ 貢献度 大	計画への頁献度は大きいで 《理由》	የ መንገ			【評価のポイント】
<ul><li>✓ 員献及 八</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	大崎市における安 への貢献度は大き		間を確保する社会基盤整例	備として総合計画	貝似できているのか。
② 対象や意図の範囲を見	南    廿十	(典田상林田本上ば)	スーレができませんかっ		☑適切
② 対象や息図の範囲を見 □ できる ☑ できない	《理由》 当該路線の合理的 化に努め地域住民	的なエ区設定, 優先 民や交通利用者の二		より一層の効率 取り組むことによ	□ 見直す必要がある
	り費用対効果を上	: げることができる。 			/
◆ 有効性					
③ 事務事業のやり方・進め	カ方を変えることで成果を向	上させることができ	ますか?		【評価のポイント】
<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	で実施している。	づくりを目指すために	, 道路機能の向上を図り,	常に最小の経費	現在のやり方で成果がでる のか。
					□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	図)または形態(イベントや啓 「できる 【類似事務事業		<b>务事業はありませんか?</b>		
□ める 航日・建携が	*	70.7			/ □ 兄直り必安かめる
<b>□</b> ない					/
▲ 林泰州					'
<ul><li>◆ 効率性</li><li>⑤ 現状の成果を下げずに</li></ul>	事業費を削減する方法はあ	いませんか?			【評価のポイント】
□ ba	《理中》		大し むじこ 光に 目 ル の 奴 誰		現在のやり方をもっと安価
☑ ない	当該路線について ため。	(は, 事業内容を精)	査しながら常に最小の経費	で実施している	にできないか。
					道
⑥ コスト削減を阻害してい	る要因はありませんか。				
□ ある	《理由》			•••••	│ □ 見直す必要がある
ない					
					.i.
【評価の総括と今後のフ					
今後の事務事業の方向 □ 廃止		事業完了		□ 重務重業	<u></u> のやり方改善
□ 原並□ 事務事業統合		·		□ずがずべ □拡大	
過去に行った改善	- · - · · · · · · · · · · · · · · · · ·		現在の課題・問題点		
設計・施工管理における=	コスト縮減、工期短縮等に	努めながら 事業	-1-181		1 to 18 1 to 1 1
の進捗を図った。	-> vi ((	5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5, 5	計画どおりの完了には	用地・補償の追	[捗が不可欠である。
今後の改善計画			期待される成果	新7	たに必要なコスト
事業の内容を精査しなが			事業費の縮減と早期の	) 事業宗了 , ,	
縮減,工期短縮等に努める。	ながら,用地交渉を継続し	<sub>ン</sub> 事業の進捗を凶	が図られる。	プラネボ」 なし	
· <b>o</b> •					
評価(実績)等に関する	所属長所見		<u>:</u>		所属長氏名
実施計画の進行管理をし					44 A A
今後も,引き続き安全で多  を図ってまいりたい。	でいな追路整備事業の促	進を目指しながら、	市域追路網を計画的に	- 整備促進	茂泉善明
İ				ı	

【総合計画体系】								
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当	部	課	:	建設部建設課
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担当	• 係	名	:	道路建設係
第	1	項	市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入	者	名	:	伊藤 政浩
			<b>ましい姿</b> : だれもが安心して移動できる道路になっている。	電話	番	号	:	23-2435 810-408

## 事務事業名: <新計>市道牛沼線改良事業

拠	法令·条例等 新市建設計画	7	会計		一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 29 年度~	予	事業名	道路	橋りょう新設改良事業	
ŧ	単年度繰返し	舞科	款	8 .	土木費	
A	単年度のみ実施 平成 年度	目	項	2	道路橋りょう費	
1	☑ 期間限定複数年度 平成 29 年度~平成 32 年度	_	目	3	道路橋りょう新設改良費	

	<b>務争業の現状</b> 】				
	意図(対象をどういう状態にしたいか)				
目的	安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、 的に整備促進する。	市域道路網を計画			
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標			
	三本木地域の国道4号から三本木蒜袋地内を連結する市道を利用する沿線住民及び道路利用者。	① L=758m			
		2			
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標			
実施内		③ H29事業費/総 事業費			
容	【平成29年度】 ·市道牛沼線詳細測量設計業務 L=758m	4			
		(5)			
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)			
成里	測量設計及び用地測量を実施し、計画路線の設計を行った。	⑥ 事業進捗率			
果	測量設計及び用地測量を美施し、計画路線の設計を行うに。  (				

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成32年度
		対	① L=758m				0	m	758
		象	2						
		·	③ H29事業費/総事業費				5	%	—
_	指 標	活動	4						
事業費		-7,	⑤						
費		成果	⑥ 事業進捗率				5	%	100
夕		果	7						
各指標			国庫支出金						
標の		:	県支出金						
の推移		事業費	地方債			26,200	9,200		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源			1,431	571		
	費		事業費(a)	0	0	27,631	9,771	千円	
		人件	正職員年間従事人員				0.24	人	
		費	正職員人件費(b)	0	0		1,806		
			合計コスト(a)+(b)	0	0		11,577	千円	

事業番号	21113	事務事業名	<新計>市道牛沼線改良事業

「車数車業も取り業ノ環接の亦

<u>【争</u>	務争来を取り巻く境	現の変	化や議会・中	氏との息見・安全					
この	事務事業を開始したきつ	かけ			事務事業を取り巻く環境の	の変化や議会	会・市民と	の意見・要望	・協働等の状況
発生	∝木地域の市街地を通 Eしていることから, 迂 昼交通の減少を図り, 5	回路とし	て本路線を整	備し,市街地の	市街地内の道路は 交通が多いため危 が望まれている。				
【事	務事業の担当課評	価】							
	目的妥当性	eler. o	- お本はよる	·=+4.0				<b>!</b> ≡#∧₽.	/s.i. <b>1</b>
ധ	この事務事業は,総合 ✓ 貢献度 大	計画への 《理由》	貝厭度は入さい	いですか?			······i /	【評価のポイ	<del>-</del>
	<ul><li>✓ 貝</li></ul>	<b>《理田》</b>	大崎市におけるの貢献度は		空間を確保する社会基盤整化	備として総合	計画	総合計画を	実現するために <i>ハ</i> るのか。
② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか?									
	<ul><li>□ できる</li><li>☑ できない</li></ul>	《理由》	化に努め地域	理的な工区設定,優 住民や交通利用者の を上げることができる	先路線への集中投資により, )ニーズに適した事業執行に。	より一層のダ 取り組むこと	防率によ	□ 見直す	必要がある
	有効性								
	事務事業のやり方・進め	の方を変え	えることで成果る	を向上させることがで	きますか?			【評価のポイ	(ント]
•	□ できる 効果大	《理由》				**	<u>ر</u> ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ		方で成果がでる
	<ul><li>□ できる 効果中</li><li>✓ できない・効果なし</li></ul>		安全で安心な		に, 道路機能の向上を図り,	常に最小の	栓質	のか。	
		***************************************						☑ 適切	
4					事務事業はありませんか?		/		
	□ ある 統合・連携が ある 統合・連携が			≢耒名】				□ 見直す	必要がある
	□ める 机口・建携ル	ינפעני	<b>\</b> 理田/						
	<b>V</b>		i				i <b>y</b>		
<b>♦</b>	効率性								
5	現状の成果を下げずに		削減する方法に	<b>よありませんか?</b>				【評価のポイ	(ント]
	□ ある	《理由》	当該路線につ	いては. 事業内容を料	青査しながら常に最小の経費	で実施してい	va \		方をもっと安価
	ない		ため。		,, <u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>			にできないな	),°
		<b>!</b>						☑ 適切	
6	コスト削減を阻害してい	る要因は	ありませんか。					) — ::	
	□ ある	《理由》					/	□ 見直す	必要がある
	☑ ない						/		
		İ							
【評	価の総括と今後のス	方向件】							
	後の事務事業の方向								
	□ 廃止			□ 事業完了		□ 事務事	業のか	さり方改製	Ē
	□ 事務事業統合	ì·連携	<u>.</u>	☑ 現状維持		口 拡大			
過去	に行った改善				現在の課題・問題点				
坐⋾	核路線については、ル・	―ト選定	において 最も	ロルートを採用し 雪	<b>L</b>				
	どの削減を図った。	1 25 72	1000°C, 4XX	<b>並ル 「と」木/130</b> , 与	♪ 計画どおりの完了には	:用地•補償(	の進捗が	「不可欠であ	<b>5</b> る。
A 44	 後の改善計画				期待される成果		立にナーニー。	必要なコスト	
7 13	の以書引回				別付けれる成未		材1/こ1〜4	ひ安なコヘト	
u	*	> 71±/	.+. <del></del>	- ## TELL - 1 - 1 - 1					
	きの内容を精査しなが 載,工期短縮等に努め				☑: 事耒賀の稲淑と早期の	)事業完了	なし		
る。	3, <u>エが</u> 加いにより	·6·13 ·5, ;	1176×19 ENE	がしず木のたりと	<sup>ゴ</sup> が図られる。		.60		
評值	西(実績)等に関する	所属長河	 所見		•			所属長氏	5名
					っかりと進め, 予算措置さ				
					安心な道路整備事業の促	進を目指し		茂泉	善明
なか	ら,市域道路網を計画	当的に整	備促進を凶つ	てまいりたい。					

【総合計画体系】											
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 建設部建設課										
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当 • 係 名</b> : 道路建設係										
第 1 項 市域道路網と橋梁などの計画的な整備	記入者名: 伊藤政浩										
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	電話番号: 23-2435 810-408										

#### 事務事業名: <新計>市道宿の沢線改良舗装事業

事業番号 21114

7

拠	法令·条例等 新市建設計画	þ	会計	一般
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 29 年度~	予告	事業名	道路橋りょう新設改良事業
ŧ	単年度繰返し	科	款	8 土木費
阴	単年度のみ実施 平成 年度	目	項	2 道路橋りょう費
盯	☑ 期間限定複数年度 平成 29 年度~平成 32 年度	1	目	3 道路橋りょう新設改良費

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、市域道路網を計画的に整備促進する。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① L=845m 本路線は、古川地域清滝の明神地区と、岩出山地域の下真山諏訪山地区を繋ぐ連絡道の整備を行うもので、 利用する沿線の市民及び道路利用者。 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ H29事業費/総 事業費 実施内容 【平成29年度】 4 ・平成29年度 市道宿の沢線測量設計業務 L=845m (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 成 果 測量設計業務を実施し、計画路線の設計を行った。 ⑥ 事業進捗率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成32年度
		対	① L=845m				0	m	845
		象	2						
		·,	③ H29事業費/総事業費				4	%	—
_	指 標	古動	4						
事業費			⑤						
費		成	⑥ 事業進捗率				4	%	100
- タ		果	7						
各指標			国庫支出金						
		:	県支出金						
の推移		事業費	地方債			10,000	3,000		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源			628	257		
	費		事業費(a)	0	0	10,628	3,257	千円	
		人件	正職員年間従事人員				0.47	人	
		費	正職員人件費(b)	0	0		3,538		
			合計コスト(a)+(b)	0	0		6,795	千円	

		L	争耒奋亏	21114	<b>事</b> 務事業名	へ 新計 / 中退伯の	)
			=44 A _4_				
	務事業を取り巻く環		くで議会・市	民との意見・要			
この	事務事業を開始したきっ	かけ			事務事業を取り着	く環境の変化や議会	₹・市民との意見・要望・協働等の状況
	前の旧岩出山町より, して引き継いだもの。	<新計>	>市道宿の汎	<b></b> R線改良舗装事			ちづくりを実現するためにも,円滑 可欠であり,市民の要望が強い。
					•		
	務事業の担当課評値	五】					
<b>♦</b>	目的妥当性						
①	この事務事業は、総合言	計画への貢	【献度は大きり	いですか?			【評価のポイント】
	☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業		大崎市におけん への貢献度は		空間を確保する社会	基盤整備として総合	計画 総合計画を実現するために 貢献できているのか。  ✓ 適切
<b>②</b>	対象や意図の範囲を見	直し. 拡大	・縮小すること	トで費用対効果を上	げることができません	<i>ነ</i> ነ ?	) V A2 93
•	□ できる ☑ できない	<b>《理由》</b> 1	当該路線の合 化に努め地域	理的な工区設定, 優	先路線への集中投資 Dニーズに適した事業	により, より一層の3	効率 □ 見直す必要がある
•	有効性						
	事務事業のやり方・進め	)方を変え	ることで成果を	を向上させることがで	きますか?		【評価のポイント】
•		/ <b>I</b> III 由 \					カナの かいナス 世田 ギスフ
	□ できる 効果中 ☑ できない・効果なし	5	安全で安心な で実施している		うに, 道路機能の向上	を図り、常に最小の	経費のか。
							│
4	類似の目的(対象と意図				事務事業はありません	しか?	
	□ ある 統合・連携が		【類似事務事	<b>『業名】</b>			/ □ 見直す必要がある
	□ ある 統合・連携が	できない	《理由》				/
	☑ ない	<u>.</u>					V
							,
	効率性						
	効率性 現状の成果を下げずに	事業費を肖	削減する方法に	はありませんか?			【評価のポイント】
	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	/珊山\			*************************************	<b>、                                    </b>	、ス 現在のやり方をもっと安価
	現状の成果を下げずに	《理由》	当該路線につ		精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のおりまたよっと字体
	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	《理由》			精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価にできないか。
\$	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある ☑ ない	<b>《理由》</b> 注 /	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	、ス 現在のやり方をもっと安価
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> † る要因は <b>8</b>	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> 注 /	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価にできないか。
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい	<b>《理由》</b> † る要因は <b>8</b>	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
\$	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない □ スト削減を阻害してい □ ある	<b>《理由》</b> † る要因は <b>8</b>	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
6	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある ない	《理由》 う が る要因は <b>る</b> 《理由》	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある ない 価の総括と今後の方	《理由》 う る要因はる 《理由》	当該路線につ	いては,事業内容を	精査しながら常に最小	への経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに	《理由》 う る要因はる 《理由》	当該路線につ	いては、事業内容を	精査しながら常に最小		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに	《理由》 う る要因は 《理由》 「向性】	当該路線につ	いては、事業内容を	精査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。
⑤ ⑥	現状の成果を下げずに	《理由》 う る要因は 《理由》 「向性】	当該路線につ	いては、事業内容を	精査しながら常に最小		現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li></ul>	現状の成果を下げずに	《理由》 う る要因は 《理由》 「向性】	当該路線につ	いては、事業内容を	精査しながら常に最小	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li></ul>	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある 公 ない 価の総括と今後の方面の事務事業の方向 廃止 事務事業統合	《理由》 う る要因は 《理由》 「向性】	当該路線につ	いては、事業内容を		□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 《評 今後 過去	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある 公 ない 価の総括と今後の方面の事務事業の方向 原止 事務事業統合	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>【評令</li><li>過去</li><li>当該</li></ul>	現状の成果を下げずに	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性 … ・連携	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 題点	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>【評令</li><li>過去</li><li>当該</li></ul>	現状の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい ある 公 ない 価の総括と今後の方面の事務事業の方向 原止 事務事業統合	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性 … ・連携	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 題点	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ☑ 適切  □ 見直す必要がある
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>【評令</li><li>過去</li><li>当該</li></ul>	現状の成果を下げずに	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性 … ・連携	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 題点	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評・今後 過去 当行い	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい かる ない	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性 … ・連携	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問を計画どおりの完	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  □ ままのでり方改善  □ 進捗が不可欠である。
⑤ ⑥ 【評・今後 過去 当行い	現状の成果を下げずに	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性 … ・連携	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価 にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある
⑤ ⑥ 【評・今後 過去 当行い	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい かる ない	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> 】 性 … ・連携	当該路線につ	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持	現在の課題・問を計画どおりの完	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  □ ままのでり方改善  □ 進捗が不可欠である。
⑤ ⑥ 【評後 当行 今後	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい かる ない	《理由》 る要因はる 《理由》 「向性】 性 ・連携 一設計にあった。	当該路線についため。	いては、事業内容を  事業完了  現状維持	現在の課題・問計画どおりの完期待される成果	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  事業のやり方改善  新たに必要なコスト
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>ば字後</li><li>当行</li><li>今</li><li>事</li></ul>	現状の成果を下げずに の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい の総括と今後の方 の事務事業の方向 日事務上 日本のは、事務・主 に行った改善 路線につい削減を図った。 の改善計画 の内容を精査しながら	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> (理由) <b>5向性</b> (理由)	当該路線についため。	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持 □に有利となる検討	現在の課題・問 計画どおりの完 期待される成果	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  □ ままのでり方改善  □ 進捗が不可欠である。
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>ば字後</li><li>当行</li><li>今</li><li>事</li></ul>	現状の成果を下げずに の ある ない コスト削減を阻害してい かる ない	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> (理由) <b>5向性</b> (理由)	当該路線についため。	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持 □に有利となる検討	現在の課題・問計画どおりの完期待される成果	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  事業のやり方改善  新たに必要なコスト
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>ば字後</li><li>当行</li><li>今</li><li>事</li></ul>	現状の成果を下げずに の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい の総括と今後の方 の事務事業の方向 日事務上 日本のは、事務・主 に行った改善 路線につい削減を図った。 の改善計画 の内容を精査しながら	《理由》 る要因はる 《理由》 <b>5向性</b> (理由) <b>5向性</b> (理由)	当該路線についため。	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持 □に有利となる検討	現在の課題・問 計画どおりの完 期待される成果	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  事業のやり方改善  新たに必要なコスト
⑤ ⑥ 【評後 当行 今 事縮	現状の成果を下げずに の成果を下げずに ある ない コスト削減を阻害してい の総括と今後の方 の事務事業の方向 日事務上 日本のは、事務・主 に行った改善 路線につい削減を図った。 の改善計画 の内容を精査しながら	《理由》 る要因はる 《理由》 「向性】 性・連携 一致計によった。	当該路線についため。 ありませんか。 おいて経済的 は計・施工 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持 □に有利となる検討	現在の課題・問 計画どおりの完 期待される成果	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  事業のやり方改善  新たに必要なコスト
⑤ ⑥ 【評後 当行 今 事縮	現状の成果を下げずに の成果を下げずに ある のない コスト削減を阻害してい の総括と今後の方 の事務事業の方向 国事務止事業 に行った改善 の改善 の改善 の改善 の改善 の改善 の改善 のない ののに ののに ののは ののに ののに ののは ののに ののは ののは ののは	《理由》 る要因はる 《理由》 「向性】 性・連携 一致計によった。	当該路線についため。 ありませんか。 おいて経済的 は計・施工 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記 で表記	いては、事業内容を □ 事業完了 ☑ 現状維持 □に有利となる検討	現在の課題・問 計画どおりの完 期待される成果	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  本業のやり方改善  が表示である。  新たに必要なコスト  なし
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>(a)</li><li>(b)</li><li>(c)</li><li>(d)</li><li>(d)</li><li>(e)</li><li>(e)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li>(f)</li><li></li></ul>	現状の成果を下げずに  の成果を下げずに  ある  ない  コスト削減を阻害してい  の総括と今後の方  の事務止  事務止  事事が会  に行った改善  はに行った改善  路線業費の関連を指等に対  の内期短を関するがある。  の内期短を関するがある。  の内期短を関するがある。  のの内期短に関するがある。   《理由》 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」	当該路線についため。	□ 事業完了 □ 現状維持 □に有利となる検討 □に有利となる検討	現在の課題・問計画どおりの完期待される成果 事業費の縮減とが図られる。	□ 事務事□ 拡大 題点 了には用地・補償・	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  本業のやり方改善  が表示である。  新たに必要なコスト  なし	
<ul><li>⑤</li><li>⑥</li><li>【字</li><li>過</li><li>当行</li><li>今</li><li>事縮</li><li>評</li><li>新</li><li>価</li><li>市</li></ul>	現状の成果を下げずに の成果を下げずに ある のない コスト削減を阻害してい の総括と今後の方 の事務事業の方向 国事務止事業 に行った改善 の改善 の改善 の改善 の改善 の改善 の改善 のない ののに ののに ののは ののに ののに ののは ののに ののは ののは ののは	《理由》 「有性」 「有性」 「有性」 「自動 「自動」	当該路線についため。 ありませんか。 おいて経済が き設の はいた。 たいでは、 たいでは、 たいでは、 たいでは、 たいでは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	いては、事業内容を 事業完了 ☑ 現状維持 ②に有利となる検討 ご管理におけるコス図る。	現在の課題・問計画どおりの完期待される成果 事業費の縮減と	□ 事務事 □ 拡大 題点 了には用地・補償 ・ 早期の事業完了	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ☑ 適切 □ 見直す必要がある  本業のやり方改善  が表示である。  新たに必要なコスト  なし

【総合計画体系】											
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課課: 建設部建設課										
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当•係 名</b> : 道路維持係										
第 3 項 防雪·除雪体制の強化	記入者名: 伊藤智則										
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	<b>電 話 番 号</b> · 23-8015 810-420										

## 事務事業名: 道路橋りょう除雪等事業

事業番号 21301

		_				_
牧	<b>法令·条例等</b>  道路法		-	会計	一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	]	予告	事業名	道路橋りょう除雪等事業	
ŧ	☑ 単年度繰返し		舞	款	8 土木費	
Я	単年度のみ実施 平成 年度	1	目	項	2 道路橋りょう費	
1	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度	]		目	2 道路橋りょう維持費	

【事務事業の現状】

	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	降雪や積雪における市内の主要路線の交通確保はもちろんのこと, 市道及び市道に準ずる道路についても日常いよう, 市民の通勤, 通学等の走行や歩行の安全を確保するために除雪を行い, 安全で快適な雪道空間の確保	生活に支障が生じなを図る。
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	市内除雪計画路線	① 市内除雪計画 延長 ②
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内容	【平成29年度 除雪実施路線延長】 古川地域 L=395.6km 松山地域 L=95.2km 三本木地域 L=120.0km 鹿島台地域 L=126.0km	当該年度の市 ③ 内除雪実施延 長
	岩出山地域 L=280.0km 鳴子温泉地域 L=138.3km 田尻地域 L=189.0km 計 L=1,344.1km	<b>⑤</b>
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
成果	各地域において除雪計画に基づき除雪を実施し,道路交通を確保した。	6 市内除雪計画 延長 ⑦ 市内除雪計画延長に 対する実施率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 市内除雪計画延長	1,281	1,344		1,344	km	1,344
		象	2						
	-بال	<b>,</b> T.	③ 当該年度の市内除雪実施延長	1,281	1,344		1,344	km	1,344
<b>.</b>	指標	活動	4						
事業費			⑤						
費		成	⑥ 市内除雪計画延長						
- 各		果	⑦ 市内除雪計画延長に対する実施率	100	100		100	%	100
各 指			国庫支出金			55,000	55,000		
標の		1	県支出金						
推		事業費	地方債						
移	総	費	その他	884	1,098	1,259	1,794		
	総事業費		一般財源	248,342	256,700	434,690	418,453		
	費		事業費(a)	249,226	257,798	490,949	475,247	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	257,055	265,328		482,774	千円	

事業番号	21301	事務事業名	道路橋りょう除雪等事業	

	ノカ南山 木 木 オール・レーディー 人	+	₹望・協働等の状況】
半級半羊を叩り巻	(情情/)似化约藏学	. rh E <i>と</i> /ハ T 日 . g	9 50 • 122 (11) 35 (1) 37 (12)
マカマ 木 こ 払って		「川ルにひんあた」を	て 主 「

**【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況** 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 冬期間の円滑な交通と安全性の確保と市民生活、経済活動を 維持するため。 「狭隘道路も含む)まで対応しきれていないため、大雪となった 場合相当な苦情・除雪路線の増加要望を受けている。

●	務事業の担当課評値 目的妥当性	価】				
①		計画への	貢献度は大きいですか?			【評価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》	市の管理道路であり公共性が高く, 地可欠である。	域間の交流や生活を支えるために必要	要不 人	総合計画を実現するために貢献できているのか。
	分争の音図の毎回も目	唐    <del>   -</del>	大・縮小することで費用対効果を上げる	Z = しが マキナル / か の		,☑ 適切
2	<b>対象で息図の配囲を見</b> □ できる	・直し,扱。 《理由》	人・船小9 ることで賃用対効果を上げる	SCCかできませんか?		□ 見直す必要がある
	▽できない	₩₩₩	年々市民より生活道路(狭隘道路も含	む)の除雪路線の増加要望がある。		
	有効性					FET (T = 10 to 1 )
3			こることで成果を向上させることができ	ますか?	······································	【評価のポイント】
	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	:	各地域の除雪計画に基づき必要最低	限の基準により実施している。		現在のやり方で成果がでるのか。
4			形態(イベントや啓発)を持つ他の事務	8事業はありませんか?		」
	□ ある 統合・連携が					□ 見直す必要がある
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>☑ ない</li></ul>	できない	《理由》			
	効率性					
		事業費を	削減する方法はありませんか?			【評価のポイント】
•	□	《理由》				現在のやり方をもっと安価
			業者所有機械の最低保障料の見直し (購入)が必要となる。	や、老朽化した除雪機械の修繕及び更	新	にできないか。
			(特人)が安となる。			
					\	, ☑ 適切
6	コスト削減を阻害してい		ありませんか。			
	☑ ある	《理由》	降雪量により、大きく左右されるが、除	(雪路線でない路線についても、要望が	あ <b>/</b>	□ 見直す必要がある
	□ない		れば対応しなくてはいけない。		/	
	価の総括と今後のフ				i /	
今後	後の事務事業の方向	性			- 412	
	□ 廃止 □ 事務事業統合	₃•連携	□ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 事務事 □ 拡大	業のか	やり方改善
過去	に行った改善			現在の課題・問題点		
<b></b>	・	たがら R	と電計画の目前  等を行い改善に	生活道路(狭隘道路も含む)の除電 また,除雪受託業者の減少(辞退)	雪や除雪	路線増加の要望がある。
努め	でいる。	<b>ながら、</b> ド	が当前 画の光直し守を刊い 改吾に		に伴い	除雪機械及び運転手の確
,,,,,	<b>.</b>			保が困難となっている。		
A 44					4-1.	v. <del></del>
今後	の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト
					季託士:	法を見直し、除雪機械の
除雪	計画の見直しを行い	. 受託業	者・除雪機械の不足に対応した委	市民の通勤,通学等の走行や歩		曽やした際のリース料、老
	法の検討が必要とな			行の安全を確保することで、安全 で快適な雪道空間が確保できる。	朽化した	:除雪機械の修繕や更新
				この過ぐ当使工用が、唯体である。	(購入)	費用など。
=#:17		re e -				TEF42
評位	五(実績)等に関する	<b>所属長</b> 凡	<b>竹見</b>			所属長氏名
l						
			ら年に数回程度の降雪しかない鹿!			
		フムブー	0 HH-H-H-H-I - L-H-I - L-H-I - L-H-I	/- しいでっしゅーナジフ <i>ナ /ロ /・・</i> ル・ワ		* A * no
仏町にあ		それぞれ	の地域に対応した除雪体制・方法	により取り組まざるを得ない状況		茂泉善明

【総合計画体系】	
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 建設部建設課
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当 • 係 名</b> : 道路維持係
第 3 項 防雪・除雪体制の強化	記入者名: 伊藤智則
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	電話番号: 23-8015 810-420

事務事業名: 防雪柵設置事業 21302

根拠	<b>!法令·条例等</b> 道路法					
事	開始年度	口昭	和 🗸	平成	23	年度~
業	□ 単年度繰返し					
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度			
間	☑ 期間限定複数年度	平成	23 年度	~平成	36	年度

	会計	一般	
予	事業名	社会資本整備雪寒地域道路	各事業
科科	款	8 土木費	
14	項	2 道路橋りょう費	
	目	2 道路橋りょう維持費	

【事務事業の現状】

	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	冬期間において地吹雪の激しい地域であり、視界の確保ができない状態になることが多く、朝夕の通勤時間帯に 状態となっている。そのため、防雪柵設置を行うことにより、通行車両の安全を確保し交通事故防止を図る。	限らず非常に危険な
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標
	市内防雪柵設置予定延長	① 市内防雪柵設 置予定延長
		2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内容	【平成29年度】 市道台所線 L=99m 市道堤根矢目線 L=383m 計 L=482m	当該年度の市 内防雪柵設置 延長 ・ 防雪柵設置延 長(累計)
	平成29年度の成果	(5)
	TRIZITE UNIX	
成果	防雪柵設置工事を実施し事業の促進を図った。	⑥ 事業進捗率(当 該年度)
		⑦ 事業進捗率(累計)

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成36年度		
		対	① 市内防雪柵設置予定延長	4,169	4,169		4,169	m	4,169		
		象	2								
	-بال	,T.	③ 当該年度の市内防雪柵設置延長	253	538		482	m	—		
_	指標	活動	④ 防雪柵設置延長(累計)								
事業費			⑤								
費		成	⑥ 事業進捗率(当該年度)	6	13		12	%	—		
· 么		果	⑦ 事業進捗率(累計)	24	37		48	%	100		
各 指			国庫支出金	25,510	51,360	44,334	44,334				
標の			県支出金								
が推		事業費	地方債	8,600	32,535	28,000	28,000				
移	総	費	その他								
	総事業費	事業	事 業	事業	一般財源	580	1,714	1,563	1,563		
	費		事業費(a)	34,690	85,609	73,897	73,897	千円			
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人			
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527				
			合計コスト(a)+(b)	42,519	93,139		81,424	千円			

	事業番号	21302	事務事業名	防雪柵設置事業	
【事務事業を取り巻く環境の変	「化や議会・市	民との意見・要望・	協働等の状況】		
この事務事業を開始したきっかけ	- 10 ( pag 22, 1)-	人工心心儿 又王		く環境の変化や議会	・市民との意見・要望・協働等の状況
冬期間の円滑な交通と安全性の 維持するため。	確保と市民生活	舌, 経済活動を	道路利用者	や地元住民から早	⊒期の整備が求められている。
【事務事業の担当課評価】					
◆ 目的妥当性					F=T/T 0 10 40 13
① この事務事業は、総合計画への ☑ 貢献度 大 《理由》 □ 貢献度 小	<b>)</b>	<b>いですか?</b> であり公共性が高く,地	域間の交流や生活		【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。
□ 基礎的事務事業					
② 対象や意図の範囲を見直し, 拡	太大・縮小するこ	とで費用対効果を上げる	ることができません	か?	) 💆 🚈 📆
□ できる <b>《理由</b> 》 ☑ できない	•"	認める事業延長で計画	している。		│ □ 見直す必要がある
◆ 有効性					
③ 事務事業のやり方・進め方を変  □ できる 効果大 (理由)  □ できる 効果中	)	<b>を向上させることができ</b>	<u>.</u>		【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。
✓ できない・効果なし		F/X/1 CV/1X10EIX			☑ 適切
④ 類似の目的(対象と意図)また[			<b>寄事業はありません</b>	<b>,か?</b>	
<ul><li>□ ある 統合・連携ができる</li><li>□ ある 統合・連携ができない</li></ul>	<b>:</b>	≨耒名】			/ □ 見直す必要がある
□ ma with 産場ができない □ ない	· 《在田》				
◆ 効率性					
⑤ 現状の成果を下げずに事業費		<b>よありませんか?</b>			【評価のポイント】
<ul><li>□ ある (理由)</li><li>☑ ない</li></ul>		事)以外での対策は困難	であると考える。		現在のやり方をもっと安価にできないか。
⑥ コスト削減を阻害している要因	はありませんか。				☑ 適切
□ ある <b>《理由</b> 》					見直す必要がある
☑ ない					
【評価の総括と今後の方向性 今後の事務事業の方向性					
□廃止		□ 事業完了			¥のやり方改善
□ 事務事業統合・連携	隽	☑ 現状維持		口 拡大	
過去に行った改善			現在の課題・問題	題点	
設置区間の検討段階において, けし, 収納についても視界を遮る部図っている。				いては地吹雪の 安全確保が必要で	ジ響により通行に支障をきたしてお ある。
今後の改善計画			期待される成果		新たに必要なコスト
早期に防雪柵を設置する。				防止が期待でき	冬季時期始めの設置や冬季終了 時の収納、ネットの修繕等の管理 経費が必要となる。
評価(実績)等に関する所属長	:所見		<u>;</u>		所属長氏名

茂 泉 善 明

事業の実施により冬期間の安全な交通の確保を図ることができるので、事業を確実に促進すべきと考える。

# 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 建設部建設課 第 1 節 円滑な道路環境の整備 担当・係名: 道路維持係 第 3 項 防雪・除雪体制の強化 記入者名: 伊藤智則 10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。 電話番号: 23-8015 810-420

#### 事務事業名: 除雪機械更新事業

果 除雪機械1台を更新し、機械除雪の能力向上を図った。

事業番号 21303

計)

7

		_				
艮抄	<b>!法令·条例等</b>   道路法		_	会計	一般	
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 23 年度~			事業名	維持補修車両等整備事業	
業	■ 単年度繰返し		<del>界</del> 科	款	8 土木費	
明	□ 単年度のみ実施 平成 年度			項	2 道路橋りょう費	
間	☑ 期間限定複数年度 平成 23 年度~平成 32 年度			目	2 道路橋りょう維持費	
						Ξ

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 老朽化した除雪機械の更新を行い、冬期間の通行の安全を図る。 対象(誰,何に対して) ◆対象指標 ① 更新予定台数 更新予定台数 除雪ドーザ外 N=14台 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 実施内容 ③ 更新実施台数 【平成29年度 更新実施台数】 ④ 更新実施台数 (累計) 除雪ドーザ(5t 岩出山) N=1台 (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 機械更新率(累

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成32年度
		対	① 更新予定台数	14	14		14	台	14
		象	2						
			③ 更新実施台数	1	1		1	台	_
	指 標	活動	④ 更新実施台数(累計)	11	12		13	台	14
事業費		293	5						
費		成果	⑥ 機械更新率(累計)	79	86		93	%	100
夕		果	7						
各指標			国庫支出金	6,300	5,175	4,680	4,680		
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債	3,100	3,496	2,300	2,300		
移	総	費	その他	2,106		5,400	5,400		
	総事業費		一般財源	50	185	40	40		
	費		事業費(a)	11,556	8,856	12,420	12,420	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.30		0.30	人	
		費	正職員人件費(b)	2,349	2,259		2,258		
			合計コスト(a)+(b)	13,905	11,115		14,678	千円	

事業番号	21303	事務事業名	除雪機械更新事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】

この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 市内の建設業者等に除雪業務を委託し、冬期間の円滑な交通 と安全性の確保に努めてきているが、各業者の所有する機械も 経年による老朽化とともに機械の故障等が頻発していたため、 老朽化が進み更新も難しい状況にある。また、除雪路線の追加 機械維持費の軽減を図るため更新事業を開始した。 要望が多くなってきている現状では、市保有機械の更新は必要 である。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 除雪委託業者の所有する機械が少なくなる中で、市場性・汎用性の少ない除雪 □ 貢献度 小 貢献できているのか。 機械については、市で確保しなければ除雪業務が維持できなくなる。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 □ できる □ 見直す必要がある ✓ できない 年々市民より生活道路(狭隘道路も含む)の除雪路線の増加要望がある。 ▶ 有効性 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 【評価のポイント】 □ できる 効果大 《理由》 現在のやり方で成果がでる のか。 □ できる 効果中 各地域の除雪計画に基づき必要最低限の基準により実施している。 ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 《理由》 現在のやり方をもっと安価 □ ある 受託業者の所有機械も老朽化しているため、業者が使用する機械のリース等の ✓ ない にできないか。 費用なども保障する必要が生じてくる。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 《理由》 □ ある □ 見直す必要がある 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 ☑ 現状維持 □ 事務事業統合・連携 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 毎年除雪の教訓を活かしながら、除雪計画の見直し等を行い改善に 除雪業務を受託する業者が減少してきた場合、どのような体制で除 雪体制を継続できるか対策が必要である。 努めている。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト

評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名 特別豪雪地帯の鳴子温泉地域から年に数回程度の降雪しかない鹿島台地域まで,自然条件が異なる 広範囲な市内の対応は,それぞれの地域に対応した除雪体制・方法により取り組まざるを得ない状況 にある。 茂泉 善明

業者の機械の保有状況も調査しながら、除雪計画の見直しを行って

いく。

市民の通勤、通学等の走行や歩

で快適な雪道空間が確保できる。

行の安全を確保することで、安全 なし

【総合計	【総合計画体系】										
第 2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担	当	部	課	:	鳴子総合支所地域振興課			
第 1	節	円滑な道路環境の整備	担	当•	係	名	:	建設担当			
第 3	項	防雪・除雪体制の強化	記	入	者	名	:	但木 学			
10年後	の望	<b>ましい姿</b> : だれもが安心して移動できる道路になっている。	電	話	番	号	:	82-2191 860-224			

事務事業名: 道路融雪施設改修事業(市道中山平1号線・鳴子小学校線) 事業番号 21304

<b>拠法令·条例等</b>   大崎市過疎地域自立促進計画	-	会計 一般							
開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~	予	事業名 道路橋りょう除雪等事業							
単年度繰返し	科	款 8 土木費							
月 □ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項 2 道路橋りょう費							
1 ☑ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 31 年度		目 2 道路橋りょう維持費							
F 改 古 类 ヘ 瑁 ↓ 】									

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 融雪施設の老朽化が顕著であることから、継続的に機械器具の更新を行うもの。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 通行車両 対象路線を通行する車両及び歩行者 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 工事の実施(市道中山平1号線融雪施設改修工事) 実施内容 ③ 施設 4 (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 事故数 本工事により融雪機器が改修・更新され、突発的な故障等の不確定要素が減少し、安定した運転管理が可能に なった。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成31年度
		対	① 通行車両	1,000	1,000		1,000	台	現状維持
		象	2						
	指標	`~	③ 施設	0	0		1	施設	現状維持
		活動	4						
事業費		24)	5						
費		成	⑥ 事故数	0	0		0	件	_
夕		果	7						
各指標			国庫支出金						
			県支出金			00 40,000			
の推移		事業費	地方債	2,900	37,400		37,400		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	48	34		34		
	費		事業費(a)	2,948	37,434	40,000	37,434	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.00	0.00	0	0.67	人	
		費	正職員人件費(b)	0	0		5,058		
		,	合計コスト(a)+(b)	2,948	37,434		42,492	千円	

車業釆早	21304	<b>車</b>	道路融雪施設改修事業(市道中山平1号線・鳴子小学校線)
サ末田り	Z 1304	# # # * 1	坦路熙雪他設以修事集(巾坦中山平 芳綠•嗚士小子悅綠)

	争耒奋亏	21304	争務争耒名	<b>退路融雪施設改修</b>	事業(市道中山平1号線・鳴子小字校線)				
【事務事業を取り巻く環境		氏との意見・要望・		/理様の赤ル 仏芸人	> 十日Lの辛日 亜胡 切倒体の作用				
この事務事業を開始したきっか	1)		事務争未を取りを	(現現の変化や議会	・市民との意見・要望・協働等の状況				
融雪施設の老朽化が顕著と 発生している。	なっており, 故障等 <i>0</i>	)不具合が多く		よる事故が発生し 管理を要望されてい	やすいことから,早期の修繕と安 いる。				
【事務事業の担当課評価】									
◆目的妥当性					F I 10 A				
① この事務事業は、総合計画  ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	まちづくりに不可欠で	【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。							
② 対象や意図の範囲を見直 □ できる □ できない	し, 拡大・縮小すること 理由》	で費用対効果を上げ	ることができません	か?	□ 見直す必要がある				
◆ 有効性									
③ 事務事業のやり方・進め方 □ できる 効果大 (i □ できる 効果中 ☑ できない・効果なし	里由》	<b>向上させることができ</b> 善であることから, 他に		:iv.	【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。				
<ul><li>④ 類似の目的(対象と意図):</li><li>□ ある 統合・連携ができる</li><li>□ ある 統合・連携ができる</li><li>☑ ない</li></ul>	きる 【類似事務事		務事業はありません	, <b>か</b> ?	□ 見直す必要がある				
◆ 効率性									
<ul><li>⑤ 現状の成果を下げずに事</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	<b>里由》</b>	<b>きでありませんか?</b> 善であり、その内容になっ	ついても必要不可欠	なものである。	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。				
<ul><li>⑤ コスト削減を阻害している</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	要因はありませんか。 里由 <b>》</b>				<ul><li>✓ 通り</li><li>□ 見直す必要がある</li></ul>				
【評価の総括と今後の方向	a ★生 】								
今後の事務事業の方向性									
□ 廃止 □ 事務事業統合・		□ 事業完了 ☑ 現状維持		□ 事務事 □ 拡大	<b>『業のやり方改善</b>				
過去に行った改善			現在の課題・問題	題点					
必要に応じて凍結防止剤の	散布の補助作業を行	うている。			であるため,特に夜間から早朝に 危険な状況になっている。				
今後の改善計画			期待される成果		新たに必要なコスト				
これまでは既存施設の改修が能となる新たな熱源の確保と			道路融雪効果の	)改善・向上	調査検討~予備•詳細設計(委 託), 工事				
評価(実績)等に関する所	属長所見				所属長氏名				
既存施設の改修により故障	章等の恐れが少なく <i>な</i>	ょり,安定した運転・	維持管理が可能と	なった。	遊佐正俊				

【総合計画体系】										
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当 部課: 建設部建設課									
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当•係 名</b> : 道路建設係									
第 5 項 幹線道路のネットワーク化及び地域連携道路の整備	<b>記入者名</b> : 伊藤 政浩									
10年後の望ましい姿・主要な目的地への所要時間が短縮され、定時性が確保されている。	<b>雷 試 悉 县</b> · 23-2435 810-408									

3	事	務事業名:	<u> &lt;新計)</u>	>環状追	直路整備事	第二二二二二二三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	東一	·号線	事業都	号	21501
4	8 4bi	<b>注入. 冬间如</b> 立士油机	- 土面				7	A≞⊥	:	一般	
_		法令·条例等 新市建設			aa 左座		予	会計	せるタナギョ		•
	事	第一 単年度繰返し 第一 本								<b>合</b> 登 偏 争	<b>手</b>
	業									1. > #	
	期	単年度のみ実施		年度				項	2 道路橋		n - /
Ц	間	☑ 期間限定複数年度	平成 20	年度~平成	30 年度		]	目	3 道路橋	ノよつ 新記	500良實
		務事業の現状】									
		意図(対象をどういう	伏態にしたい	か)							
ľ	目的	安全・安心で交流が盛 的に整備促進する。	差んなまちづく	くりを実現する	ためにも、円滑	な道路環境の整備	請が必要	不可欠で	であることから、	市域道	道路網を計画
		対象(誰,何に対して	て)							◆対象	指標
		本路線は、古川地域大幡地区主要地方道古川松山線より南側の師山地区を結ぶ区間の道路利用者。								① L	=1,400m
					14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 1			ZZPH 1371		2	
		実施内容·手段(具	体的なやり方	ī, 手順)						◆活動	助指標
	実施为	【平成28年度 明許繰	ē <b>未</b> 战Ⅰ <b>、】</b>							(-4)	29事業費/総 事業費
	_	·平成28年度 市道新 ·平成28年度 市道新	f幹線東1号線							4	
		【平成29年度】 ·平成29年度 市道新	f幹線東1号線	泉道路改良工	事 横断管渠工	L=15.9m					

	【平成29年度】 ·平成29年度 市道新幹線東1号線道		5)						
	平成29年度の成果					•	・成果指標(把握する手段)		
成果	成果 幹線市道として円滑な道路環境の整備を進め、利用者の利便性の向上を図り、目的地への所要時間の短縮が図られた。								
	項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成30年度		

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成30年度
		対	① L=1,400m	138	160		1,002	m	1,400
		象	2						
			③ H29事業費/総事業費	12	18		6	%	_
	指標	活動	4						
事業費		-43	5						
費		成	⑥ 事業進捗率	71	89		95	%	100
• 夂		果	7						
各指標			国庫支出金	33,136	51,914	58,399	41,194		
標の		1	県支出金						
の推移		事業費	地方債	29,800	53,000	52,700	40,000		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	1,730	2,903	2,911	2,442		
	費		事業費(a)	64,666	107,817	114,010	83,636	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.34	0.38		0.27	人	
		費	正職員人件費(b)	2,662	2,861		2,032		
			合計コスト(a)+(b)	67,328	110,678		85,668	千円	

	事業番号	21501	事務事業名	<新計>環状道路	整備事業(新幹線東一号線)			
		0 <del>2</del> 2 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	the teleform and the T	•				
【事務事業を取り巻く環 この事務事業を開始したきつ	<b>境の変化や議会・市民と</b> かけ	の恵見・安望・		く環境の変化や議会	₹・市民との意見・要望・協働等の状況			
			7.00 7.00 - 10.00		( 11-24C-07)(2) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )			
合併前の旧古川市より、 一号線)として引き継いだ	<新計>環状道路整備事業 もの。	美(新幹線東			らづくりを実現するためにも,円滑 J欠であり,市民の要望が強い。			
【事務事業の担当課評	<b>画</b> 】							
◆ 目的妥当性	計画への貢献度は大きいです	-th 0			【評価のポイント】			
① この事務事業は、総合 ☑ 貢献度 大	《理中》				※会計画を実現するために			
□ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	大崎市における安全 への貢献度は大きい		間を確保する社会	基盤整備として総合	計画 貢献できているのか。			
② 対象の音図の第冊を目	.直し. 拡大・縮小することで費	·田상체밀소 L/년	Z = レポッキ士++ / .	<i>t</i> v 2	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
② 対象や悪菌の範囲を見 □ できる ☑ できない	(理由) 当該路線の合理的 化に努め地域住民 り費用対効果を上げ	なエ区設定, 優先  や交通利用者の二	路線への集中投資	により, より一層の刻	カ率 □ 見直す必要がある			
◆ 有効性								
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	か方を変えることで成果を向上	させることができ	ますか?		【評価のポイント】			
<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	で実施している。	りを目指すために	,道路機能の向上	を図り,常に最小の	経費 現在のやり方で成果がでる のか。			
<ul><li>④ 類似の目的(対象と意図)</li><li>□ ある 統合・連携が</li></ul>	<b>図)または形態(イベントや啓身</b> できる 【類似事務事業名		8事業はありません	<b>,か?</b>				
□ ある 統合・連携が	:				□ 見直り必安かめる			
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに □ ある ✓ ない	事業費を削減する方法はあり 《理由》 当該路線についてに		をしながら常に最小	- の経費で実施してし	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。			
<b>₽</b> . '\$.	ため。				12 62 30 %			
	7 <b>-</b>				─────── 🗸 🗹 適切			
⑥ コスト削減を阻害してい □ ある	る要囚はめりませんか。 《理由》							
					V			
【評価の総括と今後のプ	方向性】							
今後の事務事業の方向	性	+ 414 <b></b>		_ + 75 +				
│  □ 廃止 │  □ 事務事業統合		事業完了 現状維持		□ 事務事	「業のやり方改善			
過去に行った改善		5九1八小比1寸	現在の課題・問題					
週五に11つに収音			現在の味趣 向流	<b>超</b> 从				
ション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	って、統領 工期結缔等に数	ひかかがこ 車業	東業な遂行する。	こうで田地の取得	が必要不可欠であるが、一部区間			
の進捗を図った。	1人「舳火、土州 位相寺に先	がながら、事未		取得できていない				
今後の改善計画			期待される成果		新たに必要なコスト			
車業に扱わいただけると	うに用地交渉を継続していく	,	事業の早期完成	と, 安全で快適	なし			
尹未に励力いたにいるよ	バー田・地文/少を極続してい	• 0	な道路環境の確	保が図られる。	4C			
評価(実績)等に関する	所属長所見				所属長氏名			
			. 1 topp . 2 12					
措置された枠内で最大限	箇所もあるが,用地取得済。 の整備促進を行うことがでる 「域道路網を計画的に整備	きた。今後も、引き	き続き安全で安心		茂泉善明			

7

【総台	【総合計画体系】									
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当	Пb	課:	建設部建設課			
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担当	• 係	名:	用地·補償係			
第	5	項	幹線道路のネットワーク化及び地域連携道路の整備	記入	者	名:	佐々木 博			
10年	<b>三後</b> (	の望:	<b>ましい姿</b> ・主要な目的地への所要時間が短縮され、定時性が確保されている。	雷託	番	县·	23-2435 810-404			

#### 事務事業名: <新計>環状道路整備事業(都計道路李埣新田線) 事業番号 21502

4	艮拠	法令・条例等 新市建設計画 会計	一般
ŀ	事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 20 年度~	. 14
	業	単年及線返し	
	期		計画費
	間	☑ 期間限定複数年度 平成 20 年度~平成 38 年度 目 7 街路	<b>予事業費</b>
ı	事	務事業の現状】	
		意図(対象をどういう状態にしたいか)	
	目的	地区内の狭隘な道路は、朝夕に交通渋滞が発生し歩行者にとっても危険であるため,利用者の利便性の向」 道路環境の整備を進め,主要な目的地へのアクセス向上を図る。	こと交通弱者にも配慮した
		対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
		古川地域(主要地方道古川佐沼線,国道4号,国道47号)の各幹線道路を利用し,本地域及び周辺市町村へ移動	① 利用台数(計画 交通量)
		る交通利用者 	2
		実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
	実施内	【H28年度繰越】 ・都市計画道路李埣新田線道路改良事業に伴う用地取得及び物件移転補償 用地取得 11件 A=2,040.34㎡ 物件移転補償 7件	③ 事業進捗率(%)
1	容	【H29年度】 ・都市計画道路李埣新田線道路改良事業に伴う用地取得及び物件移転補償 用地取得 12件 A=1.500.8㎡ 物件移転補償 7件	④ 道路改良延長 累計
		<ul> <li>平成29年度 都市計画道路李埣新田線補償物件再算定業務 一式</li> <li>平成29年度 都市計画道路李埣新田線補償物件再調查算定業務 一式</li> <li>平成29年度 都市計画道路李埣新田線道路改良工事(福浦工区) L=290.7m</li> <li>平成29年度 都市計画道路李埣新田線道路改良工事(江合工区) L=217.7m</li> </ul>	(5)
			◆成果指標(把握する手段)
	成田	1100年度に引き禁さ、田地・球筒の充準を行い1.4名もの初始がウフした。	(主)古川佐沼線から国 ⑥ 道47号までのアクセス 時間
1	木	H28年度に引き続き,用地・補償の交渉を行い14名との契約が完了した。	

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 利用台数(計画交通量)	7,500	7,500		7,500	台/日	7,500
		象	2						
	سال	,T.	③ 事業進捗率(%)	19.8	33.5		38.8	%	100
_	指 標	活動	④ 道路改良延長累計					m	3,430
事業費			⑤						
費		成	⑥ (主)古川佐沼線から国道47号までのアクセス時間	10	10		10	分	8
冬		果	7						
各 指			国庫支出金	181,616	140,454	171,719	102,078		
標の			県支出金						
が推		事業費	地方債	208,000	181,700	161,000	101,100		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	11,038	21,223	9,911	6,310		
	費		事業費(a)	400,654	343,377	342,630	209,488	千円	
		人件	正職員年間従事人員	年間従事人員 1.00 1.00			1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	408,483	350,907		217,015	千円	

事業番号	21502	事務事業名	<新計>環状道路整備事業(都計道路李埣新田線)

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 市街地の交通混雑の解消並びに古川地域の環状道路整備の 広大な面積を有する本市域及び周辺市町村への円滑な通行を 早期整備が望まれている。また、関係地権者より早期の事業着手と震災を踏まえたスケジュールの説明を要望され、平成24年 確保するため、幹線道路の整備を行う。 <新市建設計画 環状道路整備事業> 度に説明している。

上手	【事務事業の担当課評価】								
	目的妥当性								
<b>①</b>	この事務事業は、総合	計画への貢献度は大きいです	ナか?		【評価のポイント】				
•		《理由》	·		総合計画を実現するために				
		**	の中田・ウリイ	主な取り組みと合致している。					
	□ 貢献度 小	総合計画体系施策	┃┃ 貢献できているのか。						
	□ 基礎的事務事業								
		■							
<b>②</b>	対象や意図の範囲を見	) =							
•	□ できる	《理由》	C/11/3/M/A/C=-/	<u> </u>					
	_	<b>、塩田</b> 対象路線の合理的	対 一 見直り必安かめる						
	🗸 できない	効果を上げることが		7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	~   /				
		33XC=:/ 0=CX	CC 00		/				
	有効性								
		トナナカニフーレッチ用ナウ(	L. J. ( L. 7 — 1, 12 m de	<del>+++</del> . ~	<b>「</b> 無用のよう」 <b>】</b>				
(3)		う方を変えることで成果を向」	こうせることかでき	ますか?					
	□ できる 効果大	《理由》			↓ 現在のやり方で成果がでる				
	□ できる 効果中	新市建設計画に基	づき事業を実施し	ている。	\ のか。				
	☑ できない・効果なし								
	▼ CEWAN WINGO								
_					□ \ ☑ 適切				
4		図)または形態(イベントや啓ණ		<b>§事業はありませんか?</b>					
	□ ある 統合・連携が	できる 【類似事務事業名	3]		<b>│</b>				
	□ ある 統合・連携が				/ = :==:				
	□ めむ 派品 定別が	(-EII/			/				
	<b>∑</b> '3'''								
					<u> </u>				
	効率性								
<b>(5)</b>	現状の成果を下げずに	事業費を削減する方法はあり	りませんか?		【評価のポイント】				
•	□ ある	《理由》			現在のやり方をもっと安価				
		W	~~ <del>+</del> *+++	はました パン 光に ニュールのポルカル ール					
	☑ ない	新巾建設計画に基	つさ、事業内容を	情査しながら常にコスト削減に努めてい	る。				
					■				
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	る要因はありませんか。			) =				
U					······································				
	<b>—</b>	《理由》			│				
			Many tree of the state of the						
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
<b>7</b> = 0					<u> </u>				
	【評価の総括と今後の方向性】								
今後					/				
	<b>後の事務事業の方向</b>	性							
	<b>後の事務事業の方向</b>	性	事業完了	□事務ョ	事業のやり方改善				
	後の事務事業の方向 □ 廃止	性	事業完了		事業のやり方改善				
	<b>後の事務事業の方向</b>	性	事業完了現状維持	□ 事務ョ	1業のやり方改善				
過步	後の事務事業の方向 □ 廃止	性			                     				
過去	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	性		□ 拡大	¥ の やり方 改善				
過去	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	性		□ 拡大	事業のやり方改善				
過去	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	性		□ 拡大	事業のやり方改善				
	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善	性		□ 拡大 現在の課題・問題点					
	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	性		□ 拡大					
~	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善	性		□ 拡大 現在の課題・問題点					
~	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善	性		□ 拡大 現在の課題・問題点					
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	性		口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償					
業務	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善	性		□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償	の進捗が不可欠である。				
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※ままままままままままままままままままままままままままままままままままま	性		口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果	の進捗が不可欠である。				
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画	性	現状維持	口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱	の進捗が不可欠である。				
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお	現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト				
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお	現状維持	口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱	の進捗が不可欠である。				
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお	現状維持	口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備され、主要な目的地へのアクセス	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト				
業務	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお	現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト				
学 等減・	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画  ※内容を精査しながら、 エ期短縮に努め事業	性  ・連携  D効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお の進捗を図る。	現状維持	口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備され、主要な目的地へのアクセス	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト なし				
学 等減・	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画	性  ・連携  D効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお の進捗を図る。	現状維持	口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備され、主要な目的地へのアクセス	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト				
学 等減・	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画  ※内容を精査しながら、 エ期短縮に努め事業	性  ・連携  D効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお の進捗を図る。	現状維持	口 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備され、主要な目的地へのアクセス	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト なし				
学 事減 評価	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ またいた改善 □ またいまする □ またいまする	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理にお の進捗を図る。  所属長所見	おけるコスト縮	□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱 者にも配慮した道路環境が整備 され、主要な目的地へのアクセス 向上。	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト なし				
字 等減 評 新 所 計	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善  ※委託を活用し、業務の 後の改善計画  ※内容を精査しながら、 エ期短縮に努め事業  面(実績)等に関する  「建設計画の事業内容	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理によ の進捗を図る。  所属長所見  を精査しながら実施計画の	おけるコスト縮の進行管理をして	□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備され、主要な目的地へのアクセス向上。	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト なし  所属長氏名				
学 の おおい	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 上 事務事業統合 はに行った改善  然委託を活用し、業務の 後の改善計画  其内容を精査しながら、 工期短縮に努め事業  正(実績)等に関する に実績の整備促進を行	性      ・連携	現状維持 おけるコスト縮 の進行管理をして で要をしてお	□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱 者にも配慮した道路環境が整備 され、主要な目的地へのアクセス 向上。	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト なし				
学 の おおい	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 上 事務事業統合 はに行った改善  然委託を活用し、業務の 後の改善計画  其内容を精査しながら、 工期短縮に努め事業  正(実績)等に関する に実績の整備促進を行	性  ・連携  の効率化を図った。  引続き設計・施工管理によ の進捗を図る。  所属長所見  を精査しながら実施計画の	現状維持 おけるコスト縮 の進行管理をして で要をしてお	□ 拡大 現在の課題・問題点 計画どおりの完了には用地・補償 期待される成果 利用者の利便性の向上と交通弱者にも配慮した道路環境が整備され、主要な目的地へのアクセス向上。	の進捗が不可欠である。 新たに必要なコスト なし  所属長氏名				

【総1	【総合計画体系】								
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課	ŧ :	建設部建設課			
第	1	節	円滑な道路環境の整備	担当・係名	:	道路建設係			
第	5	項	幹線道路のネットワーク化及び地域連携道路の整備	記入者名	:	伊藤 政浩			
104	F 绛	の望	<b>キリング・</b> 主要な目的地への所要時間が短縮され、宝時性が確保され <i>て</i> いる	雷 託 釆 早		23-2435 810-408			

#### 事務事業名: <新計>地域連携道路整備事業

事業番号 21503

杪	<b>法令・条例等</b> 新市建設計画	_	会計	一般
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 20 年度~	予	事業名	道路橋りょう新設改良事業
ŧ	■単年度繰返し	科	款	8 土木費
Ŋ	□ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	2 道路橋りょう費
盯	☑ 期間限定複数年度 平成 20 年度~平成 33 年度		目	3 道路橋りょう新設改良費

#### 【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、市域道路網を計画 的 女生 女心 くんがら 的に整備促進する。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 市道座散乱木線は、岩出山地域下野目地区の国道47号と市道川北線を結ぶ路線であり、本路線を利用する地 ① L=1,511m 区住民並びに道路利用者。 市道東大崎中央線は、古川地域大崎地区と岩出山地域南沢地区を結ぶ路線であり、本路線を利用する地区住 民並びに道路利用者。 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ H29事業費/総 実施内 事業費 【平成29年度】 市道座散乱木線文化財調査 一式 4 市道座散乱木線用地購入 1件 A=194.45㎡ (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 事業進捗率 果文化財調査を実施するとともに事業用地を取得した。 7

	•								
			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成33年度
		対	① L=1,511m	0	0	$\setminus$	0	m	1,511
		象	2						
		,,	③ H29事業費/総事業費	1	2		1	%	—
_	指標	活動	4						
事業費			⑤						
費		成 果	⑥ 事業進捗率	15	17		18	%	100
夕			7						
各指			国庫支出金						
標			県支出金						
が推		事業費	地方債			500	500		
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	1,742	4,358	4,453	4,009		
	費		事業費(a)	1,742	4,358	4,953	4,509	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.04	0.28		0.17	人	
		費	正職員人件費(b)	313	2,108		1,280		
			合計コスト(a)+(b)	2,055	6,466		5,789	千円	

事業番号	21503	事務事業名	<新計>地域連携道路整備事業

		変化や議会・市民との意見・要望						
この事務事業を	開始したきっかけ		事務事業を取り巻く環境の変化や議会	会・市民との意見・要望・協働等の状況				
	直路整備事業, 古	町より,地域連携道路整備事業 5川中央線道路整備事業)として		ちづくりを実現するためにも,円滑 可欠であり,市民の要望が強い。				
【事務事業の								
◆ 目的妥当		・の子並在はナキいですから		【評価のポイント】				
☑ 貢献度	<ul> <li>① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか?</li> <li>☑ 貢献度 大</li> <li>□ 貢献度 小</li> <li>□ 基礎的事務事業</li> <li>【理由】</li> <li>大崎市における安全で快適な道路空間を確保する社会基盤整備として総合計画への貢献度は大きい。</li> </ul>							
② 対象や音図	の節囲を見直し	. 拡大・縮小することで費用対効果をよ	- げることができませんか?	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □				
□ できる ☑ できな	《理	<b>由》</b> 当該路線の合理的な工区設定, 優	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	効率				
◆ 有効性								
	つやり方・進め方を	変えることで成果を向上させることが	できますか?	【評価のポイント】				
□ できる □ できる	効果大 《理	ф/	めに, 道路機能の向上を図り, 常に最小の	現在のやり方で成果がでる のか。				
				□ │ ☑ 適切				
		たは形態(イベントや啓発)を持つ他の	事務事業はありませんか?					
	統合・連携ができ <sup>々</sup> 統合・連携ができ <sup>々</sup>	る 【類似事務事業名】		│ □ 見直す必要がある				
□ める i	N ロ を 注 洗 が く ご /	av. <b>《年四</b> 》		/				
₩_ 0.0		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		i /				
◆ 効率性								
⑤ 現状の成果	を下げずに事業	費を削減する方法はありませんか?		【評価のポイント】				
<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理	<b>曲》</b> 当該路線については,事業内容を る。	精査しながら常に最小の経費で実施してい	、 現在のやり方をもっと安価 にできないか。				
	··········			·····································				
_	,	因はありませんか。						
<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	<b>《</b> 理	由》		│ │ │ 見直す必要がある				
【評価の終拝	と今後の方向	<b>₩</b> 1		! <b>/</b>				
今後の事務事		.— <u>.</u>						
□ 廃止	-	□ 事業完了		事業のやり方改善				
事務	事業統合•道	直携 ☑ 現状維持						
過去に行った。	<sub></sub>		現在の課題・問題点					
市道座散乱木	線の詳細設計に	こおいて事業のコスト縮減に努めた。	東日本大震災による被災箇所の役 進捗に遅れが生じている。	复旧を優先したことにより, 事業の				
今後の改善計	画		期待される成果	新たに必要なコスト				
	精査し, 設計・施 ら事業の進捗を		豆縮 事業費の縮減と早期の事業完了 が図られる。	なし				
•		長所見	:	所属長氏名				

茂 泉 善 明

新市建設計画の事業内容を精査しながら実施計画の進行管理をしっかりと進め、予算措置された枠内で最大限の整備促進を行うことができた。今後も、引き続き安全で安心な道路整備事業の促進を目指しながら、市域道路網を計画的に整備促進を図ってまいりたい。

【総合計画体系】								
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 建設部建設課							
第 1 節 円滑な道路環境の整備	担 <b>当・係 名</b> : 道路建設係							
第 5 項 幹線道路のネットワーク化及び地域連携道路の整備	<b>記入者名</b> : 伊藤 政浩							
10年後の望ましい姿: 主要な目的地への所要時間が短縮され、定時性が確保されている。	電話番号: 23-2435 810-408							

### 事務事業名: <新計>環状道路整備事業(竹ノ花線)

事業番号 21504

拠	<b>法令·条例等</b> 新市建設計画	-	会計		一般	
F	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 29 年度~	予	事業名	道路	S橋りょう新設改良事業	
ŧ	□単年度繰返し	科	款	8	土木費	
玥	□ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	2	道路橋りょう費	
盯	☑ 期間限定複数年度 平成 29 年度~平成 32 年度		目	3	道路橋りょう新設改良費	
事	務事業の現状】					

### 意図(対象をどういう状態にしたいか) 目 安全・安心で交流が盛んなまちづくりを実現するためにも、円滑な道路環境の整備が必要不可欠であることから、市域道路網を計画的に整備促進する。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① L=560m 古川地域の国道4号と主要地方道古川登米線を繋ぐ路線であり、竹ノ花地区と狐塚地区の地域住民及び道路 利用者。 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ H29事業費/総 事業費 実施内容 【平成29年度】 ・市道竹ノ花線概略設計業務 一式 4 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 成果 概略設計を実施し計画道路の線形を決定した。 ⑥ 事業進捗率 7

	•								
			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成32年度
		対象	① L=560m				0	m	560
		象	2						
		·	③ H29事業費/総事業費				1	%	_
_	指 標	活動	4						
事業費		293	⑤						
費		成果	⑥ 事業進捗率				1	%	100
夕		果	7						
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
が推		事業費	地方債						
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源			1,331	1,316		
	費		事業費(a)	0	0	1,331	1,316	千円	
		人件	正職員年間従事人員				0.24	人	
		費	正職員人件費(b)	0	0		1,806		
			合計コスト(a)+(b)	0	0		3,122	千円	

			事業番号	21504	事務事業名	<新計>環状道路	整備事業(竹ノ花線)			
「車致車業たB	事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】									
この事務事業を			167~磯女・川	氏Cの息兄・安主・			・市民との意見・要望・協働等の状況			
合併前の旧古J線)として引き組			環状道路整備	事業(竹ノ花 [			らづくりを実現するためにも,円滑 「欠であり,市民の要望が強い。			
「車致車業の	+D 77 =======	æ 1			•					
【事務事業の ◆ 目的妥当		<b>m</b> ]								
① この事務事			【評価のポイント】							
<ul><li>✓ 貢献度</li><li>□ 貢献度</li><li>□ 基礎的</li></ul>	小	《理由》	大崎市におけるの貢献度は	る安全で快適な道路空 大きい。	間を確保する社会	基盤整備として総合記	質量できているのか。			
② 対象や音図	の節囲を見	直Ⅰ、拡 <sup>・</sup>	大・縮小するこ	とで費用対効果を上げ	ることができません	<sub>ለ</sub> እን	☑適切			
□ できる ☑ できない			当該路線の合 化に努め地域	理的な工区設定、優先住民や交通利用者のことができる。	:路線への集中投資	により, より一層の効	<b>月</b> 車 <b>見直す必要がある</b> こよ			
◆ 有効性										
0			えることで成果る	を向上させることができ	ますか?					
□ できる □ できる ☑ できない		《理由》	安全で安心なで実施している	道づくりを目指すために る。	二, 道路機能の向上	を図り,常に最小の糺	<i>O)b</i> .°			
□ ある 糸		できる	【類似事務事	や啓発)を持つ他の事 3業名]	務事業はありません	uth?	□ 見直す必要がある			
◆ 効率性	<b>たてばがに</b>	<b>声学</b> 弗太	割減する七年	<b>よありませんか?</b>			【評価のポイント】			
<b>⑤ 死状の成果</b> □ ある ☑ ない	:E	<del>学</del> 来真で 《理由》		いては、事業内容を精	査しながら常に最小	いの経費で実施してい	現在のやり方をもっと安価 にできないか。			
⑥ コスト削減を	ト阳害してい	る要因は	ありませんか。				□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
							□ 見直す必要がある			
【評価の総括の	と会後のプ	古向性】								
今後の事務事										
□ 廃止	事業統合	⊱∙谉堆	Į.	□ 事業完了 ☑ 現状維持		□ 事務事 □ 拡大	業のやり方改善			
過去に行った改		· Æ175		こ シロトバルエリ	現在の課題・問					
	ハては, ル-			<b>業費が安価となる現</b>	本路線は国道4	号と主要地方道古	川登米線に接続することから, 事 議を密に行っていく必要がある。			
今後の改善計画	画				期待される成果		新たに必要なコスト			
事業の内容を料 縮減, 工期短網				- 管理におけるコスト 図る。	事業費の縮減と が図られる。	早期の事業完了	なし			
評価(実績)等	に関する	所属長所	<b>听見</b>				所属長氏名			
縮を図り, 予算	措置された	枠内で	最大限の整備	†画の進行管理をしっ 促進を行うことができ 路網を計画的に整備	た。今後も、引き	続き安全で安心	茂 泉 善 明			

【総合計画体系】						
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当 部課: 建設部都市計画課					
第 1 節 円滑な道路環境の整備	担 当•係 名: 都市計画係					
第 6 項 中心部へのアクセス幹線道の整備	記入者名: 氏家 広司					
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	<b>電 話 番 号</b> · 23-8069 810-446					

### 事務事業名: 都市計画道路整備事業

事業番号 21601

艮拠	<b>!法令·条例等</b> 都市計画法	Ţ	会計	一般	
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~	予告	事業名	並柳福浦線改良事業	
業	■単年度繰返し	科	款	8 土木費	
Ŋ	□ 単年度のみ実施 平成 年度	A i	項	4 都市計画費	
罰	□ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 33 年度		目	7 街路事業費	

【事務事業の現状】

ΓJ	■務事業の現状】	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	だれもが安全で安心して交流が盛んなまちづくりのため,円滑な道路環境の整備が必要不可欠であり,市域道路交 促進するもの。	通網を計画的に整備
	対象 (誰,何に対して)	◆対象指標
	市民及び道路利用者	① L=218.6m
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
	●宮城県による測量設計・工事の実施に対する市町村負担金(10%) ・H25路線測量, 道路設計 ・H26橋梁詳細設計, 用地測量, 物件調査(H27繰越) ・H27物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H28物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H29物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H30物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H30物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H31物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H31物件調査, 用地買収, 物件補償 ・H32橋梁工事, 道路工事 ・H33橋梁工事, 道路工事	<ul><li>③ H29まで事業費/ 総事業費</li><li>④</li><li>⑤</li></ul>
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
10.0	【宮城県実施】 ·物件調査 一式 ·用地買収·物件補償 一式	<ul><li>⑥ 事業進捗率</li><li>⑦</li></ul>

		項目		27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成33年度
		対	① L=218.6m	219	219		219	m	219
		象	2						
			③ H29まで事業費/総事業費	5	12		39	%	100
	指標	活動	4						
事業費		-43	5						
費		成果	⑥ 事業進捗率	5	12		39	%	100
夕		果	7						
各指標			国庫支出金	29,210	48,928	190,019	190,019		
			県支出金	18,589	31,136	120,922	120,922		
が推		事業費	地方債						
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	5,311	8,896	34,549	34,549		
	費		事業費(a)	53,110	88,960	345,490	345,490	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.03	0.03		0.03	人	
		費	正職員人件費(b)	235	226		226		
			合計コスト(a)+(b)	53,345	89,186		345,716	千円	

+	01001	古沙古米力	都市計画道路整備事業
	21601	<b>事 秋 半 辛 2</b>	都市計画道路整備事業
ず木田ケ			加州可曾足成正师学术

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意	【見・要望・協働等の状況】
--------------------------	---------------

この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 本路線は歩道未整備区間であり、震災時に建物倒壊等により、 歩道未整備で右折レーンも未設置なことから、交通渋滞が多い 安全な避難路、緊急車両の通行に支障をきたしたことから県に 区間であり、市民や道路利用者より整備が望まれている。 対し整備要望を行ったもの。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 市における安全で快適な道路空間を確保する社会基盤整備として、総合計画へ □ 貢献度 小 貢献できているのか。 の貢献度は大きい。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? □ できる 《理由》 □ 見直す必要がある 事業の集中投資により,一層の効率化に努めているとともに,地域住民や交通 ✓ できない 利用者ニーズに適合した事業執行に取り組んでいるためできない。 ◆ 有効性 【評価のポイント】 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 《理由》 □ できる 効果大 現在のやり方で成果がでる 安全で安心な道づくりのため、道路機能の向上を図り、常に最少の経費で実施し □ できる 効果中 のか。 ているため ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない ▶ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 《理由》 □ ある 現在のやり方をもっと安価 要望路線であり、県においても事業内容を精査しながら、常に最少の経費で実施 √ ない にできないか。 している。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 □ ある 《理由》 □ 見直す必要がある ✓ ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 ☑ 現状維持 □ 事務事業統合・連携 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 区画整理事業や、市街地再開発事業など、各種事業との調整を進め なし る必要がある。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト 県においては事業内容を精査しながら設計・施工管理におけるコス ト縮減、工期短縮等に努め、事業進捗を図り、予算の中で最大限の 早期の事業完了が図られる。 なし 整備促進を図る。 評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名

小 松

一 雄

平成25年度より県事業として着手された路線である。震災により大きな被害を受けた中心市街地の復

興のため、着実な整備促進を引き続き要望してまいります。

# 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 建設部建設課 第 1 節 円滑な道路環境の整備 担当・係名: 道路維持係 第 7 項 舗装修繕計画及び橋梁の長寿命化修繕計画などによる維持管理 記入者名: 伊藤 智則 10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。 電話番号: 23-8015 810-420

事務事業名: 道路舗装修繕事業

事業番号 21701

<b>尹</b>	伤争未行:	<b>担</b>	争耒由	ラ ZI/UI				
根拠	L法令·条例等 道路法	会	計	一般				
事	開始年度	□ 昭和 ☑ 平成 18 年度~ <b>予</b> 事業	業名 道路橋りょう維	持補修経費				
業	☑ 単年度繰返し	科表	款 8 土木費					
期	□ 単年度のみ実施	平成 年度 項	項 2 道路橋り。	ょう費				
間	□ 期間限定複数年度		目 2 道路橋り。	ょう維持費				
【事	【事務事業の現状】							
	意図(対象をどういう	状態にしたいか)						
目的	国 対 当事業を実施することで,これまでの簡易的補修の繰返しによる平坦性と走行性に劣る道路と,事故に繋がりかねないクラックの生じ ている路面状況を修繕することで,安定した走行性と安全性が確保でき,安全で安心な道路環境を提供できる。							
	対象 (誰, 何に対し	て)		◆対象指標				
	市が管理する道路の		① 修繕必要延長					
	修繕必要延長 L=24	2						

			2
		実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
5 1 1 2	実施为容		③ 当該年度修繕 実施延長
		【平成29年度】 舗装修繕工事 N=26箇所 L=6,180m	4
			5
		平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	<b></b> 求果	当事業の実施により対象路線の路面状況が改善され、安定した走行性と安全性が確保できた。	6 修繕実施率(当 該年度) ⑦

	項目			27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 修繕必要延長	238,970	242,051		240,024	m	
		象	2						
			③ 当該年度修繕実施延長	11,523	8,930		6,180	m	_
	指標	活動	4						
事業費	1234	3/1	5						
費		成果	⑥ 修繕実施率(当該年度)	5	4		3	%	_
夕		果	7			] \			
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
の推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	323,415	279,180	252,450	223,895		
	費		事業費(a)	323,415	279,180	252,450	223,895	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.85	0.85		0.85	人	
		費	正職員人件費(b)	6,655	6,401		6,398		
		Ą	合計コスト(a)+(b)	330,070	285,581		230,293	千円	

事業番号	21701	事務事業名	道路舗装修繕事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

市内の道路状況は、社会資本整備のラッシュ時に施工されたもので、そのほとんどが損傷・劣化が著しく、毎年補修工事を実施してきたものの、まだまだ追いつかない状況にある。そのため、まず損傷・劣化路線の中でも幹線的役割をもつなどの優先度を つけて、順次修繕を進めるための事業を開始した。



近年、パトロールや要望による損傷箇所の発生件数が著しく増加し、一刻も早い舗装修繕が市民から求められている。

事	務事業の担当課評	価】					
	目的妥当性	ALT 0.5	Ealah ada e la la la ala e .	·			FET/T O 1° A 1 N
U	<ul><li>① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか?</li><li>☑ 貢献度 大</li><li>☑ 貢献度 小</li><li>☑ 基礎的事務事業</li></ul>						【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。
2	<b>対象や意図の範囲を見</b> ✓ できる □ できない	《理由》		<b>で費用対効果を上げ</b> を実施していくよう努め	ることができませんか?		☑ 適切 □ 見直す必要がある
	士林林						
3	<ul><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	<b>《理由》</b> 5	集中的に事業費 する限り永年実	費を投資して修繕を実 を施していかなければな	施していきたいが、舗装修繕 ならない。	は道路が存続	【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。 ☑ 適切
<b>(4)</b>	類似の目的(対象と思い □ ある 統合・連携か □ ある 統合・連携か ☑ ない	ができる	【類似事務事		務事業はありませんか?		│ □ 見直す必要がある
	効率性						
5	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある □ ない	《理由》			,削減するまでには至らない	١٠.	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。
【評	⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。						
今後	後の事務事業の方向	1性					
	□ 廃止 □ 事務事業統合	含∙連携		□ 事業完了 ☑ 現状維持		]事務事業の ]拡大	やり方改善
過去	に行った改善				現在の課題・問題点		
	P的に事業費を投資し Bが存続する限り永年				近年、パトロールや要望 一刻も早い舗装修繕がī		D発生件数が著しく増加し, ている。
今後	後の改善計画				期待される成果	新たに	必要なコスト
損傷順次	易・劣化路線の中でも 収修繕を進めたい。また 賃を充当させるために、	た、これまつ	ですべて一般	財源だった工事に、	安定した走行性と安全性	生が確保 いでは いて はなな しゅうしゅう しゅうしゅう しょうしゅ しょうしょ しょうしょ しょうしょ しゅうしゅう しゅうしゅう はいま しゅう はい しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅうしゅう しゅう	記計画を策定するための ●の費用がかかる。
評析	西(実績)等に関する	所属長所	見				所属長氏名
交通 が,	通量の増加, 通行車両	の大型化	などにより経っ		表修繕が間に合わない状; ∃常の点検を強化し,速や		茂泉善明

【総合計画体系】						
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担 当 部 課 : 建設部建設課					
第 1 節 円滑な道路環境の整備	<b>担 当。係 名</b> : 道路維持係					
第 7 項 舗装修繕計画及び橋梁の長寿命化修繕計画などによる維持管理	記入者名: 伊藤智則					
10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。	<b>電 話 番 号</b> · 23-8015 810-420					

#### 橋梁点検調査及び長寿命化修繕計画策定事業 事務事業名: 事業番号 21702

梑	<b>L法令·条例等</b> 道路法				-	会計		一般	
F	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	20 年度~	予	事業名	道路	S橋りょう維持補修経費	
ŧ	☑ 単年度繰返し				科	款	8	土木費	
阴	□ 単年度のみ実施	平成	年度		目	項	2	道路橋りょう費	
盯	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度		目	2	道路橋りょう維持費	
事	務事業の現状】					•			

## 意図(対象をどういう状態にしたいか)

#### 現在管理している橋梁の半数近くが40年以上経過しており、古いものでは90年近く経過したものもある。こうした橋梁は今後一斉に **的** 更新の時期を迎えることとなり危険度がかなり増し、財政状況への相当な圧迫に繋がる。そのため、現在の橋梁の状況を点検した上で健全度を正しく把握し、それらの修繕計画を策定し必要とされる対策を講じ、延命を図りつつ費用の縮減も図るものである。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 点検すべき橋梁 1 市が管理する市道の全橋梁 橋梁数 N=899橋 (2)

#### 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標

【平成28年度 明許繰越し】 橋梁定期点検の実施 橋長15m以上の橋梁 N=38橋

長寿命化修繕計画策定橋梁数 N=291橋 内

【平成29年度】 橋梁定期点検の実施 橋長15m以上の橋梁

N=76橋 橋長15m未満の橋梁 N=5橋

長寿命化修繕計画策定橋梁数 N=81橋

※橋梁点検(新要領) 1巡目→H26~H30

2巡目→H31~H35 3巡目→H36~H40

◆成果指標(把握する手段)

点検済み橋梁

計画策定済み

④ 橋梁数(新要

領)

(5)

数(新要領)

平成29年度の成果

果 市道橋梁119橋の定期点検を実施したことにより、橋梁の現況と健全度を把握することができた。

⑥ 事業進ちょく率(点 検対象橋梁)(累計) 計画策定率(累 7

計)

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成30年度
		対	① 点検すべき橋梁数	923	923		899	橋	899
		象	2						
		\- <u>-</u>	③ 点検済み橋梁数(新要領)	253	597		716	橋	899
	指標	活動	④ 計画策定済み橋梁数(新要領)	0	344		716	橋	899
事業費		293	5						
費		成	⑥ 事業進ちょく率(点検対象橋梁)(累計)	27	65		80	%	100
· 久		果	⑦ 計画策定率(累計)	0	37		80	%	100
各指標			国庫支出金		51,140	56,650	47,091		
標			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源		42,474	48,350	39,270		
	費		事業費(a)	0	93,614	105,000	86,361	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.50		0.50	人	
		費	正職員人件費(b)	2,349	3,765		3,764		
			合計コスト(a)+(b)	2,349	97,379		90,125	千円	

事業番号	21702	事務事業名	橋梁点検調査及び長寿命化修繕計画策定事業

7 = 76 = 4 + 75   1	
【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協	
1. サガサネケルソクトは児の友 16 で酸なこけならい息 かって ギーボ	ガ強川マチャノ 1人 カル・ル

この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 アメリカ国ミネソタ州で起きた大規模な橋梁の落橋事故がマスコ 平成19年度に長寿命化修繕計画策定事業費補助制度が創設 ミ等で報じられ、市民が自治体で管理する橋梁に不安を抱いた されたことを受け、事業を開始した。 ことは想像され、点検の実施とその対策に関心を持っている。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 □ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために □ 貢献度 小 貢献できているのか。 橋梁の修繕は永年続く事業である。 ✓ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? □ できる 《理由》 □ 見直す必要がある 橋梁の定期点検の実施等は法律で定められたものであり、対象や意図を変更す ✓ できない ることはできない。 ▶ 有効性 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 【評価のポイント】 《理由》 橋梁の定期点検の実施等は法律で定められたものであり、やり方・進め方を変 □ できる 効果大 現在のやり方で成果がでる のか。 □ できる 効果中 更することはできない。 ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 《理由》 現在のやり方をもっと安価 □ ある 橋梁の定期点検等は、国が定めた要領(方法)で実施しなければならないため、 ✓ ない にできないか。 削減の余地はないと考える。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 《理由》 □ ある □ 見直す必要がある 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 ☑ 現状維持 □ 事務事業統合・連携 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 716橋の橋梁については、長寿命化修繕計画の策定を完了してい るが、残りの183橋についても計画を策定しなければならない。ま なし た. 橋梁の定期点検は5年毎に実施しなければならず、必要に応じ て長寿命化修繕計画も見直ししていかなければならない。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト 予防的修繕を行うことで長寿命化 事業費を平準化するなど、橋梁の定期点検と長寿命化修繕計画の 並びに修繕及び架替費用の縮減なし 策定と見直しを計画的に実施していかなければならない。 を図れる。 評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名 5年毎の橋梁定期点検を確実に実施するとともに、長寿命化修繕計画に基づき早期に修繕が必要な橋

梁について事業(修繕工事)を計画的に実施していく。

茂泉善明

電話番号: 23-8015 810-420

#### 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 建設部建設課 第 1 節 円滑な道路環境の整備 担当•係名: 道路維持係 記入者名: 7 項 舗装修繕計画及び橋梁の長寿命化修繕計画などによる維持管理 伊藤 智則

#### **橋梁長寿命化修繕事業** 事務事業名:

10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。

事業番号 21703

事 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 23 年度~ 事業名 道路橋りょう維持補修経費	
業     ✓     単年度繰返し     款     8     土木費       科     次     2	
期 : □   単午度のみ実施   一十戌   午度   一   日   日   日   2   退路橋りよつ賞	
間 □ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度 日 2 道路橋りょう維持費	

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 老朽化した橋りょうを健全な状態に回復させ、安心・安全と橋りょうの延命化を図る。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 修繕計画橋梁 1 数 社会資本整備総合交付金による修繕計画橋梁 七日町1号橋(市道第一小前線)外7橋 (2) 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ 修繕実施橋梁 数(単年度) 施【平成28年度 明許繰越し】 内 修繕工事 七日町1号橋(市道第一小前線) 詳細設計 伊達ヶ森橋(市道師山伊達ヶ森線) ④ 修繕実施済橋 梁数(累計) 【平成29年度】 修繕工事 高剝橋(市道高剥線) 詳細設計 新堀橋(市道飯川矢目線) 詳細設計 鶴田大橋(市道志田谷地中央線) (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 事業進ちょく率 (累計) 果 橋りょう修繕工事のための調査設計業務を実施し、事業の促進を図った。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度	
		対	① 修繕計画橋梁数	7	7		8	橋	130	
		象	2							
		·	③ 修繕実施橋梁数(単年度)	0	1		2	橋	130	
+	指標	活動	④ 修繕実施済橋梁数(累計)	0	1		2	橋	130	
事業費		-73	5							
費		成	⑥ 事業進ちょく率(累計)	0	14	1 \ 1	25	%	100	
· 久		果	7							
各指標		事業費	国庫支出金		29,425	76,175	24,249			
標の			県支出金							
の推移			地方債	12,500	33,400	67,000	24,800			
移	総	費	その他							
	総事業費	事業	事業	一般財源	659	974	2,673	1,389		
	費		事業費(a)	13,159	63,799	145,848	50,438	千円		
		人件	正職員年間従事人員	0.60	0.60		0.60	人		
		費	正職員人件費(b)	4,697	4,518		4,516			
			合計コスト(a)+(b)	17,856	68,317		54,954	千円		

事業番号	21703	事務事業名	橋梁長寿命化修繕事業	

古攻古光ナルロ光ノ理体の本ルム学人	ナロレの辛日 亜田 切りをの止れ	77

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】
この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

橋梁定期点検により、修繕等が必要と判定されたため。

大崎市の橋りょうは、高度経済成長期(大阪万国博覧会の時 、期)から多くの橋りょうが建設されており、建設後50年以上経過 し経年劣化が進行した橋りょうの割合が今後増加する一方であ る。

【事務事業の担当課評価】				
◆ 目的妥当性				
① この事務事業は,総合計画へ	の貢献度は大きいですか?		<b>(</b>	平価のポイント】
☑ 貢献度 大 <b>《理由</b> □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業		り続く事業である。	総	合計画を実現するために 献できているのか。
	拡大・縮小することで費用対効果を上げる	ることができませんか?		通切
□ できる <b>《理由</b> ☑ できない	i》 橋りょうの保全は,施設が存続する限	り続く事業である。		] 見直す必要がある
◆ 有効性				
	変えることで成果を向上させることができ	ますか?	ſŝ	平価のポイント】
□ できる 効果大 <b>《理</b> 由 できる 効果中 ☑ できない・効果なし			現	在のやり方で成果がでる か。
	:は形態(イベントや啓発)を持つ他の事剤	8事業はありませんか?	······	<b>酒切</b>
□ ある 統合・連携ができる		マネはのグラビバル・	<sup></sup> :	□ 見直す必要がある
<ul><li>□ ある 統合・連携ができな</li><li>☑ ない</li></ul>				] 无色,必安尔-00-0
◆ 効率性				
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	を削減する方法はありませんか?		r 🗈	平価のポイント】
□ ある <b>《理</b> 由 ☑ ない		<b>ごきない</b> 。	現	在のやり方をもっと安価 できないか。
(6) コスト削減を阻害している要因	はありませんか。		·····i	<b>]適切</b>
□ある《理由			/ c	] 見直す必要がある
			<u>/</u>	
【評価の総括と今後の方向性	<u>:</u> ]			

【評価の総括と今後の方向性】				
今後の事務事業の方向性				
□ 廃止	□ 事業完了	□ 事務事	¥業のやり方改善	
□事務事業統合・連携	☑ 現状維持	口 拡大		
過去に行った改善		現在の課題・問題点		
なし		大崎市の橋りょうは、高度経済成ら多くの橋りょうが建設されており 化が進行した橋りょうの割合が今	建設後50年以上経過し経年劣	
今後の改善計画		期待される成果	新たに必要なコスト	
すべての橋りょうについて長寿命化修繕計画	を早期に策定する。	予防的修繕を行うことで橋りょう の長寿命化と修繕や架替費用のなし 縮減を図ることができる。		
評価(実績)等に関する所属長所見			所属長氏名	
5年毎の橋梁定期点検を確実に実施するとと 梁について事業(修繕工事)を計画的に実施し	茂泉善明			

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり

担当部課: 建設部建設課

担当・係名: 道路維持係

## 【総合計画体系】

第 1 節 円滑な道路環境の整備 第 7 項 舗装修繕計画及び橋梁の長寿命化修繕計画などによる維持管理

記入者名: 伊藤智則 電話番号: 23-8015 810-420 10年後の望ましい姿: だれもが安心して移動できる道路になっている。

社会資本整備道路修繕事業 事務事業名:

事業番号 21704

根拠	<b>℡法令·条例等</b> 道路法				
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	
業	□ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	☑ 期間限定複数年度	平成 2	5 年度~平成	33 年度	

	会計	:	<b>一般</b>
予		·	722
7	事業名	社会	:資本整備道路修繕事業
科	款	8	土木費
114	項	2	道路橋りょう費
_	目	2	道路橋りょう維持費

【車務車業の現状】

<u>. L</u>	事務争耒の現状』	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
Ē	社会資本整備総合交付金を活用し、これまでの簡易的補修の繰返しによる平坦性と走行性に劣る道路と、事故に ラックの生じている路面状況を修繕することで、安定した走行性と安全性が確保でき、安全で安心な道路環境を抗	こ繋がりかねないク 是供できる。
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標
	市が管理する道路のうち、社会資本整備総合交付金による修繕対象路線	① 計画全延長
	市道蟻ケ袋線外4路線 計画延長 L=7,182.2m	2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
写於口名		③ 当該年度の実 施延長
1	【平成29年度】 市道飯川耳取線外1路線 施工延長 L=410.8m 市道北小牛田·涌谷線 施工延長 L=860.0m	④ 実施延長(累計)
		(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
月月	▼	⑥ 事業進ちょく率 (累計)
		7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成33年度
		対	① 計画全延長	6,090	6,108		7,182	m	7,182
		象	2						
			③ 当該年度の実施延長	565	1,289		1,271	m	_
	指標	活動	④ 実施延長(累計)	565	1,854		3,125	m	7,182
事業費		2/)	5						
費	成 果	成	⑥ 事業進ちょく率(累計)	8	26		44	%	100
夕		果	7			\			
各指標			国庫支出金	51,868	40,040	44,000	40,565		
			県支出金						
の推		事業	地方債	48,000	31,100	28,900	32,200		
移	総	事 業 費 書	その他						
	事業		一般財源	1,101	1,680	1,589	1,724		
	費		事業費(a)	100,969	72,820	74,489	74,489	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.25	0.25		0.25	人	
		費	正職員人件費(b)	1,957	1,883		1,882		
			合計コスト(a)+(b)	102,926	74,703		76,371	千円	

事業番号	21704	事務事業名	社会資本整備道路修繕事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

市内の道路状況は、社会資本整備のラッシュ時に施工されたものでそのほとんどが損傷・劣化が著しく、毎年補修工事を実施してきたもののまだまだ追いつかない状況にある。そのため、まず損傷・劣化なおがけるものをといるとの優先度をつけ て、順次修繕を進めるための事業を開始した。



近年、パトロールや要望による損傷箇所の発生件数が著しく増加し、一刻も早い舗装修繕が市民から求められている。

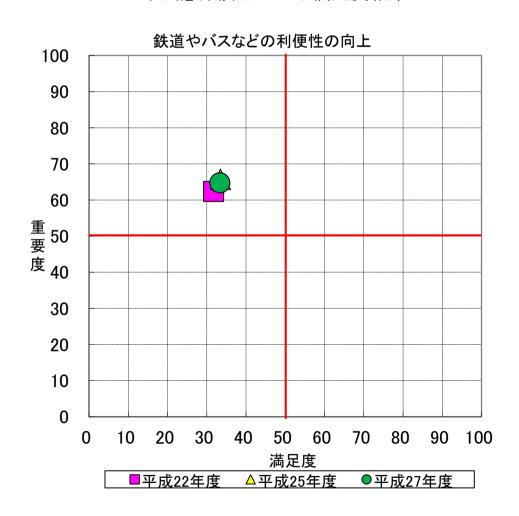
【事	務事業の担当課評	価】							
	目的妥当性								
①	この事務事業は、総合	計画への貢献	(度は大きい	ですか?				【評価のポイント	.]
<ul><li>✓ 貢献度 大 《理由》</li><li>□ 貢献度 小 10年後の望ましい姿と合致する。</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>								総合計画を実現 貢献できているの	
2	対象や意図の範囲を見		☑ 適切	5.18th 7					
		<b>《理由》</b> 計画	画的に修繕を	実施していくよう努め	oa.			□ 見直す必要	きかめる
<b>♦</b>	有効性								
3	事務事業のやり方・進め	め方を変えるこ	ことで成果を「	句上させることができ	ますか?			【評価のポイント	-]
□ できる 効果大 □ できる 効果中 □ できる 効果中 □ できる 効果中 □ できない・効果なし □ できない・効果なし							۲,	現在のやり方で のか。 <b>✓ 適切</b>	成果がでる
<b>(4</b> )	類似の目的(対象と意思	図)または形態	夏(イベントや)	啓発)を持つ他の事	務事業はありませんか?		/	) — ' '	
•	□ ある 統合・連携が							□ 見直す必要	<b>・</b> ポカス
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>☑ ない</li></ul>			K-11				□ 元直9必多	ເນ.ຜາ
	効率性								
	現状の成果を下げずに	・車業費を削減	する方法は	ありませんか?				【評価のポイント	.1
•	口ある	・ 子不見を 門が	47 0717416	0)76 E70N .					-
	_	– – "			Walter L 7 L - 1 - 1 - 7 - 5 6 .		<b>\</b>	現在のやり方を	もつと女価
		右1	├の工法の見	見しは考えられるか	,削減するまでには至らなし	, <b>\</b> <sub>0</sub>		にできないか。	
							······	√ 適切	
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	る要因はあり	ませんか。					) —	
•	□ <b>b</b> a	《理由》	0					□ 見直す必要	<b>・パ</b> なス
	<b>—</b>	<b>《华田</b> 》						□ 元直9必多	とからの
							/		
		<u> </u>					! <b>/</b>		
【評	価の総括と今後のフ	方向性】							
今往	後の事務事業の方向	1性							
	□ 廃止		Г	」事業完了	Г	┐ 事務事	業のも	やり方改善	
	□ 事務事業統合	े•連携		☑ 現状維持		□ 求祝す □ 拡大	- >(-)	, ,,,,,,,,,	
過去	************************************				現在の課題・問題点				
道路	P的に事業費を投資し 各が存続する限り永年				一刻も早い舗装修繕が	市民からオ	えめられて	ている。	しく増加し,
今後	後の改善計画				期待される成果		新たに	必要なコスト	
	易・劣化路線の中でも ₹を進めたい。	幹線的役割を	そもつなどの	優先度をつけて,	安定した走行性と安全! でき、安全で安心な道路 供できる。		なし		
評值	西(実績)等に関する	所属長所見						所属長氏名	i
が,					装修繕が間に合わない状 管理と更新事業の一体的			茂泉善	明

## 第2章

## 第2節 快適に暮らせる公共交通の充実・強化

- 4 鉄道,路線バス,地域内交通など,本市に係るすべての公共交通が一体となって 機能する公共交通ネットワークの構築
- 2 隣接市町村との連携による市域を越えた交通需要への対応
- 3 交通体系の改善につながる幹線・準幹線道路の整備
- 4 公共交通施設の環境整備
- 5 公共交通利用を促進するための啓発活動の推進

#### 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度	平成25年度	平成27年度
重要度(%)	62.34	65.69	64.70
満足度(%)	31.76	33.48	33.35

#### 【総合計画体系】

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 2 節 快適に暮らせる公共交通の充実・強化

**1** 鉄道、路線バス、地域内交通など、本市に係るすべての公共交通が一体となって機能する公共交通ネットワークの構築

10年後の望ましい姿: 公共交通を利用して各地域に移動できるようになっている。

担 当 部 課: 市民協働推進部まちづくり推進課

23-5069 810-139

担当•係名: 公共交通担当 記入者名: 福原 貴之 電話番号:

地域交通対策経費 事務事業名: 事業番号 22101

根拠	<b>!法令·条例等</b>   大崎市地	域公共交通活	5性化協議会設	置規則	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	
業	☑ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度	

	会計		一般
予	事業名	地均	<b>i</b> 交通対策経費
科	款	2	総務費
17	項	1	総務管理費
_	目	18	地域交通対策費

【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか) **的** 公共交通ネットワークが市内に構築され、公共交通を利用する人が多くなる。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 65歳以上の高 齢者人口 市民(高齢者, 学生, 子どもなど, 自ら自動車の運転ができない等, 交通手段を持たない交通弱者)及び観光客 小中学校の児 童生徒数 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ 年間補助額 ・廃止代替バス8路線(鳴子線, 大貫線, 松山鹿島台線, 宮沢真山線, 高倉線, 三本木大衡線, 古川線, 清滝線) 施 の維持確保のため、運行事業者に対して経常経費から運賃収入を差し引いた赤字分の欠損補助を行った。 ・平成30年4月より廃止代替バス路線の運行ダイヤの見直しやバス停の追加を行うとともに、鳴子線、大貫線、 松山鹿島台線, 宮沢真山線, 高倉線, 三本木大衡線, 清滝線の運賃を初乗り100円に運賃統一を行った。 ・平成29年10月より、中心市街地の交通空白地域の解消や、中心市街地の賑わいの創出、通学、通院、買い **(4**) 物、観光客の移動手段として、中心市街地循環便の実証運行を本格運行へ移行した。 ・平成30年4月より中心市街地循環便の運行ダイヤの見直しやバス停の追加を行った。 ・平成30年4月に市民バスの利用促進と認知度向上を図るため、市民バスマップ・総合時刻表を作成し全戸配布 を行った。 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 廃止代替バス利 本市の公共交通のマスタープランとなる大崎市地域公共交通網形成計画に基づき事業を推進することができ 用者数 た。また、市民バスマップ・総合時刻表を作成し、市民バスの利用促進と利便性の向上を図ることができた。 7

	•								
			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 65歳以上の高齢者人口	36,436	37,136		37,774	人	38,921
		象	② 小中学校の児童生徒数	10,565	10,220		10,022	人	9,284
			③ 年間補助額	79,813	78,660		103,863	千円	109,000
		活動	4						
事業費		2/)	5						
費		成 果	⑥ 廃止代替バス利用者数	178,073	184,946		186,502	人	200,000
夕			7			\			
各指			国庫支出金						
標			県支出金	4,700	4,523	3,646	4,811		
が推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	75,292	75,086	100,901	99,368		
	費		事業費(a)	79,992	79,609	104,547	104,179	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	87,821	87,139		111,706	千円	

事業番号	22101	事務事業名	地域交通対策経費

## 【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

国の規制緩和政策によって、乗合バス事業への参入障壁が低くなったものの、バス事業からの撤退が増加し、市民の生活交通 手段の確保を行政が担うことになった。

市民が安心して日常生活が営めるような通院・通学、買い物等が容易にできる公共交通サービスの提供を要望されている。また、公共交通の結節点である古川駅での乗継や、循環便などへの乗継がスムーズにできるよう運行ダイヤの見直しなどの要望 がある。

•	務事業の担当課評	価】				
	目的妥当性					
Œ	<b>この事務事業は、総合</b> ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	要な	評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。			
2	対象や意図の範囲を見 □ できる		<ul><li>✓ 適切</li><li>✓ 見直す必要がある</li></ul>			
	☑ できない		録を同上させることで、負 は減少や自動車保有者の増加	:用対効果を上げることはできるが,現身 ロから困難である。 	€的 /	
	有効性					
		<b>ム士七亦シスーレ</b> で	成果を向上させることができ	キナかっ	,	[評価のポイント]
<b>3</b>			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>☑ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>	体で公共	!持確保を図るため,事業者 :交通を支える仕組みを構築 えている。	・市民・行政が三位一体となり、地域社: することができれば、成果向上の可能!!	会全性は	見在のやり方で成果がでる ひか。
	_	······				☑ 適切
4	類似の目的(対象と意	図)または形態(イ/	ペントや啓発)を持つ他の事	<b>務事業はありませんか?</b>		<u>v</u> , <u>22.73</u>
Ū	✓ ある 統合・連携が	できる 【類似	事務事業名】 地域内交通	支援経費		□ 見直す必要がある
	ある 統合・連携が	「できない 《理由》	この事業は、地域内路線を	維持確保するための事業であるが、当	事業	
	□ ない		との連携を図りながら、より	使いやすく効率的な公共交通を構築す	る。 /	
		*				
	効率性					
	現状の成果を下げずに	事業費を削減する	方法はありませんか?			評価のポイント】
•	□ ある	《理由》	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			現在のやり方をもっと安価
	□ www.		(者の新規参入がない限り困	難である。		こできないか。
	<b>&amp;</b>	2017-7	( L			
		<b>!</b>			i	☑ 適切
ഭ	コスト削減を阻害してい		6th.			V 15.71
•	□ as	《理由》	0.00			□ 見直す必要がある
	_					
	↓ <b>/</b> 731.\					□ 元直》处安4.00℃
	ない					□ 无直》必要从"必须
	✓ Tall	:				□ 无良,必女从の心
<b>7</b> = 3		左向性1				□ 元直》必安かの心
	価の総括と今後のフ					□ 元直》必安かのも
	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向		口 東挙空了	□ 東教		
	価の総括と今後のス 後の事務事業の方向 □ 廃止	]性	□ 事業完了	□事務事		
	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向	]性	□ 事業完了	□ 事務 <b>事</b> ☑ 拡大		
今征	価の総括と今後のス 後の事務事業の方向 □ 廃止	]性				
今征過去	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善	計畫	□ 現状維持	現在の課題・問題点	業のや	り方改善
一 過 ·古	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善	計畫	□ 現状維持	☑ 拡大 現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の約	事業のや	り方改善
<b>今</b> 後 過去 ·古 22年	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 □ 地域と古川地域以終  1月)	性 合・連携 外を結ぶ幹線路線	□ 現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とな	事業のや	り方改善 の古川駅停留所などの、また一部の路線で初乗
今後 過去 ·古 22年 ·大	価の総括と今後の7	性 ・連携 外を結ぶ幹線路線 に伴い、幹線路線	□ 現状維持	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要となり運賃が違い、利用者から分かり	事業のや	り方改善 の古川駅停留所などの、また一部の路線で初乗
今後 過去 ·古 22年 ·大	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 □ 地域と古川地域以終  1月)	性 ・連携 外を結ぶ幹線路線 に伴い、幹線路線	□ 現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とな	事業のや	り方改善 の古川駅停留所などの、また一部の路線で初乗
今後 ・古22年 ・ 大便	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 川地域と古川地域以祭  1月) 崎市民病院本院移転 に変更(平成28年10月)	性 ・連携 外を結ぶ幹線路線 に伴い、幹線路線	□ 現状維持	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とが り運賃が違い、利用者から分かりい い運賃体系の統一が課題となって	ま業のや きゅうにいる こくいというこくいという。	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす
今後 ・古22年 ・ 大便	価の総括と今後の7	性 ・連携 外を結ぶ幹線路線 に伴い、幹線路線	□ 現状維持	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とが り運賃が違い、利用者から分かりい い運賃体系の統一が課題となって	ま業のや きゅうにいる こくいというこくいという。	り方改善 の古川駅停留所などの、また一部の路線で初乗
過 古空大便	「価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 川地域と古川地域以終 乗1月) 崎市民病院本院移転 ご変更(平成28年10月) 後の改善計画	性   ・連携   小を結ぶ幹線路線  に伴い、幹線路線   を行った。	□ 現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とが り運賃が違い、利用者から分かりい い運賃体系の統一が課題となって 期待される成果	ま業のや きゅうにいる こくいというこくいという。	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす
今 過 ・ 立 立 之 ・ 使 今 幹 計	個の総括と今後の7 多の事務事業の方向	性・連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総のを行った。  或内路線を基軸と分かりやすい運賃	□ 現状維持  ② 現状維持  ② のルートの見直し(平成  ② の一部を市民病院経由  ② し、地域公共交通網形成 体系の設定について、市	☑ 拡大 現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とが り運賃が違い、利用者から分かりい に運賃体系の統一が課題となって 期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理さ	ま業のや きゅうにいる こくいという。	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす
今 過 ・22・便 今 幹計民	個の総括と今後の7 多の事務事業の方向	性・連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総のを行った。  域内路線を基軸と分かりやすい運賃・協議を行っている	□ 現状維持  □ 現状維持  □ のルートの見直し(平成  □ の一部を市民病院経由  □ ・地域公共交通網形成 体系の設定について、市。また、市民や市外から	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性	事業のや ま節点となる。 こいる。 新たに必 統一運賃	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト
今 過 ・22・便 今 幹計民訪	個の総括と今後のフ 多の事務事業の方向	性・連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総を行った。  或内路線を基軸と分かりやすいていくとまれるインバウン	□ 現状維持  □ 現状維持  □ のルートの見直し(平成  □ の一部を市民病院経由  □ し、地域公共交通網形成 体系の設定について、市 。また、市民や市外から バへの対応など、分かり	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性の向上と利用者の増加が見込ま	事業のや ま節点となる。 こいる。 新たに必 統一運賃	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト
今 過 ・22・便 今 幹計民訪	個の総括と今後の7 多の事務事業の方向	性・連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総を行った。  或内路線を基軸と分かりやすいていくとまれるインバウン	□ 現状維持  □ 現状維持  □ のルートの見直し(平成  □ の一部を市民病院経由  □ し、地域公共交通網形成 体系の設定について、市 。また、市民や市外から バへの対応など、分かり	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性	事業のや ま節点となる。 こいる。 新たに必 統一運賃	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト
一	価の総括と今後の7 後の事務事業の方向	性 ・連携 外を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総のを行った。 域内路線を基軸とのよいでしているとはあるです。 はは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	□ 現状維持  □ 現状維持  □ のルートの見直し(平成  □ の一部を市民病院経由  □ し、地域公共交通網形成 体系の設定について、市 。また、市民や市外から バへの対応など、分かり	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性の向上と利用者の増加が見込ま	事業のや ま節点となる。 こいる。 新たに必 統一運賃	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト にした場合に発生する 額分の負担が生じる。
一	個の総括と今後のフ 多の事務事業の方向	性 ・連携 外を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総のを行った。 域内路線を基軸とのよいでしているとはあるです。 はは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	□ 現状維持  □ 現状維持  □ のルートの見直し(平成  □ の一部を市民病院経由  □ し、地域公共交通網形成 体系の設定について、市 。また、市民や市外から バへの対応など、分かり	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性の向上と利用者の増加が見込ま	事業のや ま節点となる。 こいる。 新たに必 統一運賃	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト
今 過 古25大便 今 幹計民訪や 評	価の総括と今後のフ 多の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 川地域と古川地域以終 1月) 崎市民病院本院移転 で変更(平成28年10月) ・ の改善計画 ・ はいる。	性 連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総のを行った。  或内路線を基軸と分が議を行った。  或内路線を基準優になる環でできない。  所属長所見	□ 現状維持 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性の向上と利用者の増加が見込まれる。	事業のや ま節点となる。 こいる。 新たに必 統一運賃	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト にした場合に発生する 額分の負担が生じる。
今 過・22・便 今 幹計民訪や 評 市	価の総括と今後の7 ★の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 川地域と古川地域以終 1月) 時市民病院本院移転 で変更(平成28年10月) の改善計画 線路線,広域路線,地域 が、広域路線,地域 が、大観光でいる。が ないる。が ないる。が ないる。が ないません。 はいてに関する はいて、(廃止代替バス)	性 連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総に伴い、幹線路総に伴い、大きにかりを行った。  或内路線を手ででした。  或内路線を基軸運動では、大きによる環境を整理した。  所属長所見  は、市中心部とき	□ 現状維持  ② 現状維持  ② のルートの見直し(平成 ② の一部を市民病院経由 ② し、地域公共交通網形成(体系の設定について、市。また、市民や市外から、バへの対応など、分かりしていく。	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終 乗継や待合環境の整備が必要とが り運賃が違い、利用者から分かりい 運賃体系の統一が課題となって 期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性 の向上と利用者の増加が見込まれる。	ま の や ま かっとなる。	リ方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗う意見もあり、分かりやす要なコスト にした場合に発生する額分の負担が生じる。  所属長氏名
今 過・22・便 今 幹計民訪や 評・市き	「価の総括と今後の7 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統名 はに行った改善 川地域と古川地域以終 乗1月) 崎市民病院本院移転 で変更(平成28年10月) 崎の改善計画 泉路線、広域路線、地域の中で掲げていたり、 がスの統一運賃に向ける いた観光客やすい乗継り に入り、 で利用しやすい乗継り に大利用しやすい乗継り に大利用したすい乗継り に大利用したすい乗継り に大利用したすい乗継り	性・連携  小を結ぶ幹線路総に伴い、幹線路総に伴い、た。  域内内路線を打つている。  域内の路域を行っている。  域内の路域を行っている。  域内の路域を行っている。  は、前角、 市 見 部ときる。 は、・確保している。	□ 現状維持  ② 現状維持  ② のルートの見直し(平成  ② の一部を市民病院経由  ② し、地域公共交通網形成 体系の設定について、市。また、市民や市外から 、ずへの対応など、分かり していく。  ③ いばをつなぐ本市公共交 また、市民バスの利用促  ※ もかまた、市民バスの利用促	現在の課題・問題点 市民バスと中心市街地循環便の終乗継や待合環境の整備が必要とがり運賃が違い、利用者から分かりい運賃体系の統一が課題となって期待される成果 運賃体系が分かりやすく整理され、気軽に乗れることで、利便性の向上と利用者の増加が見込まれる。	ま の や ま かっとなる。	り方改善 る古川駅停留所などの。また一部の路線で初乗 う意見もあり、分かりやす 要なコスト にした場合に発生する 額分の負担が生じる。

#### 【総合計画体系】

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 2 節 快適に暮らせる公共交通の充実・強化

**1** 鉄道、路線バス、地域内交通など、本市に係るすべての公共交通が一体となって機能する公共交通ネットワークの構築

10年後の望ましい姿: 公共交通を利用して各地域に移動できるようになっている。

担 当 部 課: 市民協働推進部まちづくり推進課

担当•係名: 公共交通担当 記入者名: 鹿野 寛哉

電話番号: 23-5069 810-138

#### グループタクシー運行事業 事務事業名:

事業番号 22102

根拠法令・条例等 大崎市グループタクシー事業実施要綱		会計	
<b>事</b> 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 22 年度~	予	事業名	グル
業 ☑ 単年度繰返し	科	款	2
期 □ 単年度のみ実施 平成 年度		項	1
間 □ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目	18

	会計		一般
予	事業名	グル	ープタクシー運行事業
异刻	款	2	総務費
目	項	1	総務管理費
	目	18	地域交通対策費

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

公共交通の利用が不便な地域に居住する交通弱者がグループでタクシーを共同利用する際に、タクシー利用助成券を交付し、支払う 運賃等の一部を助成することにより、日常生活の利便性の向上と社会活動の拡大に資することを目的とする。

#### 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 古川地域(東大崎地区,富永地区)及び三本木地域の住民で,自宅から最寄のバス停(鳴子,宮沢真山,清滝, 古川,大貫線,三本木大衡線)までの距離が800m以上ある満65歳以上の高齢者。※ただし,高齢者タクシー 交付要件該当 (1) . 者数 利用助成券、高齢者福祉有償運送利用助成券、障害者福祉タクシー利用券、心身障害者自動車等燃料費助成 券, 重度障害者福祉有償運送利用助成券の交付を受けている人は除く。 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ 申請者数 施 ・交付申請に当たっては、2人以上のグループを作ることが要件。 内 ・交付要件を満たす場合、1人当たり600円の利用券を年間24枚(14,400円分)交付する。 (申請月が5月以降の場合、1月当たり2枚ずつ減じて交付) ・2人以上で乗り合わせる場合に、1乗車につき1人1枚の利用券を利用できる。 交付要件該当 ④ 者数に対する申 ・1カ月の利用枚数に制限はない。 請率 ・三本木地域で実証運行を行った地域内交通が本格運行に至らなかったため, 平成27年度から三本木地域も 対象とした。 (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ·申請者数 149人 ⑥ 利用率 …距離要件を満たす人口2,800人×高齢化率30%=840人に対する申請率=17.7% ・実利用者数 115人(申請者の77.1%) ⑦ 利用額 •利用額 1, 153, 800円(予算額2, 448, 000円に対する執行率47. 1%)

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 交付要件該当者数	840	840		840	人	
		象	2						
		活動	③ 申請者数	117	135		149	人	_
	指 標		④ 交付要件該当者数に対する申請率	14	16		18	%	<del>-</del>
事業費	15.55		5						
費		成 果	⑥ 利用率	37	56		47	%	_
夕			⑦ 利用額	894	1,013	\	1,154	千円	—
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
が推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	933	1,052	2,494	1,191		
	費		事業費(a)	933	1,052	1,191	1,191	千円	
		人件費	正職員年間従事人員	0.16	0.16		0.16	人	
			正職員人件費(b)	1,253	1,205		1,204		
			合計コスト(a)+(b)	2,186	2,257		2,395	千円	

事業番号	22102	事務事業名	グループタクシー運行事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

公共交通再編の中で、各地域において地域内交通運行に向けての協議を進めているが、地域内交通が実施されない交通不便地区における交通弱者対策について検討する必要があり、実証 実験として事業開始したもの。

他人と予定を合わせることの難しさはあるものの、夫婦、親戚、知人との利用頻度が高くなっている。引き続き、ニーズ調査を行いながら、制度の見直し等を検討していく。

【事	事務事業の担当課評価】							
<b>♦</b>	目的妥当性							
①	この事務事業は、総合	計画への	貢献度は大きいで	すか?			【評価のポイント】	
	□ 貢献度 大	《理由》				\	総合計画を実現するために	
	☑ 貢献度 小		対象地区限定とな	ころが、交通弱者の利	多動がスムーズになった。		貢献できているのか。	
	□ 基礎的事務事業	ĺ	71 M-0 - 12.22		9300 ME. 711 - 0 1 - 0		73,132	
		i					☑適切	
2	対象や意図の範囲を見	.直し, 拡	大・縮小することで	費用対効果を上げる	ることができませんか?			
	🗹 できる	《理由》	·	na	"" '		│ □ 見直す必要がある	
	<u>ー</u> 口 できない			<b>≦しを行うことで、ロ</b> 音	常生活への支援や市民バ	スの利用促進か	_ = ===	
		İ	図られる。				/	
	;	i				i J		
_	有効性							
		* <del>* * * * *</del> *	ファリーの中国ナウ	・・・・・・フーしょとって中。	++1, 6		7==/IT @ 12	
(3)	事務事業のやり方・進め	<u> </u>	[ ることで以来を回	上させることかでき	まずか?		【評価のポイント】	
		《理由》	亜州の改善等で5	成百の向上け期待で	きるが, 地理的条件等の	毎野がなる制度 ▮	現在のやり方で成果がでる	
	☑ できる 効果中		となっている。	至友の川上は初刊 へ	さるが、地理が不正すい	林思ルののでは	<b>○</b> のか。	
	□ できない・効果なし		C/3 / CV 00					
							│ □ 適切	
<b>(4</b> )	類似の目的(対象と意図	劉)または	・形能 (イベントや原	(発)を持つ他の事系	<b>  車単けありませんか?</b>			
•							<b>✓</b> 見直す必要がある	
			•	白』 同断日ファノ	一利用助队分守		/ ☑ 兄直9必安//のつ	
	□ ある 統合・連携が	できない	《埋田》				/	
	□ ない						1	
<b>♦</b>	効率性							
	現状の成果を下げずに	事業費を	削減する方法はあ	らりませんか?			【評価のポイント】	
~	□ ある	《理由》	133477	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			現在のやり方をもっと安価	
	<b>□</b> める <b>▽</b> ない	# <del></del> #	事業費は適切であ	ニスレ老ラブいる			にできないか。	
	₹ Ar,		尹未貝は処別(0	りのと方んしいる。			15 55 45 10 10	
		<u></u>					<b>-</b>	
							│ ☑ 適切	
6	コスト削減を阻害してい	る要因は	:ありませんか。					
	□ ある	《理由》					/ □ 見直す必要がある	
	√ ない							
	-						/	
	;	i				! /		
「●亚	<b>圧の処任し合終の</b> で	-						
	価の総括と今後のプ							
712	後の事務事業の方向	作生		・ま光ウラ		一丰沙市业人	~ 15.11 <del>- 1.   -  </del>	
	□ 廃止			事業完了		□ 事務事業の	)やり万改善	
	□ 事務事業統合	҈∙連携		<b>!現状維持</b>		□ 拡大		
:四土	に行った改善				現在の課題・問題点			
迴乙	に打つに以告				現住の味起 回起点			
利用	券の助成額, 交付枚	数の検言	†・改善を行った。		要件緩和等による利便	<b>手性の向上。</b>		
1 3.	191 + P31 P4 HACE 1	20.00	) ~ E C		X11 11X1 B 31 - 5 - 5 - 1	CIT-551.3—0		
						٠		
今後	後の改善計画				期待される成果	新たり	こ必要なコスト	
市民	要望を精査した上で、	. 交付対	象となる距離要例	4の緩和等を検討	ナマ四本の批文	相中	1 1 + 1 1	
市民要望を精査した上で、交付対象となる距離要件の緩和等を検討 していく。						怨疋し	していない。	
_	~ ~~ 10							
評価(実績)等に関する所属長所見							所属長氏名	
計画(天根/守に) 第90 が周女が兄						別馬女八石		
地域内交通を補完する制度として,利用しやすい条件整備の検討を行いながら,引き続き事業を推進し					薬を推進し	大 場 一 浩		
ていく。							70 70	

公共交通担当

#### 【総合計画体系】

事務事業名:

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担 当 部 課: 市民協働推進部まちづくり推進課 第 2 **節** 快適に暮らせる公共交通の充実・強化 担当•係名:

記入者名: 福原 貴之 10 鉄道、路線バス、地域内交通など、本市に係るすべての公共交通が一体となって機能する公共交通ネットワークの構築 電話番号: 23-5069 810-139

年度

10年後の望ましい姿: 公共交通を利用して各地域に移動できるようになっている。

事業番号 22103

根拠法令 条例等 大崎市地域公共交通活性化協議会設置規則 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 23 年度~ 業 ☑ 単年度繰返し 期 📗 単年度のみ実施 平成 年度

年度~平成

地域内交通支援事業

_	会計 一般							
予	事業名	地均	<b>找内交通支援事業</b>					
科	款	2	総務費					
117	項	1	総務管理費					
	目	18	地域交通対策費					

【事務事業の現状】

間 川 期間限定複数年度

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

平成

バス利用者の運賃負担による画一的な運行には限界があることから、行政の費用負担、地域住民と行政との協働によって、地域に適 した地域内交诵を確保・整備する。

#### 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 65歳以上の高 齢者人口 交通弱者(高齢者や子どもなど、自ら自動車の運転ができない等、交通手段を持たない市民)及び市民 小中学校の児 童生徒数 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ・地域が運営主体となり、地域住民で組織する運営委員会が住民のニーズに合ったコミュニティタクシー等の運 行計画を策定する。 ③ 年間補助額 ・運営委員会に対して市が補助金を交付し、運営委員会が地域内の事業者に運行を委託する。 施 ※この事業は住民、事業者、行政が三位一体で取り組むもので、行政は、地域住民が地域内での移動を地域課 内 題として捉え、主体的な取り組みが行われるよう補助金を交付し支援している。 ・補助金交付の条件として,運行計画の目標である乗車率・収支率15%を達成するよう努めるものとなってい **(4**) 本格運行開始 平成24年10月~ 平成25年 4月~ 岩出山地域 平成25年10月~ 鹿島台地域, 鳴子温泉地域鬼首地区 平成26年10月~ 松山地域 (5) ・古川地域の清滝地区での導入に向けて、地域住民で組織した検討委員会及び事業者であるタクシー協会大崎 支部との協議、意見交換を実施した。 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 運行を開始した 5地域において継続的に地域内交通が運行され、地域住民の生活交通が確保された。また、古川地域の清滝地 地域の数 果 区については、地域内交通の導入に向け関係機関等と協議を行っている。

協議中の地域  $\overline{7}$ の数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 65歳以上の高齢者人口	36,436	37,136		37,774	人	38,921
		象	② 小中学校の児童生徒数	10,565	10,220		10,022	人	9,284
			③ 年間補助額	35,350	34,838		36,387	千円	105,500
_	指 標	活動	4						
事業費		3/1	5						
費		成 果	⑥ 運行を開始した地域の数	5	5		5	地域	7
• 夂			⑦ 協議中の地域の数	0	1		1	地域	0
各指			国庫支出金						
標の			県支出金		170	184	159		
の推		事業費	地方債	8,900	8,300	11,300	11,300		
移	総	費	その他	3,625	4,353	2,000	4,716		
	総事業費		一般財源	22,893	22,032	23,058	20,212		
	費		事業費(a)	35,418	34,855	36,542	36,387	千円	
		人 件 費	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
			正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	43,247	42,385		43,914	千円	

事業番号	22103	事務事業名	地域内交通支援事業

## 【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

地域内交通の運行維持は、行政による費用負担やバス利用者 の運賃負担に限界があることから、地域住民と行政との協働に よって、地域に適した地域内交通を整備する必要があるため。

### 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

各地域の運営委員会が主体となり、運行事業者、行政の協働により地域実情に合った運行を行ってきた。乗車率・収支率の達成に向け、地域住民に対する啓発活動や、運行計画の改善等を随時行っているものの、利用者からはより利便性の高い運行を望む声が寄せられている。特に地域外への運行については、委託業者以外のタクシー事業者、バ ス事業者、近隣自治体等との調整や交通結節を考慮した上での仕組 みづくりが必要となる。

【事	務事業の担当課評	価】							
<b>♦</b>	目的妥当性								
1	この事務事業は、総合	計画への	貢献度は大き	いですか?				【評価のポ	イント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》	魅力あるまち <sup>・</sup> 事業である。	づくりのため, 快適に暮	暮らせる公共交通の充実・引	<b>蛍化を図る重要</b>	な		を実現するために 「いるのか。
	◎ 사色小奈岡の笹田も目声! サナ・炉小ナス・レス幕田社林田もしばスーレポスキナル/ かっ							☑ 適切	
② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか?									L N == 10L =
		《理由》		知され, 利用者が増加 額を下げることが可能	することによって, 運賃収え となる。 	入が上がり, 結	果	□□見直3	†必要がある
<b>•</b>	有効性								
	事務事業のやり方・進め	め方を変え	えることで成果	を向上させることがで	きますか?			【評価のポ	イント】
•	□ できる 効果大	《理由》					·····		リカで成果がでる
	<ul><li>☑ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>		各地域の公共 を向上させる。		の情報交換により,啓発活	動を進め、利用	用率	のか。	773 C1%, X13 C U
•								□適切	
4)					務事業はありませんか?				L
	<ul><li>✓ ある 統合・連携が</li><li>□ ある 統合・連携が</li><li>□ ない</li></ul>	できる 「できない	【類似事務 <b>《理由》</b> この 事業 る。	事業は、廃止代替バス8路線	東及び中心市街地循環使の運行を E図りながら、より使いやすく効率	を維持確保するた。 的な公共交通を構	めの 禁す	☑ 見直す	す必要がある
	効率性								
	現状の成果を下げずに	・車巻毒た	割減する士法	けなりませんか?				【評価のポ	A.1
9		・デネ貝で 《理由》	門順サる刀法	はめりませんか:			······! \		-
	<b>☑</b> ある	《理田/	利田老大協加	1+42-61-611 <b>-</b> 7	トの削減は可能である。		<b>\</b>	現在のやり	)方をもっと安価
	口ない		利用名を増加	でせることにより、コス	トの削減は可能である。			ic Ceau	·/J · <sub>0</sub>
_								□適切	
6	コスト削減を阻害してい		ありませんか。	0				/ 	L 50 1 6 L
	□ ある	《理由》						☑ 見直3	す必要がある
	ない						/		
7 =	·								
	価の総括と今後のプ								
71	<u>後の事務事業の方向</u> □ 廃止	川土		口事業ウフ		□ 事務事	<b>*</b> かり	ᄉᄓᆂᆄ	<u>¥</u>
	□ 廃业□ 事務事業統合	₃∙連携	į	□ 事業完了 □ 現状維持		☑ 並大	未のか	29万以	<del>当</del>
過去	とに行った改善				現在の課題・問題点				
	月率向上のための啓発 16.10.1適用, H27.4.1適		実施。制度(褚	浦助要綱)の見直し	地域事情に合わせたの減少や、住民(利用的なルールでは、今後域内交通等人を目	者)要望が多 後持続性のあ 指している古	様化しる る事業別 川地域》	ており, 現行 実施に課題 青滝地区に	う制度の画一 が残る。また地
<b>△</b> 2	後の改善計画				係事業者等との協議 期待される成果			g である。 必要なコス	L
7 12	マン以音可凹				対けている以来		利バニール	ひ女はコ人	
	年度に策定した地域/ 重の役割に合わせた制				各地域に適合した地域 確保, 運行。	<b>乳</b> 内父囲の	けて支持		3公共交通に向 充する場合,新 。
評值	西(実績)等に関する	所属長	 所見					所属長	氏名
保にため	こ向けて事業を推進し	ていく。 への支援	現在, 実施中の を行う。また,	D5地域においては, 古川地域における	により,地域における生 乗車率・収支率が低下 実施要望地区についてに	傾向にある		大 塲	一 浩

# 【総合計画体系】第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり担当部課: 鳴子総合支所地域振興課第 2 節 快適に暮らせる公共交通の充実・強化担当・保名: 総務防災・地域づくり担当第 4 項 公共交通施設の環境整備記入者名: 後藤 勝也10年後の望ましい姿: 公共交通を利用して各地域に移動できるようになっている。電話番号: 82-2191 860-114

事務事業名: 市営バス事業管理費(鳴子温泉地域) 事業番号

根拠	<b>!法令·条例等</b> 大崎市鳴	子温泉地域市	「営バスの設置」	及び運営並びに管理等に関する条例
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~
業	☑ 単年度繰返し			
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度	
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度

_	会計	会計 一般								
予	事業名	市営バス事業管理費								
科	款	2	総務費							
目	項	1	総務管理費							
_	目	18	地域交通対策費							

22401

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 自家用車等の交通手段を持たない方々が、通勤、通学、通院等に安心して利用できる環境を整える。 対象 (誰,何に対して) ◆対象指標 ① 乗車人員 地域内外の交通弱者(観光客含む) **(2**) 実施内容・手段 (具体的なやり方,手順) ◆活動指標 実施内容 ③ 運行便数 平成24年10月1日から ④ 運行距離 鳴子温泉駅から田野原まで22.5km(停留所27カ所), 平日12便, 休日11便の運行 (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 乗車人員 年間利用者数 9, 020人 果 年間運賃収入 2,318千円 ⑦ 運賃収入

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対 象	① 乗車人員	不特定	不特定		不特定	人	_
			2						
	-بال	<b>,</b> -	③ 運行便数	平日12便(休日11便)	平日12便(休日11便)		平日12便(休日11便)	便	—
_	指標	活動	④ 運行距離	22.5	22.5		22.5	km	22.5
事業費		2/)	⑤						
費		成 果	⑥ 乗車人員	11,582	10,067		9,020	人	10,000
各			⑦ 運賃収入	2,934	2,579		2,318	千円	2,500
各指			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推		事業費	地方債						
移	総	費	その他	2,934	2,579	2,532	2,318		
	総事業費		一般財源	11,853	13,062	17,727	12,634		
	費		事業費(a)	14,787	15,641	20,259	14,952	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.40	0.40		0.40	人	
		費	正職員人件費(b)	3,132	3,012		3,011		
			合計コスト(a)+(b)	17,919	18,653		17,963	千円	

事業番号	22401	事務事業名	市営バス事業管理費(鳴子温泉地域)

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】

### この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

宮城交通鬼首線が平成7年9月末をもって廃止されたことに伴い、鬼首地区住民の交通手段の確保のため、旧鳴子町において「鳴子町営バス」の運行を開始したもの。

少子化に伴う通学利用者の減少,地域内人口の減少により,利用者数は年々減少しているが,高齢者の利用者が多く,住民の意見・要望により大崎市民病院鳴子温泉分院への乗り入れも実施している。また,平成25年10月から鬼首地域内交通も運行しており,市民バス・地域内交通を合わせた平成29年度の利用者数は,11,269人となっている。

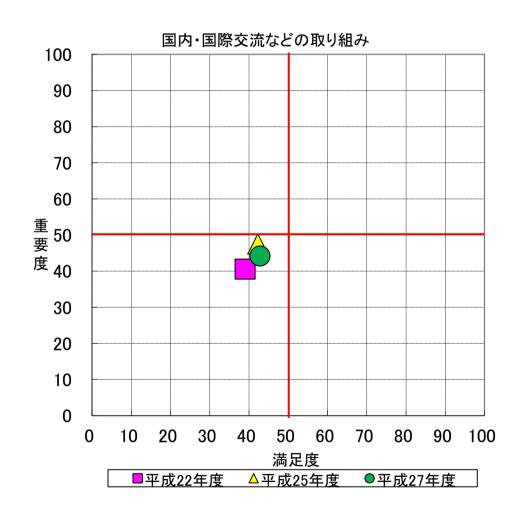
【事	務事業の担当課評	価】				
	目的妥当性					
1	<b>この事務事業は,総合</b> ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	<b>《理由》</b> 交通	は大きいですか?	<b>貢献度は大きい。</b>		【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。
2	<b>対象や意図の範囲を見</b> □ できる ☑ できない	F段を確保する /	☑ 適切 □ 見直す必要がある			
3	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>☑ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>	<b>《理由》</b> 運行 おける	で成果を向上させることができ ダイヤの見直しで、ある程度の 成産業の創出、観光客の増加が	成果を向上させることはできない限り効果は期待できない		【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。 ☑ 適切
4	類似の目的(対象と意)	ができる 【類		<b>多事業はありませんか?</b>	/	□ 見直す必要がある
	効率性					
		- 事業費を削減す 《理由》	「る方法はありませんか?			【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。
	ない	《理由》	せんか。			☑ 適切 □ 見直す必要がある
	価の総括と今後の					
76	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合		□ 事業完了 ☑ 現状維持		] ] 事務事業 <i>の</i> ] 拡大	)やり方改善
過去	に行った改善			現在の課題・問題点		
	用者ニーズに対応しか	た運行ダイヤ <i>の</i>	改正と料金の改定。	利用者の減少。車両の	)老朽化。	
今後	後の改善計画			期待される成果	新たり	こ必要なコスト
Г5	行ダイヤの見直し。 鬼首地域内交通」との こ改善する。	連携による利月	月者ニーズに対応した運行内	地域の実情に合った公 の確立。	\$共交通 <sub>車币</sub>	可購入費
評值	西(実績)等に関する	所属長所見				所属長氏名
鬼てい	首地区内の人口の減 るが, 鬼首地区は吹.	t少,特に高校タ 上高原やスキ-	生の通学利用者が少なくなっ -場などの観光資源が豊富で			遊佐正俊
<b>الح</b>	より利用者数を増やす	すことが期待で	きる。			

## 第2章

## 第3節 地域資源を生かした地域間交流, 国内・国際交流の推進

- 1 地域リーダー、分野別専門性を備えた人材の育成
- 2 鉄道網を生かした地域間交流の推進
- 3 「道の駅」「まちの駅」「サービスエリア」の活用促進と機能強化
- 4 姉妹都市, 友好都市や分野別交流事業の推進
- 5 グリーンツーリズム, エコツーリズムなどのニューツーリズムの推進
- 6 地域に根差した伝統的な祭り、イベントの開催
- 7 広域観光やインバウンドの推進

#### 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度	平成25年度	平成27年度
重要度(%)	40.53	47.51	44.15
満足度(%)	39.06	42.27	42.84

平成29年度の成果

成: 観光交流事業(田舎体験RR事) 果: 文化交流事業(文化観光施設割引事業)

・姉妹都市提携事務連絡会、姉妹都市交流会、姉妹都市交流サミット、相互訪問

◆成果指標(把握する手段)

7

交流事業の件

# 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 産業経済部観光交流課 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進 担当・係名: 交流担当 第 4 項 姉妹都市、友好都市や分野別交流事業の推進 記入者名: 加川 富美 10年後の望ましい姿: 多種多様な交流の機会が増えている。 電話番号: 23-7097 810-631

事	務事業名: 国内都市交流事業(台東区) 事業番	:号	23401			
事業期間 事	L法令・条例等   第2次大崎市産業振興計画   会計   開始年度	費				
	<b>対象(誰,何に対して)</b> 大崎市民,台東区民		指標 崎市民  東区民			
実施内容	た。					
	2 姉妹都市提携事務連絡会…大崎市誕生10周年を記念して開催した姉妹友好都市交流サミットにおいて、連携をさらに強化していくことが確認されたことから、姉妹・交流都市から7名の事務担当者が参加し、今後の交流について協議した。 3 台東区交流に関する各種事業の支援 4 おおさき宝大使に関すること…懇談会を開催し、おおさき宝大使の活動等について意見交換を行った。また、毎月、広報おおさき等を送付し、大崎市の情報、首都圏でのイベント・取り組みについて情報提供を行った。 5 冬ふるさと会…総会等に参加し意見交換を行った。	<ul><li>4</li><li>5</li></ul>				

	•								
			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 大崎市民	134,292	133,552		132,878		122,000
		象	② 台東区民	190,363	192,510		194,639		<del></del>
			③ 田舎体験RR事業実施校	4	4		4	校	8
	指標	活動	4						
事業費		293	5						
費		成 果	⑥ 交流事業の件数	2	2		2	件	4
各指標			7			\			
			国庫支出金						
標の			県支出金		199		206		
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	1,445	853		2,277		
	費		事業費(a)	1,445	1,052	2,949	2,483	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.30		0.30	人	
		費	正職員人件費(b)	2,349	2,259		2,258		
		Ą	合計コスト(a)+(b)	3,794	3,311		4,741	千円	

事業番号	23401	事務事業名	国内都市交流事業(台東区)

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 この事務事業を開始したきっかけ 東日本大震災後, 交流の絆がより一層深まり, 平時からの交流 の重要性が増してきている。市が一方的に交流事業を行うので 東北・上越新幹線の上野駅開業を控えて観光キャンペーンで訪 はなく、多くの市民が自ら実行できる参加しやすい事業が求めら 問したことをきっかけに姉妹都市を締結し、交流行っている。 れている。交流人口の拡大に向けて、次世代を担う子どもたちに 対する継続可能な事業が望まれている。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために □ 貢献度 小 貢献できているのか。 相互交流を行うことにより、交流人口の拡大が図られる。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 毎年、 庁内担当者等と大崎市・台東区姉妹都市交流庁内連絡会議を開催し、そ □ できる □ 見直す必要がある ✓ できない の結果を・大崎市・台東区姉妹都市提携事務連絡会で協議し見直しを行ってい る。 ▶ 有効性 【評価のポイント】 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 《理由》 ✓ できる 効果大 現在のやり方で成果がでる 台東区交流担当課と事務レベルでの各交流事業の見直しを行いながら実施して □ できる 効果中 のか。 いる。 □ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 □ ある 《理由》 にできないか。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 □ ある 《理由》 □ 見直す必要がある 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 □ 事務事業統合・連携 ☑ 現状維持 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 田舎体験PR事業の実施校については、希望校が多いため実施日数 田舎体験PR事業について、外部委託を行い経費を削減した。 の増加が求められている。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト

#### 評価(実績)等に関する所属長所見

市民が参加しやすいように改善し、さらに交流人口の拡大に向けて

次世代を担う子どもたちが参加しやすい事業を展開していく。

1984年に台東区との姉妹都市締結後(締結33年間)に, 時代のニーズに沿った形で官民相互の交流が図られてお り,対象も次世代を担う子ども達関連の交流事業に移行してきているが,予算の関係もあり,先方のニーズに対応 しきれていないのが実情である。したがって,実施方法について限られた予算の範囲内で,できるだけ多くの子ども 達が参加できる方法を検討していきたい。また,当該年度から20万都市事業が廃止され,宝大使関連予算が当該 予算に含まれているが、次期の改選に向けて任命内容を検討したい。

#### 所属長氏名

交流団体への補助金、外部への

委託料

藤島善光

の増加。

姉妹都市の相互理解, 交流人口

⑥ 事業費

7

#### 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 岩出山総合支所地域振興課 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進 第 4 項 姉妹都市、友好都市や分野別交流事業の推進 10年後の望ましい姿: 多種多様な交流の機会が増えている。 担当・係名:農林商工担当 記入者名: 遊佐 秀悦 850-213 電話番号: 72-1215

事	務事業名: 国内都市交流事業(宇和島市▪当別町) ϶業番	号 23402
事業期間事	はた今・条例等       第2次大崎市産業振興計画       会計         開始年度       四和       平成       18 年度~         単年度繰返し       款       2 総務費         単年度のみ実施       平成       年度         期間限定複数年度       平成       年度~平成       年度         務事業の現状】	費
目	意図(対象をどういう状態にしたいか) 愛媛県宇和島市・北海道当別町と大崎市の姉妹都市交流	
	<b>対象(誰, 何に対して)</b> 宇和島市・当別町と大崎市の交流	◆対象指標
実	実施内容・手段(具体的なやり方、手順) 姉妹都市「宇和島市・当別町」交流事業 ①「伊達なうわじまお城まつり」・・・事業期間・・・平成29年5月3日(水)~5月5日(金) 宇和島伊達家並びに宇和島伊達十万石の象徴で既存12天守の一つである「宇和島城」のPR事業について、 当別町関係参加者とともに参加し、姉妹都市間の交流を深めたものである。	◆活動指標 ③ 事業費
容	②第51回うわじま牛鬼まつり・・・事業期間・・・平成29年7月23日(日)~7月25日(火) 前年の大崎市合併10周年記念イベントに来訪頂いたことに対する御礼並びに,震災で倒壊した有備館への支 援に対する御礼かつリニューアルした有備館の報告を行い,官民一体となった交流を末永く続けることを確認しました。	4
	③「欧風の風 道の駅とうべつ」開業記念式典・・・平成29年9月22日(金)~9月23日(土) 当別町に新しく開業された「欧風の風 道の駅とうべつ」の開業記念姉妹都市交流会並びに記念式典に出席して 交流を深めました。	
	・並成20年度の成里	▲成里指煙(押掘する手段

		項	目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
	対	① 2自治体		2	2		2	団体	2
	象	2							
		③ 事業費		973	0		901	千円	950
指標	活動	4							
<b>信</b>		5							
Ì	成 果	⑥ 事業費		973	0		901	千円	950
		7				\			
		国庫支出金							
Ę		県支出金							
b t g 総	事業費	地方債							
総	費	その他							
総事業費		一般財源		973	0	1,233	901		
費		事業	費(a)	973	0	1,233	901	千円	
	人件	正職員年	間従事人員	0.10	0.10		0.10	人	
	費	正職員.	人件費(b)	783	753		753		
		合計コスト	~(a)+(b)	1,756	753		1,654	千円	

成果様々な交流事業に参加して、姉妹都市間の交流を行い、絆を深めることができました。

	事業番号	23402	事務事業名	国内都市交流事業	(宇和島市・当別町)
【事務事業を取り巻く環境の	で化や議会・市	民との音目・亜望・	佐働等の状況】		
この事務事業を開始したきっかけ		人口心态儿 女主			:・市民との意見・要望・協働等の状況
			N		
伊達政宗公を藩主とする伊達		宇和島市, 当別	姉妹都市と	して,交流が続いて	<i>า</i> เงล.
町と姉妹都市の締結をしている 	<b>ာ်</b> စ			C ( , ) ( ) ( ) ( ) ( )	
【事務事業の担当課評価】					
◆ 目的妥当性					FET IT O 19 to 13
① この事務事業は,総合計画へ ✓ 貢献度 大 <b>《理</b>		いですか?			【評価のポイント】 総合計画を実現するために
□ 貢献度 小	姉妹都市交流	の推進に貢献している	0		貢献できているのか。
□ 基礎的事務事業					
<ul><li>② 対象や意図の範囲を見直し、</li><li>□ できる</li><li>【理</li></ul>		とで費用対効果を上げ	ることができません	か?	
□ できない	<b>曲』</b> 固定の姉妹都	市のため。			<b>│</b>
◆ 有効性					
③ 事務事業のやり方・進め方を □ できる 効果大 <b>《理</b>		を向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる
☑ できる 効果中		業費が連動する。民間:	交流も実施している	00	のか。
□ できない・効果なし					
④ 類似の目的(対象と意図)ま			<b>務事業はありません</b>	<b>ンか?</b>	
<ul><li>□ ある 統合・連携ができる</li><li>□ ある 統合・連携ができた</li><li>□ ない</li></ul>	る 【類似事務』 ない <b>《理由》。</b>	■ <b>業名</b> 】			
		前の旧町での姉妹都市	「交流のため。 		
◆ 効率性					
⑤ 現状の成果を下げずに事業		はありませんか?			【評価のポイント】
□ ある 《理 ✓ ない	出 <i>》</i>				<ul><li>現在のやり方をもっと安価 にできないか。</li></ul>
⑥ コスト削減を阻害している要	因はありませんか。				適切
□ ある <b>《理</b> ☑ ない	由》				│ □ 見直す必要がある
<b>™</b> an					
【評価の総括と今後の方向	<b>₩1</b>				,
今後の事務事業の方向性	, <b>工</b>				
│  □ 廃止 │  □ 事務事業統合・連	<b>計</b> 性	□ 事業完了 ☑ 現状維持		□ 事務事 □ 拡大	業のやり方改善
過去に行った改善	=175	☑ - 5九1八小庄1寸	現在の課題・問		
			SULL OF DIVINE 1417	KE /III	
事業費の削減			行政由心の交流	こになりがちである。	
事未良♥クトリ <i>ル</i> タ			门城中心仍久加	112477775 6000	)
   今後の改善計画			期待される成果		新たに必要なコスト
っての以告計画			別付される以末		利にI-必安なコヘト
行政と民間との連携を図りなか 	「ら交流の拡大を	進める。	交流の拡大		交流補助事業
評価(実績)等に関する所属	長所見		·		所属長氏名
平成29年9月,「道の駅とうべ	つ」がオープンした	たことにより、物産の	交流が一段と活角	&化することに期	
待しています。 今後も、伊達家のつながりであ	_				岡 田 信 一
続的な事業展開が必要と考え					

事業番号

23403

⑥ 交流相互人員

7

交流事業実施回

# 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 鳴子総合支所地域振興課 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進 担当・係名: 観光担当 第 4 項 姉妹都市、友好都市や分野別交流事業の推進 記入者名: 遊佐祥子 10年後の望ましい姿: 多種多様な交流の機会が増えている。 電話番号: 82-2026 860-125

#### 事務事業名: 国内都市交流事業(遊佐町)

-									
Н		<b>法令·条例等</b> 姉妹·友好都市交流2016大崎市宣言 会計 思始任度 □ 四和	一般						
	事	別如千皮   □ 中州 ♥ 干灰   10 千皮	语 <b>業</b>						
	業	★ 単年及標巡し N 2 総務負							
	期	□ 単年度のみ実施							
	間	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度 日 21 都市交流	<del>[</del> 事業費						
	【事務事業の現状】								
Г		意図(対象をどういう状態にしたいか)							
	目的	兄弟町(姉妹都市)の締結(平成4年10月30日)をしている山形県遊佐町と文化, 教育, 産業等の交流を推進する解を深め, 更なる交流を図る。							
		対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標						
		大崎市民及び山形県遊佐町民	① 相互交流人員						
			2						
		実施内容・手段(具体的なやり方,手順)	◆活動指標						
	内	・鳴子こけし絵付け教室 鳴子からこけし工人が遊佐町の小学校に赴き、こけしの絵付け教室を開催 ・鳴子踊り指導 鳴子から鳴子地区町内会婦人連絡協議会のメンバーが遊佐町に赴き、遊佐町の婦人会の方々に鳴子踊りを	③ 交流事業実施區数						
	容	4							
		<ul><li>・第26回奥の細道鳥海ツーデーマーチ 大崎市民が遊佐町開催の奥の細道鳥海ツーデーマーチに参加</li><li>・第59回遊佐町民俗芸能公演会 鳴子温泉地域から鬼首神楽保存会が遊佐町民俗芸能公演会に参加</li></ul>	(5)						
		平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段						

		項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
	対	① 相互交流人員	193	217		141	人	_
	象	2						
		③ 交流事業実施回数	6	6		6	口	_
指標	活動	4						
事 <sup>伝</sup> 表		5			1 \			
量	成 果	⑥ 交流相互人員	193	217		141	人	_
Z		⑦ 交流事業実施回数	6	6		6	口	—
<b>子</b> —	業	国庫支出金						
		県支出金						
D 隹		地方債						
<b>生</b> 多 総		その他						
多 総 事 業 費		一般財源	204	213	224	199		
費		事業費(a)	204	213	224	199	千円	
	人件	正職員年間従事人員	0.05	0.05		0.05	人	
	費	正職員人件費(b)	391	377		376		
		合計コスト(a)+(b)	595	590		575	千円	

成 遊佐町民並びに大崎市民(鳴子温泉地域)が相互に、かつ積極的に交流事業に参加し、特に遊佐町立蕨岡小果 学校4・5・6年生を対象としたこけしの絵付け教室では、鳴子こけしの由来や伝統こけしに対する知識を深めても

らうことができた。

事業番号	23403	事務事業名	国内都市交流事業(遊佐町)

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

鳴子温泉地域に多い遊佐姓のルーツが遊佐町にあるという歴 史的な関係により、平成4年10月30日「兄弟町の盟約」締結を機 に開始。

歴史的にもゆかりが深く、鳴子温泉地域住民にとっても極めて重要な友好親善事業である。全国こけし祭りや鳥海ツーデーマーチ等のイベントに相互に参加するなど定着している。また、大崎市となったとで、ツーデーマーチへ鳴子温泉地域以外の市民 の参加も増えている。

【事	務事業の担当課評	価】				
<b>♦</b>	目的妥当性					
①	この事務事業は、総合	計画への貢献度は大	きいですか?			【評価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》 地域の特色 拡大に寄与	ロの	総合計画を実現するために 貢献できているのか。		
_					· ·	√ ☑ 適切
2			ことで費用対効果を上げ	ることができませんか?		
	<ul><li>□ できる</li><li>☑ できない</li></ul>		・イベント関係の交流に留 対効果は上がるものと考 <i>え</i> 	まっているが,産業交流を活発化する る。	ことに /	□ 見直す必要がある
	有効性					
		<b>め士太弥テスニレで成</b>	果を向上させることができ	きますか?		【評価のポイント】
9	<b>▼初ず来</b> のですが、 <b>を</b>					
	<ul><li>✓ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>	ているため	,当該年度の新たな事業々	費を支出しており,前年秋の予算要求と への支出ができない状況となっている 源を確保できる団体の設立が必要であ	。この:	現在のやり方で成果がでるのか。
•	終心の口が/4会し会	□□\十十 /土 T/( 44) / ノ ペヽ	」 いきか)ナせっかっす	変言者 はもしナルノム こ		〉☑ 適切
4)			ハや啓発)を持つ他の事			/ 
	☑ ある 統合・連携な		務事業名 <b>】 観光振興事</b> 簿			□ 見直す必要がある
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>□ ない</li></ul>	<b>充事業</b>				
	_	i			i /	
<b>♦</b>	効率性					
(5)	現状の成果を下げずに	事業費を削減する方	法はありませんか?			【評価のポイント】
•	口ある	《理由》			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	現在のやり方をもっと安価
	口ない		事業費であり. 削減は難しし		1	にできないか。
	<b>№</b> .	政内がグラ	不良 (の), 円//火はたしい	,		11 02 00 %
		<u>į</u>				√ 適切
<b>©</b>	コスト削減を阻害してい	、ス亜田はなりません。	41			) <b>2</b> 16 41
<b>O</b>		《理由》	M . 0			/
	□ <i>∞</i>	<b>//</b> //////////////////////////////////				□ 見直9必安かめる
	<b>₹</b> '40'				/	
		<u> </u>				
【評	価の総括と今後の	方向性】				
	後の事務事業の方向					
	□ 廃止		□ 事業完了	□ 事務:	事業の	やり方改善
	☑ 事務事業統領	≥•連進	口 現状維持	口拡大	1.5/2.00	, ,,,,,,,,,
<b>1</b> □ →		1 Æ175				
迥乙	に行った改善			現在の課題・問題点		
				両市町が主催するイベントなどは	一行政が	事務的な面で関与する必
剣道	質などのスポーツ交流	は、完全に民間に移	ら行した。	要があるが、予算的な制約があり		
				女がものでは、1. 弁目がも同時が2.00	), X <sub>m</sub> , 0)	温べには至りているい。
今後	後の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト
				**18041		
*				・事業効果の拡大	1	
一年ま	美交流を基盤として. E	自主財源を確保でき	る団体ができれば、観	中华电机学		
			る団体ができれば, 観 る。	•事業費削減	特になり	•
	美交流を基盤として,E 団体と連携が図れ効果			·事業費削減 ·人件費削減	特になり	
				•事業費削減	特になり	
光区	体と連携が図れ効果	はが上がると思われる		•事業費削減	特になり	
光回評価	日体と連携が図れ効果 西(実績)等に関する	が上がると思われる 所属長所見	<b>3</b> .	・ 事業費削減 ・ 人件費削減		所属長氏名
評信 旧県	日体と連携が図れ効果 西(実績)等に関する 場子町の「兄弟町の盟	が上がると思われる 所属長所見 約」による文化, 教育	る。	・事業費削減 ・人件費削減 常災害時における相互応援に関す		
光回には、	日体と連携が図れ効果 (実績)等に関する 場子町の「兄弟町の盟 お定等,歴史的にもゆ	が上がると思われる 所属長所見 約」による文化, 教育 かりが深く, 鳴子温泉	る。 育,産業等の交流や非常 限地域住民にとって極め	・事業費削減・人件費削減・人件費削減常災害時における相互応援に関すって重要な友好親善事業である。意	, and the second	所属長氏名
光回にはいる。	日体と連携が図れ効果 (実績)等に関する 場子町の「兄弟町の盟 品定等、歴史的にもゆ ほにおいても遊佐町か	が上がると思われる 所属長所見 約」による文化、教育 かりが深く、鳴子温泉 らの支援物資や人的	る。 育,産業等の交流や非常 限地域住民にとって極め 的派遣協力には大変感	・事業費削減 ・人件費削減 常災害時における相互応援に関す	The state of the s	

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進

第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進 第 4 項 姉妹都市、友好都市や分野別交流事業の推進 10年後の望ましい姿: 多種多様な交流の機会が増えている。 担当部課: 三本木総合支所地域振興課

 担当·係名:
 農林商工担当

 記入者名:
 本間 広明

 電話番号:
 52-2112 830-214

## 事務事業名: 国内都市交流事業(横浜市港南区)

事業番号 23404

根拠	<b>法令·条例等</b>	好都市交流20	016」大崎市宣言	•	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	
業	☑ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度	

	会計	一般						
予	事業名	国内都市交流事業						
科	款	2 総務費						
147	項	1 総務管理費						
	目	21 都市交流事業費						

【事務事業の現状】

	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	「ひまわり」を縁とした友好都市「横浜市港南区」と芸術・文化・スポーツ・産業・経済等あらゆる分野で交流が盛ん	になる。
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	大崎市民及び横浜市港南区民	① 人口
		2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内容	①ひまわり生活体験交流事業 大崎市児童と横浜市港南区児童が,毎年交互訪問にて,2泊3日の生活体験交流を通して交流を図る。 ②こうなん子どもゆめワールド	<ul><li>③ 参加者募集チラシ配布</li><li>④ 観光パンフレット配布</li></ul>
	大崎市産のもち米を使用した餅つきや物産品の販売,生活体験交流事業写真や観光ポスターの展示 及び,ひまわりの種やパンフレット配布による大崎市の観光PR等を行う。	
		(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
成果	①大崎市児童17名が横浜市を訪れ、横浜市港南区児童20名と野島青少年センター等において、2泊3日の日程で生活体験を行い交流を深めた。	6
<b>Т</b>	②三本木ひまわり交流協会役員等が港南区ふれあい公園のテントブースで,餅つき・物産品等の販売,交流写 真展,観光パンフレット配布等により,約2万人の来場者に,大崎市をPRすることができた。	7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対象	① 人口	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
		ı,	③ 参加者募集チラシ配布	600	600		600	枚	600
_	指標	活動	④ 観光パンフレット配布	400	400		400	部	400
事業費		20	5						
費		成	⑥ 参加者・来場者数	20,000	20,000		20,000	人	20,000
夕		果	7						
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
が推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	391	286	588	437		
	費		事業費(a)	391	286	588	437	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.10	0.10		0.10	人	
		費	正職員人件費(b)	783	753		753		
			合計コスト(a)+(b)	1,174	1,039		1,190	千円	

事業番号	23404	事務事業名	国内都市交流事業(横浜市港南区)

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

ひまわりが縁で平成元年より交流事業が始まり、平成14年に旧 三本木町長と港南区長による「災害時における相互援助に関する協定」を締結、また平成15年に旧三本木町区長会長と港南区 連合町内会長連絡協議会長による「地域住民組織による災害 時の相互協力協定書」を締結した。



大崎市三本木ひまわり交流協会事業運営費の僅少化により、継 続的安定的な事業の実施が難しくなっている。

【事	務事業の担当課評	価】		•		
	目的妥当性		T#### 1			F=T   T = 10 (c. 1 )
ധ	この事務事業は、総合 ☑ 貢献度 大		<b>貢献度は大きいですか?</b>	づくりの一助となっているほか、相互交	·*	【評価のポイント】 総合計画を実現するために
	□ 貢献度 小	<b>《左四</b> 》	大崎市氏と港南区氏のコミーユティー よる交流人口の増加に寄与している。	つくりの一助となっているはか、相互父。また、交流人口の増加によって、物産	品販	総合計画を表現するにめた 貢献できているのか。
	□ 基礎的事務事業		売等の経済的効果が期待できる。			
	4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.		ᆂᄻᆚᅶᄀᆖᆝᆖᅘᇚᄮᆋᄜᄼᆝᆥ	7-1 /2-1 / /	\	〉☑ 適切
(2)	対象や意図の範囲を見 ✓ できる	し直し、孤 《理由》	大・縮小することで費用対効果を上げ		/	/ - □ 見直す必要がある
	<b>▼</b> できない	<b>《在田》</b>		どまっているが、産業交流を活発化する	5=2 /	□ 元直り必安かめる
			により、費用対効果は上がると思われ	∟ం.	/	
	<del></del>				'	
	有効性	かちを変き	えることで成果を向上させることができ	きますか?		【評価のポイント】
<b>3</b>	□ できる 効果大	《理由》				現在のやり方で成果がでる
	☑ できる 効果中		行政改革の一環として事業執行を三 南区役所等との連絡調整にあたる。	本木ひまわり交流協会へ移管し,行政1	ま港	のか。
	□ できない・効果なし	<u> </u>	THE ICH I CONTRACTOR			
<b>(A)</b>	類心の目的(対象を音)	図/キたけ	・形態(イベントや啓発)を持つ他の事	変車 業 けなりません かっ	,	〉☑ 適切
•	□ ある 統合・連携が		、	カチ末はのりよと70パ・:		<sup>′</sup>
	☑ ある 統合・連携が	「できない	<b>《理由》</b> 対象都市が異なるため。		/	
	□ない		がいますが、大なのだめ。			
	効率性					
		事業費を	:削減する方法はありませんか?			【評価のポイント】
	□ ある	《理由》				現在のやり方をもっと安価
	ない		必要最小限の予算で、削減の余地は	ないと思われる。		にできないか。
		<u></u>				√ 適切
6	コスト削減を阻害してい	る要因は	はありませんか。			<b>▼</b> 167.41
	□ ある	《理由》			/	□ 見直す必要がある
	ない				/	
		<u> </u>				
	価の総括と今後のプ					
今後	後の事務事業の方向	]性	<b>点 去米点</b> 了		<del>- **</del>	41 <del>-</del>
	<ul><li>□ 廃止</li><li>□ 事務事業統合</li></ul>	~ 、	□ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 事務引 □ 拡大	₽乗の1	やり方改善
<b>¹</b> □ +		1 建拐	5 ☑ 現仏維持			
迎去	に行った改善			現在の課題・問題点		
事業	葉費・職員削減等の理	由により	,童謡コンサートを廃止した。	三本木ひまわり交流協会会員の語  務を行えるかどうか。	高齢化や	<b>稼業の傍ら、協会側で事</b>
				(物を1) たるかと ブル・。		
A 14	, o.1. # 1. T.			#0.4+ <b>-</b> -	*r+ !-	V = 4
今後	後の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト
				東番が田の位士/典を拠しれて		
協会	きとの協議により、行政	め関わ	りについて再検討を要する。	・事業効果の拡大(農産物・加工 品の販売促進等)		ひまわり交流協会事業運
			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	・人件費の削減	宮賀等	への財政支援
評価	西(実績)等に関する	所属長	所見 一			所属長氏名
			て、協調性や思いやりの心を育み、			<b>苏昭/青田</b>
	入口の増加も期待で		荻 野 信 男			

#### 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 産業経済部観光交流課 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進 第 4 項 姉妹都市、友好都市や分野別交流事業の推進 10年後の望ましい姿: 国際交流の機会が増えている。 担当・係名: 交流担当 記入者名: 加川 富美 電話番号: 23-7097 810-631

#### 国際都市交流事業 事務事業名:

事業番号 23405

根拠法令・条例等 第2次大崎市産業振興計画	-	会計	一般		
事 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名	国際都市交流事業		
業 ☑ 単年度繰返し	科	款	2 総務費		
期 □ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	1 総務管理費		
間 □ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目	21 都市交流事業費		
【事務事業の現状】					

_	P 伤争未の現仏』	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
的	交流国の理解及び異文化間の理解を深め、国際感覚を持つ次世代の人材育成を行い、交流人口の拡大を目指 の意識を高める。	す。また,多文化共生
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	大崎市民	① 大崎市民
		2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
<b>実施</b> 内容	1.民間国際交流団体が実施する姉妹・友好都市への派遣事業及び受入事業への補助金支援 2.民間国際交流協会等が主催する活動への支援	<ul><li>③ 派遣·受入事業 参加者数</li><li>④ 事業間接参加 者数</li><li>⑤</li></ul>
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
<b>成</b> 果		<ul><li>⑥ 派遣·受入事業 参加者数</li><li>⑦ 事業間接参加 者数</li></ul>

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 大崎市民	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
			③ 派遣・受入事業参加者数	17	20		20	人	40
	指標	活動	④ 事業間接参加者数	150	200		200	人	400
事業費		3/)	5						
費		成 果	⑥ 派遣·受入事業参加者数	17	20		20	人	40
夕		果	⑦ 事業間接参加者数	150	200	\	200	人	400
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
が推			地方債						
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	77	423	617	525		
	費		事業費(a)	77	423	617	525	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.30		0.30	人	
		費	正職員人件費(b)	2,349	2,259		2,258		
			合計コスト(a)+(b)	2,426	2,682		2,783	千円	

事業番号	23405	事務事業名	国際都市交流事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

アメリカオハイオ州ミドルタウン市:民間親善合唱団が来日し,古 川での民間交流が進み、平成2年に姉妹都市締結を行った。

ドイツのシュタインフルト郡: 旧鳴子町での青少年の受け入れを きっかけとして、相互交流が始まり、現在も青少年の派遣・受け 入れを継続している。

議会・市民から,海外渡航費用の負担軽減策についての要望があり,次世代を担う青少年の海外への派遣費用について,大崎 市都市交流事業補助金交付要綱での見直しを行った。

	務事業の担当課評	価】						
	目的妥当性 この事務事業は 総合	計画への	貢献度は大きいですか?			【評価のポイント】		
v		《理由》	事業を行うことにより、交流人口の増加		総合計画を実現するために 貢献できているのか。			
			☑ 適切					
2	対象や意図の範囲を見 ☑ できる □ できない	直し, 拡; 《理由》	<b>恒し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか?</b> 《理由》 大崎市都市交流事業補助金交付要綱の海外派遣について、一般(大人)を対象 外とし、青少年の自己負担の軽減を図る。					
•	有効性							
		の方を変え	よることで成果を向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】		
	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>☑ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>	《理由》	事業の事前周知の時期や周知方法をらい、成果を向上させることができる。	変えることにより、多くの市民に参加し	τŧ	現在のやり方で成果がでるのか。		
<b>(4</b> )	類似の目的(対象と意思	図)または	形態(イベントや啓発)を持つ他の事系	<b>§事業はありませんか?</b>		☑ 適切		
•	□ ある 統合・連携が	できる	【類似事務事業名】	37×1500/5 C:00 .		□ 見直す必要がある		
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>☑ ない</li></ul>	<b>できない</b>	《理由》					
	効率性							
5	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある	事業費を 《理由》	削減する方法はありませんか?		······i /	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価		
	□ める ない	<b>《</b> 华田/				にできないか。		
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	る要因は	ありませんか。			)☑ 適切		
Ŭ	□ ある	《理由》				□ 見直す必要がある		
	ない							
【評	価の総括と今後のフ	<b>方向性】</b>			! <b>/</b>			
今後	の事務事業の方向	]性	ロ 声楽ウフ	口 击改击	T# 10 1	λΠ+76¥		
	□ 廃止 □ 事務事業統合	含∙連携	□ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 事務事業のやり方改善 □ 拡大				
過去	に行った改善			現在の課題・問題点				
姉妹都市交流団体との協議により、民間が主体となり事業実施を 行っていくこととし、行政は補助金交付等の支援をしていくこととし た。				姉妹·友好都市締結後の国際情勢の変化、交流団体等の状況の変化により事業実施が困難になってきている。				
今後	の改善計画			期待される成果	新たに』	必要なコスト		
市内团体	各国際交流団体が退  の設立趣旨も異なる	直携し事業 ことから,	に取り組むことが望ましいが,各 今後,整理を行っていく。	市内全域での国際交流事業の展 開	なし			
評価	5(実績)等に関する	所属長所	<b></b>			所属長氏名		
整え	:・市民団体等の要望 たことは評価に値する とは、当該制度の普及	ると考える		い,30年度から施行できる環境を		藤島善光		

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進

第 5 **項** グリーンツーリズム・エコツーリズムなどのニューツーリズムの推進

平成

10年後の望ましい姿: 観光客の入込数が増加している。

担当部課: 産業経済部観光交流課

担当・係名: 交流担当 記入者名: 守谷 嶺 電話番号: 23-7097 810-632

#### グリーンツーリズム推進事業 事務事業名:

根拠法令•条例等 第2次大崎市産業振興計画 平成 18 年度~ 開始年度 □ 昭和 🗸 業 ☑ 単年度繰返し 平成 年度

年度

年度~平成

_	会計		一般
予	事業名	グリ	ーンツーリズム推進事業
科	款	6	農林水産業費
14	項	1	農業費
_	目	7	地域農政対策費

事業番号

23501

【車務車業の用状】

73	(ガラネツ水仏)	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	都市農村交流や農村体験を通じて,地域の歴史や自然に親しみ,地域活性化を推進する。	
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標
	大崎市市民	① 大崎市民
	大崎市民以外	2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内		③ 体験事業
容	2 英語対応版大崎市ツーリズムガイドの作成	
	3 世界農業遺産グリーン・ツーリズム体験事業の実施	④ 視察研修
	4 広報おおさきによる民泊受け入れ家庭の募集	
	5 グリーン・ツーリズム先進地視察研修の実施	(5)
	亚芹00年中の古田	▲   古田   七冊   一冊   十 7   4   5   5   5   5   5   5   5   5   5
成	平成29年度の成果 グリーン・ツーリズムに関する視察や研修を通して地域の素材を再確認し,情報の共有化を図り人材育成につなげた。	<ul><li>◆成果指標(把握する手段)</li><li>⑥ 受け入れ家庭</li></ul>
果	ングでである。 さらに、教育旅行受け入れ家庭数・受け入れ人数が昨年度より増加しており、受け入れ体制の強化と誘客に効果が見られた。	⑦ 教育旅行受け入 の れ人数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度	
		対	① 大崎市民	134,292	133,552		132,321	人	122,000	
		象	2							
		\- <u>-</u>	③ 体験事業	1	1		1	口	1	
_	指標	活動	④ 視察研修	1	1		1	回	1	
事業費		-73	5							
費		成	⑥ 受け入れ家庭	100	126		149	戸	250	
• タ		果	⑦ 教育旅行受け入れ人数	288	347		614	人	2,000	
各指標			国庫支出金							
			県支出金	427	417	557	513			
の推		事業費	地方債							
移	総	費	その他							
	総事業費	事 業	事業	一般財源	772	567	2,960	2,540		
	費		事業費(a)	1,199	984	3,517	3,053	千円		
		人件	正職員年間従事人員	0.40	0.40		0.20	人		
		費	正職員人件費(b)	3,132	3,012		1,505			
			合計コスト(a)+(b)	4,331	3,996		4,558	千円		

I	事業番号	23501	事務事業名	グリーンツーリズム推進事業
	7- N III J		7-100 T- NC II	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】

この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 近年、従来の旅行形態にグリーン・ツーリズム等のニューツーリ 合併以前から田尻地域と鳴子温泉地域おいて実践していたグ ズムを組み合わせた着地型観光が注目され、中学校や高等学 リーン・ツーリズム事業を大崎市の自然・環境等の特性や資源を 校の教育旅行も民泊を伴う体験型旅行の需要が高まってきてい 活かして全域に普及・推進するため る。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 自らイベントを企画したり、体験等のおもてなしをするため、地域を活性化させる □ 貢献度 小 貢献できているのか。 影響力は大きい。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 □ できる □ 見直す必要がある ✓ できない ▶ 有効性 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 【評価のポイント】 **《理由》** グリーン・ツーリズムに加え、体験型の教育旅行の需要も高くなっていることか □ できる 効果大 現在のやり方で成果がでる のか。 ☑ できる 効果中 ら、旅行会社等と一緒に事業を進め、成果を向上させることは可能である。 □ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ☑ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 □ ある 《理由》 現在のやり方をもっと安価 既に県の補助金を活用するなど、一般財源の低減に努めている。 にできないか。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 □ ある 《理由》 □ 見直す必要がある √ ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 口 廃止 口 現状維持 □ 事務事業統合・連携 ☑ 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 グリーン・ツーリズムの担い手や民泊協力家庭、教育旅行受け入れ 特になし 、 人数を更に増やす必要がある。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト グリーン・ツーリズム事業のPRをし、民泊受け入れ家庭の増を図りな がら, 中学校や高等学校の教育旅行の受け入れを積極的に行う。 地域の活性化

#### 評価(実績)等に関する所属長所見

目指す。

また、本市が平成29年に認定された世界農業遺産の資源を活かし

た体験メニューの構築を図り、グリーン・ツーリズムの更なる推進を

所属長氏名

特になし

- 般社団法人みやぎ大崎観光公社と連携を図りながら、農林水産省所管の農泊交付金の採択を受ける等、受け 知れ体制の整備を図るとともに、旅行エージェント等へのプロモーションを行っていることは評価に値するものと考 える。

藤島善光

ー方で、大崎市グリーンツーリズム協会設立時に掲げた5年を目途に自立するという目標の実現ができていないの で、旅館ホテル生活衛生同業組合的な存在となる観光公社との連携を密にして目標達成への支援を行いたい。

地域間交流の促進

地域課題の解決

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり **担 当 部 課**: 教育部中央公民館 **担 当 • 係名**: 事業担当 第 3 節 地域資源を生かした地域間交流国内・国際交流の推進 第 5 項 グリーンツーリズム・エコツーリズムなどのニューツーリズムの推進 10年後の望ましい姿: 多種多様な交流の機会が増えている。 記入者名: 佐々木 哲也 電話番号: 23-3001 810-600

#### 大崎定住自立圏青年交流推進事業 事務事業名:

事業番号 23502

根拠	<b>ユ法令・条例等</b> 定住自立圏の形成に関する協定	] [	_	会計	一般
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 24 年度~	]	予	事業名	大崎定住自立圏青年交流推進事業
業	☑ 単年度繰返し	]	科	款	10 教育費
期	□ 単年度のみ実施 平成 年度		目	項	5 社会教育費
間	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度	1		目	2 公民館費
		_			

【事務事業の現状】

		伤争未り現仏』	
		意図(対象をどういう状態にしたいか)	
É	目的	大崎定住自立圏共生ビジョンに示される目的達成のため、圏域共同で青年交流事業を実施することで圏域内の 流を促し、結婚を希望する独身男女により多くの出会いの場を提供する。	青年層の積極的な交
		対象(誰,何に対して)	◆対象指標
		主に大崎圏域内の結婚を希望する独身男女 ※対象となる方の全数の把握はできないため、申込者数を対象指標とする。	① 申込者数
		実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
j F	他为容	■交流イベント 3/11出逢いD-PARTY 【内容】市内民間施設を会場にした独身男女の出会いの場の提供 【申込者数】男性33人 女性21人 合計54人 【決定者数】男性24人 女性21人 合計45人 【参加者数】男性22人 女性16人 合計38人	<ul><li>③ 実行委員会活動回数</li><li>④ 交流イベント開催回数</li><li>⑤</li></ul>
		平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	<b>龙</b> 果	参加者は38人(申込は54人)で例年と比較し若干の減少ではあったが、マッチング成功者は21人、マッチング率は	⑥ 参加者数
	~	55.2%となり,一定の成果を挙げている。	⑦ マッチング率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 申込者数	84	80	$\land$	54	人	60
		象	2						
		<b>.</b> -	③ 実行委員会活動回数	8	6		3	回	5
_	指 標	活動	④ 交流イベント開催回数	2	1		1	回	2
事業費		-7.	5						
費		成果	⑥ 参加者数	51	51		38	人	40
• 夂		果	⑦ マッチング率	39	39		55	%	50
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他	162	149	177	99		
	総事業費		一般財源	288	266	323	183		
	費		事業費(a)	450	415	500	282	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	8,279	7,945		7,809	千円	

1				
	事業番号	23502	事務事業名	大崎定住自立圏青年交流推進事業

市中心部で人口の増加が見られる以外は、大崎圏域全体で人 ロ減少が進んでいる。このことを圏域全体の課題として受け止め、市町の枠を越えた取り組みにより若者の交流を促進するた め、大崎定住自立圏共生ビジョンに青年交流推進事業として位 置付けられたことによるもの。

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

- ・おおさき婚活支援センターとの連携または適切な事業のすみ わけ。
- ・交流イベント回数増加の要望。 ・事業の具体的な成果についての追跡調査の是非。
- ・全面委託による事業拡大。

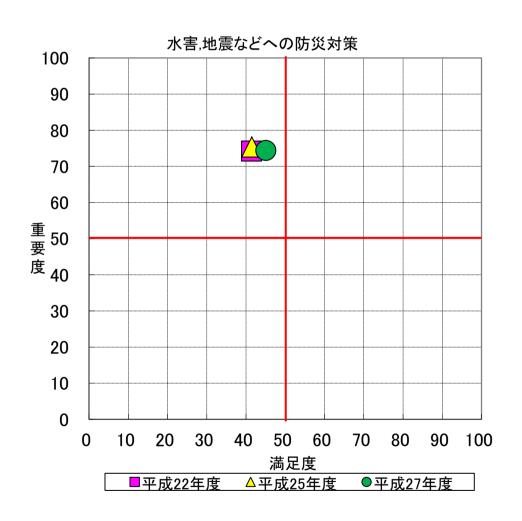
【重	務事業	か堆	3 半量	里拉布	₩,
13	17 = 7	5 V J J J	6	ᅑᇚᇜ	ш.

LŦ	切字末のたコ味叶川	12			
	目的妥当性				
1	この事務事業は、総合計	<b> 画への貢献度は大きいですか?</b>			【評価のポイント】
•		《理由》		<b>公会計画を実現するために</b>	
		▲ 婚活支援にとどまらず 『	圏域内または圏域外の青年層の交流とし		総合計画を実現するために
	□ 貢献度 小	度が高いと言える。	1. W. 10. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C. C.	7/11/2 (15/2)	貢献できているのか。
	□ 基礎的事務事業	及が同じと日だめ。			
					☑ 適切
_				<b>\</b>	☑ 测 测
2	対象や意図の範囲を見ず	₤し,拡大・縮小することで費用剤	対果を上げることができませんか?		
	□ できる	《理由》			□ 見直す必要がある
		*** 現在も参加者の居住地に	こよる参加の制限をしておらず,対象が阻	艮定される事業 /	
	☑ できない	のためこれ以上の拡大は			
		07/207 = (0.5/1= 07/14) (10	5-XE-0-0	i V	
	i			······································	
•					
	有効性				
(3)	事務事業のやり方・進め	方を変えることで成果を向上させ	ることができますか?		【評価のポイント】
•					
		《理曲》共通の趣味や年齢などに	こ焦点をあてたイベントの開催など, 内容	の工夫により参 [	現在のやり方で成果がでる
	☑ できる 効果中	加者の増加は期待できる	らものの, 事業の性質による適切な定員詞	設定や民間事	のか。
	できない・効果なし	業者の婚活イベント増加	による競合もあり、参加者数の大幅な増	加は難しい。	
	☐ CC.80 %/x.80			i	
					☑ 適切
4	類似の目的(対象と意図	)または形態(イベントや啓発)を	持つ他の事務事業はありませんか?		
•	✓ ある 統合・連携がつる。				□ 見直す必要がある
		= - :			□ 兄直り必安かの句
	□ ある 統合・連携がつる。	ごきない <b>《理由》</b> <sub>低:チェゼ の知</sub>	点での連携は可能である。	i /	
	□ ない	増	<b>点での連携は可能である。</b>	i <b>//</b>	
				i /	
	効率性				
<b>6</b>	<b>現状の成単を下げずに</b> 7	事業費を削減する方法はありませ	んか?		【評価のポイント】
•					
	□ ある		きえられるが、参加者数の減少につながる		現在のやり方をもっと安価
	√ ない	る。また、事業費内での「	内容の創意工夫にも限界があるため、こ	れ以上の削減 📗	にできないか。
			ながり、目的を果たすことが困難となる。		
	<u>i.</u>	のテスジスジョーニン	bo , hisexic, een mares o	:   \	
					☑ 適切
<b>6</b>	コスト削減を阻害している	5要因はありませんか。			☑ 適切
6	コスト削減を阻害している				_
6	□ ある	5要因はありませんか。 《理由》			<ul><li>✓ 適切</li><li>✓ 見直す必要がある</li></ul>
6					_
6	□ ある				_
6	□ ある				_
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理由》			_
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理由》			_
【評	□ ある ☑ ない <b>価の総括と今後の方</b>	(理由) ·向性】			_
【評	□ ある ☑ ない ☑ ない ☑ ある ☑ ない ☑ かかり から から から から から から から から から から から から から	(理由) · 向性】 生			□ 見直す必要がある
【評	□ ある ☑ ない <b>価の総括と今後の方</b>	(理由) ·向性】	<b>第</b>	事務事業のや	□ 見直す必要がある
【評	□ ある ☑ ない ☑ ない ☑ ある ☑ ない ☑ ある ☑ ない ☑ ある □ の総括と今後の方 ⑥ 事務事業の方向 □ 廃止	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事 <b></b>			□ 見直す必要がある
【評	□ ある ☑ ない ☑ ない ☑ ある ☑ ない ☑ かかり から から から から から から から から から から から から から	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事 <b></b>		事務事業のや	□ 見直す必要がある
【評	□ ある □ ない □ ない □ ない □ の総括と今後の方 ፩の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事 <b></b>	<b>ド維持</b>		□ 見直す必要がある
【評	□ ある ☑ ない ☑ ない ☑ ある ☑ ない ☑ ある ☑ ない ☑ ある □ の総括と今後の方 ⑥ 事務事業の方向 □ 廃止	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事 <b></b>			□ 見直す必要がある
【評	□ ある □ ない □ ない □ ない □ の総括と今後の方 ፩の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事 <b></b>	<b>ド維持</b>		□ 見直す必要がある
【評	□ ある □ ない □ ない □ ない □ の総括と今後の方 ፩の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事 <b></b>	<b>ド維持</b>		□ 見直す必要がある
<b>【評</b>	□ ある □ ない □ ない □ <b>価の総括と今後の方</b> <u>後の事務事業の方向</u> □ 廃止 □ 事務事業統合 □ に行った改善	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	ド維持 <u></u> 現在の課題・問題点	」拡大	□見直す必要がある
<b>【評</b>	□ ある □ ない □ ない □ ない □ の総括と今後の方 ፩の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	代維持 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少	が顕著であり、事業	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直し
<b>【評</b>	□ ある □ ない □ ない □ <b>価の総括と今後の方</b> <u>後の事務事業の方向</u> □ 廃止 □ 事務事業統合 □ に行った改善	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	ド維持 <u></u> 現在の課題・問題点	が顕著であり、事業	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直し
<b>【評</b>	□ ある □ ない □ ない □ <b>価の総括と今後の方</b> <u>後の事務事業の方向</u> □ 廃止 □ 事務事業統合 □ に行った改善	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	代維持 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少	が顕著であり、事業	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直し
<b>【評</b>	□ ある □ ない □ ない □ <b>価の総括と今後の方</b> <u>後の事務事業の方向</u> □ 廃止 □ 事務事業統合 □ に行った改善	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	代維持 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少	が顕著であり、事業	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直し
【評 今在 過去	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 □ 下でも	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	状維持	」拡大 が顕著であり、事業 討などが求められて	内容の抜本的な見直している。
【評 今在 過去	□ ある □ ない □ ない □ <b>価の総括と今後の方</b> <u>後の事務事業の方向</u> □ 廃止 □ 事務事業統合 □ に行った改善	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	代維持 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少	」拡大 が顕著であり、事業 討などが求められて	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直し
【評 今在 過去	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 □ 下でも	〈理由〉 ·向性】 生 □ 事第 ·連携 ☑ 現七	状維持	」拡大 が顕著であり、事業 討などが求められて	内容の抜本的な見直している。
【評 今 る 。 う	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善  其内容の見直し、参加者	<b>〈理由〉 「向性】</b> 生	民維持 日本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果	」拡大 が顕著であり、事業 討などが求められて	内容の抜本的な見直している。
【評今後 事 今後 おお	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 はに行った改善 を内容の見直し、参加者	(理由)  「向性】 生 □ 事第 ・連携 ☑ 現れ  「の年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と	大維持 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の	」拡大 が顕著であり、事業 討などが求められて 新たに必	内容の抜本的な見直している。
【評今後 事 今後 おお	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 はに行った改善 を内容の見直し、参加者	(理由)  「向性】 生 □ 事第 ・連携 ☑ 現れ  「の年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	内容の抜本的な見直している。
【評合 過ぎる おび	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 はに行った改善 を内容の見直し、参加者	<b>〈理由〉 「向性】</b> 生	大維持 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	内容の抜本的な見直している。
【評今後 事 今後 おお	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 はに行った改善 を内容の見直し、参加者	(理由)  「向性】 生 □ 事第 ・連携 ☑ 現れ  「の年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	内容の抜本的な見直している。
【評合 過ぎる おび	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 はに行った改善 を内容の見直し、参加者	(理由)  「向性】 生 □ 事第 ・連携 ☑ 現れ  「の年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	内容の抜本的な見直している。
【評合 事 令 お双る	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ に行った改善 □ 内容の見直し、参加者	(理由) 「内性】  生 □ 事う ・連携 □ 現れ  なの年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と 連携などの方策を検討していく。	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直している。
【評合 事 令 お双る	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 はに行った改善 を内容の見直し、参加者	(理由) 「内性】  生 □ 事う ・連携 □ 現れ  なの年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と 連携などの方策を検討していく。	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	内容の抜本的な見直している。
【評合 事 令 お双る	□ ある □ ない □ ない □ の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ に行った改善 □ 内容の見直し、参加者	(理由) 「内性】  生 □ 事う ・連携 □ 現れ  なの年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と 連携などの方策を検討していく。	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業 計などが求められて 新たに必	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直している。
【評合 事 令 お双る 評価	□ ある □ ない □ ない □ 極の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ に行った改善 □ 内容の見直し、参加者 をの改善計画 □ さき婚活支援センター □ のでり取りや事業項 面(実績)等に関する原	(理由)  「向性】  生 □ 事う ・連携 □ 現れ  なの年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と 連携などの方策を検討していく。	送維持 日本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 必要があ 婚活支援情報の集約に 者数の増加	が顕著であり、事業計などが求められて 新たに必 よる参加なし	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直している。
【字 過 事 令 お双る 評 申 ジャー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ ある □ ない □ ない □ 極の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ に行った改善 □ 内容の見直し、参加者 をの改善計画 □ さき婚活支援センター □ のでり取りや事業項 面(実績)等に関する原	(理由)  「向性】  生 □ 事う ・連携 □ 現れ  なの年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と 連携などの方策を検討していく。	送維持 原本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少 や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 婚活支援情報の集約に	が顕著であり、事業計などが求められて 新たに必 よる参加なし	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直している。
【一字 過事 今 お双る 評 申た。	□ ある □ ない □ ない □ 体の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ に行った改善 □ はに行った改善 □ はいまするがある。 □ はいまする参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、一般を表しています。	(理由)  「向性】 生  □ 事業 ・連携 □ 現北  「の年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と連携などの方策を検討していくが	民維持 日本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少や適切な広報手段の検 期待される成果 婚活支援情報の集約に 者数の増加 なアジャも50%を超え、事業の成果が	が顕著であり、事業計などが求められて 新たに必 よる参加 なし	回見直す必要がある のり方改善 で内容の抜本的な見直している。 の要なコスト
【一字 過事 今 お双る 評 申た。	□ ある □ ない □ ない □ 体の総括と今後の方 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ に行った改善 □ はに行った改善 □ はいまするがある。 □ はいまする参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、参加者のでは、一般を表しています。	(理由)  「向性】 生  □ 事業 ・連携 □ 現北  「の年齢制限の導入  との連携を密にし、圏域市町と連携などの方策を検討していくが	送維持 日本の課題・問題点 現在の課題・問題点 特に女性の参加者減少や適切な広報手段の検 期待される成果 の情報の 必要があ 婚活支援情報の集約に 者数の増加	が顕著であり、事業計などが求められて 新たに必 よる参加 なし	□ 見直す必要がある □ り方改善 □ 内容の抜本的な見直している。

# 第2章

## 第4節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

- 1 地域防災計画,国民保護計画に基づく平素からの備えの重要性の周知
- 2 浸水、土砂崩れなどの危険箇所の整備と周知による被災の軽減化
- 3 移動可能な排水ポンプ車の配備,活用による緊急排水等の浸水対策の推進
- 4 防災行政無線や気象観測システムの活用による情報共有化
- 5 災害時における避難路、避難所、避難場所などの整備による安全確保
- 6 自主防災組織における防災意識の高揚と初期対応技術の向上
- 7 災害時における自治体間・相互応援協定や民間との災害支援協定などの締結
- 8 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施



	平成22年度	平成25年度	平成27年度
重要度(%)	74.20	75.33	74.38
満足度(%)	41.46	41.47	45.08

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化 第 1 項 地域防災計画、国民保護計画に基づく平素からの備えの重要性の周知

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ、安全対策が講じられている。

担当部課: 総務部防災安全課

担当·係名: 消防·危機防災担当

記入者名: 鈴木健 電話番号: 23-5144 810-112

#### 水防対策費 事務事業名: 24101 事業番号

根拠	<b>Ŀ法令·条例等</b> 水防法,	大崎市消防団	条例		
串	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	
業	☑ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度	

_	会計		一般
予	事業名	防災	<b>经対策経費</b>
科	款	9	消防費
14	項	1	消防費
	目	1	消防総務費

【事務事業の現状】

	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	豪雨等による水害から市民の生命、身体、財産を守る。	
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	大崎市消防(水防)団員	① 消防(水防)団員数
	7 (1. (1. (1. (1. (1. (1. (1. (1. (1. (1.	2
	実施内容・手段(具体的なやり方,手順)	◆活動指標
内容	〇水防演習訓練 水防演習の実施(大崎地域の各市町が毎年持ち回りで開催。平成29年度は大崎市が開催地となり、松山地域 須摩屋地内 鳴瀬川右岸河川敷において実施) ①木流し工法	③ 水防演習参加 及び参観者数
	②シート張り工法 ③月の輪工法 ④積土のう工法 日時 平成29年6月25日(日) 午後1時00分~午後4時 大崎市消防団としては、選手・協力者含め約200人が参加	4
	〇水害対策用ブルーシート、土のう袋、水防用砂利、ロープ、スコップ等の整備及び補充 〇各水防倉庫における施設及び巡回等の管理	⑤
成果	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	大崎地域水防演習においては、開催地として消防団員約200名が参加し、有事の際の水防工法を実施した。また、出水期にあっては、消防(水防)団員が出動し警戒・巡視・水防活動に従事している。近年の異常気象がもた	⑥ 水防演習参加者 及び参観者数
	らす水害に対し即時対応力を確保するとともに水防倉庫へ配備する資機材の補充を行うなど水防対策強化に努めた。	7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 消防(水防)団員数	2,368	2,361		2,335	人	2,430
		象	2						
		<b>.</b> -	③ 水防演習参加及び参観者数	120	25		200	人	参加者累計2,430
_	指 標	活動	4						
事業費		-73	⑤						
費		成 果	⑥ 水防演習参加者及び参観者数	120	25		200	人	参加者累計2,430
· 名		果	7						
各 指		事業	国庫支出金						
標の			県支出金						
が推			地方債						
移			その他						
			一般財源	3,809	967	5,695	3,152		
	費		事業費(a)	3,809	967	5,695	3,152	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	11,638	8,497		10,679	千円	

■ 事業番号 24101 事務事業名 水防対策費				
	■ 黒菫巻岩	24101	事務事業名	水防対策費

	ノカ南山 本 一本 リー・レーディー 人	+	₹望・協働等の状況】
半級半羊を叩り巻	(情情/)似化约藏学	. rh E <i>と</i> /ハ T 日 . g	9 50 • 122 (11) 35 (1) 37 (12)
マカマ 木 こ 払って		「川ルにひんあた」を	て 王 「

この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 平成30年7月, 西日本豪雨が発生し, 広島県をはじめ近隣各県 異常気象による水害等から、市民の生命、身体、財産を守るた に甚大な被害をもたらしました。このように、いつ、どこで災害が 発生してもおかしくない気象の変化に対応でき得る人的体制及 め。 び水防資機材の確保が重要となっている。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 防災・減災対策の強化は、重点プロジェクトに掲げているものであり、重点的に取 □ 貢献度 小 貢献できているのか。 り組む施策である。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? □ できる 《理由》 □ 見直す必要がある 水害被害の未然防止と仮に災害が発生した際には被害を最小限にとどめるた ☑ できない ▶ 有効性 【評価のポイント】 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 《理由》 水害発生時には的確な水位,堤体等の状況把握と対応が欠かせない。現在の □ できる 効果大 現在のやり方で成果がでる 消防(水防)団員が有する水防工法等のスキルを次代に引き継いでいくことが必 のか。 □ できる 効果中 要である。 ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない **《理由》** ハード面の整備とソフト面の充実により水防対策の向上が図られる。 ✓ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 《理由》 現在のやり方をもっと安価 □ ある 市民の生命、身体、財産を守るため、継続的かつ実践的な取り組みが必要。 にできないか。 √ ない ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 《理由》 □ ある □ 見直す必要がある 水防対策上, 資機材の整備及び人的対応は必要不可欠である。 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 □ 事務事業統合・連携 ☑ 現状維持 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 平成28年度に大崎市気象観測システムを導入し、市内8カ所の雨 量、風速、気温等をインターネットを通じてリアルタイムで確認できる |消防(水防)団員の高齢化、サラリーマン化が進むとともに、団員数 よう整備した。平成29年度に市内主要河川のタイムラインを策定, さ が減少している。 らに避難勧告等の判断・伝達マニュアルを策定した。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト

# 市及び国・県等と消防(水防)団が連携し、共通認識のもと水防対策 に取り組む。また、団員の確保対策を進めるとともに教育訓練等の 強化に努める。

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

第 1 項 地域防災計画、国民保護計画に基づく平素からの備えの重要性の周知

10年後の望ましい姿: 災害発生時に、すべての地域に速やかに避難できる安全な場所が確保されている。

担当部課: 民生部社会福祉課

**担当•係名**: 地域福祉係 記入者名: 早坂研

電話番号: 23-6012 810-219

## 事務事業名: 避難行動要支援者名簿作成事業

事業番号 24102

根拠	<b>根拠法令·条例等</b> 災害対策基本法									
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	26 年度~						
業	☑ 単年度繰返し									
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度							
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度						

	会計	一般
予	事業名	避難行動要支援者名簿作成事業
科	款	3 民生費
17	項	1 社会福祉費
_	目	1 社会福祉総務費

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

後害対策基本法により、災害発生時に避難する際に支援が必要な避難行動要支援者の名簿作成が、市町村に義務づけられている。 この名簿は、災害時に生命・身体に危険が及ぶおそれがある場合、本人の同意なしに消防や警察などの防災関係機関に提供することができる。また、平常時のうちから本人からの事前の同意により民生委員・児童委員などに名簿を配布しておき、災害発生時に直ちになる。

#### に安否確認や避難行動時の支援を行えるようにしておく。 対象 (誰,何に対して) ◆対象指標 名簿掲載対象 (1) 大規模な災害時に、特に避難行動の支援が必要と思われる、要介護認定者や障害者手帳所持者などの市民。 (2) 実施内容・手段 (具体的なやり方,手順) ◆活動指標 実施 ③ 同意書配布数 内 容 要介護認定者や障害者手帳所持者など、災害時の避難行動に支援が必要と思われる市民に対して、避難行動 要支援者名簿の作成に関する理解や、平常時のうちから、防災関係機関などへの名簿提供について、同意書を 4 提出していただけるよう周知と受け付けを行い、いざというときの名簿の有効活用に備える。 (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 同意書提出者 同意書を提出していただいた市民は、名簿対象者の4割弱であったが、高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯 数 などで、民生委員・児童委員の協力により、同意書提出についての掘り起こしができた。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 名簿掲載対象者	3,650	3,851		3,976	人	4,900
		象	2						
			③ 同意書配布数	3,650	3,851		3,976	枚	4,900
	指 標	活動	4						
事業費		到	5						
費		成 果	⑥ 同意書提出者数	1,552	1,458		1,403	枚	1,900
• 夂			7						
各指標		事業	国庫支出金						
			県支出金						
が推			地方債						
推移			その他						
			一般財源	853	828	828	828		
		Đ	事業費(a)	853	828	828	828	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.20	0.20		0.20	人	
		費	正職員人件費(b)	1,566	1,506		1,505		
			合計コスト(a)+(b)	2,419	2,334		2,333	千円	

事業番号	24102	事務事業名	避難行動要支援者名簿作成事業

<u>【事</u>	務事業を取り巻く環	境の変化	、や議会・市民との意見・要望・			
この	事務事業を開始したきっ	かけ		事務事業を取り巻く環境の変化や議会	会・市民と	の意見・要望・協働等の状況
	<sup>붗25年6月の災害対領</sup> 推行動要支援者名簿 <i>0</i>		)一部改正により,市町村に 務づけられたため。	東日本大震災の被災を受けて に関する理解は得られるもの 機関などへの名簿提供につい 者の4割弱にとどまっている。	の, 平常	時のうちから、防災関係
【事	務事業の担当課評	<b>儒</b> 】				
•	目的妥当性	JM <b>4</b>				
(I)	この事務事業は、総合	計画への貢	i献度は大きいですか?			【評価のポイント】
Ü		《理由》	まで規定された事務である。			総合計画を実現するために 貢献できているのか。
2	対象や意図の範囲を見 □ できる	し直し, 拡大 《理由》	・縮小することで費用対効果を上げる	ることができませんか?		☑ 適切
	□ できない		災害発生時に避難行動要支援者の安	で否確認などで必要である。		□ 見直す必要がある
	有効性					
		カ方を変え	ることで成果を向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】
•	□ できる 効果大	***************************************			どへ	現在のやり方で成果がでる
	<ul><li>✓ できる 効果中</li><li>☐ できない・効果なし</li></ul>	Q	民生委員・児童委員などの協力により、平常時のうちから、防災関係機関などへ の名簿提供について、名簿搭載対象者からの同意書提出に係る掘り起こしが可 能である。			のか。
<b>(A)</b>	類似の日的(対象と音)	図)主たけ飛	彡態(イベントや啓発)を持つ他の事務	8事業けなり主せんか?		☑ 適切
•	□ ある 統合・連携が			カチ末はのりなど/02~:		□ 見直す必要がある
				務付けられているもので,他の事務事	業 /	
			はなし。		/	
	41 ete 14				<u>'</u>	
	効率性	· ** ** * * *				「無体のよう」
9	現状の放果を下げする	- 争来賞を用 《理由》	川減する方法はありませんか?		·····! \	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	——.	B簿は常に更新しなければ, 有効性が	が保てない。		現在のやり力をもつと安価 にできないか。
					\	,☑ 適切
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい □ ある	いる要因は₹ 《理由》	りませんか。			□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
	<ul><li>□ める</li><li>▽ ない</li></ul>		寺になし		/	□ 見直す必要がある
	<b>9</b> 0.0	<u>'</u>	31-0.0		1	
					/	
【評	価の総括と今後の	<u> 方向性】</u>				
今往	後の事務事業の方向	]性			<del>- **</del>	<u> </u>
	□廃止□東変更業績を	ン . '市 #隹	□ 事業完了		事業の1	らり方改善
\B =	□事務事業統合	2 建捞	☑ 現状維持	□拡大		
道7	<b>长に行った改善</b>			現在の課題・問題点		
なし				東日本大震災の被災を受けて、避する理解は得られるものの、平常への名簿提供について同意をいた。	時のうちだ	から,防災関係機関など
				とどまっている。		
今後	後の改善計画			期待される成果	新たに	込要なコスト
			より, 平常時のうちから, 防災関係			
機関	<b>劇などへの名簿提供に</b>	ついて、名	A 簿搭載対象者からの同意書提		なし	
出は	に係る掘り起こしを行う	0				
評值	西(実績)等に関する	所属長所	見			所属長氏名

髙橋幸利

東日本大震災で亡くなった方の約6割は高齢者であり、また全住民の死亡率と比べて、障害者の死亡率は約2倍となっている。このことからも、平常時のうちから、防災関係機関などへの避難行動要支援者名簿の提供について、関係する市民の同意が得られるよう周知と理解を求めながら、いざというときの名簿の有効活用に備える。

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

第 2 項 浸水、土砂崩れなどの危険箇所の整備と周知による被災の軽減化

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ、安全対策が講じられている。

担 当 部 課 : 建設部下水道課河川・冠水対策室

**担当・係名**: 雨水施設整備係

記入者名: 岸善則 電話番号: 52-2122 830-461

## 事務事業名: 排水路整備事業

事業番号 24201

根	<b>処法令・条例等</b> 大崎市都市計画マスタープラン	1	_	1
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	Ī	予	事
業	□単年度繰返し	1	科	П
期	□ 単年度のみ実施 平成 年度	Ī	147	
間	☑ 期間限定複数年度 平成 18 年度~平成 38 年度			

	会計		一般						
予	事業名	排水	非水路改良整備事業						
异刻	款	8	土木費						
117	項	3	河川費						
	目	2	排水路改良費						

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

**目** 未整備水路や排水不良水路を布設替えすることにより、流れが悪く滞った状態が解消され、浸水被害が軽減される。また、雨水排水 **的** の円滑な処理と衛生的な環境整備を行うのが目的である。

《理由》 宅地化が進む中, 市街地での排水路の未整備箇所(土水路)の整備要望が毎年増加している。

	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標				
	古川地域の排水路のうち、未整備水路や排水が不良で衛生上も良くない排水路の隣接に居住する市民。 ②					
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標				
実施内容	地域住民等の要望をとりまとめ、計画を立案した排水路整備年次計画に基づき、未整備水路(土水路)や排水不良水路を調査及び測量・設計し、排水路改良工事を実施した。 《平成29年度》	③ 排水路整備延長(単年)				
	11 路線 ・ 施工総延長 L=797.0m	長(累計)				
	※平成29年度に事業費と延長の計画を見直している。(毎年度、要望に対し優先順位を見直している。)	(5)				
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)				
成果	排水路改良工事を実施した箇所は、汚水・生活雑排水や雨水が適切に処理され、生活環境が向上。 ※成果指標⑥・・・排水路整備事業費 進捗率=(単年度事業費累計 /事業費総額 )×100	⑥ 事業費進捗率				
	※成果指標⑦・・・排水路整備事業延長 進捗率=(単年度整備延長累計/整備計画延長)×100	⑦ 延長進捗率				

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 事業計画整備延長	13,262	13,262		13,262	m	_
		象	2						
		,,	③ 排水路整備延長(単年)	875.7	841.7		797.0	m	_
_	指標	活動	④ 排水路整備延長(累計)	5,297.4	6,139.1		6,936.1	m	13,262
事業費		. 30	5						_
費		成 果	⑥ 事業費進捗率	29.2	35.0		41.7	%	
• 夕			⑦ 延長進捗率	39.9	46.3		52.3	%	100
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
の推		事業費	地方債	54,300	54,200	64,200	64,200		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	3,650	4,023	3,826	3,826		
	費		事業費(a)	57,950	58,223	68,026	68,026	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.50	1.50		1.50	人	
		費	正職員人件費(b)	11,744	11,295		11,291		
			合計コスト(a)+(b)	69,694	69,518		79,317	千円	

+ ** ** **		古沙古光力	
	24201	車級車業名	排水路整備事業
サ末田ケ	24201	■ 学物学未包	1.排水的金属学术

古川地域は、宅地開発などで取り残された水路の未整備箇所 が多くあり、排水不良による浸水被害の発生や、衛生上の改善を必要とする排水路について、期間を設けて順次整備を進める ために事業を開始しました。

#### 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

事業開始より12年が経過しているが、排水路整備要望は年々増加しており、 早期の整備が市民から求められている。

現時点でH29年度までの整備計画に計上できていない要望箇所もあり、全要 望に応えられないのが現状です。

れまで以上に排水路の整備要望が高まっている。

【事	務事業の担当課評	価】			•		
	目的妥当性	<u>a</u>					
1	この事務事業は, 総合	計画へのi	貢献度は大きい	<b>\ですか?</b>			【評価のポイント】
☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業  【理由】  衛生上の生活環境の改善・浸水危険個所の被害軽減化を図る上で, 貢献に 大きい。							総合計画を実現するために 貢献できているのか。
	_						√ ☑ 適切
2					ることができませんか?		<b>_</b>
	<ul><li>□ できる</li><li>☑ できない</li></ul>		古川地域での 新たな要望箇戸 い。	)排水路の未整備箇所 所も年々増加し継続的	も多く,広範囲でそのストックも多な整備が必要なことから,見直しに	い。また, はできな	□ 見直す必要がある
•	有効性						
	事務事業のやり方・進る	の方を変え	.ることで成果を	向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】
	□ できる 効果大 □ できる 効果中 □ できない・効果なし	8	に見えた成果の		地域ごとに面的整備を単年で実施する 該事業は整備要望が年々増加しており 方法しかないと考える。		現在のやり方で成果がでる のか。
<b>a</b>	類似の目的(対象と音)	図)または:	形能(イベント+	5啓発)を持つ他の事	<b>密事業はありませんか?</b>		〉☑ 適切
•	□ ある 統合 連携が				JJ - X 1500 / JS C 1 7 1	/	/ □ 見直す必要がある
	□ ある 統合・連携が					/	
	ない						
<b>♦</b>	効率性						
⑤	現状の成果を下げずに	事業費を	削減する方法に	<b>はありませんか?</b>		)	【評価のポイント】
	□ ある	《理由》			非水路整備協力が得られれば事業		現在のやり方をもっと安価
	ない			[年は高齢化などにより  減する適切な方法は『	リ協力体制の確立が困難な状況に 見当たらない。	なってお	にできないか。
		i				i	√☑ 適切
6	コスト削減を阻害してい		ありませんか。				/
	<ul><li>□ ある</li><li>✓ ない</li></ul>	《理由》				/	□ 見直す必要がある
	<b>V</b>					/	
7 =							
	価の総括と今後の2 その事務事業の方向						
7 13	<u>図                                    </u>	JT±		□ 事業完了	□■	終重業の.	<u> </u>
	□ 原业 □ 事務事業統合	-`連携		□ 現状維持	☑並		
過去	に行った改善	- ~= ,,,			現在の課題・問題点		
X2 2					SUL ON INVESTIGATION		
追	加される整備要望とる	ストックして	こいる要望簡素	所を 毎年精査し年		<b>+</b> > 1 1	=-4
	画を立て直して, 効率				排水路の整備要望数が多く  数年間を要する箇所もある。	奇せられてお	6り,工事実施に至るまで,
る。					数牛间で女子の固別もめる。		
<b>今後</b>	の改善計画				期待される成果	発ナーに	必要なコスト
7 12	W G III G				MINICIPODAX	A) / C ( C )	2.2.6=//1
	備効果の高い箇所の	整備重点	化を図り、事	業期間の短縮化と	衛生上の改善及び排水能力の	の向 なし	
干舟	月の効用発揮を図る。				上。		
評価	五(実績)等に関する	所属長所	f見				所属長氏名
環	境意識の高まる一方・	で、高齢イ	とが進み土砂	払い等の地域活動が	が困難となってきている状況から	ò.	· · · ·
					内な整備を進めてまいります。		髙橋・靖・央

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

第 2 項 浸水, 土砂崩れなどの危険箇所の整備と周知による被災の軽減化

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ,安全対策が講じられている。

担当部課: 建設部建築住宅課

担当·係名: 住宅計画係 記入者名: 阿部裕一 電話番号: 23-8057 810-365

事務事業名: 耐震改修促進事業

・危険ブロック塀等除却事業により除却したブロック塀等

事業番号 24202

除却累計件数

根拠	法令·条例等  建築物の	耐震改修の仮	進に関する法律	<b>‡</b>	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	
業	☑ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度	

	会計		一般						
予	事業名	耐震改修促進事業							
科	款	8	土木費						
117	項	1	土木管理費						
_	目	2	建築指導費						

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

**目** 東日本大震災後も高い確率で地震が発生すると予測されていることから、木造住宅の耐震化や危険ブロック塀の除去を推進するため、これに要する費用を助成し、安全で安心な生活の確保を図るものである。 なお、市の耐震改修促進計画で平成32年度までに耐震化率95%以上を目標としている。

#### 対象 (誰,何に対して) ◆対象指標 ① 旧基準住宅数 ・昭和56年5月31日以前に着工された住宅で、在来軸組工法又は枠組壁工法による木造平屋建てから木造3 階建てまでの住宅所有者 ブロック塀等除 ・ 危険ブロック塀等除去対象者 却対象者数 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 1. 耐震診断等助成事業 木造住宅耐震 市が、住宅の所有者の求めに応じ補助対象住宅について耐震一般診断及び改修計画を行うため、耐震診断 診断実施棟数 施 士を派遣する。 補助:上限140千円/棟 内 容 2. 耐震化工事助成事業 市が補助対象住宅について,その住宅所有者が行う耐震化工事に係る費用の一部を助成する。 木造住宅耐震 -一般住宅:補助率1/2 補助限度額600千円 ④ 改修工事実施 ・避難弱者住宅・特定地域(大崎市地震防災マップにおいて、木造建物全壊率の危険度ランク2以上7以内の 棟数 地域)にある住宅:補助率1/2 補助限度額675千円 ・上記の耐震改修工事と併せてリフォーム工事を行う場合:上乗せ補助限度額100千円 ⑤ 危険プロック塀等 3. 危険ブロック塀等除却事業 (市実態調査に基づき危険性が高いと判定されたプロック塀等を除却する者に対して, その除却費用の一部につ 除却件数 補助:面積×4,000円/m 上限150千円/件 いて補助) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 6 木造住宅耐震改修 成・木造住宅耐震診断助成事業により耐震診断を行った住宅数 22棟 3.080千円 工事助成累計棟数 果 ・木造住宅耐震改修工事助成事業により耐震化を行った住宅数 8棟 5.525千円

13力所

1,147千円

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度							
		対	① 旧基準住宅数	24,427	24,427		23,856	棟	_							
		象	② ブロック塀等除却対象者数	_	_		_	箇所	—							
		··	③ 木造住宅耐震診断実施棟数	29	50	_  \	22	棟	—							
_	指標	活動	4 木造住宅耐震改修工事実施棟数	6	10		8	棟	—							
事業費		` 3/)	⑤ 危険プロック塀等除却件数	7	5		13	箇所	—							
費		成 果	⑥ 木造住宅耐震改修工事助成累計棟数	137	147		155	棟	—							
• タ			⑦ 危険ブロック塀等の除却累計件数	250	255		268	箇所	_							
各指標			国庫支出金	6,201	6,514	3,451	3,452									
標の			県支出金	2,512	4,247	2,470	2,470									
推		事業費	地方債													
移	総	費	総 費 事 業	総事業	総事業	総事業	総事業	総事業	総事業費	その他	3,839					
	事業									争 業	争 業	争 業	一般財源	2,632	5,417	6,383
	費		事業費(a)	15,184	16,178	12,304	11,230	千円								
		人件	正職員年間従事人員	0.79	0.80		0.60	人								
		費	正職員人件費(b)	6,185	6,024		4,516									
			合計コスト(a)+(b)	21,369	22,202		15,746	千円								

事業番号	24202	事務事業名	耐震改修促進事業

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

宮城県沖地震の発生が危惧されている中で、市民の安全確保 を図るために住宅の耐震化や危険性のあるブロック塀の除去を 促進させることが有効であるとの判断による。

《理由》

□ ある ☑ ない

本事業は、平成18年から実施しているが、平成23年に発生した 東日本大震災において、耐震化の必要性が再認識されたこともあって、住宅の耐震化が進んでいる。一方で、使用されない住宅 (空き家)の耐震化は進まない傾向にあり、今後の課題となる。

□ 見直す必要がある

【事	務事業の担当	課評価】
<b>♦</b>	目的妥当性	
<b>1</b>	- の車変車業け	<b>公会計</b> 商

•	目的妥当性			
1	この事務事業は,総合語	<b>十画への貢献度は大きいですか?</b>		【評価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	<b>《理由》</b> 大規模地震災害における市民の安全確保は最優先事項と考える。	\	総合計画を実現するために 貢献できているのか。
<u>ඉ</u>	対象や意図の節囲を見	直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか?	$\rangle$	☑ 適切
•	□ できる ☑ できない	(理由) 住宅の除却等による対象の縮小は見込めるものの, 当該除却等は所有者の意思に依存せざるを得ない。		□ 見直す必要がある
•	<del></del>	<u> </u>		
♥	有効性			
<ul><li>3</li><li>4</li></ul>	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>☑ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>	の方を変えることで成果を向上させることができますか? 《理由》 建築物の耐震化は、広く市民生活の安全につながるものであることから、住宅に限らず全ての建築物の耐震化に関する普及・啓発を進める必要がある。  ② または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか?	$\setminus$	【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。 ☑ 適切
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>□ ある 統合・連携が</li><li>☑ ない</li></ul>	できる 【類似事務事業名】 できない <b>〈理由》</b>		□ 見直す必要がある
<b>♦</b>	効率性			
<b>⑤</b>	現状の成果を下げずに □ ある ☑ ない	事業費を削減する方法はありませんか? 《理由》 本事業は、地震対策として必要な事業であると考えており、多くの住宅の耐震化 が図れるよう、引き続き推し進めていくべきであると考える。	\	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	る要因はありませんか。		☑ 適切

<u> </u>			
【評価の総括と今後の方向性】			
今後の事務事業の方向性			
□ 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業統合・連携 □ 現状維持	□ 事務事 ☑ 拡大	¥業のやり方改善 	
過去に行った改善	現在の課題・問題点		
・木造住宅耐震改修工事助成事業の補助要件の見直し ・補助対象上限額を引き上げし補助金増額	・助成制度見直しによる住宅耐震化率の向上 ・被災住宅の早期復旧のための住宅等の耐震化の推進		
今後の改善計画	期待される成果	新たに必要なコスト	
・木造住宅耐震診断・改修に関する事業PRの普及・啓発の強化に取り組む。	・住宅耐震化率の向上, すなわち 市民の安全が確保される。	現時点で特になし	
評価(実績)等に関する所属長所見	所属長氏名		
住民健診等の会場で周知・広報活動を行ってきたが、耐震化率は82 がある。危険ブロック塀等除却件数は2倍以上になっているが、市民の 	飯田幸弘		

現状では耐震補強技術の革新又は施行単価の下落に依存するしかない。

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化 第 2 項 浸水、土砂崩れなどの危険箇所の整備と周知による被災の軽減化

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ、安全対策が講じられている。

担当部課: 鹿島台総合支所地域振興課

担当・係名: 建設担当 記入者名: 今野 勝和 電話番号: 56-5520 840-235

#### 排水路改良整備事業(鹿島台地域) 事務事業名:

事業番号 24203

根拠	法令·条例等 大崎市都	3市計画マスタープラン
串	開始年度	□ 昭和 ☑ 平成 18 年度~
業	□ 単年度繰返し	
期	□ 単年度のみ実施	平成年度
間	☑ 期間限定複数年度	平成 18 年度~平成 30 年度

	会計		— 般					
予	事業名	排水	排水路改良整備事業					
<b>异</b>	款	8	土木費					
目	項	3	河川費					
	目	2	排水路改良費					

【事	<b>『務事業の現状</b> 』	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
	鹿島台姥ヶ沢地区においては,たびたび床上・床下浸水になる地区であり,地域住民の安全確保及び生活環境整備を行い冠水の軽減を図る。	整備のため計画的な
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	大崎市鹿島台地域 姥ヶ沢	① 姥ヶ沢地域住民
	実施内容・手段(具体的なやり方、手順)	◆活動指標
実施内式		③ 排水ポンプの新設工事
容	排水不良及び未整備水路の改修等及び排水ポンプの新設を行う。	④ 排水路整備工事
		(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
成果	姥ヶ沢地区排水路を現場打により大型水路(高1200*幅2200)の整備。延長70.7m	⑥ 排水路の整備 工事
~	26 / 07-20 - 107 / 20 - 30 11 1-0- // エバルは (101・1-00 ・ 1B21-00 / 47 正 1m ) 足及 / 0.7 m	7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成30年度
		対 象	① 姥ヶ沢地域住民	400	400		406	戸	_
			2				406	匚	—
		ı,	③ 排水ポンプの新設工事	0	0		0	基	—
_	指標	活動	④ 排水路整備工事	56	99		70	m	—
事業費			⑤				1	式	_
費		成	⑥ 排水路の整備工事				70	m	—
· 么		果	7				1	式	_
各指			国庫支出金						
標の		:	県支出金			19,000			
の推		事業費	地方債	16,200	27,100		19,000		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	925	3,062	1,000	1,000		
	費		事業費(a)	17,125	30,162	20,000	20,000	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.20	0.20		0.20	人	
		費	正職員人件費(b)	1,566	1,506		1,505		
			合計コスト(a)+(b)	18,691	31,668		21,505	千円	

		<b>尹未田</b>	24203	事份事未有 排水品以及	X正师学术(此页	日地域/		
「車	<b>弥車業を取り巻/</b> 標	境の変化や議会・市	足との音目・亜切。	拉働竿の光辺】				
	初 尹 未で 収り合い場 事務事業を開始したきっ		氏この心元・女王・		上や議会・市民と	の音見・要望・協働等の状況		
		ため、地元より要望され	ı <i>t</i> ≥。	事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 事業の早期完了				
【事	務事業の担当課評	価】						
•	目的妥当性					F ( 10 A) A		
1		計画への貢献度は大きし 《理由》 地域の冠水被・		rることにより生活環境が向上す	ける。	【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。		
2	対象や意図の範囲を見	!直し,拡大・縮小すること	±で費用対効果を上げ。	ることができませんか?		, <b>⊼</b> 167 A)		
	<ul><li>□ できる</li><li>☑ できない</li></ul>	《理由》 全体事業費(起 切な状態と思わ		定め計画的に整備しているため	現在が適	□ 見直す必要がある		
•	有効性							
		<b>か方を変えることで成果を</b>	一向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】		
	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	いても積算基準	年次ごとに定め計画的 集等を遵守し市の規則 良い状態である。	に実施している。また,事業の多 こ基づく入札・契約体制で適切!	発注等にお こ行ってお	現在のやり方で成果がでる のか。		
4		図)または形態(イベントヤ できる 【類似事務事 できない <b>《理由》</b>		<b>多事業はありませんか?</b>		<b>○ こ ~ の</b> □ 見直す必要がある		
<b>♦</b>	効率性							
5	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある ☑ ない	れらを経済比較	計画する際は費用対効 交し、最も最良の工法で	果、コスト縮減等を念頭に計画 計画している。また、いたずらに 効果が薄れる可能性もある。	している。そ こコスト重視	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。		
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	る要因はありませんか。						
•		《理由》				□ 見直す必要がある		
「証	価の総括と今後のス	左向性 】						
	後の事務事業の方向							
	□ 廃止 □ 事務事業統合		□ 事業完了 ☑ 現状維持		事務事業の∜ 広大	5り方改善		
過去	に行った改善			現在の課題・問題点				
		現状でできる計画を策! 置を行い冠水の軽減を		最善の工法では行っている どに対応できない場合もある。		:水量以上の集中豪雨な		
今後	後の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト		
策等	F)と連携を図りより良	きるよう、他事業(公共 い事業実施を展開する		手戻りのない事業が行え、 的にはコストの軽減にもつな る。	結果 も発揮で なが 続的に必 耐用年数	際には、その効果がいつできるような施設の維持管理の保守管理に要す経費が継ら要になる。また、設備には対もあり更新の際には多大ないます。		
評個	西(実績)等に関する	所属長所見				所属長氏名		
		上・床下の浸水被害が 改修を図る必要がある		かで,安心して暮らせる地域。	とする	山下範夫		

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

第 2 項 浸水、土砂崩れなどの危険箇所の整備と周知による被災の軽減化

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ、安全対策が講じられている。

担 当 部 課 : 建設部下水道課河川・冠水対策室

担当・係名: 雨水施設整備係

記入者名: 岸善則 電話番号: 52-2122 830-461

## 事務事業名: 排水路改良整備事業(浸水対策)

事業番号 24204

根拠	根拠法令・条例等 大崎市都市計画マスタープラン									
事	開始年度	□ 昭和 🗹 平成 26 年度~								
業	□ 単年度繰返し									
期	□ 単年度のみ実施	平成  年度								
間	☑ 期間限定複数年度	平成 26 年度~平成 38 年度								

	会計	一般
予	事業名	排水路改良整備事業
科	款	8 土木費
日	項	3 河川費
_	目	2 排水路改良費

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

**目** 未整備水路や排水不良水路を布設替えすることにより、流れが悪く滞った状態が解消され、浸水被害が軽減される。また、雨水排水 の円滑な処理を行うのが目的である。

《理由》 毎年要望が増加しており、宅地化が進む中、市街地での浸水被害も増加している。

	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	古川地域における排水路のうち,ゲリラ豪雨や台風時の大雨等により、溢水する排水路周辺に居住する市民。	事業計画整備延長
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内容	地域住民等の要望により、計画を立案した排水路整備年次計画に基づき、未整備水路(土水路)や排水不良水路の調査及び測量・設計・工事を実施した。 《平成29年度》 1 路線 ・ 測量・設計総延長 L=880m 1 地区 ・ 基本計画策定 A=177.3ha 5 路線 ・ 工事 施工延長 L=1,064.7m(うち繰越204.4m)	<ul> <li>③ 排水路整備延長(単年)</li> <li>④ 排水路整備延長(累計)</li> <li>⑤</li> </ul>
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
成果	排水路改良工事を実施した箇所は、雨水排水が円滑に処理され、浸水被害もなく生活環境が向上した。 ※は異じての・・・ は、水路をはまままし、海の水路をは、水路をはままます。	⑥ 事業費進捗率
未	※成果指標⑥···排水路整備事業費 進捗率=(単年度事業費累計 /事業費総額 )×100 ※成果指標⑦···排水路整備事業延長 進捗率=(単年度整備延長累計/整備計画延長)×100	⑦ 延長進捗率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 事業計画整備延長	4,455	4,455		4,455	m	_
		象	2						
		·+	③ 排水路整備延長(単年)	609.6	581.4		1,064.7	m	—
_	指標	活動	④ 排水路整備延長(累計)	609.6	1,191.0		2,255.7	m	4,455
事業費		. 3/)	5						
費		成	⑥ 事業費進捗率	26.5	46.3		61.2	%	—
• タ		果	⑦ 延長進捗率	13.7	26.7		50.6	%	100
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金			70,200			
推		事業費	地方債	99,200	97,200		70,200		
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	18,931	5,552	7,171	7,171		
	費		事業費(a)	118,131	102,752	77,371	77,371	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527		
			合計コスト(a)+(b)	125,960	110,282		84,898	千円	

<b>事</b> 王帝士	24204		排水路改良整備事業(浸水対策)
		サカチネコ	

古川地域は、宅地開発などで取り残された水路の未整備箇所が多くあり、排 本不良による浸水被害の発生が多く、ゲリラ豪雨や浸水・冠水が頻発することから、平成25年に古川地域の常襲冠水地帯6地区、27行政区より浸水・冠水

から、平成25年に
の川地区特有原因及び対策について
間取りと現地調査を行い、
冠水被害対策計画を策定しました。
その中で、
【中期的対策】
概ね5~10年を目処に、
基本計画を策定し、
幹線的
水路の整備、
改築や側溝整備を行い被害軽減を図ることを目的とし事業を開始

### 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

近年,全国的に発生する豪雨災害により,冠水常襲地域の市民より,早期の整備が求められている。 また,議会においても当該事業の進捗は常に問題視されている中で, 冠水被害対策計画により早期の整備が待たれている状況である。

1 争	務事業の担当課評	価】				
<b>♦</b>	目的妥当性					
①	この事務事業は,総合	計画への貢献度はフ	<b>大きいですか?</b>			【評価のポイント】
	☑ 貢献度 大	《理由》			\	総合計画を実現するために
	□ 貢献度 小	浸水危険	個所の被害軽減化を図る上	で. 貢献度は大きい。	<u> </u>	貢献できているのか。
	□ 基礎的事務事業			-, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -, -		
		İ			i	☑ 適切
<b>a</b>	対象の意図の範囲を見	直   廿十。線小す。	ることで費用対効果を上げ	スーレがガキ士サムかつ		<u> </u>
<b>(2</b> )		と近し、133人・幅グ・タイ 《理由》	ることで資用が別末をエバ	SCCN.CG & FWW.:		□ 日本ナツ亜ゼナス
	口できる	<b>《理田》</b> 古川地垣	或での浸水被害は多く発生し	ており 排水路の未整備箇所も広範囲	で /	□ 見直す必要がある
	☑ できない		クも多く 見直しはできない			
					·	
	有効性					
3			<b>戊果を向上させることができ</b>			【評価のポイント】
	□ できる 効果大	《理由》 財政而ま	・ 子庸しなければ 排水系統	の地域ごとに面的整備を単年で実施す	る	現在のやり方で成果がでる
	 □ できる 効果中	ことで、目	に見えた成果の向上が見る	まれるが、継続的な事業であることから	ъ. П	のか。
		冠水被害	対策計画による整備を実施	する。		
		\$				☑ 適切
<b>(A)</b>	類似の日的(対象と音)	図)またけ形能(イベ	ントや啓発)を持つ他の事績	8車業けなりませんか?		, <u>m</u>
•	□ ある 統合・連携か			サネはのプラビバル・.		□ 見直す必要がある
	□ ある 統合・連携か		初于木口】			□ 兄直り必安かめる
		, C.らない <b>《理田》</b>			/	
		<u> </u>			i/	
	11 14					
	効率性					
⑤	現状の成果を下げずに	:事業費を削減する方	5法はありませんか?			【評価のポイント】
	□ ある	《理由》 原材料支	支給による. 地域単位での打	水路整備協力が得られれば事業費削	減	現在のやり方をもっと安価
	☑ ない			協力体制の確立が困難な状況になって		にできないか。
		り, 事業費	<b>置を削減する適切な方法は</b> 見	し当たらない。		
		······································				√ ☑ 適切
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	いる要因はありません	か。			) —
•		《理由》				□ 見直す必要がある
	□ ない					
	<b>K</b> .90					
					i  /	
r =w		<b></b>			<b>/</b>	
	一年の松丘し合名の-	: 上亡#1				
A	価の総括と今後の	方向性】			\/ 	
今後	<b>後の事務事業の方向</b>	<b>方向性】</b> ]性	口市业内フ		· /	<b>►.</b>
今後	後の事務事業の方向 □ 廃止	]性	□ 事業完了			やり方改善
今後	<b>後の事務事業の方向</b>	]性	□ 事業完了	□ 事務事 ☑ 拡大	事業のも	やり方改善
今後	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	]性		☑ 拡大	事業のか	やり方改善
今征	後の事務事業の方向 □ 廃止	]性			事業の*	やり方改善
今後過去	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善	含∙連携	□現状維持	現在の課題・問題点		
過去 冠	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□ 現状維持 □ 現状維持 所を整備し、毎年精査し	☑ 拡大 現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田		
過去 冠	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □ ・ □	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。	)が埋め	立てられ、農地の保水能
過去 冠	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  □ 水被害対策計画によ な計画を立て直して、	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□ 現状維持 □ 現状維持 所を整備し、毎年精査し	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠	)が埋め	立てられ、農地の保水能
今後 過去 年次	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  □ 水被害対策計画によ な計画を立て直して、	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□ 現状維持 □ 現状維持 所を整備し、毎年精査し	□ 拡大 現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。	)が埋め	立てられ、農地の保水能
今後 過去 年かる	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善 ○沈被害対策計画によ 次計画を立て直して、交	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□ 現状維持 □ 現状維持 所を整備し、毎年精査し	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。	)が埋め	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今後 過去 年かる	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統会 はに行った改善  □ 水被害対策計画によ な計画を立て直して、	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□ 現状維持 □ 現状維持 所を整備し、毎年精査し	□ 拡大 現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田 力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠 早期の対応が求めれられている。	)が埋め	立てられ、農地の保水能
今後 過去 年かる	後の事務事業の方向 □廃止 □事務事業統合 はに行った改善 ○沈被害対策計画によ 次計画を立て直して、交	]性 合・連携 り計画的に要望箇	□ 現状維持 □ 現状維持 所を整備し、毎年精査し	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。	)が埋め	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今後をおります。	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 は、被害対策計画によ 対計画を立て直して、対 の改善計画	]性 合・連携 り計画的に要望箇i 効率的な整備を促め	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	☑ 拡大 現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今後がおります。	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 は、被害対策計画によれ を計画を立て直して、交 後の改善計画	1性  ・連携  り計画的に要望筒  効率的な整備を促進  担当)との連携強化	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今番が一番が一番を	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 は、被害対策計画により 対計画を立て直して、交 後の改善計画 は 禁住宅課(開発指導	1性  ・連携  り計画的に要望筒  効率的な整備を促進  担当)との連携強化	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	☑ 拡大 現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今番が一番が一番を	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 は、被害対策計画により を対象計画を立て直して、交替 を対象計画 とない。 との改善計画 は、発生を課(開発指導 を対して、対象が表す。	1性  ・連携  り計画的に要望筒  効率的な整備を促進  担当)との連携強化	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今週年い今建浸事	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善  ※水被害対策計画による な計画を立て直して、 を の改善計画  ※発住宅課(開発指導 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1性 合・連携 り計画的に要望箇 効率的な整備を促送 型当)との連携強化 経滅に向けた、年次	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、 必要なコスト
今週年い今建浸事	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 は、被害対策計画により を対象計画を立て直して、交替 を対象計画 とない。 との改善計画 は、発生を課(開発指導 を対して、対象が表す。	1性 合・連携 り計画的に要望箇 効率的な整備を促送 型当)との連携強化 経滅に向けた、年次	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、
今週年い今建浸事	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善  ※水被害対策計画による な計画を立て直して、 を の改善計画  ※発住宅課(開発指導 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1性 合・連携 り計画的に要望箇 効率的な整備を促送 型当)との連携強化 経滅に向けた、年次	□ 現状維持 所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、 必要なコスト
今 過 年い 今 建浸事 評	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 は、被害対策計画による を対策計画を立て直して、交 をの改善計画 は築住宅課(開発指導持・ は、被害の早期解消・ は、変にでする。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1性 ・連携 リ計画的に要望箇け 効率的な整備を促送 担当)との連携強化 経滅に向けた。年次 所属長所見	□ 現状維持  所を整備し、毎年精査し  進し事業の進捗を図って	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果 整備費用効率化。 浸水被害の解消・軽減。	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、 必要なコスト
今 過 知がる 後 建浸事 評 平	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 はに行った改善 はな害対策計画によった な計画を立て直して、交 をの改善計画 は築住宅課(開発指導持事業)等に関する に実績)等に関する には、冠水	1性 合・連携 り計画的に要望箇の 効率的な整備を促進 担当)との連携強化 経滅に向けた。年次 所属長所見	□ 現状維持  所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って  な。  で計画に基づき、効率的  のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果 整備費用効率化。 浸水被害の解消・軽減。	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、 必要なコスト 所属長氏名
今 過 年い 今 建浸事 押 平内	後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 はに行った改善 はに行った改善 はな害対策計画によった な計画を立て直して、交 をの改善計画 は築住宅課(開発指導持事業)等に関する に実績)等に関する には、冠水	1性 合・連携 り計画的に要望筒は 効率的な整備を促送 を関係した。 を対したの連携強化を を対した。 が属長所見 に常襲地域である城 を開工事に着手し。	□ 現状維持  所を整備し、毎年精査し 進し事業の進捗を図って  次。 次計画に基づき、効率的  認西地内排水路整備工事  冠水被害の解消・軽減が	現在の課題・問題点 年々、宅地開発によって農地(田力が急激に変化してきている。 H27年の豪雨災害(9.11)以降、冠早期の対応が求めれられている。 期待される成果 整備費用効率化。 浸水被害の解消・軽減。	)が埋め 水対策系	立てられ、農地の保水能 要望が高まってきており、 必要なコスト

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

項 浸水、土砂崩れなどの危険箇所の整備と周知による被災の軽減化

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ,安全対策が講じられている。

担当部課: 建設部建築住宅課 担当•係名: 住宅計画係

記入者名: 阿部 裕-電話番号: 23-8057 810-365

#### 住宅等災害復旧事業 事務事業名:

24205 事業番号

根拠	<b>!法令·条例等</b> 大崎市住	宅等災害復旧	事業補助金交	付要綱 外1件	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	26 年度~	
業	☑ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度	

	会計	一般
予	事業名	住宅等災害復旧事業
科	款	8 土木費
B	項	1 土木管理費
	目	2 建築指導費

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

対象 (誰, 何に対して)

重大な自然災害(東日本大震災含む)によって住宅及びその敷地の全部又は一部に被害を受けた住宅を修理する被災者に対し、経 済的負担の軽減に資するとともに、災害からの早期復興を図る。

実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)

#### 復旧を行う住宅の所有者で、次の各号に掲げるすべてを満たすもの。 (1) 工事を行う住宅を有する者であること。

(2) 工事を行う被災した住宅に居住していること。

## ② 予定件数(関東·東北 豪雨災害復旧工事) ◆活動指標

◆対象指標

市内に既に存する住宅の復旧に対し、予算の範囲内において大崎市住宅等災害復旧事業補助金を交付する。 補助金額は、いずれも補助対象経費に補助率を乗じた金額。

施 補助率及び補助限度額は次のとおり

#### 内 容

〇住宅等災害復旧工事 : 補助率 10/100 補助限度額 200,000円

- 〇関東・東北豪雨災害復旧工事 : 補助率 40/100 補助限度額 400,000円
- ※補助対象経費 工事費用が、10万円以上のもの(消費税の額を除く)
- ※被災住宅 東日本大震災等で被害を受けた住宅の証明は、罹災証明書及び写真で確認できるものをいう。
- ※ただし、関東・東北豪雨災害復旧工事の補助金額については、住宅等災害復旧事業補助金の交付額 (10/100)及び災害救助法に伴う住宅応急修理制度の適用を受け救助対象となった額を差し引いた額を 限度とする。

#### 住宅等災害復 ③ 旧工事の補助 金交付件数

① 予定件数(住宅等災害 復旧工事)

関東・東北豪雨 災害復旧工事 の補助金交付 件数

(5)

#### 平成29年度の成果

果

〇災害復旧工事[1/10補助](東日本大震災, 関東・東北豪雨災害関連) 〇災害復旧工事[3/10補助](関東・東北豪雨災害, 住宅応急修理関連) : 0件

## ◆成果指標(把握する手段)

住宅等災害復旧工 事の達成割合

⑦ 関東・東北豪雨災害復 旧工事の達成割合

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 予定件数(住宅等災害復旧工事)	99	15		10	件	_
		象	② 予定件数(関東·東北豪雨災害復旧工事)	89	15		10	件	_
			<ul><li>③ 住宅等災害復旧工事の補助金交付件数</li></ul>	71	15		0	件	_
_	指標	活動	<ul><li>関東・東北豪雨災害復旧工事の補助金交付件数</li></ul>	61	15		0	件	_
事業費	1234	20)	5			\			
費		成 果	⑥ 住宅等災害復旧工事の達成割合	72	100	\	0	%	_
· 久			(7) 関東・東北豪雨災害復旧工事の達成割合	69	100	\	0	%	<u>—</u>
各指標			国庫支出金						
標			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	20,666	4,276	5,044	0		
	費		事業費(a)	20,666	4,276	5,044	0	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.92	0.20		0.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,203	1,506		0		
			合計コスト(a)+(b)	27,869	5,782		0	千円	

中米亚口	24205	<b>事</b> 務事業名	住宅等災害復旧事業	
	24205		住空笙巛宝復旧車業	
		<b>学协学未</b> 句		
ナベ田つ		ナルナベロ		

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

市内建設業者による陳情で、市内住宅関連産業を中心とする地域経済活性化を図る政策としてリフォーム助成事業が平成23~25年度まで実施されていたが、リフォーム助成事業に代わる事 業の創設と、今後の来るべき災害に対応できる制度創設を求め られた。



東日本大震災、関東・東北豪雨災害共に申請がなかったことか ら、被災者の再建が進んだと考えられる。

【事	務事業の担当課評	価】			•					
•	目的妥当性							F		_
①	この事務事業は、総合	,	貢献度は大きい	いですか?			······································	【評価の		=
	<ul><li>□ 貢献度 大</li><li>☑ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>		被災者の再建	が進められたため、	平成29年度の申請は0件とな	っている。		総合計画 貢献でき		するために Dか。
<b>②</b>	対象や意図の範囲を見	【直し. 拡え	大・縮小すること	とで費用対効果を上	げることができませんか?			☑適切	l	
•	✓ できる	/押山》						□ 見値	す必要	がある
	□できない			災害では、事前着手 L直す必要あり。 	も場合によっては災害からの	)復興支援とし	認			
	有効性									
3	事務事業のやり方・進む		.ることで成果を	ら向上させることがで	きますか?			【評価の		_
	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>☑ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>		災害発生直後 しが必要である		よう一定程度の事前着手を認	恩める制度の見	直	現在のや のか。	り方で	<b></b> 成果がでる
<b>(A</b> )	類似の日的(対象と音)	図)または	形能(イベント4	o 啓発)を持つ他の	事務事業はありませんか?		)	☑適切	l	
•	□ ある 統合・連携が				<b>子切子木150075 C7010・1</b>			□ 見値	す必要	がある
	□ ある 統合・連携が						/			
	☑ ない									
•	効率性									
⑤	現状の成果を下げずに	事業費を	削減する方法に	<b>はありませんか?</b>			,	【評価の	ポイント	]
	□ ある	《理由》				•••••	\			もっと安価
	☑ ない		現在の補助要	件で一定程度の実績	責があるため。			にできな	いか。	
		<u></u>								
	ニューをはまれて中にてい	7 邢四4	+ II+++ / +					☑ 適切	J	
6	コスト削減を阻害してい □ ある	、の 安囚は	めりませんか。					□ 見値	士心面	よくセ ス
	□ <i>∞</i> ∞	<b>《连四</b> 》						□ 兄追	19 必安	:N'80'@
	₩ .00						/			
「証	価の総括と今後のフ	方向性】					,			
	後の事務事業の方向									
	□ 廃止			☑ 事業完了		□ 事務事	業のも	5り方改	善	
	□ 事務事業統合	計∙連携		□ 現状維持		□ 拡大				
過去	まに行った改善				現在の課題・問題点					
災害	<b>『では早期の復旧工事</b>	事支援がす	<b></b> 大められること	:から. 災害発生3:	か					
	以内に着手するものに					中語がたい	- レかに	市口木:	<b>七重</b> 巛	. 朗甫. 甫
充。				_ 5 +	北高雨災害の再建が					
	カ要件の「市税を完納し 対済のために緩和。	しているも	の」の規定を	平成28年度に被災		C07 540, T	X1007B	7 07221	161011	
今後	後の改善計画				期待される成果		新たに必	必要なコス	スト	
巛≡	<b>書時における被災住宅</b>	!復興支垺	制度に改める	5. 災害救助法の	<b>‡</b>					
	お急修理制度を参考に				聿 別  以		災害規模	莫により変	を動がる	あるため、
	<b>請える制度に見直す。</b>				<sup>戸</sup> が必要な人を援助する る。)			を出すこと		
また	:,使用できる災害の規	見模定義の	の整備も今後	必要となる。	<b>9</b> 0 /					
評估	西(実績)等に関する	所属長所	<b>f見</b>		•			所属	長氏名	
	<i></i>	<del></del> -						<b>A=</b> -		.,
東	.日本大震災,関東•東	北景雨と	:もに甲請がな	は、 両災害での住	宅復旧は終息したと考えら	っれる。		飯田	辛	iΔ
						I				

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化 第 4 項 防災行政無線や気象観測システム活用による情報共有化

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ、安全対策が講じられている。 電話番

担当・係名: 消防・危機防災担当 記入者名: 鈴木健 電話番号: 23-5144 810-112

担当部課: 総務部防災安全課

事務事業名: 防災対策経費 24401

根拠	<b>!法令·条例等</b> 災害対策	基本法,大崎	市防災会議条例	iJ	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	
業	☑ 単年度繰返し				
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		
間	期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度	

	会計		一般
予	事業名	防災	<b>经対策経費</b>
科	款	9	消防費
117	項	1	消防費
_	目	1	消防総務費

#### 【事務事業の現状】

目	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
	大崎市地域防災計画に基づき、自助・共助・公助が適切に役割分担されている防災協働社会を実現する。	
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	各自主防災組織及び未結成の行政区	① 行政区(未結 成)
		2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内容	〇自主防災組織活動支援事業の実施 ・自主防災組織が主催する防災訓練や防災講習に防災指導員(防災士)を派遣(派遣回数:39回) 〇大崎市総合防災訓練の実施 ・日時:平成29年6月17日(土)午前9時~正午 ・会場:大崎市立田尻中学校 ・主な訓練内容 ①地域住民の参加型による避難訓練,初期消火訓練,応急救護訓練,倒壊家屋及び土砂からの救助訓練,浸 水対策訓練,緊急物資等輸送受入訓練	③ 自主防災組織結成数(新規)
	②消防署による救助救出訓練 ③宮城県防災航空隊による防災へリ救助訓練 ④消防署及び消防団による火災防ぎょ訓練 ⑤婦人防火クラブによる炊き出し訓練	自主防災組織に ④ よる防災訓練実 施回数
	⑥自衛隊偵察車両による偵察訓練 ⑦公共機関による公共施設応急復旧訓練 〇デジタル防災行政無線の運用開始 〇気象観測システム,メール配信システム, 鹿島台姥ヶ沢地区水位観測システム, 河川映像システムの運用管理 〇富城県地域衛星通信ネットワーク無線局の管理	(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
成果	大崎市地域防災計画では、減災に主眼を置いた「市民力を結集した減災体制の構築-支え合う地域防災力の充実を目指して-」を防災ビジョンとして位置付けている。このことから、各自主防災組織が実施する防災訓練等	⑥ 結成済組織数
_	への講師派遣を行い、組織の育成と強化を図った。また,デジタル防災行政無線の運用を開始するなど,より迅 速な災害情報の収集及び伝達の仕組みを充実させた。	⑦ 組織設計率

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 行政区(未結成)	2	2		2	行政区	0
		象	2						
		···	③ 自主防災組織結成数(新規)	0	0		0	箇所	2
_	指標	活動	4 自主防災組織による防災訓練実施回数				54	回	120
事業費		-73	⑤						
費		成果	⑥ 結成済組織数	358	358		358	行政区	360
- タ		果	⑦ 組織設計率	99.4	99.4		99.4	%	100
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
の推移		事業	地方債		26,500				
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	18,610	51,798	49,031	40,246		
	費		事業費(a)	18,610	78,298	49,031	40,246	千円	
		人件	正職員年間従事人員	2.00	2.00		2.00	人	
		費	正職員人件費(b)	15,658	15,060		15,054		
			合計コスト(a)+(b)	34,268	93,358		55,300	千円	

事業番号	24401	事務事業名	防災対策経費

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

阪神・淡路大震災後、地域の助け合いによる自主防災組織の必 要性が叫ばれているようになった。このため本市における未結成の自主防災組織の結成を促すとともに防災用資機材等の整 備に充てるための助成制度を創設した。

東日本大震災以降,各自主防災組織において、震災に対する防災・減災意識とそれに伴う体制整備は向上しているところだが、 平成27年9月関東・東北豪雨の発生により、水害に対する備え を加味した組織活動のより一層の充実が求められている。

【事務事業の担当課評 ◆ 目的妥当性	(価)					
	計画への貢献度は大きいですか?		【評価のポイント】			
□ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	《理由》 総合計画を実現するた本市の防災体制の根幹をなす事業となっている。					
② 対象や音図の節囲を	見直し. 拡大・縮小することで費用対効果を上	<b>げ</b> ることができませんか?	☑ 適切			
☑ できる □ できない	〈理中〉	要があるとともに、自主防災組織の結成率	<b>□ 見直す必要がある</b>			
◆ 有効性						
③ 事務事業のやり方・進	め方を変えることで成果を向上させることが、	できますか?	【評価のポイント】			
<ul><li>✓ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>□ できない・効果なし</li></ul>	う。	課題解決のためのさらなる積極的支援を				
④ 類似の目的(対象と意	図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の	事務事業はありませんか?	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			
□ ある 統合・連携が			<b>│</b> □ 見直す必要がある			
<ul><li>□ める 統合・連携な</li><li>☑ ない</li></ul>	ができない <b>《理由》</b> 治水等のハード整備とソ きであり、それぞれの所	フト面がかみ合い,防災・減災対策を推進 管が連携しながら対応を図っている。 	すべ/			
◆ 効率性						
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	こ事業費を削減する方法はありませんか?		【評価のポイント】			
□ ある ☑ ない	《理中》	)市の人的支援と併せて, 防災用資機材 <i>0</i>	現在のやり方をもっと安価 にできないか。			
⑥ コスト削減を阻害してい	いる要因はありませんか。		■ 通切			
□ ある ☑ ない	《理由》 自助,共助,公助の役割分担に基 適切であると考える。	づき事業を推進しており、現在の事業手法	☆ □ 見直す必要がある			
【評価の総括と今後の						
今後の事務事業の方向		□ 車数雪	事業のやり方改善			
□ 廃止 □ 事務事業統領	<ul><li>□ 事業完了</li><li>合·連携</li><li>☑ 現状維持</li></ul>	□ 事份。	₱未ので9万以告 			
過去に行った改善		現在の課題・問題点				
	交付する助成金制度を創設した。さらに平 所を運営する複数の自主防災組織の連合 となるよう改定した。					
今後の改善計画		期待される成果	新たに必要なコスト			
みの各自主防災組織の流	自主防災組織未結成の行政区の早期結成を目指す。また、結成済 みの各自主防災組織の活動の充実を図るとともに、指定避難所の 運営にあたる連合組織の結成に向けた取り組みを強化する。					
評価(実績)等に関する	評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名					
自主防災組織については た自主防災組織の連合糸 化を図りたい。	t, 全行政区において組織化の目途が立 組織の結成を促進し, 自主防災組織間の	った。今後は,指定避難所を単位とし 連携・情報共有や避難所運営の円滑	三浦利之			

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化

第 5 項 災害時における避難路、避難所、避難場所などの整備による安全確保

10年後の望ましい姿: 人家に及ぼす危険箇所の周知が図られ、安全対策が講じられている。

担当部課: 建設部建築住宅課

担当·係名: 住宅計画係 記入者名: 阿部裕一 電話番号: 23-8057 810-365

事務事業名: 耐震対策緊急促進事業

事業番号 24501

根拠	■法令・条例等 大崎市快適住まいづくり支援事業補助金交付要綱		会計	
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 26 年度~	予	事業名 🏗	Ñ
業	単年度繰返し	l <del>界</del>	款	8
期	□ 単年度のみ実施 平成 年度		項	
間	☑ 期間限定複数年度 平成 26 年度~平成 30 年度		目	2

	会計	一般
予	事業名	耐震改修促進事業
科	款	8 土木費
17	項	1 土木管理課
	目	2 建築指導費

#### 【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか)

多数の者が利用する大規模建築物や避難所等の耐震診断・耐震改修等を民間事業者が行う場合に要する経費を補助し, 災害に強い地域の構築を推進する。

#### 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 旧基進大規模建築物 〇次のいずれかに該当する者 1 ア 対象要緊急安全確認大規模建築物等の所有者 イ 対象要緊急安全確認大規模建築物等の所有者が死亡,長期入院又は社会福祉施設若しくは介護保険施設等 **(2**) に入所しているときは、当該対象要緊急安全確認大規模建築物等の所有者の配偶者又は2親等内の親族 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 大規模建築物 ③ 耐震診断実施 施 要緊急安全確認大規模建築物及び要安全確認計画記載建築物等の耐震化に係る診断、設計、工事に対し、 件数 内 要綱に基づき、予算の範囲内で大崎市耐震対策緊急促進事業補助金を交付する。 大規模建築物 〇耐震改修工事助成事業 ④ 耐震補強設計 市が助成対象の大規模建築物について、その対象施設の所有者が行う耐震化工事に係る費用の一部を助成す 実施件数 •補助率2/3 大規模建築物 ⑤ 耐震改修工事 実施件数 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 6 大規模建築物耐震補 強設計助成累計件数 果 大規模特定建築物の耐震改修工事: 1件(平成28年度より3カ年で実施) 大規模建築物耐震改修工事助成累計件数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成30年度
		対	① 旧基準大規模建築物数	3	3		1	件	0
		象	2						
		·+	③ 大規模建築物耐震診断実施件数	2	-		0	件	—
_	指標	活動	4 大規模建築物耐震補強設計実施件数	1	2		0	件	—
事業費		-7,	⑤ 大規模建築物耐震改修工事実施件数	0	2		1	件	—
費		成	6 大規模建築物耐震補強設計助成累計件数	1	3		3	件	—
- タ		果	7 大規模建築物耐震改修工事助成累計件数	0	2		3	件	—
各指標			国庫支出金	10,119	125,879	31,633	11,300		
			県支出金	3,476	23,198	5,456	1,949		
角推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	6,645	102,683	26,177	9,351		
	費		事業費(a)	20,240	251,760	63,266	22,600	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.55	0.60		0.20	人	
		費	正職員人件費(b)	4,306	4,518		1,505		
			合計コスト(a)+(b)	24,546	256,278		24,105	千円	

事業番号	24501	事務事業名	耐震対策緊急促進事業

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部が改正され、 不特定多数の者が利用する大規模建築物等の所有者に対して、耐震診断を行い、所管行政庁に報告を行うことを義務付けら れたことに併せて、大規模建築物等の耐震改修工事を実施する もの。

建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部を改正する法 律が公布され、不特定多数の者が利用する大規模建築物等の 所有者に対して、耐震診断を行い、所管行政庁に報告を行うこと を義務付けられた。

【事	務事業の担当課評 目的妥当性	価】					
<b>(1)</b>		計画へのi	<b>貢献度は大きいですか?</b>			【評価のポイント】	
V		《理由》		の耐震化を推進することにより、震災時 ての活用を図るものである。	の大	総合計画を実現するために 貢献できているのか。	
2	対象や意図の範囲を見	<b>!直し, 拡</b> 力	、・縮小することで費用対効果を上け	ることができませんか?		〉☑ 適切	
	□ できる	《理由》			/	│ │ 見直す必要がある	
	☑ できない		国庫補助金との整合を図る必要があ	ঠে			
	有効性						
		ムナナ本ニ	フーレッド用ナウ レナルフーレジット	<u> </u>		「無体のよう」】	
3		******************	ることで成果を向上させることができ	きまりか?	\	【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる	
□ できる 効果中							
	類似の日始/社会し会院	网/ 士七/十:	以能(ノベ) しい改称(たはつ仏の事	変車券けなり サイ かっ		↓☑ 適切	
4)			形態(イベントや啓発)を持つ他の事 「短似東致東衆タ】	伤争未はのツませんか?		/ □ 日本土×モンキンラ	
	□ ある 統合・連携が					/ □ 見直す必要がある	
	□ ある 統合・連携が	いできない	《理由》				
	☑ ない	į.					
					,		
<b>♦</b>	効率性						
⑤	現状の成果を下げずに	事業費を	削減する方法はありませんか?			【評価のポイント】	
_	□ ある	《理由》				現在のやり方をもっと安価	
	<b>□</b>		耐震化に係るコストの問題である。			にできないか。	
	<b>V</b>		間及 古に下るコバーの 回返 このる。			(2 5.5 % )	
		<b>!</b>				√ 適切	
	ニュールは十四中・マン	,才要四少。	#     <del>                                 </del>			✓ 適切	
6	コスト削減を阻害してい		めりませんか。			/	
	□ ある	《理由》				□ 見直す必要がある	
	☑ ない		現状では耐震補強技術の革新又は	建設コストの下落に依存するしかない。	<b> </b>		
		<u> </u>					
	価の総括と今後のプ						
今後	後の事務事業の方向	]作			<del>-</del> 1117 -		
	□ 廃止		□ 事業完了	— · · · · ·	事業の	やり方改善	
	□ 事務事業統合	含•連携	☑ 現状維持	□ 拡大			
<b>ب</b> ط				田太の細暦 問題上			
迎艺	に行った改善			現在の課題・問題点			
なし				なし			
<b>会</b> 從	の改善計画			期待される成果	辛斤ナー! ニ	必要なコスト	
7 13	の以合い四			利用でもの技术	材 / こ   こ	必要なコスト	
なしなし							
== <i>!</i> =		TP = -		<u> </u>		TREE C	
評値	五(実績)等に関する	<b></b>			所属長氏名		
	耐震補強の対象となった大規模特定建築物3件について、2件が完了し、1件については工事施工中 飯田 幸弘						
であ	ることから、不特定多	一致の利用	者の安全確保に一定の成果がも	うつたと考える。		an — — JA	

# 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 産業経済部農林振興課 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化 担当・係名: 農業経営係 第 8 項 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施 記入者名: 高瀬和寛 10年後の望ましい姿: 放射能対策の実施により、安全・安心な生活が確保されている。 電話番号: 23-7090 810-624

事務事業名: 原発事故放射能対策経費(1)(農畜産物)

事業番号 24801

艮执	<b>∿法令·条例等</b> 大崎市農	畜産物放射能補	被害対策支援	資金利子補給補助金交付要綱		会計	一般	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	23 年度~	7		原発事故放射能対策経費	
業	☑ 単年度繰返し				- F	<b>。</b>	2 総務費	
明	□ 単年度のみ実施	平成	年度		T E	項	1 総務管理費	
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度		目	26 放射能対策費	

## 【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 福島第一原子力発電所事故に係る放射能被害で農畜産物生産及び出荷活動に支障をきたす農業者の、放射能被害を最小限に抑 え、農家の生産意欲や農業生産力の維持確保と食料自給率の向上を図る。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 件数 被災農家(申請件数) **(2**) 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 実施内 ③ 件数 •農畜産物放射能被害対策支援資金利子補給補助金 ④ 補助金 融資残高 250万円 償還期間 7年(据置期間2年) 融資残高に1%を乗じて得た額を利子補給する (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 6 件数 市で創設した農畜産物放射能被害対策支援資金を活用し、放射能被害による生産活動の低下を最小限に抑え た。(資金活用→16件 69,211円) ⑦ 補助金

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対象	① 件数	23	23		16	件	0
		象	2						
	指標	活動	③ 件数	23	23		16	件	0
			④ 補助金	239	150		70	千円	0
事業費			5						
費		成	<b>⑥</b> 件数	23	23		16	件	0
夕		成 果	⑦ 補助金	239	150	\	70	千円	0
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
が推		事業費	地方債						
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	239	150	88	70		
	費		事業費(a)	239	150	88	70	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		0.10	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		753		
			合計コスト(a)+(b)	8,068	7,680		823	千円	

事業番号	24801	事務事業名	原発事故放射能対策経費(1)(農畜産物)

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

福島第一原子力発電所事故に係る,放射能被害で農畜産物生産及び出荷活動に支障をきたす状況の中,放射能被害を最小限に抑えるため,放射能対策支援を行うことで,安全安心を確 保することとした。

また、放射能被害に係る、生産活動への被害を最小限に抑えるため、市単独で無利子資金の創設が必要となった。

市独自で無利子資金をスタートすることができ、生産活動へ被害 を最小限にすることができた。

【事務事業の担当課評価】				
◆目的妥当性				F ( 10 A)
① <b>この事務事業は,総合計画</b> ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	<b>[由》</b> 放射能被害を最小限に抑えることが <sup>・</sup>	できた		【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。
② 対象や意図の範囲を見直し □ できる ☑ できない		<b>▽ 適切</b> □ 見直す必要がある		
◆ 有効性			/	
	を変えることで成果を向上させることができ	キオかっ		【評価のポイント】
□ できる 効果大 (理 □ できる 効果中 □ できない・効果なし				現在のやり方で成果がでる のか。
<ul><li>④ 類似の目的(対象と意図)ま</li><li>□ ある 統合・連携ができ</li><li>□ ある 統合・連携ができ</li><li>☑ ない</li></ul>	:	務事業はありませんか?		〉 ☑ 適切 □ 見直す必要がある
◆ 効率性				
⑤ 現状の成果を下げずに事業	は費を削減する方法はありませんか? 胆由》 緊急的に必要不可欠な事業であり、『	事業費を削減するべきではな	ı,	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。
<ul><li>⑥ ¬スト削減を阻害している要</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	(由)			<b>☑ 適切</b> □ 見直す必要がある
【評価の総括と今後の方向	性】			
今後の事務事業の方向性	- <del> </del>		±25±24 6	L 11 <del></del>
□ 廃止 □ 事務事業統合・注	□ 事業完了 連携 ☑ 現状維持		事務事業の 拡大	やり万改善
過去に行った改善		現在の課題・問題点		
なし		なし		
今後の改善計画		期待される成果	新たに	必要なコスト
なし		なし	なし	
評価(実績)等に関する所属		所属長氏名		
	るため, 引き続き助成を行う必要がある	•		安部祐輝

#### 【総合計画体系】 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 産業経済部農林振興課 第 4 **節** 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化 担当・係名: 畜産係 記入者名: 齋藤 健治 第 8 項 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施 10年後の望ましい姿: 放射能対策の実施により、安全・安心な生活が確保されている。 電話番号: 23-7090 810-627

#### 原発事故放射能対策経費(1)(汚染牧草) 事務事業名:

事業番号 24802

根拠法令・条例等放射性物質汚染対処特措法	会計	一般
事 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 25 年度~	事業名	原発事故放射能対策経費
業 □ 単年度繰返し 科 □ □ 単年度線返し 科 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	款	2 総務費
朔 : □ : 単年度のみ美施 : 平	項	1 総務管理費
間 ☑ 期間限定複数年度 平成 25 年度~平成 35 年度	目	26 放射能対策費

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 福島第一原子力発電所事故に係る放射能被害で汚染され、一時保管された牧草の管理を行うもの。 対象 (誰,何に対して) ◆対象指標 ① 個数 ・一時保管された牧草 2 箇所 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 実施内 ③ 個数 容 一時保管された牧草の管理委託 •一時保管地の草刈 4 箇所 積み直し ・UVシートの補修及び張り替え ⑤ 委託料 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 汚染牧草を分離保管することにより、汚染牧草を牛に給与しない体制が整ったが、委託により一部補修等も行 果 い、保管管理を行うことができた。 ⑦ 箇所

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成35年度
		対	① 個数				17,077	個	17,077
		象	② 箇所				12	箇所	12
	指標	活動	③ 個数	17,077	17,077		17,077	個	17,077
_			④ 箇所	12	12		12	箇所	12
事業費		-93	⑤ 委託料	7,144	9,563		8,424	千円	
費		成 果	<b>⑥ 個数</b>				17,077	個	17,077
· 么			⑦ 箇所				12	箇所	12
各指			国庫支出金						
標の			県支出金						
が推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	7,144	9,563	8,424	8,424		
	費		事業費(a)	7,144	9,563	8,424	8,424	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.50	0.50		0.50	人	
		費	正職員人件費(b)	3,915	3,765		3,764		
			合計コスト(a)+(b)	11,059	13,328		12,188	千円	

			争耒奋亏	24802	争務争耒名	<b>原</b> 免事故放射能为	「束栓質(1)	(万栄牧早)
<b>7</b>	* == 4k + 75 / 134 / 750		// . IL =44 A =4					
			化や議会・市	民との意見・要望・				
この事	事務事業を開始したきつ	かけ			事務事業を取り巻	く環境の変化や議会	き・市民との	)意見・要望・協働等の状況
汚染	された牧草の収集及	び管理			汚染牧草をい体制が整		により, 汚	染牧草を牛に給与しな
					•			
	<b>务事業の担当課評</b>	<b>洒</b> 】						
	目的妥当性							
① 3	この事務事業は, 総合	計画への	貢献度は大き	ハですか?				【評価のポイント】
ĺ	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》	汚染された牧 貢献は大きい	草を収集及び一時保管 。	産農家及び周辺地均	変の	総合計画を実現するために 貢献できているのか。	
② \$	対象や音図の節囲を見	直1、拡	大・縮小するこ	とで費用対効果を上げ	ることができません	か?		☑ 適切
- 1	<ul><li>✓ できる</li><li>□ できない</li></ul>	《理由》		草を収集及び一時保管			<b>載</b> の	□ 見直す必要がある
<b>A</b> -	는 첫 M							
	有効性 事務事業のおいち・巻と	<b>ト七七本</b> :	・スーレズは田:	を向上させることができ	<b>キ</b> ナかっ			【評価のポイント】
	<b>▶祝事来のでの</b> 1-26 <b>▽</b> できる 効果大		しることで成本で	を付けららのことが、この	<b>Ψλ Ν.</b> :		·············	
ĺ	☑ できる 効果内 □ できる 効果中 □ できない・効果なし		汚染牧草の収	集及び一時保管のため	)。			現在のやり方で成果がでるのか。
<b>*</b>	5 N A D 4 / 4 A 1 本 5		. Trades / a about	<b>以表数) 土材 二川 本本</b>		4.0		☑ 適切
				や啓発)を持つ他の事績	<b>分手来</b> はめりません	ימי?		
	□ ある 統合・連携が	できる	【類似事務制	<b>事</b> 美名】				□ 見直す必要がある
	☑ ある 統合・連携が □ ない	できない	<b>《理由》</b> 汚染	牧草の収集及び一時伊	R管のため。			
<b>4</b> 3	<b>劝率性</b>							
	見状の成果を下げずに	事業費を	削減する方法	はありませんか?				【評価のポイント】
	□ ある ☑ ない	《理由》	汚染牧草の収	集及び一時保管のため	)。			現在のやり方をもっと安価 にできないか。
_								☑ 適切
	コスト削減を阻害してい		はありませんか。					
	□ ある ☑ ない	《理由》	モ 込 数 首 の 収	集及び一時保管のため	<b>.</b>		/	□ 見直す必要がある
1	<b>V</b> 160		77.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.4.	·未次0° 的	•		/	
	<b>五の総括と今後の</b> ブ							
	の事務事業の方向	性		ロ 古 ※ ウラ			· ** ^ !!	11 <del>+</del> + +
	□ 廃止 □ 東変東業数2	<b>、                                    </b>	=	□ 事業完了			未のへ	り方改善
	□ 事務事業統合	"	5	☑ 現状維持		口 拡大		
過去	に行った改善				現在の課題・問題	題点		
<b>+</b> C+□.	***!	- 1				o 티ᄱᄱᄭᆙᆳᆓ		
新規·	事業として実施してき	<i>:T</i> =。			できるだけ早期の	の最終処分が必要	である。	
今後	の改善計画				期待される成果		新たに必	要なコスト
, ,	~~~				7777			
最終	処分を行うための施	策が必要	そである。		一時保管するこ。 への負担軽減	とによる畜産農家	最終処分	うを行うための経費
評価	(実績)等に関する	所屋長	<b>听</b> 見		:			所属長氏名
а г іші		八四汉	7176					川周以入山
	処分するまでの一時 び修復を行いながら,			度の期間がかかるた る。	め, 保管状況が思	悪化しないよう監	!	安部補輝

7

# 【総合計画体系】第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり担当部課: 産業経済部農林振興課第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化担当・係名: 畜産係第 8 項 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施記入者名: 齋藤 健治10年後の望ましい姿: 放射能対策の実施により、安全・安心な生活が確保されている。電話番号: 23-7090 810-627

事	務事業名:	原発事故放射能対策経費(2)(減容化業	務)		事業番·	号	24803
事業	法令・条例等 放射性物 開始年度 □ 単年度繰返し □ 単年度のみ実施 ☑ 期間限定複数年度	□ 昭和 □ 平成 29 年度~ 平成 年度	予 算 科 目	<b>次 2</b> 頁 1	発事故放射 総務費 総務管理 放射能対	費	
	務事業の現状】		•	:	-1		
目	意図(対象をどういう) 福島第一原子力発電	状態にしたいか) 所事故に係る放射能被害で汚染された牧草を減容化するもの。					
	対象 (誰, 何に対し	<b>C</b> )				◆対針	象指標
	汚染牧草(400ベクレ)	ル以下)					汚染牧草の量
						2	
	実施内容・手段(具	体的なやり方,手順)				<b>◆</b> 活	動指標
実施内						3 %	咸容化した量
容	牧草の減容化業務・牧草の細断・ほ場の耕起, 反転・施肥, 播種・牧草の刈り取り(2回	])				4	実施面積
						<b>⑤</b>	委託料
	平成29年度の成果					◆成果	指標(把握する手段)
成 果	集積した牧草を減容化	とするため、 すき込み等の実証を行うことができた。			·	<b>6</b> ;	咸容化した量

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成35年度
		対	① 汚染牧草の量				2,926	t	0
		象	2						
	指標	活動	③ 減容化した量				3	t	2,926
_			④ 実施面積				1,500	m¹	146ha
事業費			⑤ 委託料				1,664	千円	
費		成果	⑥ 減容化した量				3	t	2,926
夕		果	7						
各指標			国庫支出金						
		:	県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源			2,700	1,664		
	費		事業費(a)	0	0	2,700	1,664	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.00	0.00		0.30	人	
		費	正職員人件費(b)	0	0		2,258		
		Ą	合計コスト(a)+(b)	0	0		3,922	千円	

	事業番号	24803	事務事業名	原発事故放射能対	策経費(2)(減容化業務)	
【事務事業を取り巻く環境の変	化や議会・市	民との意見・要望・		/TTH 14 A T 11 11 5 A		
この事務事業を開始したきっかけ			事務事業を取り巻	く垣境の変化や議会	・市民との意見・要望・協働等の状況	
			<u></u>			
			注沈粉賞な	ナキス みた行うこと	:により,一時保管されている汚染	
汚染された牧草の減容化				化することができた		
					-0	
			ļ			
【事務事業の担当課評価】						
◆ 目的妥当性						
① この事務事業は、総合計画への		<b>\ですか?</b>				
☑ 貢献度大 《理由》	) 一時保管される	ている汚染牧草が最終	加公できること什么	一 グロス国辺地域	総合計画を実現するために	
□ 貢献度 小	貢献は大きい。		たり くこることはか	. 百している向及地域	「 <b>食献できているのか</b> 。	
□ 基礎的事務事業						
	*=	- 大井田弘弘田としば、	7 - L48-5-4-11 /	<b>4.</b> 0	□ 〉 ☑ 適切	
② 対象や意図の範囲を見直し, 拡 ✓ できる 《理由》		こで質用対効果を上げる	ることか ぐさません	אייר		
✓ できない		することは必要である。			│ │ 見直り必要かめる	
☐ ceat.	2年数で14人	することは必安である。			/	
<u></u>						
◆ 有効性						
③ 事務事業のやり方・進め方を変	えることで成果を	と向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】	
☑ できる 効果大 《理由》	)				現在のやり方で成果がでる	
□ できる 効果中	処理する数量				<b>し</b> のか。	
□ できない・効果なし						
					□ │ ☑ 適切	
④ 類似の目的(対象と意図)またに			<b>§事業はありません</b>	<i>か</i> ?		
□ ある 統合・連携ができる	:	¥業名】			/ □ 見直す必要がある	
☑ ある 統合・連携ができない	<b>、《埋田》</b> 牧草	の減容化のため(焼却)	)		/	
□ない    大草の減谷にのため(焼却)						
	i					
	:					
◆ 効率性	を削減する方法に	よありませんか?				
<ul><li>◆ 効率性</li><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li></ul>		<b>よありませんか?</b>				
<ul><li>◆ 効率性</li><li>⑤ 現状の成果を下げずに事業費を</li></ul>						
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある 《理由》	)				現在のやり方をもっと安価	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある 《理由》 ☑ ない	) 牧草の減容化	のため			現在のやり方をもっと安価	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある 《理由》 ☑ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に	) 牧草の減容化。 <b>まありませんか。</b>	のため			現在のやり方をもっと安価 にできないか。	
◆ 効率性  ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない  ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある 《理由》	り 牧草の減容化 <b>よありませんか。</b>	のため			現在のやり方をもっと安価にできないか。	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある 《理由》 ☑ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に	) 牧草の減容化。 <b>まありませんか。</b>	のため			現在のやり方をもっと安価 にできないか。	
◆ 効率性  ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない  ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある 《理由》	り 牧草の減容化 <b>よありませんか。</b>	のため			現在のやり方をもっと安価 にできないか。	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない  ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある □ ない	牧草の減容化 <b>まありませんか。</b> な草の減容化	のため			現在のやり方をもっと安価 にできないか。	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある □ ない 【評価の総括と今後の方向性】	牧草の減容化 <b>まありませんか。</b> な草の減容化	のため			現在のやり方をもっと安価 にできないか。	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある □ ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性	牧草の減容化 <b>まありませんか。</b> な草の減容化	のt=め のt=め		□事務事	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>			現在のやり方をもっと安価 にできないか。	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある □ ない ② ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 □ 廃止 □ 事務事業統合・連携	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のt=め のt=め	国力 <b>○</b> ● ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	☑ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>	現在の課題・問題	☑ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある □ ない ② ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 □ 廃止 □ 事務事業統合・連携	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>	現在の課題・問題	☑ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>		☑ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を □ ある □ ない ⑥ コスト削減を阻害している要因に □ ある □ ない ② ない 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 □ 廃止 □ 事務事業統合・連携	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>		☑ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>		☑ 拡大	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性  ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行う	☑ 拡大 通点 ことが必要である。	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切 □ 見直す必要がある   業のやり方改善	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>		☑ 拡大 通点 ことが必要である。	現在のやり方をもっと安価 にできないか。     適切   見直す必要がある	
◆ 効率性  ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果	☑ 拡大 題点 ことが必要である。	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切 □ 見直す必要がある   業のやり方改善	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化の はありませんか。 牧草の減容化の	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに	☑ 拡大 選点 ことが必要である。 こより、畜産農家	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある   新たに必要なコスト	
◆ 効率性  ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化の はありませんか。 牧草の減容化の	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに 及び一時保管地	☑ 拡大 選点 ことが必要である。 こより、畜産農家	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切 □ 見直す必要がある   業のやり方改善	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化の はありませんか。 牧草の減容化の	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに	☑ 拡大 選点 ことが必要である。 こより、畜産農家	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある   新たに必要なコスト	
● 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化 <b>は</b>	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに 及び一時保管地	☑ 拡大 選点 ことが必要である。 こより、畜産農家	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  最終処分を行うための経費	
◆ 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化 <b>は</b>	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに 及び一時保管地	☑ 拡大 選点 ことが必要である。 こより、畜産農家	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある   新たに必要なコスト	
● 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化 <b>はありませんか。</b> 牧草の減容化 <b>は</b>	のため のため <b>口 事業完了</b>	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに 及び一時保管地	☑ 拡大 選点 ことが必要である。 こより、畜産農家	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  最終処分を行うための経費	
● 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化の はありませんか。 牧草の減容化の 大な事の減容化の 大な事の減容化の 大きない。	のため  □ 事業完了 □ 現状維持	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに 及び一時保管地 軽減	☑ 拡大 園点 ことが必要である。 こより、畜産農家 ・周辺地の負担の むための多くの	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  最終処分を行うための経費  所属長氏名	
● 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を	牧草の減容化の はありませんか。 牧草の減容化の 大事の減容化の 大事である。 大事である。	のため  □ 事業完了 □ 現状維持	最終処分を行うる 期待される成果 減容化することに 及び一時保管地 軽減	☑ 拡大 園点 ことが必要である。 こより、畜産農家 ・周辺地の負担の むための多くの	現在のやり方をもっと安価にできないか。  ② 適切  □ 見直す必要がある  新たに必要なコスト  最終処分を行うための経費	

【総合計画体系】										
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課: 総務部防災安全課									
第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化	<b>担 当 • 係 名</b> : 交通防犯担当									
第 8 項 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施	記入者名: 真田賢一									
<b>10年後の望ましい姿</b> : 放射能対策の実施により、安全・安心な生活が確保されている。	電話番号: 23-5144 810-117									

3	事務事業名: 原発事故放射能対策経費(3)(放射線量等の測定) 事業番	号 24804
	<b>根拠法令・条例等</b> 放射性物質汚染対処特措法  事 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 24 年度~  業 ☑ 単年度繰返し  期 □ 単年度のみ実施 平成 年度  間 □ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度  「日 1 総務管理 日 26 放射能対	費
	(事務事業の現状) 意図(対象をどういう状態にしたいか) 目 的 東京電力福島第一原子力発電所事故に由来する放射性物質による環境の汚染が人の健康又は生活環境に及じ 低減するとともに、放射性物質測定及び測定結果を情報提供することにより市民の不安解消に努める。	ます影響を速やかに
	<b>対象(誰, 何に対して)</b> 大崎市民	◆対象指標 ① 市民(人口) ②
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) 大 の空間放射線量の測定	◆活動指標 ③ 測定箇所数
	*	④ 測定件数
	MINCH SA STILL	公共施設敷地 ⑤ 内線量低減化 実施箇所数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 市民(人口)	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
		, <u>.</u>	③ 測定箇所数	283	291		283	箇所	285
	指 標	活動	④ 測定件数	224	134		84	件	147
事業費		273	⑤ 公共施設敷地内線量低減化実施箇所数	0	0		0	箇所	0
費		成	⑥ 局所的高線量地点数	0	0		0	箇所	0
タ		果	⑦ 測定件数	224	134		84	件	147
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		業	地方債						
移	総		その他						
	総事業費		一般財源	2,979	5,311	5,925	5,134		
	費		事業費(a)	2,979	5,311	5,925	5,134	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.10	1.10		1.10	人	
		費	正職員人件費(b)	8,612	8,283		8,280		
			合計コスト(a)+(b)	11,591	13,594		13,414	千円	

事業番号	24804	事務事業名	原発事故放射能対策経費(3)(放射線量等の測定)

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴 う、東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射 性物質による環境汚染や、被ばくによる人体への影響が懸念さ れることから、空間放射線量の低減化や食品の安全確保が必 要となったため。

### 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

原子力発電所事故に伴う放射性物質の拡散については、これまで経験したことがないこともあり、市民の関心は非常に高く、市内全体の空間放射線量調査結果の公表や、食品検査の要望が非常に多かった。 事故後7年が経過した現在、空間放射線量については除染が必要とされる箇所は確認されず、また放射性物質簡易測定については、年々、測定件数が減少しているが、廃炉作業の終息が見えない中にあって測定業務の継続が求められている。 れている。

【事	務事業の担当課評	価】						
	目的妥当性						_	
1	<ul><li>この事務事業は、総合</li><li>☑ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	計画への貢献度は大きいですか? 《理由》 測定や検査で安全が確認され、結果を公表することにより市民の不安解消につ ながった。						評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。
2	<b>対象や意図の範囲を見</b> □ できる ☑ できない	を直し、拡大 【理由》	空間放射線量は		<b>ることができませんか?</b> にしており、食品等の検査数も 迷続する必要がある。	5年々減少して		☑ 適切 □ 見直す必要がある
3	有効性 事務事業のやり方・進 □ できる 効果大 □ できる 効果中 ☑ できない・効果なし	《理由》	空間放射線量は	こついては定時, 定点 加えて, 過去のデータ	ますか? での測定を行い. 食品等の消も蓄積されていることから同	剛定は専門的 様の方法で実	, i	評価のポイント】 見在のやり方で成果がでる ひか。 ✓ 適切
4	類似の目的(対象と意	べできる	【類似事務事		<b>務事業はありませんか?</b>		/	<b>○ 25</b> □ 見直す必要がある
	効率性							
5	現状の成果を下げずに	事業費を 《理由》	事業費の削減に		系る経費については東京電ス	カ(株)への損	l Ŧ	評価のポイント】 見在のやり方をもっと安価 こできないか。
	コスト削減を阻害してし □ ある ☑ ない 『価の総括と今後の』	《理由》	測定には正確性	生が求められるため, , スト削減は困難である	人的体制を整え対応する必 る。	要があることか		☑ 適切
	後の事務事業の方向							
71	gの事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統領		[ -	□ 事業完了 ☑ 現状維持		] 事務事業(	のや	り方改善
過ラ					現在の課題・問題点			
	引放射線量測定箇所 <i>6</i>	の拡大及る	び放射性物質能	簡易測定器の増	事業の完了時期が不明	•		
今後	後の改善計画				期待される成果	新た	に必	要なコスト
空間		売性を重え	見し、定期・定点	点の測定データを蓄	放射能汚染の不安払拭 る。			
<b>証</b> 4	西(実績)等に関する	所属長	近見 一					所属長氏名
				a 針 4 = = ** 左	<b>近い店で世珍しでいても</b> の	)		THE IN INC.
	き事政から7年か経過 下安解消のため、今後				低い値で推移しているも <i>の</i>	の、市氏	3	三浦 利 之

7

【総合	i情	画体系】		
第	2	章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当部課:	市民協働推進部環境保全課
第	4	節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化	担当•係名:	廃棄物対策担当
第	8	項 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施	記入者名:	高橋 勝
10年	後(	<b>D望ましい姿</b> : 廃棄物が適正に処理され,清潔で快適な生活環境が形成されている。	電話番号:	23-6074 810-181

事	務事業名:	原発事故	放射能效	対策経	費(3)(側	溝泥土σ	ンモニタ	マリン	グ調	査)	事業番	号	24805
事業期	ル法令・条例等 放射性物 開始年度 ☑ 単年度繰返し Ⅲ 単年度のみ実施 Ⅲ 期間限定複数年度	平成	<ul><li>持措法</li><li>✓ 平成</li><li>年度</li><li>年度~平局</li></ul>		F度~ F度			予算科目	会計事業名款項目	路 第 2 1	事故放射 総務費 総務管理 放射能対	費	
【事	務事業の現状】	lhabra L.					•						
目的	意図(対象をどういう社 福島第一原子力発電 うもの。また、側溝泥土	電所の事故に 土の放射性物	こより, 広範[										質濃度測定を行
	対象 (誰, 何に対して	<b>C</b> )										◆対象	象指標
	市民の安全・安心の	ため										1 1	<b>行政区</b>
	実施内容•手段 (具体	体的なやりた	5. 手順)									◆活	動指標
実施内	〇側溝泥土のモニタリ 1 実施方法 測定専 業者名:エヌエス環 契約期間:平成294	リング調査事 門業者に委 環境(株)東北 年5月18日~	業 託して実施 :支社 ·平成30年3.									3 t	<b></b> 全箇所数
谷	2 測定場所 ※測定 古川地域:18カ所, 鳴子温泉地域:3カ所 ※測定場所の選定に バランスを考慮して	松山地域: 所, 田尻地 こついては, ご選定し,他の	3カ所, 三域:5カ所 域:5カ所 古川地域で の地域におし	本木地 <sup>は</sup> は平成2 いては,	域∶6カ所, 22年度の泥	鹿島台地域 土回収数量	::6カ所, の多い行	<b> 丁政区</b>	を基本	に地	域内の	4	
	3 実施時期 平成29 4 測定結果 基準値 5 放射性物質は長期 施する。	を超える場所	斤はない。		り, 市民への(	情報提供とし	<b>ン</b> て, 今後	きも継	続して	定点》	則定を実	<b>⑤</b>	
	平成29年度の成果											◆成果	指標(把握する手段)
成果	検査結果については, 示している基準値(80											6 3	則定値
	小している本年間(80	JUUDQ/& I	.回のここい。	用心 ぐる	ここのツ、側洋	サ/月1mTF未り	ル女土性	いが性	心でイレ	C C 12	) <sub>0</sub>	(7)	

					<u> </u>				
			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 行政区	360	361		361	区	—
		象	2						
		·	③ 検査箇所数	51	51		51	箇所	—
_	指標	活動	4						
事業費		-73	⑤						
費		成果	⑥ 測定値	0~3,410	11 <b>~</b> 1,650		<b>0∼</b> 1,340	Bq/kg	—
• タ		果	7						
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	324	331	331	331		
	費		事業費(a)	324	331	331	331	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.30	0.30		0.30	人	
		費	正職員人件費(b)	2,259	2,259		2,258		
			合計コスト(a)+(b)	2,583	2,590		2,589	千円	

事業番号	24805	事務事業名	原発事故放射能対策経費(3)(側溝泥土のモニタリング調査)

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 震災以降、実施していなかった側溝清掃について、住環境の悪 化などが懸念される中,各方面より実施してほしい旨の要望が あり、測定結果を参考に古川地域では統一清掃実行委員会で 目に見えない放射能に対する市民の不安を払拭するため。 検討し、平成26年度秋の統一清掃から泥土上げを実施すること とした。なお、他地域のうち、岩出山地域については測定値が高 い状況であり側溝清掃を実施していない。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 ☑ 貢献度 大 《理由》 総合計画を実現するために 当該検査を行うことにより, 目に見えない放射能の数値化を図ることで, 市民生 貢献できているのか。 □ 貢献度 小 活や住環境における市民の不安を和らげることができる。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 □ できる □ 見直す必要がある ☑ できない データの推移や比較を行うために同一箇所での測定を行う。 ▶ 有効性 【評価のポイント】 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 《理由》 計量証明機関に委託して精密検査を実施しているが, 市単独で行うと専門的な □ できる 効果大 現在のやり方で成果がでる 資格の取得や機器の購入など,人的にも費用的にも現状の実施方法を変えることは難しい。また,第三者機関による測定により,公平性が保たれる。 のか。 □ できる 効果中 ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができる 【類似事務事業名】 □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 特になし ✓ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 《理由》 現在のやり方をもっと安価 □ ある 見積り合わせにおいて業務委託を実施しているため。 にできないか。 √ ない ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 □ ある 《理由》 □ 見直す必要がある √ ない 特になし 【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 口 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 ☑ 現状維持 □ 事務事業統合・連携 口 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点 放射能に対する市民の不安が解消されていない。 特になし ・側溝は水の流れもあり、定点測定をしても、数値の上下が大きい傾 向にある。 今後の改善計画 期待される成果 新たに必要なコスト

評価(実績)等に関する所属長所見	所属長氏名
東日本大震災から7年が経過しているが、放射性セシウム濃度に対する市民の不安解消を図るため、 引き続き側溝泥土の測定を実施し、推移を監視するものとします。	尾形良太

市民の不安解消

特になし

検査を継続して行い、検査結果を市民に公表していく。

7

【総1	【総合計画体系】									
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり			部群	:	民生部子育て支援課		
第	4	節	自助・共助・公助に基づく防災対策の強化	担当	<b>4</b> •	係名	:	保育所係		
第	8	項	市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施	記。	入:	者 名	:	徳江 早紀		
101	E後	ひ 望:	<b>ましい姿</b> ・放射能対策の実施により 安全・安心な生活が確保されている		Œ:	恶 早		23-6045 810-259		

	事	務事業名: 原発事故放射能対策経費(3)(保育所給食食材の検査) 事業番	号 24806
	事業	<b>は去令・条例等</b> 緊急時における食品の放射能測定マニュアル       会計         開始年度       □ 昭和 ☑ 平成 23 年度~       事業名 原発事故放射         ☑ 単年度繰返し       款 2 総務費         科 次の数である。	
L	期間	□ 単年度のみ実施 平成 年度 □ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度  ****  ***  ***  **  **  **  **  **	
	目	務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 児童に対して安全な給食を提供するため、定期的に食材の検査を行う。	
		対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標 ① 保育所入所者
		保育所に入所している児童 実施内容・手段 (具体的なやり方、手順)	<ul><li>数</li><li>②</li><li>◆活動指標</li></ul>
	実施内		③ 精密検査実施 件数
	容	放射能測定検査時の給食食材材料費(消耗品費) 平成27年度より教育委員会による自前検査への切り替え	4
			5
		平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	成 果	食品に係る暫定規制値を超えた値は検出されなかった。 定期的に検査を行うことで食品の安全を周知することができた。	6 暫定規制数値を 超えた件数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 保育所入所者数	2,877	2,918	$\setminus$	2,932	人	2,900
		象	2						
	<u>بال</u> د	æ	③ 精密検査実施件数	68	70		70	件	70
<b>+</b>	指 標	活動	4						
事業費			⑤						
費		成果	⑥ 暫定規制数値を超えた件数	0	0		0	件	0
· 么		果	7						
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	34	24	52	20		
	費		事業費(a)	34	24	52	20	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.01	0.01		0.01	人	
		費	正職員人件費(b)	78	75	75	75		
			合計コスト(a)+(b)	112	99		95	千円	

			<b>古米亚口</b>	0.4000	<b>本双古米</b> 力			<b>₩</b> *\			
			事業番号	24806	事務事業名	原発事故放射能对	対策経費(3)(保育所給食食材の	<b>検金</b> )			
	務事業を取り巻く環		化や議会・市	⋾民との意見・要望							
この	事務事業を開始したきつ	かけ			事務事業を取り着	参く環境の変化や議会	会・市民との意見・要望・協働等	の状況			
より	本大震災に伴う東京   放射性物質による食 ったため				検査結果の	検査結果の提供により不安解消につながっている。					
【事	務事業の担当課評	価】									
1	目的妥当性 この事務事業は,総合	計画への	<b>青献度什士会</b>	いですか?			【評価のポイント】				
U		《理由》	具拠及は八つ	0.64 %.			総合計画を実現する	ために			
	☑ 貢献度 小 ☑ 基礎的事務事業		市民の不安解	解消につながっている。	貢献できているのか						
<b>@</b>	対象の奈岡の奈田も見	(本) 廿.	十- 炉ルナスー	レズ弗田社外田たし	<b>ヴァーレがポキナル</b> /	<b>*</b> .0	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □				
(2)	対象や意図の範囲を見 □ できる	・ 単山)	人 뼴小りるこ	とで質用対効果を上り	てることか ぐさません	ימכ?		ある			
	☑ できない		検査用の食材	材料費のみ予算計上 <i>σ</i>		, ,					
	<b>+</b> ***						,				
	有効性 事務事業のやり方・進め	か方を変え	えることで成果	を向上させることがで	きますか?		【評価のポイント】				
		《理由》					現在のやり方で成果	がでる			
	<ul><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>						<b>のか。</b>				
<b>(A)</b>	類似の目的(対象と意思	図)キたけ	・形能(イベント	心政祭)を持つ他の国		(.tv 2	☑ 適切				
•	□ ある 統合・連携が		【類似事務		F切手木はめりよと/	0.00 · 1		ある			
	☑ ある 統合・連携が	「できない	<b>《理由》</b> 教育	<b>「施設においても教育</b>	委員会において実施	1.ている。		-			
	□ない		321	7.75.02.1-03.0	XXX1-000 CX//E						
<b>•</b>	効率性										
	現状の成果を下げずに	,	削減する方法	はありませんか?			【評価のポイント】				
	<ul><li>□ ある</li><li>✓ ない</li></ul>	《理由》					↓ 現在のやり方をもっと にできないか。	上安価			
	<b>№</b> 30,						12 (2/20/20)				
		<b></b>					☑ 適切				
6	コスト削減を阻害してい		:ありませんか,	0							
	<ul><li>□ ある</li><li>✓ ない</li></ul>	《理由》			│ □ 見直す必要がある						
						/					
<b>7</b> € 15	年の総長し会後の=	<b>⊢☆₩</b> ₹									
	<b>価の総括と今後の</b> 2 との事務事業の方向										
	□ 廃止			□ 事業完了		□ 事務事	<b>事業のやり方改善</b>				
	□ 事務事業統合	҈∙連携	<u>.</u>	☑ 現状維持		□ 拡大					
過去	に行った改善				現在の課題・問	題点					
	協検査は教育委員会 <i>σ</i>		吏用して実施	しており,精密検査・	の いつまで検査を	継続するのか見通	1.が立たない。				
み検	食査機関に依頼してい	る。			0 200 000	442 7 G 6776 752	10% 17.50° °				
							•				
今後	の改善計画				期待される成果	:	新たに必要なコスト				
即亿	誤による検査品目の	目直口			事業費の削減。		なし				
大   7	は、このでは田田口の	光旦し。			<b>事</b> 未負の削減。		,4C				
評個	西(実績)等に関する	所属長門	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				所属長氏名				
	『所の子どもたちに安? これまで暫定規制値を						宮野 学				
	= れまで音足規制値を 続していかなければな				いいまれなどかいけん	いってい いるび耳	古 # 子				

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 
 担当部課:
 教育部教育総務課

 担当・係名:
 学校給食担当

 配入者名:
 佐々木 香代子

 電話番号:
 72-5032
 850-317
 第 4 節 自助・共助・公助に基づく防災対策の強化 第 8 項 市民の放射能に対する不安の解消に向けた事業の実施 第 8 頃 IDSOMATRICAT OF SOUTH CONTROL OF

事務事業名: 原発事故放射能対策経費(3)(学校給食食材等の検査) 事業番号 24807

根拠	<b>込法令・条例等</b> 放射性物	質汚染対処特	持措法			会計	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	23 年度~	7	事業名	原発事
業	☑ 単年度繰返し					款	2 総
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		1°	項	1 総
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度		目	26 放

_	会計		一般						
予	事業名	原発	[発事故放射能対策経費						
科	款	2	総務費						
117	項	1	総務管理費						
_	月	26	放射能対策費						

【事	務事業の現状】	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
自的	学校給食食材の放射性物質検査を実施し、食材の安全性を確認するとともに、検査結果を公表し、保護者並びに 放射能汚染に対する不安を払拭することを目的とする。	二市民の給食食材の
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標
	・児童生徒・園児の保護者	① 児童生徒・園児 数
	ル主工に 凶ルット改古	2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内	・学校給食完成品については,NaI(TI)シンチレーション検出器による放射性セシウムスクリーニング検査を,各調理施設年2回,年間55件実施した。	③ 精密検査実施 件数
容	・学校給食食材については、NaI(TI)シンチレーション検出器による放射性セシウムスクリーニング検査を、年間で171件実施した。	<ul><li>スクリーニング</li><li>サキャサケック</li></ul>
	・学校給食用牛乳については、ゲルマニウム半導体検出器による精密検査を一般財団法人宮城県公衆衛生協会に依頼し、供給業者ごと学期ごとに年間6件実施した。	<sup>④</sup> 検査実施件数
	・スクリーニング検査は、教育総務課の非常勤職員が、消費者庁の貸与機器を使用して岩出山庁舎で実施しているが、検査結果のすべてが不検出であった。	5
		◆成果指標(把握する手段)
成	検査結果については、すべて不検出であり、給食食材の安全性は確認された。結果の公表により、市民の安心にも寄与している。保護者や市民からの問合せもなかった。 基準値が一般食品の半分に設定されている牛乳については、精密検査を実施してその値を公表しているが、牛乳を含む	給食(牛乳)を食べず ⑥ に弁当を持参している 児童生徒の数
	: 基準値が一般良品の平分に設定されている平利については、精密検査を実施してその値を公表しているが、平利を含む 給食を食べずに弁当を持参している児童・生徒が少数ではあるが存在し、検査結果を公表することによる不安の払拭には限 界があるものと思われる。	Ī

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対象活動	① 児童生徒・園児数	10,913	10,645		10,509	人	_
			2						
	<b>با</b> ل		③ 精密検査実施件数	9	6		6	件	—
_	指標		④ スクリーニング検査実施件数	253	232		226	件	—
事業費			⑤						
費		成果	給食(牛乳)を食べずに弁当を持参している児童生徒の数	8	11		7	人	5
· 么		果	<b>?</b>						
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	364	305	426	311		
	費		事業費(a)	364	305	426	311	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.10	0.10		0.10	人	
		費	正職員人件費(b)	783	753		753		
			合計コスト(a)+(b)	1,147	1,058		1,064	千円	

事業番号	24807	事務事業名	原発事故放射能対策経費(3)(学校給食食材等の検査)

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

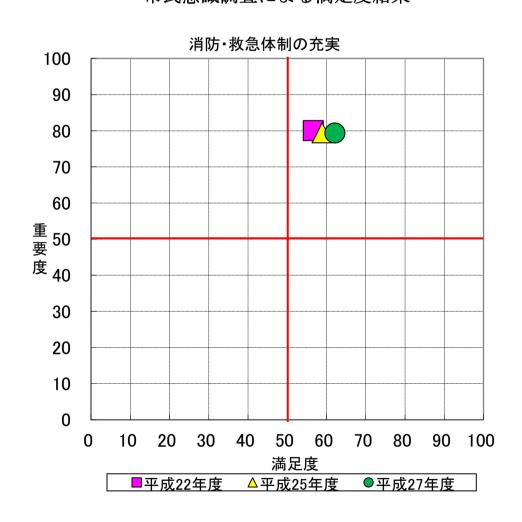
	京電力福島第一原子 <b>ナ</b> たの不安が広がったた		の事故により、	食材の放射	能	検査結果を保護者や 対する不安はほとん 査結果についての問	どなくなっ	ている。	検査に	ついて	の意見や検
【事	務事業の担当課評	価】									
<b>♦</b>	目的妥当性									- 10 1	. •
①	この事務事業は,総合 ☑ 貢献度 大	計画への	真献度は大きい	ハですか?				······································		のポイン	=
	☑ 貝  □  □  □  □  □  □  □  □  □  □  □  □  □			きている	現するために るのか。						
2	対象や意図の範囲を見	······	<b>☑</b> 遗	切							
		t#	□見	.直す必	要がある						
	有効性										
	事務事業のやり方・進む	め方を変え	こることで成果?	を向上させるこ	とができ	ますか?			【評価の	のポイン	<b>/</b> ト】
Ū		《理由》				まごく一部の保護者であり.			現在の	やり方	- で成果がでる
	<ul><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>		表による成果の		_	よこく一部の休護名であり、	快宜和未の	Z \	のか。		
_									☑遣	i切	
4)	類似の目的(対象と意)				他の事	<b>务事業はありませんか?</b>				古士心	要がある
	□ ある 統合・連携か			F*************************************				<b> </b>	<b>□</b> 7	通り必	多いのの
	2 ない	- C 0						/			
	±1. <del>11.</del> 14.							,			
	効率性 現状の成果を下げずに	・車業器を	削減する方法	けねりませんか	n 3				【証価/	のポイン	/ <b>L</b> ]
9		・デネ貝と 《理由》	11/194 7 O/J/A	180078 2707							をもっと安価
	<ul><li>□ ない</li></ul>	*"								ないか。	
									_		
<b>@</b>	ーフ! 割減さ加速! マロ	7 m co /4	·+U+4/4						☑遭	切	
6	コスト削減を阻害してい □ ある	(理由)	めりませんか。							古 オ 心	要がある
	<ul><li>□ 50</li><li>□ 50<td>"-<b></b> "</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>/</td><td></td><td>, p. , x.</td><td>X 10 00 0</td></li></ul>	"- <b></b>  "						/		, p. , x.	X 10 00 0
								V			
<b>7</b> =π	価の総括と今後のこ	- 1									
	もの事務事業の方向	- Jul									
_ / I	□廃止	<u> </u>		□ 事業完	了		」事務事	業のも	さり方	改善	
	□ 事務事業統合	ì·連携	;	☑ 現状維	辪		」拡大				
過去	长に行った改善					現在の課題・問題点					
とか						給食完成品と食材の検 今後牧草等の汚染廃棄 き続き検査を実施し食の	物の試験が	尭却が開	始され	る予定	であり, 引
今後	後の改善計画					期待される成果		新たに必	必要な	コスト	
セス	を対象品目の抽出方法 を対象品目の抽出方法	L生 心经	ム北帝でかた2	本士はについ	ア捻針						
	ことが、これのことを	5寸, フ10	(も)地上な快車	主力 広に つい	て作品	検査関連経費の削減等		なし			
-	· <del>-</del>										
<u>=</u> π. <i>P</i>	エ/中体/ゲルー明・ナフ	<b>北尼</b> 三	C FI						=r =	2 E 11	₽ .
評化	西(実績)等に関する	<b>川禹長</b> 凡	π兄						所源	属長氏:	石
	対能廃棄物の試験焼去 その方々の給食に対す					食食材の検査を実施し, 係 、ある。	<b>R護者や</b>		宮	JII	亨

# 第2章

## 第5節 機動的な消防・救急体制の充実

- 1 防災の施設,装備の拡充及び地域防火,防災の減災対策の推進
- 2 消防関係機関などによる火災予防啓発の推進
- 3 市民,事業所などを対象に救急救命講習の普及活動の推進
- 4 消防関係団体の育成、確保

## 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度	平成25年度	平成27年度
重要度(%)	79.99	79.45	79.34
満足度(%)	56.65	58.93	62.18

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 総務部防災安全課 第 5 節 機動的な消防・救急体制の充実 第 1 項 防災の施設、装備の拡充及び地域防火、防災の減災対策の推進 担当・係名: 消防・危機防災担当 記入者名: 鈴木健 電話番号: 23-5144 810-112 10年後の望ましい姿:火災発生件数が減少している。

#### 消防防災施設整備事業 事務事業名:

事業番号 25101

根拠	<b>法令·条例等</b>	<b>-</b>	会計	一般
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名	消防施設整備事業
業	☑ 単年度繰返し	科	款	9 消防費
期	□ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	1 消防費
間	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目	4 消防施設費

	会計		一般						
予	事業名	消防	消防施設整備事業						
科	款	9	消防費						
14	項	1	消防費						
_	目	4	消防施設費						

### 【事務事業の現状】

ľ		意図(対象をどういう状態にしたいか)	
	目的	消防団における火災発生時の初期消火活動等の迅速化を図るため、「消防車両」及び「ポンプ置場」の整備を行っ 活動を行うため消防水利の充実を図る。	う。また,円滑な消化
		対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
		大崎市消防団	① 消防団分団数
			2
		実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
	実施内	〇消防ポンプ置場設置工事 古川地域3 計7棟	③ 消防ポンプ置場 新築件数
	容	〇消火栓設置工事(改良・移設) 古川地域7, 鳴子温泉地域2 計9基	ᄵᄼᆚᆉᆖᇚᄝᄱ
		〇小型消防ポンプ付普通積載車(更新) 鳴子温泉地域1 計1台	④ 消火栓設置件 数
		〇小型消防ポンプ付軽積載車(更新) 古川地域1, 松山地域2 計3台	
		〇小型消防ポンプ付軽積載車(可搬ポンプから軽積載車に切り替え) 古川地域3,田尻地域1 計4台	⑤ 防火水槽設置 件数
		平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	成果	可搬ポンプから積載車への計画的な変更により全地域において充足目標50%を達成し,消防団の機動力向上	⑥ ポンプ積載車配 備率
	<i>-</i> 1	を図った。消防団整備計画を策定し、充足目標を新たに70%に設定。	⑦ 消防水利箇所 数

			項   目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 消防団分団数	56	56	$\setminus$	56	分団	56
		象	2						
		<b>.</b> -	③ 消防ポンプ置場新築件数	1	7		3	棟	
	指 標	活動	④ 消火栓設置件数	13	11		9	基	—
事業費		-43	⑤ 防火水槽設置件数	2	4		0	基	—
費		成	⑥ ポンプ積載車配備率	58.5	60.1		62.67	%	70
• 夂		果	⑦ 消防水利箇所数	2,326	2,349	\	2,358	基	_
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金	6,800	19,699	10,416	10,314		
の推移		事業費	地方債	70,300	73,000	54,800	54,800		
移	総	費	その他			950	950		
	総事業費		一般財源	15,559	21,433	562	663		
	費		事業費(a)	92,659	114,132	66,728	66,727	千円	
		人	正職員年間従事人員	0.70	0.70		0.70	人	
		件 費	正職員人件費(b)	5,480	5,271		5,269		
			合計コスト(a)+(b)	98,139	119,403		71,996	千円	

事業番号	25101	事務事業名	消防防災施設整備事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】

□ 事務事業を開始したきっかけ

□ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

□ 当面の目標であった全地域における積載車の配備率50%はクリアしたものの、未だ配備率は低い状況である。車両配備率の目標を70%に設定し、引き続き積載車の導入と車両を格納するためのポンプ置場の整備が求められている。また、消火栓や防火水槽の消防水利の設置に関する要望も多く、緊急性等を勘案しながら計画的に整備を進める必要がある。

「事務事業の担当課評価】

□ この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか?

1	この事務事業は,総合	計画への	貢献度は大きいですか?		. 【評	『価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	貢	合計画を実現するために献できているのか。			
2	対象や意図の範囲を見	.直し, 拡:	大・縮小することで費用対効果を上げ	ることができませんか?		〕適切
	口できる	《理由》		L > + + 416 - + - 7	/ □	] 見直す必要がある
	☑ できない		充足には至っておらず, 着実に推進 <sup>で</sup>	すべさ事業である。		
	:					
	有効性 事務事業のやり方・進め	り方を変え	えることで成果を向上させることができ	ますか?	【評	「価のポイント】
	□ できる 効果大	《理由》	火災等から市民の生命 身体 財産	を守るためには、消防車両及び水利等の	D <sub>数</sub> 現	在のやり方で成果がでる
	□ できる 効果中 ✓ できない・効果なし		備は不可欠である。	とりるためには、内例手両及び外刊号の	Oπ 07	か。
	▼ CEAU WARE					適切
4	類似の目的(対象と意図 □ ある 統合・連携が		は形態(イベントや啓発)を持つ他の事	務事業はありませんか?		] 日本十八西北北 7
	□ ある 統合・連携が		· // <del></del>		/ _	] 見直す必要がある
	☑ない		<b>《埋田》</b> 消防団の資機材及び水利の	の整備は市の責務である。 	/	
	効率性				<u>'</u>	
		事業費を	削減する方法はありませんか?		【評	「価のポイント】
	□ ある	《理由》	水道管動設替えて事策所への水防	                        		在のやり方をもっと安価
	☑ ない		費の削減に努めている。	いりの正備によるエチ貝の別級など、す	. 127	できないか。
	!					適切
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	る要用け	トない士士 くんか			
$\mathbf{v}$		,	***************************************			
•	□ ある	《理由》				] 見直す必要がある
•		,	***************************************			] 見直す必要がある
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理由》	なし。			]見直す必要がある
【評	□ ある ☑ ない <b>価の総括と今後の</b> が	《理由》 5向性】	なし。			]見直す必要がある
【評	□ ある ☑ ない <b>価の総括と今後の</b> が <b>仮の事務事業の方向</b> □ 廃止	《理由》 <b>5向性</b> 】 性	なし。		事業のやり	
【評	□ ある ☑ ない <b>価の総括と今後の</b> 及の事務事業の方向	《理由》 <b>5向性</b> 】 性	なし。	□ 拡大		
	□ ある ☑ ない <b>価の総括と今後の</b> が <b>仮の事務事業の方向</b> □ 廃止	《理由》 <b>5向性</b> 】 性	なし。			
今征	□ ある □ ない <b>価の総括と今後の</b> が 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合	《理由》 方向性】 性 合・連携	なし。 □ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 拡大	事業のやり	方改善
<b>【評</b>	□ ある □ ない <b>価の総括と今後のが</b> 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善  「市消防団整備計画を	<b>(理由) 5向性】</b> 性 <b>:</b> 連携	なし。 □ 事業完了 □ 現状維持 消防設備の充足目標と併せて、	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて	事業のやり より、今後は いく。あわせ	方改善    全体の充足目標を  で、配備後相当の年
<b>【評</b> 今征 過步	□ ある □ ない <b>価の総括と今後のが</b> 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善  「市消防団整備計画を	<b>(理由) 5向性】</b> 性 <b>:</b> 連携	なし。 □ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに	事業のやり より、今後は いく。あわせ	方改善    全体の充足目標を  で、配備後相当の年
<b>【評</b> 今 6 大峭 0	□ ある □ ない <b>価の総括と今後の対象の事務事業の方向</b> □ 廃止 □ 事務事業統合 □ 市消防団整備計画を 時可組織のあるべき姿	<b>(理由) 5向性】</b> 性 <b>:</b> 連携	なし。 □ 事業完了 □ 現状維持 消防設備の充足目標と併せて、	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両についる。	まり、今後は いく。あわせ ても更新を違	方改善  全体の充足目標を  で,配備後相当の年   進めていく必要があ
<b>【評</b> 今 6 大峭 0	□ ある □ ない <b>価の総括と今後のが</b> 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善  「市消防団整備計画を	<b>(理由) 5向性】</b> 性 <b>:</b> 連携	なし。 □ 事業完了 □ 現状維持 消防設備の充足目標と併せて、	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両につい	事業のやり より、今後は いく。あわせ	方改善  全体の充足目標を  で,配備後相当の年   進めていく必要があ
<b>【評</b> 今征	□ ある □ ない  価の総括と今後のが 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善 時市消防団整備計画を 対団組織のあるべき姿	「理由) 方向性】 性 ・ ・ ・ ・ は ・ ・ に ・ は ・ に ・ に ・ は ・ に に に に に に に に に に に に に	なし。  □ 事業完了  ☑ 現状維持  消防設備の充足目標と併せて、 系について目標を設定した。	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに70%に設定し、順次事業を進めて数が経過している消防車両についる。	まり、今後はいく。あわせても更新を述	方改善 全体の充足目標を て、配備後相当の年 進めていく必要があ
【評令 過 大消 今 消防	□ ある □ ない  価の総括と今後のが 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善 時市消防団整備計画を 対団組織のあるべき姿	「理由) 方向性】 性 ・ ・ ・ ・ は ・ ・ に ・ は ・ に ・ に ・ は ・ に に に に に に に に に に に に に	なし。 □ 事業完了 □ 現状維持 消防設備の充足目標と併せて、	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両につい る。 期待される成果 消防団の災害時における消火能	まり、今後はいく。あわせても更新を述	方改善  全体の充足目標を  で,配備後相当の年   進めていく必要があ
【評令 過 大消 今 消防	□ ある □ ない  価の総括と今後の対 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善 時市消防団整備計画を 対団組織のあるべき姿	「理由) 方向性】 性 ・ ・ ・ ・ は ・ ・ に ・ は ・ に ・ に ・ は ・ に に に に に に に に に に に に に	なし。  □ 事業完了  ☑ 現状維持  消防設備の充足目標と併せて、 系について目標を設定した。	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに70%に設定し、順次事業を進めて数が経過している消防車両についる。	まり、今後はいく。あわせても更新を述	方改善 全体の充足目標を て、配備後相当の年 進めていく必要があ
【字 過 大消 今 消体	□ ある □ ない  価の総括と今後の対 後の事務事業の方向 □ 廃止 □ 事務事業統合 に行った改善 時市消防団整備計画を 対団組織のあるべき姿	(理由) 方向性】 大向性 連携 定は織 にはな	なし。  □ 事業完了 □ 現状維持  対防設備の充足目標と併せて、 系について目標を設定した。	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両につい る。 期待される成果 消防団の災害時における消火能	まり、今後はいく。あまたに必要	方改善 全体の充足目標を て、配備後相当の年 進めていく必要があ
【字 過 大消 今 消体	□ ある □ ない  「個の総括と今後のが後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 □ 事務事業統合 □ 市消防団整備計画を 計団組織のあるべき姿 ② の改善計画 □ 市両ので消防水利についます。	(理由) 方向性】 大向性 連携 定は織 にはな	なし。  □ 事業完了 □ 現状維持  対防設備の充足目標と併せて、 系について目標を設定した。	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両につい る。 期待される成果 消防団の災害時における消火能	まり、今後はいく。あまたに必要	方改善   全体の充足目標を   て、配備後相当の年 性めていく必要があ
【字 過 大消 今 消体 評価	□ ある □ ない  価の総括と今後の対 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 に行った改善 時前知組織のあるべき姿 の改善計画 の改善計画 に実績)等に関する。	「大 「大 「大 「大 「大 「 「 大 「 大 「 大 「 大 に 大 に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	なし。 □ 事業完了 □ 現状維持 □ 現状維持  消防設備の充足目標と併せて、 系について目標を設定した。	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両につい る。 期待される成果 消防団の災害時における消火能 力及び機動力の向上	より、今後はいても更新を注 新たに必要 車両購入費	方改善 全体の充足目標を て、配備後相当の年 進めていく必要があ なコスト でなコスト でないが、利整備費
<b>【字</b> 過 大消 今 消体 評 币	□ ある □ ない  価の総括と今後の対 後の事務事業の方向 □ 事務事業統合 に行った改善 時前知組織のあるべき姿 の改善計画 の改善計画 に実績)等に関する。	「理由) 方向性】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	なし。  □ 事業完了 □ 現状維持  対 現状維持  消防設備の充足目標と併せて、 ・系について目標を設定した。  備計画を策定し、持続可能な消防  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	□ 拡大 現在の課題・問題点 消防団整備計画を策定したことに 70%に設定し、順次事業を進めて 数が経過している消防車両につい る。 期待される成果 消防団の災害時における消火能 力及び機動力の向上	より、今後はいても更新を注 新たに必要 車両購入費	方改善 全体の充足目標を て、配備後相当の年 性めていく必要があ

【総1	総合計画体系】									
第	2	章	安全・安心で交流が盛んなまちづくり			部	課	:	総務部防災安全課	
第	5	節	機動的な消防・救急体制の充実	担:	当•	係	名	:	消防·危機防災担当	
第	4	項	消防関係団体の育成, 確保	記	入	者	名	:	鈴木 健	
104	E継(	か望:	<b>ましい姿</b> ・消防団に若年屋や女性消防団員の加入が増加している		飪	恶	₽ .		23-5144 810-112	

事務事業名: 消防団運営経費 25401

拠	<b>退法令·条例等</b>	_	会計	一般	
Ŧ	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名	消防団運営経費	
ŧ	☑ 単年度繰返し	科	款	9 消防費	
A	□ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	1 消防費	
1	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目	2 非常備消防費	

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 火災や自然災害から市民の生命、身体、財産を守るため、機動的な消防団組織を構築する。 対象 (誰,何に対して) ◆対象指標 ① 消防団員数 大崎市消防団員 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 〇春·秋火災予防運動の実施 古川(1296人)松山(252人)三本木(318人)鹿島台(373人)岩出山(475人)鳴子(436人)田尻(475人) ③ 火災予防運動 〇消防団員の教育訓練等 参加者数 ·大崎市消防団全団演習H29.7.2 参加者 1400人 ·古川支団 H29.6.11幹部·初任者訓練, H29.8~H29.11分団演習 参加者 684人 ・松山支団 H29.6~H30.3 水防演習、支団訓練、火災予防運動に伴う火災防御訓練 参加者 384人・三本木支団 H29.6 水防演習訓練、事前訓練 参加者 132人 •松山支団 ④ 教育訓練参加者数 〇全国女性消防操法大会出場 ·H29.9 女性消防団員10人 参観·応援団員100人 (5) 〇消防団装備品の整備 •消防団員用雨衣880着整備 7,584千円 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 成 各支団における各種訓練を実施した成果は大きく、団員のさらなる消防意識の高揚と技術の向上の一助となっ ⑥ 火災発生件数 た。その技術を生かし,台風襲来時には警戒にあたりながら排水作業に従事し防災・減災対応に力を注いだ。ま た、春・秋の火災予防運動では、多くの団員が防火啓発の普及に努めたことにより火災発生件数の減少につな 7 げることができた。

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 消防団員数	2,368	2,364		2,335	人	2,430
		象	2						
		\ <i>-</i>	③ 火災予防運動参加者数	3,459	3,556		3,625	人	_
	指 標	活動	④ 教育訓練参加者数	2,809	2,526		3,537	人	—
事業費		-73	⑤						
費		成	⑥ 火災発生件数	57	52		35	件	—
· 么		果	7						
各指標			国庫支出金	12,669	9,896				
			県支出金		600	2,793	2,528		
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他			2,250	2,250		
	総事業費		一般財源	202,799	203,949	218,583	205,054		
	費		事業費(a)	215,468	214,445	223,626	209,832	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.00	1.00		1.00	人	
		費	正職員人件費(b)	7,829	7,530		7,527	•	
			合計コスト(a)+(b)	223,297	221,975		217,359	千円	

	環境の変化や議会・市民	との意見・要望・			
この事務事業を開始したさ 災害から市民の生命, リ			事務事業を取り巻く環境の変化や ・消防団員の確保、育成・消防団員への装備品の3・大崎市消防団としての一・第23回全国女性消防操	充実, 待遇d 体感の醸成	文善 :
【事務事業の担当課詞	——————————— 平価】				
◆ 目的妥当性					
① <b>この事務事業は,総</b> ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	るために欠かせな	., 消防団の果たす役	と割は大きく,市民の生命,身体,員	才産を守	【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。
② 対象の音図の第四を	見直し. 拡大・縮小することで	- 専用制効用な上げ	スニレがガキ士 サムかつ		) <del>2</del> 19 20
□ できる □ できない	《理由》		安全・安心のまちづくりが推進でき	<b>ა</b>	□ 見直す必要がある
◆ 有効性					
③ 事務事業のやり方・3 □ できる 効果大 ☑ できる 効果中 □ できない・効果な	協力を得るなど団	少傾向にあり, 高齢の	<b>ますか?</b> ヒも進んでいることから,企業や大! こ推進する必要がある。	学等の	【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。
□ ある 統合・連携 □ ある 統合・連携 □ ない	ができない <b>《理由》</b> 消防団は	名】	<b>多事業はありませんか?</b> 核として将来にわたり欠くことので	きない代	│ □ 適切 │ │ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
◆ 効率性					
<ul><li>⑤ 現状の成果を下げず</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	に事業費を削減する方法はあ 《理由》 団員の減少傾向だたらす恐れがある	が進んでいる状況に	おいて, 訓練の縮小等はスキルの	低下をも	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。 ☑ 適切
<ul><li>⑥ コスト削減を阻害して</li><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>			傾向にあるが,装備品の充実は、  安全性の確保を図る上で不可欠であ		/ □ 見直す必要がある
【評価の総括と今後の					
今後の事務事業の方					
□ 廃止 □ 事務事業統		Ⅰ事業完了 Ⅰ現状維持	□ 事系□ 拡え		やり方改善
過去に行った改善			現在の課題・問題点	·	
	Jによる消防団への答申 定		消防団あり方検討会の結果を 改編及び消防設備の充実を図 必要がある。		
今後の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト
・消防団員確保対策の ・消防団整備計画に基・ ・教育訓練の充実と、全		-1L	より安定的な消防団の運営や 率的な訓練実施による消防団 機動力の向上。		
評価(実績)等に関す	る所属長所見				所属長氏名
災発生件数の減少化に			引き続き火災予防を呼び掛けり 呆・消防技術の向上に努めると		三 浦 利 之

事務事業名

消防団運営経費

事業番号

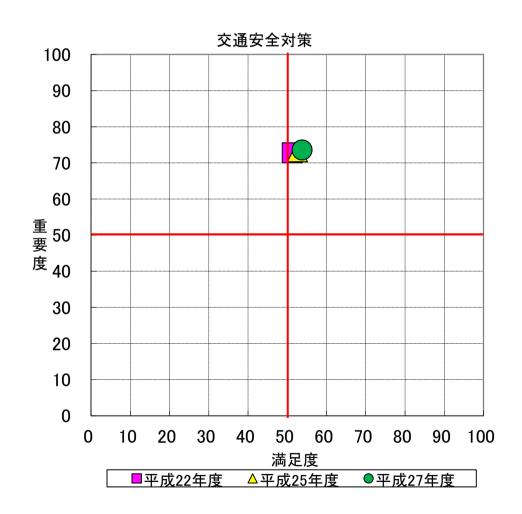
25401

# 第2章

## 第6節 地域ぐるみの交通安全対策の強化

- 1 交通安全教室の充実及び地域社会との協働による交通安全意識の啓発運動の推進
- 2 警察や交通安全関係機関、団体などとの連携
- 3 交通安全施設や道路などの交通環境の整備促進

## 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度	平成25年度	平成27年度
重要度(%)	72.76	73.09	73.53
満足度(%)	51.33	52.61	53.82

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり

第 6 節 地域ぐるみの交通安全対策の強化 第 1 項 交通安全教室の充実及び地域社会との協働による交通安全意識の啓発運動の推進

10年後の望ましい姿: 交通死亡事故がゼロとなっている。

 担当部課:
 総務部防災安全課

 担当・係名:
 交通防犯担当

 配入者名:
 真田賢一

 電話番号:
 23-5144 810-117

#### 交通指導隊交通指導員事業 事務事業名:

事業番号 26101

艮拠	<b>!法令·条例等</b> 大崎市地	域安全条例,	大崎市交通指導	算隊条例, 大崎市	f 交通指導員設置要綱	_	会計		一般
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~		予	事業名	交通指導隊交	通指導員事
業	☑ 単年度繰返し					身級	款	2 総務費	
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度			目	項	1 総務管理	費
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度		-	目	12 交通安全	対策費

業

## 【車務車業の用状】

7.7	切ず木ツ処仏』	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	交通事故のない安全でより快適な地域づくりを実現する。	
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	市民	① 市民(人口)
	THE STATE OF THE S	2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内容	<ul> <li>○交通指導隊の活動内容         <ul> <li>①定例街頭指導(児童・生徒が登校する時間に合わせて立哨し,街頭指導を実施)</li> <li>②小中学校で実施される交通安全教室への派遣</li> <li>③小中学校や地域の催物開催の際の派遣</li> </ul> </li> <li>○交通指導員の活動内容             ①子どもと高齢者の交通安全教室の実施</li></ul>	<ul><li>③ 隊員出動回数 (述べ)</li><li>④ 交通安全教室 開催数</li></ul>
	·高齡者対象 65回(1, 793人参加)	(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
	〇交通死亡事故ゼロ 500日間達成(鳴子温泉地域):平成29年4月14日 〇交通死亡事故ゼロ 1000日間達成(鹿島台地域):平成29年6月13日	⑥ 交通事故(人身 事故)発生件数
未	〇交通死亡事故ゼロ 6カ月間達成(古川地域):平成29年9月13日 〇交通死亡事故ゼロ 2500間達成(三本木地域):平成29年12月4日	⑦ 交通死亡事故 発生件数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度	
		対	① 市民(人口)	134,292	133,552		132,878	人	122,000	
		象	2							
			③ 隊員出動回数(述べ)	8,243	7,866		7,716	口	7,941	
	指標	旨 活票 動	④ 交通安全教室開催数	128	123		141	回	130	
事業費	1544	3/)	5							
費		成	⑥ 交通事故(人身事故)発生件数	547	521		475	件	246	
• 夕		果	⑦ 交通死亡事故発生件数	5	2	\	4	件	0	
各指標			国庫支出金							
標			県支出金	2,672	2,704	2,640	2,640			
の推移		事業費	地方債							
移	総	費	その他							
	総事業費		一般財源	35,132	35,505	39,643	35,117			
	費		事業費(a)	37,804	38,209	42,283	37,757	千円		
		人件	正職員年間従事人員	1.30	1.30		1.30	人		
		費	正職員人件費(b)	10,178	9,789		9,785			
			合計コスト(a)+(b)	47,982	47,998		47,542	千円		

【事	務事業を取り巻く環	境の変	化や議会・市	ī民との意見·要望	・協働等の状況】			
	事務事業を開始したきた					の変化や議会	・市民との	の意見・要望・協働等の状況
践を	そ一人ひとりが, 交通 そ行うことにより, 交通 見するため。				○交通指導隊員の ○新隊員の確保が			
【事	務事業の担当課評	価】						
<b>◆</b>	目的妥当性この事務事業は、総合	計画への	青齢度け大夫	いですか?				【評価のポイント】
U	□ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	《理由》	体系的な交通	i安全教育のシステムを	・構築する。さらに,地域社会 より,安全な道路交通の実		よる	総合計画を実現するために 貢献できているのか。
<b>②</b>	対象や意図の節囲を見	見直し、拡	大・縮小するこ	とで費用対効果を上げ	ずることができませんか?			
•	□ できる ☑ できない	《理由》		進が適切であると考え				□ 見直す必要がある
<b>♦</b>	有効性							
③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか?								【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。 ☑ 適切
	☑ ある 統合・連携カ □ ある 統合・連携カ □ ない	べできる	【類似事務事	事業名】 交通安全活	<b>務事業はありませんか?</b> 動推進事業 体等と連携して効果的に事	業推進してい	る。	□ 見直す必要がある
•	効率性							Γ=π/π ο 1° Λ ι Ι
	現状の成果を下げずに □ ある □ ない □ ホール ある □ ない □ ある □ ない □ ある □ ない	《理由》	現在の事業推 はありませんか。 地域行事等の	ま進が適切であると考え 。	傾向にあるが、安全性を確	保するために	は,	【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。 ☑ 適切  ☑ 見直す必要がある
<b>r</b> ===	毎の総任し合後の	七白料】						
	価の総括と今後の2 後の事務事業の方向							
7 13	<ul><li>□ 廃止</li><li>□ 事務事業統合</li></ul>		E 6	□ 事業完了 ☑ 現状維持		□ 事務事 □ 拡大	業のか	り方改善
過去	に行った改善				現在の課題・問題点			
平月	₹25年度において全₹	<b>韦統一の</b>	制服等装備品	品の更新を行った。	隊員の高齢化や新隊員	員の確保		
今後	その改善計画 のおおり かんしゅう かんしゅう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう				期待される成果		新たに必	必要なコスト
	ばにおける人材不足が 計画性をもって対応し		こあって,新隊	<b>終員の確保対策につ</b>	組織の活性化と機動力 図り, 交通事故の抑止 る。		なし	
評值	西(実績)等に関する	所属長河	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					所属長氏名
高齢 全教 また	者を対象にした交通事 室の開催が非常に有効	故防止対 かと思われ	策が重要と考え ることから, 交流	える。高齢者の交通事は 通指導員の欠員補充が	発生件数は増加傾向にある 対防止には高齢者を対象と が急がれる。 題であることから、女性隊員	した交通安		三浦利之

事務事業名

交通指導隊交通指導員事業

事業番号

26101

 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり
 担当部課:
 総務部防災安全課

 第 6 節 地域ぐるみの交通安全対策の強化
 担当・係名:
 交通防犯担当

 第 2 項 警察や交通安全関係機関、団体などとの連携
 記入者名:
 真田 賢一

 10年後の望ましい姿:
 飲酒、酒気帯び運転がゼロとなっている。
 電話番号:
 23-5144 810-117

## 事務事業名: 交通安全活動推進事業

事業番号 26201

根拠	法令·条例等 大崎市地域安全条例,大崎市交通指導隊条例,大崎市交通指導員設置要綱	Γ.
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	ľ
業	☑ 単年度繰返し	3
期	□ 単年度のみ実施 平成 年度	ľ
間	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度	

	会計		一般
予	事業名	交通	安全活動推進事業
科	款	2	総務費
17	項	1	総務管理費
	目	12	交通安全対策費

【事務事業の現状】

	35 3.514.4.30.847	
	意図(対象をどういう状態にしたいか)	
目的	交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践により交通事故が減少する。	
	対象 (誰, 何に対して)	◆対象指標
	市民	① 市民(人口)
		2
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標
実施内	〇春の交通安全県民総ぐるみ運動 4月6日から4月15日まで ・4月6日 街頭キャンペーン出動式(市役所本庁舎前,大宮交差点) ・4月10日 交通事故防止キャンペーン(市内量販店前)	③ 交通安全運動開催数
容	○秋の交通安全県民総ぐるみ運動 9月21日から9月30日まで ・9月21日 街頭キャンペーン出動式(市役所本庁舎前, 大宮交差点) ・9月28日 大崎市飲酒運転根絶大会(パレットおおさき) ・9月30日 交通事故防止キャンペーン(市内量販店前)	④ 交通安全教室 開催数
	〇年末特別警戒街頭キャンペーン 12月15日 ・夜間, 市内繁華街付近の交差点において, 運転者及び歩行者にチラシや啓発用品を配布し, 交通事故防 止及び飲酒運転根絶の啓発活動を展開	(5)
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)
成果	平成29年中の人身交通事故件数は475件で前年対比-46件となるなど、効果的な交通安全運動が図られ	⑥ 交通事故(人身事 故)発生件数
果	<i>t</i>	⑦ 飲酒運転事故発生 件数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 市民(人口)	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
		, <u>.</u>	③ 交通安全運動開催数	3	3		3	口	3
	指標	活動	④ 交通安全教室開催数	128	123		141	回	130
事業費		-43	5						
費		成果	⑥ 交通事故(人身事故)発生件数	547	521		475	件	246
夕		果	⑦ 飲酒運転事故発生件数	5	4	\	6	件	0
各指標			国庫支出金						
			県支出金	275	275	275	275		
推		事業費	地方債						
推移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	3,022	3,041	3,065	2,853		
	費		事業費(a)	3,297	3,316	3,340	3,128	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.30	1.30		1.30	人	
		費	正職員人件費(b)	10,178	9,789		9,785		
			合計コスト(a)+(b)	13,475	13,105		12,913	千円	

事業番号	26201	事務事業名	交通安全活動推進事業

			<b>化や議会・市民との意見・要望・</b>	協働等の状況】		
この	事務事業を開始したきて	かけ		事務事業を取り巻く環境の変化や議会	会・市民と	の意見・要望・協働等の状況
			地域づくりの実現のため,市 [子全意識の高揚を図る。	春・秋の交通安全県民総ぐる ンの実施など、関係団体と連 図っている。		
【事	務事業の担当課評 目的妥当性	価】				
1		計画への	貢献度は大きいですか?		,	【評価のポイント】
	<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>□ 貢献度 小</li><li>□ 基礎的事務事業</li></ul>	《理由》	地域社会との協働による交通安全意 り一層推進する。	識の啓発運動を推進し、交通安全対策	をよ	総合計画を実現するために 貢献できているのか。
<u></u>	対象の音図の第四な目	1 古 1 廿 -	大・縮小することで費用対効果を上げ	スニレがズキキサんかっ		〉 ☑ 適切
<b>(</b>	<b>対象で息回の配面を元</b> □ できる	《理由》	人・胴小りることで資用対効米を上げ	<b>ることが Cらまらかか !</b>		□ 見直す必要がある
	□ できない	<b>(4</b> 0)	現在の事業推進が適切であると考え			
	有効性					
3		め方を変え	こることで成果を向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】
	□ できる 効果大 □ できる 効果中 □ できない 効果なし	:	現在の事業推進が適切であると考え	<b></b> శ్రీ.		現在のやり方で成果がでる のか。
	<b>₽</b> cc.aa ww.ac		√河適切			
4	類似の目的(対象と意)   ある 統合・連携が	/	<b>○ こっ</b> □ 見直す必要がある			
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>□ ない</li></ul>	べきない	<b>《理由》</b> 警察署や交通安全関係団体	本等と連携して効果的に事業推進してし 	いる。	
	効率性					
<b>⑤</b>		事業費を	削減する方法はありませんか?			【評価のポイント】
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理由》	現在の事業推進が適切であると考え	<b>る</b> .		現在のやり方をもっと安価 にできないか。
					'	〉☑ 適切
6	コスト削減を阻害してい □ ある	<b>'</b> る要因は	めりませんか。			/ □ 日本十分無料もで
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	<b>《</b> 垤田/	各地域における各種団体との協力体 在の事業手法が適切であると考える。	制を構築し事業を推進していることから 。	, 現	□ 見直す必要がある
r st	価の総括と今後のス	左向性1				
	後の事務事業の方向					
7 1.	□ 廃止	· · · · · ·	□ 事業完了	□ 事務事	業の	やり方改善
	□ 事務事業統合	膏∙連携	☑ 現状維持	口 拡大		
過去	长に行った改善			現在の課題・問題点		
	酒運転根絶活動の推進 走族根絶活動の推進			交通事故の発生件数は減少傾	向にある	ものの、高齢者に係る事
·シ-	ートベルト着用の啓発活 転車の交通事故防止啓 謀運転防止啓発活動の	発活動の	実施	故が増加傾向にある。   また, 市の中心部が県の「飲酒」   いるが, 飲酒運転の件数が減少し		
今後	後の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト
·後: 底		のシートベ	ルトとチャイルドシートの正しい着用の徹	交通事故・飲酒運転の減少	なし	
•飲	伝車乗用中の交通事故防山 酉運転の根絶・暴走族根絶 亍者事故防止・反射材用品	運動の推進	<u>E</u>	人业于以 以归廷和V/或之	.a.C	
	西(実績)等に関する	FLE E				所属長氏名

三 浦 利 之

交通事故発生件数は年々減少傾向にあるものの、高齢運転者の交通事故発生件数は増加傾向にあり、さらには飲酒運転の発生件数も減少していない。交通ルールの遵守とマナーの向上、飲酒運転の撲滅のためには関係機関・団体との協力が不可欠であることから、引き続き連携して交通安全運動を進

めていきたい。

# 【総合計画体系】第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり担当部課:総務部防災安全課第 6 節 地域ぐるみの交通安全対策の強化担当・係名:交通防犯担当第 3 項 交通安全施設や道路などの交通環境の整備促進記入者名:真田 賢一10年後の望ましい姿:交通事故発生件数が大幅に減少している。電話番号:23-5144 810-117

## 事務事業名: 交通安全施設整備事業

事業番号 26301

艮抄	<b>ఓ法令·条例等</b> 大崎市地域	或安全条例, フ	大崎市交通指導	隊条例,大崎市交通指導員設置要綱	-	会計	一般	
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	予	事業名	交通安全施設整備事業	
業	☑ 単年度繰返し				科	款	2 総務費	
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		目	項	1 総務管理費	
間	□期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度		目	12 交通安全対策費	

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) ・交通安全施設を整備し、交通事故発生件数を減少させ、安全で安心して暮せる生活環境を実現する。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 市民(人口) 市民 **(2**) 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ 道路反射鏡設 置数 実施内 ④ 区画線設置延 〇道路反射鏡の新設・改良工事 〇区画線の補修工事 ⑤ 防護柵設置延 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 交通事故(人身事 故)発生件数 地域要望に対しすべて応えられている現状にはないが、警察署及び道路管理者と連携をとりながら、効率的か 果 つ効果的な整備を図った。 ⑦ 交通死亡事故発生 件数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 市民(人口)	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
	l la	指 活 票 動	③ 道路反射鏡設置数	38	32		30	基	33
_	指標		④ 区画線設置延長	5,850	6,423		8,339	m	6,870
事業費			⑤ 防護柵設置延長	85	132		0	m	72
費		成	⑥ 交通事故(人身事故)発生件数	547	521		475	件	246
• 夕		果	⑦ 交通死亡事故発生件数	5	2		4	件	0
各指標			国庫支出金						
			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	15,957	14,933	15,061	13,961		
	費		事業費(a)	15,957	14,933	15,061	13,961	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.30	1.30		1.30	人	
		費	正職員人件費(b)	10,178	9,789		9,785		
			合計コスト(a)+(b)	26,135	24,722		23,746	千円	

事業番号	26301	事務事業名	交通安全施設整備事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】

	東現の変化や議会・中氏との息見・要								
この事務事業を開始したき	つかけ	事務事業を取り巻く環境の変化や議	会・市民との意見・要望・協働等の状況						
交通安全施設の整備に 通社会の実現を目指すが	より,交通事故のない安全で快適な交 ため。	等の修繕に取り組んでいるが	道路反射鏡の設置及び道路区画線 が、地域等の要望すべてに対応はで 進を求める声が高まっている。						
【事務事業の担当課評 ◆ 目的妥当性	· (面)								
			【評価のポイント】						
① この事務事業は、総合 ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	□ 貢献度 小 交通安全対策の推進には、安全な道路交通の実現に向けたハード面の施設整 ■ 横が必要不可欠である。								
<ul><li>② 対象や意図の範囲を □ できる</li><li>☑ できない</li></ul>	見直し、拡大・縮小することで費用対効果を」 《理由》 財源の確保を維持しつつも、現状	<b>上げることができませんか?</b> こでは現在の事業推進が適切であると考え	<ul><li>② 適切</li><li>□ 見直す必要がある</li></ul>						
◆ 有効性 ③ 事務事業のやり方・進 □ できる 効果大 □ できる 効果中 ☑ できない・効果なし	現在の事業推進が適切であると		【評価のポイント】 現在のやり方で成果がでる のか。						
	図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の ができる 【類似事務事業名】 市道新設 ができない 《理由》 道路管理者と連携しなか		□ 見直す必要がある						
◆ 効率性									
⑤ 現状の成果を下げず(	<b>こ事業費を削減する方法はありませんか?</b>		【評価のポイント】						
□ ある ☑ ない	《理由》 現在の事業推進が適切であるとま	考える。	現在のやり方をもっと安価 にできないか。						
			□ \ ☑ 適切						
<ul><li>⑥ コスト削減を阻害して</li><li>☑ ある</li><li>□ ない</li></ul>	いる要因はありませんか。 《理由》 近年、カーブミラーの設置単価が	上昇傾向にあり苦慮している。	│ □ 見直す必要がある						
【評価の総括と今後の									
今後の事務事業の方向									
│ □ 廃止 □ 事務事業統 <sup>・</sup>	□ 事業完了 合·連携     ☑ 現状維持	□ 事務	事業のやり方改善						
過去に行った改善	E SUNTEN	現在の課題・問題点							
市内各地域への事業配た整備を推進した。	分の公平化を勘案しつつ,緊急性を考慮	こと 宅地開発等による交通事情の変	化への対応						
今後の改善計画		期待される成果	新たに必要なコスト						
・道路反射鏡及び道路区 ・老朽化している施設の		業務の効率化	なし						
評価(実績)等に関する	5所属長所見	<u> </u>	所属長氏名						

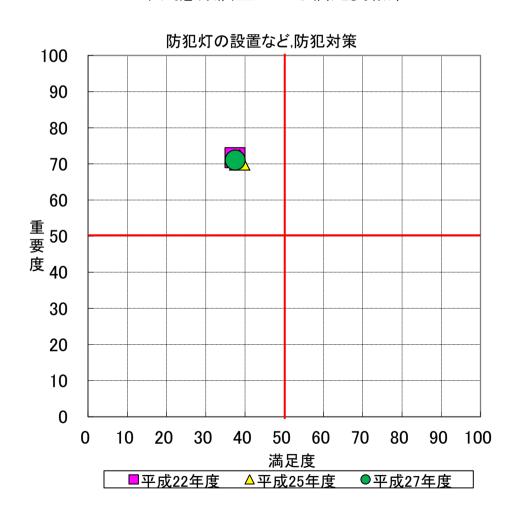
三 浦 利 之

宅地開発等に伴う交通事情の変化により、狭隘な道路での交通量が増加する等、特に市街地におけるカーブミラーや交通標識の新設が必要となる箇所が増えていることから、適宜整備を進めるとともに、老朽化した施設の更新についても計画的に行っていきたい。

# 第2章 第7節 地域で守る防犯対策の強化

- 1 協働による地域防犯体制の確立
- 2 防犯実働隊の育成支援
- 3 消費者対策窓口の充実
- 4 防犯意識の普及啓発

## 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度	平成25年度	平成27年度	
重要度(%)	71.66	71.04	71.03	
満足度(%)	37.48	38.69	37.52	

# 【総合計画体系】第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり担当部課:総務部防災安全課第 7 節 地域で守る防犯対策の強化担当・係名:交通防犯担当第 1 項 協働による地域防犯体制の確立記入者名:真田 賢一10年後の望ましい姿:子どもに対する不審な行為が減少している。電話番号:23-5144 810-117

事務事業名: 防犯対策事業 27101

根拠	<b>法令·条例等</b> 大崎市地	域安全条例,	大崎市防犯灯(	の設置及び維持管理に関する要綱
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~
業	☑ 単年度繰返し			
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度	
間	期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度

_	会計		一般
予	事業名	防犯	対策事業
科	款	2	総務費
14	項	1	総務管理費
_	目	13	防犯対策費

【事務事業の現状】

	意図(対象をどういう状態にしたいか)								
目的	防犯環境の整備や市民との協働による防犯活動により,犯罪のない明るく住みよい地域づくりを実現する。								
	対象(誰,何に対して)	◆対象指標							
	市民	① 市民(人口)							
		2							
	実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順)	◆活動指標							
実施内	〇防犯灯の修繕及び新設工事	③ 防犯灯設置数							
容	○防犯灯維持管理事業補助金,各種協会・協議会等負担金,防犯対策推進事業補助金の交付 ○安全・安心まちづくり大会の開催 ・日時 平成29年12月1日 午前10時~正午 ・会場 大崎市民会館 ・内容 ①市交通指導員による交通安全寸劇 ②防犯基調講演 ③大会宣言	④ 各種補助金·負 担金額							
	④年末年始特別警戒出動式	(5)							
	平成29年度の成果	◆成果指標(把握する手段)							
成果	防犯灯の設置により夜間における犯罪の防止及び歩行者等の安全が図られ犯罪抑止効果があらわれた。	⑥ 刑法犯認知件 数							
		7							

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度	
		対	① 市民(人口)	134,292	133,552		132,878	人	122,000	
		象	2							
		ı,	③ 防犯灯設置数	53	106		113	基	40	
_	指 標	活動	④ 各種補助金・負担金額	26,291	23,581		26,081	千円	15,200	
事業費		293	5							
費		成	⑥ 刑法犯認知件数	1,061	947	\		885	件	509
• 夕		果	7							
各指標			国庫支出金							
			県支出金	1,063	3,200	3,150	3,150			
の推移		事業費	地方債							
移	総	費	その他							
	総事業費		一般財源	50,354	44,298	52,250	48,762			
	費		事業費(a)	51,417	47,498	55,400	51,912	千円		
		人件	正職員年間従事人員	1.30	1.30		1.30	人		
		費	正職員人件費(b)	10,178	9,789		9,785			
			合計コスト(a)+(b)	61,595	57,287		61,697	千円		

【事務事業を取り参く環境の変化や調金・市民との意見・要望・協動等の状況】  ※指導系を取り参く環境の変化や調金・市民との意見・要望・協働等の状況  北郷のない安全で安心して暮らせる地域づくりを推進するため。  ② おおままた。 LED灯への移行をスピード感をもって進める必要  「はある。また、LED灯への移行をスピード感をもって進める必要  「おある。また、LED灯への移行をスピード感をもって進める必要  「おおまた。また、「関連的」 「現在の不イント」 「現在の本業推進が適切であると考える。  「現在の本でもいた。「関連的」または参照イベント・密観と持つ他の事業事業はおりませんか? 「おから、設定手法の表別・または参照イベント・密報と持つできない。」 「おい 「関連的」 法別、ての表別に本事推進している。  ◆ 効率性  ⑤ 現在の本業推進が適切であると考える。  「現面) 法別、ての表別に本事推進している。  ◆ 効率性  ⑥ 現在の本業推進が適切であると考える。  「関連的 」 現在の本業推進している。  ② カント 「関連的」 はい 「関連的 を地域の事業推進している。  ② カント 「関連なども、変更の主動を対していると考える。  「評価のおおと今後の方向性」 ● 実売了										
② 東京事業を開始したきっかけ  平成のない安全で安心して暮らせる地域づくりを推進するため。  「本務事業の担当課評価】  ◆ 目的変当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? ② 斉成度 ハ □ 京成度 ハ □ 京成度 ハ □ 京成度 ハ □ 京成度 ハ □ 京成度 ハ □ 京成の カーストの企動による地域的犯体制を確立するためには必要な事業である。 □ 京成度 ハ □ 京成の ハ □ 京成の ハ □ 京成の ハ □ できる、				事業番号	27101	事務事業名	防犯対策事業			
②事務事業を制能したきのかけ  型罪のない安全で安心して暮らせる地域づくりを推進するため。  ② 連続	【事	事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】								
「ある。また、LED灯への移行をスピード感をもって進める必要 がある。   「本務事業の担当課評価				10 ( 1000 300 - 11-	<u> </u>		く環境の変化や議会	・市民との意見・要望・協働等の状況		
● 目的契当性	犯罪	₽のない安全で安心し	て暮らせ	る地域づくりを	推進するため。	〉にある。また				
( 回動)	【事		<b>洒</b> 】							
実就度 大	<b>♦</b>									
貢献度 小	Œ		,	貢献度は大きい	いですか?					
② 対象や電図の範囲を見直し、拡大・線小することで費用対効果を上げることができませんか?		□ 貢献度 小	《理田》	市民との協働に	こよる地域防犯体制を	確立するためには必	必要な事業である。 	貢献できているのか。		
◆ 有効性         ② 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか?         【評価のポイント】           ② できる 効果大 できる 効果大 できる 効果大 できる 効果大 できる 効果なし できない・効果なし から、設価手法の検討を進める。         【類値の目的(対象と常園)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか?	2	□ できる					か?			
③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか?		☑ できない		現在の事業推	進が適切であると考え	රං 				
③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか?	•	有効性								
□ できる 効果中			<b>か方を変え</b>	えることで成果を	一向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】		
できない効果なし		☑ できる 効果大	《理由》	10 000 kT + ±77 =	フサXD-KOLEDAL	=> => 5	いはいまちかっちつ	_ 、 現在のやり方で成果がでる		
□ できない効果なし □ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? □ ある 統合・連携ができな		□ できる 効果中				削減にも有効でめる	└ <sup>と</sup>			
<ul> <li>● 類似の目的(対象と意図)または彩態(イベントや密発)を持つ他の事務事業はありませんか?</li></ul>		□ できない・効果なし		~ 3, WE 172						
□ ある 統合・連携ができない	_						•. =	□ □ 適切		
→ 効率性 ③ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? □ ある (理由) 現在の事業推進が適切であると考える。 ◎ コスト制減を限害している要因はありませんか。 □ ある (理由) 各地域防犯協会との連携を密にし事業を推進しており、現在の事業手法が適切であると考える。  【評価の総括と今後の方向性】 今後の方向性 □ 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 □ 現状維持 □ 拡大 □ 拡大 □ 扱大に行った改善  版犯灯の設置基準及び維持管理経費の統一化	4)						<i>か</i> ?			
◆ 効率性  ③ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? □ ある				/ TED _L_ \		/ =				
(理由) 現在の事業推進が適切であると考える。			いできない	<b>《埋田》</b> 連携	して効果的に事業推進	している。				
(理由) 現在の事業推進が適切であると考える。	•	効率性								
② ない 現在の事業推進が適切であると考える。  ② コスト削減を阻害している要因はありませんか。 □ ある ② ない ② 適切 □ 名地域防犯協会との連携を密にし事業を推進しており、現在の事業手法が適切 □ 見直す必要がある ② 事務事業の方向性 □ 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業の方向性 □ 原止 □ 事業完了 □ 事務事業統合・連携 □ 現状維持 □ 拡大 過去に行った改善 □ 現仏維持管理経費の統一化 □ 財状維持 □ 拡大 □ 基本に行った改善 □ 現在の課題・問題点 □ 上田化への対応 □ 大田の設置基準及び維持管理経費の統一化 □ 上田の対応 □ 大田の設置基準及び維持管理経費の統一化 □ 上田の対応 □ 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → 大田の対応 □ → → → → → → → → → → → → → → → → → →			事業費を	削減する方法に	<b>よありませんか?</b>			【評価のポイント】		
⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 □ ある		□ ある	《理由》					現在のやり方をもっと安価		
( コスト削減を阻害している要因はありませんか。		☑ ない		現在の事業推	進が適切であると考え					
□ ある	<b>@</b>	コフト削減を四宝してい	2番田14	キリキサムか				□ ) ☑ 適切		
図 ない 各地域防犯協会との連携を密にし事業を推進しており、現在の事業手法が適切であると考える。  【評価の総括と今後の方向性】 今後の事務事業の方向性 □ 廃止 □ 事業完了 □ 事務事業のやり方改善 □ 事務事業統合・連携 □ 現状維持 □ 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点  「防犯灯の設置基準及び維持管理経費の統一化 LED化への対応  「関連を持ちます。」 「大きないでは、できないできないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないできないできないできないできないできないでは、できないできないできないでは、できないでは、できないでは、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	•									
今後の事務事業の方向性		_	<b>\</b> 4ш/			業を推進しており、刊				
今後の事務事業の方向性	r ∌∓	価の総任 L 会後の	上中本1							
□ 廃止 □ 事務事業統合・連携 □ 現状維持 □ 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点  「防犯灯の設置基準及び維持管理経費の統一化  「特別では、している。」 「関係のでは、している。」 「おいったでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で										
□ 事務事業統合・連携 □ 現状維持 □ 拡大 過去に行った改善 現在の課題・問題点  防犯灯の設置基準及び維持管理経費の統一化 LED化への対応  今後の改善計画 期待される成果 夜間における歩行者の安全確保を 図るとともに、犯罪の抑止効果が得られる。 また、防犯灯の維持管理に要する 経費や、二酸化炭素排出量の削減 効果が見込まれる。	/ 12		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		□ 事業完了		☑ 事務事	業のやり方改善		
防犯灯の設置基準及び維持管理経費の統一化    Character		□事務事業統合	ì·連携	<u>:</u>			口 拡大			
今後の改善計画 期待される成果 夜間における歩行者の安全確保を図るとともに、犯罪の抑止効果が得られる。 また、防犯灯の維持管理に要する経費や、二酸化炭素排出量の削減効果が見込まれる。	過去	に行った改善				現在の課題・問題	題点			
今後の改善計画 期待される成果 夜間における歩行者の安全確保を図るとともに、犯罪の抑止効果が得られる。 また、防犯灯の維持管理に要する経費や、二酸化炭素排出量の削減効果が見込まれる。										
夜間における歩行者の安全確保を 図るとともに、犯罪の抑止効果が得ら れる。 的かつ経済的な手法を模索し、計画的に推進していく。 を費や、二酸化炭素排出量の削減 効果が見込まれる。	防狐	2灯の設置基準及び維	<b>挂持管理</b> :	経費の統一化		LED化への対応	5			
防犯灯のLED化について、リース方式など様々な手法の中から効率 的かつ経済的な手法を模索し、計画的に推進していく。 とともに、犯罪の抑止効果が得られる。 また、防犯灯の維持管理に要する経費 経費や、二酸化炭素排出量の削減 効果が見込まれる。	今後	後の改善計画				期待される成果		新たに必要なコスト		
防犯灯のLED化について、リース方式など様々な手法の中から効率 的かつ経済的な手法を模索し、計画的に推進していく。 とともに、犯罪の抑止効果が得られる。 また、防犯灯の維持管理に要する経費 経費や、二酸化炭素排出量の削減効果が見込まれる。						夜間における歩	行者の安全確保を			
的かつ経済的な手法を模索し、計画的に推進していく。 また、防犯灯の維持管理に要する 経費 経費や、二酸化炭素排出量の削減 効果が見込まれる。	n.L		=	<u></u>		図るとともに、犯罪	の抑止効果が得ら			
評価(実績)等に関する所属長所見 所属長氏名						また, 防犯灯の糸 経費や, 二酸化炭	推持管理に要する 素排出量の削減			
	評值	西(実績)等に関する	所属長所	<b></b>				所属長氏名		

三 浦 利 之

宅地開発等により防犯灯の新設要望が増加している。計画的な増設に努めるとともに、LED灯への移行についても早急に完了させたい。

【総合計画体系】												
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当 部課: 総務部防災安全課											
第 7 節 地域で守る防犯対策の強化	<b>担 当 • 係 名</b> : 交通防犯担当											
第 2 項 防犯実働隊の育成支援 記入者名: 真田 賢一												
<b>10年後の望ましい姿</b> : 犯罪発生件数が大幅に減少している。 電話番号: 23-5144 810-117												

防犯実働隊員事業 27201 事務事業名: 事業番号

根拠	<b>法令·条例等</b> 大崎市地	域安全条例,	大崎市防犯実	動隊条例	_	会計	-
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~	予	事業名	防犯実働隊員事業
業	☑ 単年度繰返し				科	款	2 総務費
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度		目	項	1 総務管理費
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度		目	13 防犯対策費
	-			•			•

般

【事務事業の現状】 意図(対象をどういう状態にしたいか) 目 的 市民が安全で安心して暮らせる地域づくりの実現。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 市民(人口) 市民 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 ③ 隊員出動回数 (述べ) 実施内容 〇定例パトロール出動(下校時間や夕方から夜間にかけての巡回) 〇各種行事への出動(市・関係機関・団体、各地域主催行事及び季節ごとの地域安全運動期間中の出動) 4 ○緊急パトロール出動(不審者発生事案等に応じて) (5) 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 刑法犯認知件 成 果 市内各地域において、定例巡回パトロールの実施等により、犯罪発生の抑止につながった。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 市民(人口)	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
			③ 隊員出動回数(述べ)	6,962	7,024		7,034	回	7,006
	指標	活動	4						
事業費	1234	3/)	5						
費		成果	⑥ 刑法犯認知件数	1,061	947		885	件	509
• 夕		果	7			\			
各指標			国庫支出金						
標の			県支出金						
の推移		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	29,734	29,531	30,673	29,718		
	費		事業費(a)	29,734	29,531	30,673	29,718	千円	
		人件	正職員年間従事人員	1.30	1.30		1.30	人	
		費	正職員人件費(b)	10,178	9,789		9,785		
			合計コスト(a)+(b)	39,912	39,320		39,503	千円	

			<b>学术</b> 田 勺	27201	事物事未有 网络关	<b>国</b> 协只 于 木		
【事	務事業を取り巻く環	境の変	化や議会・市	「民との意見・要望・	協働等の状況】			
	事務事業を開始したきつ		10 1 120 22 -1	- <del></del>		変化や議会	・市民と	の意見・要望・協働等の状況
犯罪	星のない安全で安心し	て暮らせ	-る地域づくり:	を実現するため。	隊員の高齢化と新阪	<b>挙員の確</b> 保	そが困難を	な状況となっている。
【事	務事業の担当課評	価】						
•	目的妥当性							F
(1)	この事務事業は,総合 ☑ 貢献度 大 □ 貢献度 小 □ 基礎的事務事業	計画への《理由》	防犯実働隊σ		より,犯罪発生を抑止するななな事業である。	ど, 安全で3	安心	【評価のポイント】 総合計画を実現するために 貢献できているのか。 ✓ 適切
2				とで費用対効果を上げ	ることができませんか?			
	<ul><li>□ できる</li><li>☑ できない</li></ul>	《理由》		生進が適切であると考え	<b>る</b> 。			□ 見直す必要がある
<b>•</b>	有効性							
	事務事業のやり方・進ん	め方を変え	えることで成果	を向上させることができ	ますか?			【評価のポイント】
	<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	《理由》		生進が適切であると考え	<b>న</b> .			現在のやり方で成果がでるのか。
4		「できる	【類似事務】	や啓発)を持つ他の事 事業名】 防犯対策事 して効果的に事業推進				☑ 適切 □ 見直す必要がある
<b>_</b>	効率性							
	<b>現状の成果を下げずに</b> □ ある □ ない	事業費を 《理由》		はありませんか?	న <u>.</u>			【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 にできないか。 <b>✓ 適切</b>
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	いる要因は	はありませんか	•				
	<ul><li>□ ある</li><li>☑ ない</li></ul>	《理由》		・ 「課題となっている中, 玎	見在の事業推進手法は工夫を	を凝らしなが	16	□ 見直す必要がある
【評	価の総括と今後のス	方向性】						
	後の事務事業の方向							
	□ 廃止 □ 事務事業統合		5	□ 事業完了 ☑ 現状維持		] 事務事 ] 拡大	業のか	り方改善
過去	に行った改善				現在の課題・問題点			
	₹19年度において各₺ 注案するとともに士気高			服を統一し,一体性	隊員の高齢化や新隊員	の確保		
今後	後の改善計画				期待される成果		新たに必	必要なコスト
新隊	<b>対員の確保について</b> 計	∤画性をも	ちって対応して	にいく。	組織の活性化と機動力の図ることにより、犯罪発生減少が期待できる。		なし	
評個	西(実績)等に関する	所属長	所見 所見					所属長氏名
犯其		ール活動	は有効と思れ	つれる。防犯実働隊員	のように発生していること の高齢化が進んでいるこ			三 浦 利 之

 第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり
 担当部課:
 総務部市政情報課

 第 7 節 地域で守る防犯対策の強化
 担当・係名:
 市民相談担当

 第 3 項 消費者対策窓口の充実
 記入者名:
 門間佐代子

 10年後の望ましい姿:
 消費生活トラブルが減少している。
 電話番号:
 23-9125 810-551

## 事務事業名: 消費者等育成啓発事業

事業番号 27301

根拠	<b>ル法令·条例等</b> 消費者安全法·JAS法等	-	会計
事	開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名
業	☑ 単年度繰返し	科	款
期	単年度のみ実施 平成 年度	目	項
間	□ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目

	会計		一般					
予	事業名	消費	者等育成啓発事業					
科	款	7	商工費					
117	項	1	商工費					
_	目	3	消費生活推進費					

【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか) **的**「安全·安心で豊かな消費生活」の実現のため、被害に遭わない「賢い消費者」を育成する。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 人口 市民 **(2**) 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 市民自らが、消費生活に関する被害実例とその対策を理解し、必要な基礎知識と的確な判断力を身につける ③ 出前講座開催 ことを目的として、消費者教育を行う。 回数 •消費生活講座の開催 施 ・生涯学習課との連携による出前講座の実施 内 消費生活教育支援講座の実施 消費生活ウォッ 安全で安心な消費生活が確保できるよう、事業者活動の監視、検査等及び指導を行う。 ④ チャー活動報告 ・市内店舗や事業所等を対象とした、法令遵守点検調査または立入検査の実施 回数 ・市長が委嘱する消費生活ウォッチャー11名によるモニタリング活動の実施 消費生活サポー 消費者被害の未然防止を一層推進するため、きめ細かな啓発活動を充実させる取組みを行う。 ⑤ ター養成講座開 ・消費生活サポーター養成講座の開催 催回数 啓発用品等の充実化 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) 6 消費生活講座 ・消費生活講座や出前講座等により、啓発の強化に取組み、消費者トラブルの未然防止に努めた。 参加者数 ・法令遵守点検調査及び消費生活ウォッチャーのモニタリングにより、店舗等における適正表示の徹底を図っ 果 ⑦ 出前講座参加 ・相談の多い事例に対応した冊子等を活用して,効果的な啓発行った。 者数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 人口	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
		,,	③ 出前講座開催回数	40	14		28	口	48
_	指 標	活動	4 消費生活ウォッチャー活動報告回数	11	11		11	回	11
事業費			⑤ 消費生活サポーター養成講座開催回数	5	5		5	□	5
費		成	⑥ 消費生活講座参加者数	87	58		75	人	100
- タ		果	⑦ 出前講座参加者数	1,174	241		648	人	1,000
各指標			国庫支出金						
標の		:	県支出金	943	927	1,421	1,007		
推		事業費	地方債						
移	総	費	その他						
	総事業費		一般財源	241	305	357	333		
	費		事業費(a)	1,184	1,232	1,778	1,340	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.50	0.50		0.50	人	
		費	正職員人件費(b)	3,915	3,765		3,764		
			合計コスト(a)+(b)	5,099	4,997		5,104	千円	

事業番号	27301	事務事業名	消費者等育成啓発事業

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況 生活様式の変化や情報通信技術の進歩に伴って、日々新たな 手口による被害が発生している。 市民の「安全・安心で豊かな消費生活」の実現のため、啓発等 さらに、高齢者、未成年者が消費者トラブルに遭う事案も増加し による「賢い消費者の育成」が求められている。 ており, 地域・学校・関係機関と連携した, 多面的な啓発活動が 必要となっている。 【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性 ① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きいですか? 【評価のポイント】 **《理由》** 「市民が安全で安心して暮らし続けるまちづくり」の実現に向け、消費者トラブル ☑ 貢献度 大 総合計画を実現するために □ 貢献度 小 貢献できているのか。 の未然防止に貢献している。 □ 基礎的事務事業 ☑ 適切 ② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することで費用対効果を上げることができませんか? 《理由》 □ できる □ 見直す必要がある ✓ できない ● 有効性 ③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることができますか? 【評価のポイント】 □ できる 効果大 《理由》 現在のやり方で成果がでる □ できる 効果中 のか。 期待する成果が得られており、最良の手法であると考える。 ✓ できない・効果なし ☑ 適切 ④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや啓発)を持つ他の事務事業はありませんか? 【類似事務事業名】 □ ある 統合・連携ができる □ 見直す必要がある □ ある 統合・連携ができない 《理由》 ✓ ない 効率性 ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法はありませんか? 【評価のポイント】 現在のやり方をもっと安価 □ ある 《理由》 事業費の大半が人件費であり、その他の経費は必要最小限としていることから、 ✓ ない にできないか。 削減は困難である。 ☑ 適切 ⑥ コスト削減を阻害している要因はありませんか。 《理由》 □ ある □ 見直す必要がある 消費生活ウォッチャーによるモニタリングは、消費者目線による情報源として有 益であり、人数及び報酬単価は適正であると考える。 【評価の総括と今後の方向性】

/ <b>以</b>						
□ 廃止 □ 事務事業統合·連携	□ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 事務事 □ 拡大	業のやり方改善			
過去に行った改善		現在の課題・問題点				
消費生活講座受講生から、講座のテーマ及で ケートを実施し、翌年度の講座開催の参考と		・出前講座実施地域が偏っている。 ・消費者のニーズが多種多様化しており、消費生活講座のテーマを 設定するのに苦慮している。 ・各講座への参加者の減少				
今後の改善計画		期待される成果	新たに必要なコスト			
・各種講座や被害情報の周知方法の充実を[・成年年齢引き下げに伴い、引き続き市内小教育支援講座の実施を促す。	中学校等へ消費生活	・消費生活に関する基礎的知識を周知することにより、被害の発生又は拡大の防止が図られる。 ・消費者トラブルが低年齢化しており、小中学生から消費者としての意識付けすることで、将来における消費者トラブルが、多少解消される。	なし			
評価(実績)等に関する所属長所見		<u> </u>	所属長氏名			
成果指標に掲げた出前講座参加者数は、前 係課との連携強化が大きな要因であると認識		<b>京                                    </b>				

つつ,消費者教育や啓発活動等の推進に努めているところであり,今後も参加者の意向を踏まえなが

ら、より効果的な事業実施を図る必要があると考えられる。

高 橋 光 浩

第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり 担当部課: 総務部市政情報課 第 7 節 地域で守る防犯対策の強化 担当・係名: 市民相談担当 第 3 項 消費者対策窓口の充実 記入者名: 門間 佐代子 10年後の望ましい姿: 消費生活トラブルが減少している。 電話番号: 23-9125 810-551

事務事業名: 消費生活相談事業

事業番号 27302

根拠	法令·条例等  消費者基	本法等		
事	開始年度	□ 昭和	☑ 平成	18 年度~
業	☑ 単年度繰返し			
期	□ 単年度のみ実施	平成	年度	
間	□ 期間限定複数年度	平成	年度~平成	年度

	会計		一般					
予	事業名	消費	生活相談事業					
科	款	7	商工費					
17	項	1	商工費					
	目	3	消費生活推進費					

【事務事業の現状】

#### 意図(対象をどういう状態にしたいか) **的**「安全·安心で豊かな消費生活」を実現できるよう、消費者被害の救済とトラブルの回避を図る。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 人口 市民 **(2**) 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 消費生活相談 受付件数 消費生活に関する相談窓口を設置し、4名の消費生活相談員が、市民の消費者被害の解決やトラブルの回避に 施 向け対応を行う。 内 ・毎週月曜日から金曜日(午前9時~午後4時)に、消費生活センターで相談業務を実施 容 ・毎月定例日に、仙台弁護士会の協力を得て、多重債務者の救済に向けた無料法律相談を実施 ④ 無料法律相談 受付件数 消費者トラブルの複雑・多様化に対応するため、問題解決に向けた消費生活相談員の人的確保と、資質向上 に資する取組を行う。 ・独立行政法人国民生活センターが主催する各種研修会への参加 国民生活セン ・弁護士を講師とする事例研究の実施 ⑤ ター主催研修会 参加回数 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ・消費生活相談窓口を常設し、消費者トラブルの解消または回避の支援を行った。 消費生活相談 受付件数 ・定住自立圏域4町と連携し、多重債務者の無料法律相談を実施し、被害者の救済や問題解決を支援した。ま た、弁護士を講師とした事例研究を行い、各種相談への対応力を高めた。 無料法律相談 ・消費生活相談員が、専門機関による研修を受講することで、資質の向上を図った。 受付件数

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
		対	① 人口	134,292	133,552		132,878	人	122,000
		象	2						
			③ 消費生活相談受付件数	797	700		709	件	800
	指標	活動	④ 無料法律相談受付件数	203	212		208	件	210
事業費	15.54	2/)	⑤ 国民生活センター主催研修会参加回数	14	14		17	回	12
費		成果	⑥ 消費生活相談受付件数	797	700		709	件	800
夕		果	⑦ 無料法律相談受付件数	203	212	\	208	件	210
各指標			国庫支出金						
		事業	県支出金	3,219	3,460	3,495	3,472		
推			地方債						
推移	総		その他	151	151	148	148		
	総事業費		一般財源	7,230	7,348	7,481	7,399		
	費		事業費(a)	10,600	10,959	11,124	11,019	千円	
		人件	正職員年間従事人員	0.50	0.50		0.50	人	
		費	正職員人件費(b)	3,915	3,765		3,764		
			合計コスト(a)+(b)	14,515	14,724		14,783	千円	

事業番号	27302	事務事業名	消費生活相談事業

# 【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

消費者基本法の趣旨に基づき,消費者の支援,行政の円滑な 推進を図り消費者からの相談に迅速かつ適切な処理及び消費 者啓発の推進に資する。

相談件数は減少したが、生活様式の変化や情報通信技術の進歩に伴って、相談内容が多様化している。 また、多重債務等の事案が複雑化しており、弁護士への相談に

至る場合も多く、1件当たりに要する時間は長期化する傾向にあ

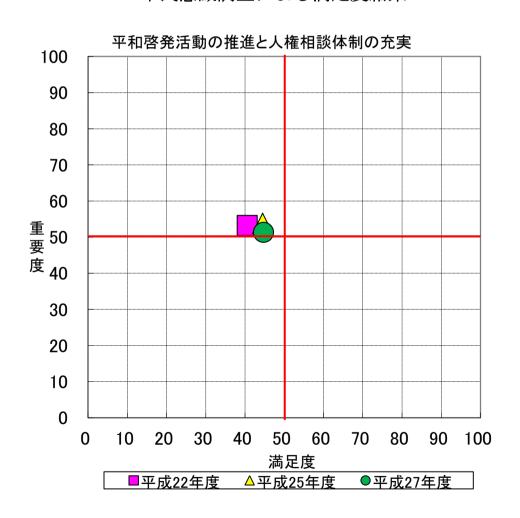
【事務事業の担当課評価】 ◆ 目的妥当性						
① この事務事業は、総合計画への貢献度は大きい	ですか?			【評価のポイント】		
<ul><li>✓ 貢献度 大</li><li>○ 貢献度 小</li><li>○ 基礎的事務事業</li><li>(理由)</li><li>消費者からの相が安全で安心し</li></ul>	道 ・					
◎ 청소사주교の英國소리本! 선수 선사수기 - 나	マ華田弘弘田ナモば?	7 - L48-5-2-4-1-4-0		☑ 適切		
② 対象や意図の範囲を見直し、拡大・縮小することできる  ☑ できない  ☑ できない  ☑ できない  ○ できない  ○ できない  ○ できない	な	□ 見直す必要がある				
◆ 有効性						
③ 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を	う 向上させることができ:	ますか?		【評価のポイント】		
<ul><li>□ できる 効果大</li><li>□ できる 効果中</li><li>☑ できない・効果なし</li></ul>	得られており 最良の	手法であると考える。		現在のやり方で成果がでるのか。		
④ 類似の目的(対象と意図)または形態(イベントや	啓発)を持つ他の事剤	8事業はありませんか?		」 道切		
□ ある 統合・連携ができる 【類似事務事事				□ 見直す必要がある		
<ul><li>□ ある 統合・連携ができない (理由)</li><li>☑ ない</li></ul>						
◆ 効率性						
▼ ルー に ⑤ 現状の成果を下げずに事業費を削減する方法は	ありませんか?			【評価のポイント】		
□ ある 《御中》	「人件費であり、その他	也の経費は必要最小限としていることか	·6,	現在のやり方をもっと安価 にできないか。		
				,☑ 適切		
✓ ない 対象とするべき	ではない。また,事業者	要であるため、相談員の人件費は削減 皆や関係機関との交渉が必要となる事 業務とすることは困難である。		□ 見直す必要がある		
【評価の総括と今後の方向性】						
今後の事務事業の方向性 □ 廃止 [	□ 事業完了	□ 車 致 車	・サート	やり方改善		
	☑ 現状維持	□ 拡大	*未の1	29万以書		
過去に行った改善		現在の課題・問題点				
仙台弁護士会との連携により、多重債務無料法律 加した。	・複数の担当課が関係するなど、相談内容は年々複雑、多様化しており、一人当たりにかかる相談が長時間化している。 ・日数を要する事案が増加しているため、相談件数のみで評価しきれない事務量が存在する。					
今後の改善計画		期待される成果	新たに必	必要なコスト		
解決困難事案に対応するため、関係する担当課といく体制強化を図る。	∸連携し,支援して	事案処理の効率化及び解決の迅 速化が図られる。	なし			
評価(実績)等に関する所属長所見				所属長氏名		
成果指標に掲げた消費生活相談受付件数及び無るが、相談内容は年々複雑かつ多様化しており、 立圏4町と連携した無料法律相談や弁護士を講的 員の資質の向上の面で、大きな成果につながって	:適当ではない。また, 大崎定住自 相談者の救済や消費生活相談		高橋光浩			

# 第2章

# 第8節 みんなで取り組む平和と人権の尊重

- 1 平和意識を高めるためのイベントの推進
- 2 平和啓発活動の推進
- 3 人権啓発活動の推進
- 4 人権相談体制の充実

## 市民意識調査による満足度結果



	平成22年度	平成25年度	平成27年度
重要度(%)	53.20	53.84	51.28
満足度(%)	40.58	44.50	44.74

【総合計画体系】					
第 2 章 安全・安心で交流が盛んなまちづくり	担当 部課: 市民協働推進部政策課				
第 8 節 みんなで取り組む平和と人権の尊重	<b>担 当•係 名</b> : 政策企画担当				
第 1 項 平和意識を高めるためのイベントの推進	<b>記入者名</b> : 大平香奈				
10年後の望ましい姿: 平和に対する認識度が高まっている。	<b>電 話 番 号</b> · 23-2128 810-534				

事務事業名: 平和事業 <sup>事業番号</sup> 28101

根拠法令・条例等 平和希求のまち大崎市宣言(平成22年3月)	-	会計	一般
事 開始年度 □ 昭和 ☑ 平成 18 年度~	予	事業名	平和事業
業 ☑ 単年度繰返し	科	款	2 総務費
期 □ 単年度のみ実施 平成 年度	目	項	1 総務管理費
間 □ 期間限定複数年度 平成 年度~平成 年度		目	9 企画費
「中夜古光の田北」	· •		

【事務事業の現状】 | 意図(対象をどういう状態にしたいか) 的 平和に対する市民意識を高める。 対象 (誰, 何に対して) ◆対象指標 ① 大崎市の人口 市民 実施内容・手段 (具体的なやり方, 手順) ◆活動指標 実施内容 ③ 黙とうの実施 黙とうの実施及び呼びかけ放送 (広島・長崎原爆の日,終戦の日) 小・中学生平和作文コンクールの実施 ④ 作文コンクール 応募者数 平和体験事業の開催(被爆地に生徒を隔年で派遣) ※対象は平和作文コンクール受賞者(体験事業時点で中学生以上) ⑤ 平和体験事業参加者数 平成29年度の成果 ◆成果指標(把握する手段) ⑥ 作文コンクール 成果 応募校の割合 平和作文コンクールの実施や、黙とうの実施を通じて、市民の平和希求に対する意識の向上を図った。 平和体験事業として、11人を被爆地・長崎市へ派遣した。 7

			項目	27年度(決算額)	28年度(決算額)	29年度(予算額)	29年度(決算額)	単位	最終目標値 平成38年度
事業費・各指標		対	① 大崎市の人口	134,292	133,552		132,125	人	122,000
		象	2						
		·	③ 黙とうの実施	3	3		3	口	—
	指 標	活動	④ 作文コンクール応募者数	336	193		229	人	—
			⑤ 平和体験事業参加者数	9	_		11	人	_
		成	⑥ 作文コンクール応募校の割合	51	35		45	%	—
		果	7						
			国庫支出金						
標の		業	県支出金						
の推移			地方債						
移	総		その他	1,749		1,370	1,370		
	総事業費		一般財源		74	385	382		
	費		事業費(a)	1,749	74	1,755	1,752	千円	
		人件費	正職員年間従事人員	0.10	0.10		0.10	人	
			正職員人件費(b)	783	753		753		
			合計コスト(a)+(b)	2,532	827		2,505	千円	

中米亚口	20101	<b>車</b>	117 和 車 衆		
事業否實	70101	事 份 争 耒 石	半杣事耒		
サル田つ		7-100 T- N- H	1 18 7 20		

【事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況】 この事務事業を開始したきっかけ 事務事業を取り巻

## 事務事業を取り巻く環境の変化や議会・市民との意見・要望・協働等の状況

世界各地で紛争や戦争が絶えない中で、真に平和な社会を築 くためには、戦争の無意味さや平和の尊さが広く認識され、ひい ては人権が守られる社会を実現していくことが求められているた め。

平和事業の必要性については、これまでに議会でもたびたび 議論されている。

戦後70年以上が経過しているため、大戦の惨状等を次世代 に語り継ぐことの重要性は高い。

【事	務事業の担当課評	価】						
<b>♦</b>	目的妥当性		-4			5		
ധ	この事務事業は、総合 ☑ 貢献度 大	計画への	貢献度は大きいですか?			【評価のポイント】 総合計画を実現するために		
	□ 貢献度 小	<b>″</b> ~= ⊢ ″	総合計画第2章第8節「みんなで取る。	り組む平和と人権の尊重」の主要事業で	<b>きあ</b>	総合計画を美現するにめた。 貢献できているのか。		
	□ 基礎的事務事業		(					
<b>a</b>	<b>せるいき</b> 図の第冊もE	·	느 여자군기 - 나水弗田화체田소 나년	フーレポッキナル / かっ		〉☑ 適切		
(2)	<b>対象や意図の範囲を見</b> □ できる	3個し、扱う 《理由》	大・縮小することで費用対効果を上げ	<b>ることかできませんか?</b>	/	/ □ 見直す必要がある		
		#- <b>-</b> #	広く市民に啓発を図ることを目的とし	しており,対象と意図は妥当である。	7			
					/			
•	有効性							
3	事務事業のやり方・進む	め方を変え	えることで成果を向上させることができ	ますか?		【評価のポイント】		
		《理由》	市民への周知方法や、事業内容の	あり方検討を繰り返していくことで, 事業	△ 交为	現在のやり方で成果がでる		
			果を高めることができる。	の / / J	~	のか。		
	☐ CC.40. W¥.40	L				√ ☑ 適切		
4			形態(イベントや啓発)を持つ他の事	<b>務事業はありませんか?</b>				
	<ul><li>□ ある 統合・連携が</li><li>□ ある 統合・連携が</li></ul>				│ │ │ 見直す必要がある			
	□ める 杭台・連携ル	, C540.	<b>《理</b> 由》		/			
		•			i J			
100	効率性 現状の成果を下げずに	- 电坐费丸	削減する方法はありませんか?			【評価のポイント】		
9	<b>現状の成果を下げずに</b>	- <del>学</del> 来貝で 《理由》	門滅9 句刀本はめツホヒルル:			現在のやり方をもっと安価		
	ない	*	関係部署と連携しながら、最低限の	事業費で実施している。		にできないか。		
						١		
<b>6</b>	コスト削減を阻害してい	いる要因は	ありませんか。			〉☑ 適切		
•		《理由》			/	│ □ 見直す必要がある		
					/			
		<u> </u>						
	価の総括と今後のプ							
今往	後の事務事業の方向 - 1000年より	]性	ロ 東番ウス	- 市改建	***	<u> </u>		
	□ 廃止 □ 事務事業統合	▶₌浦堆	□ 事業完了 ☑ 現状維持	□ 事務事	+耒の1	やり方改善		
温出	し 事物事未削ら とに行った改善	3 医肠	☑ 5九1八4世]寸	現在の課題・問題点				
旭	ぶに打りた以告			- 現代の味趣・问題点				
	成22年3月 平和希			<b>散名は除老が減小する</b> 中で、東:	行の苦し	ナナ河逆し 日ルナルナン かっ		
平成27年7月 平和体験事業を開始(1回目は広島市へ派遣) 戦争体験者が減少する中で、平和の算さを認識し						*を認識し風16させない収		
平成28年8月 寄稿集「戦争体験記」を発刊   <sup>***</sup>								
今後	後の改善計画			期待される成果	新たに	必要なコスト		
, ,	N. MINIT				.,,,,			
•平	和作文作品集などを活	舌用し、次	マ 代を担う若年層が戦争や平和を	で 和の 黄 さた 図 禁 する 幸 R の 増	収弗。	ナタノかはかいエナナトラ		
マー和ドスト・日本はことも用し、人口を担う日本情が戦争や一相を について考える機会を増やす。 ・戦後75周年の節目に向けて、市民参加事業を検討する。						と多くかけない手法を検討		
• 戦	後75周年の節目に回	]けて,市	氏参加事業を検討する。		, 00			
=亚石	西(実績)等に関する	が 屋 目 市	if El			<b>正居E丘夕</b>		
計	単(天限/守に対りの	別周女乃	<b>川兄</b>			所属長氏名		
   太平洋戦争の終戦から72年が経過し,戦禍を体験した方が少なくなっていることを踏まえ,時代の変								
化に対応しながら新しい技術も活用し、過去の教訓を次世代に継承していく仕組みづくりに努めてまい						渋 谷 勝		
	りたい。							